

豊 後 府 内 4

中世大友府内町跡第9次・第12次・第18次・第22次・第28次・第48次調査区

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

(第2分冊)

2006

大分県教育庁埋蔵文化財センター



第18次西調査区SF019出土ガラス製品



第18次西調査区SP020出土権



第18次西調査区15層
出土分銅



第18次西調査区出土骨牌



第18次東調査区出土
分銅未製品



第18次東調査区出土
鉄絵合子（タイ産）

目 次

第4章 中世大友府内町跡第18次西調査区

第1節 調査の概要	1
第2節 遺構と遺物	1
1. 溝	9
2. 土坑	32
3. 井戸	33
4. 掘立柱建物跡	33
5. その他の遺構	42
6. ビット	47
7. 包含層	47
第3節 小 結	60
1. 第18次西調査区における遺構変遷	60
2. 桜町周辺における遺構変遷	64

第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第1節 調査の概要	67
第2節 遺構と遺物	67
1. 遺構の概要と層序	67
2. 溝状遺構	77
3. 土坑	80
4. 渠石遺構	103
5. 井戸	108
6. 遺物集中区	127
7. その他の遺構	137
8. 包含層・整地層	141
第3節 小 結	172
1. 遺構の変遷	172
2. まとめ	173

第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第1節 調査の概要	175
第2節 遺構と遺物	175
1. 遺構の概要と基本層序	175
2. 道路・溝	185
3. 土坑	191
4. 渠石遺構	218
5. 礎石・掘立柱建物・柱穴	229
6. 井戸・その他の遺構	236
7. 包含層・整地層出土遺物	238
第3節 小 結	246

図 版 目 次

第 4 章 中世大友府内町跡第18次西調査区

<p>第 1 図 第18次西調査区の位置 (1/800) 1</p> <p>第 3 図 第18次西調査区 トレンチ土層断面図 (1/60) 7~8</p> <p>第 5 図 第18次西調査区 SD001・SD003土層断面図 (1/30) 11</p> <p>第 7 図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図① (1/4) 14</p> <p>第 9 図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図③ (1/4) 16</p> <p>第11図 第18次西調査区SD002 実測図 (1/30) 17</p> <p>第13図 第18次西調査区SD003 下層出土遺物実測図 (1/3) 18</p> <p>第15図 第18次西調査区SD003 上層出土遺物実測図 (1/3) 19</p> <p>第17図 第18次西調査区 SD005・SD006実測図 (1/120) 21</p> <p>第19図 第18次西調査区SD006 出土遺物実測図 (1/3) 22</p> <p>第21図 第18次西調査区 SD007-1出土遺物実測図 (1/3) 24</p> <p>第23図 第18次西調査区SD007-2 出土遺物実測図② (1/3) 25</p> <p>第25図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図② (1/3) 27</p> <p>第27図 第18次西調査区SD007-4 出土遺物実測図 (1/3) 28</p> <p>第29図 第18次西調査区SD008-1 出土遺物実測図① (1/3) 30</p> <p>第31図 第18次西調査区SD008-2 出土遺物実測図 (1/3) 30</p> <p>第33図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図② (1/3) 31</p> <p>第35図 第18次西調査区SD009・SD010 実測図 (1/60) 33</p> <p>第37図 第18次西調査区SD009 出土遺物実測図② (1/3) 34</p>	<p>第 2 図 第18次西調査区遺構配置図 (1/80) 2</p> <p>第 4 図 第18次西調査区SD001・SD003 ・SD004・SE016実測図 (1/120) 9</p> <p>第 6 図 第18次西調査区SD001 ・SD004土層断面図 (1/30) 13</p> <p>第 8 図 第18次西調査区SD001 出土遺物実測図② (1/4) 15</p> <p>第10図 第18次西調査区SD001 下層出土遺物実測図 (1/1) 17</p> <p>第12図 第18次西調査区SD002 出土遺物実測図 (1/3) 17</p> <p>第14図 第18次西調査区SD003 中層出土遺物実測図 (1/3) 18</p> <p>第16図 第18次西調査区SD004 出土遺物実測図 (1/3) 20</p> <p>第18図 第18次西調査区SD005-2 出土遺物実測図 (1/3) 22</p> <p>第20図 第18次西調査区SD007 実測図 (1/140) 23</p> <p>第22図 第18次西調査区SD007-2 出土遺物実測図① (1/1) 24</p> <p>第24図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図① (1/3) 26</p> <p>第26図 第18次西調査区SD007-3 出土遺物実測図③ (1/3) 28</p> <p>第28図 第18次西調査区SD008 実測図 (1/50) 29</p> <p>第30図 第18次西調査区SD008-1 出土遺物実測図② (1/1) 30</p> <p>第32図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図① (1/1) 30</p> <p>第34図 第18次西調査区SD008-3 出土遺物実測図③ (1/1) 32</p> <p>第36図 第18次西調査区SD009 出土遺物実測図① (1/1) 33</p> <p>第38図 第18次西調査区SD010 出土遺物実測図 (1/3) 35</p>
---	---

第79図	SD248・270・306実測図及び 出土遺物実測図(1/40、1/3) ……………	79	第80図	SD046・048・051実測図(1/30) ……………	80
第81図	SK065・074実測図(1/30) ……………	81	第82図	SK065出土遺物実測図①(1/3) ……………	81
第83図	SK065出土遺物実測図②(1/3) ……………	82	第84図	SK065出土遺物実測図③(1/3、1/4、1/2) ……………	83
第85図	SK074出土遺物実測図(1/3) ……………	83	第86図	SK067実測図(1/30) ……………	84
第87図	SK068実測図及び 出土遺物実測図(1/30、1/3、1/2) ……………	85	第88図	SK071実測図(1/30) ……………	85
第89図	SK071出土遺物実測図(1/3、1/2) ……………	86	第90図	SK077実測図及び 出土遺物実測図(1/30、1/3、1/2) ……………	86
第91図	SK078実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	87	第92図	SK085実測図(1/30) ……………	88
第93図	SK085出土遺物実測図①(1/3) ……………	89	第94図	SK085出土遺物実測図②(1/3) ……………	90
第95図	SK085出土遺物実測図③(1/3) ……………	90	第96図	SK085出土遺物実測図④(1/3、1/2) ……………	91
第97図	SK097・137実測図及び 出土遺物実測図(1/30、1/2) ……………	92	第98図	SK138・191実測図(1/30) ……………	92
第99図	SK203・292・293実測図及び出土遺物 実測図(1/30、1/3、1/2) ……………	93	第100図	SK209・210・224実測図及び出土遺物 実測図(1/30、1/3) ……………	94
第101図	SK252実測図及び 出土遺物実測図(1/30、1/3) ……………	95	第102図	SK253A実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	96
第103図	SK253B実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	96	第104図	SK254実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	97
第105図	SK255・256B・257実測図(1/30) ……………	98	第106図	SK262実測図及び 出土遺物実測図①(1/30、1/3) ……………	99
第107図	SK262出土遺物実測図②(1/3) ……………	100	第108図	SK266・273・274・276・277 ・280・281実測図(1/30) ……………	101
第109図	SK300実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	102	第110図	SK311実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	102
第111図	SX080実測図(1/30) ……………	103	第112図	SX244実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2) ……………	104
第113図	SX245A実測図(1/30) ……………	105	第114図	SX245A出土遺物実測図(1/3) ……………	105
第115図	SX302実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	106	第116図	SX303実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……………	107
第117図	SX309実測図(1/30) ……………	109	第118図	SE176実測図(1/40) ……………	109
第119図	SE176出土遺物実測図(1/3) ……………	110	第120図	SE075・SK294実測図(1/40) ……………	111
第121図	SE075出土遺物実測図①(1/3) ……………	112	第122図	SE075出土遺物実測図②(1/3) ……………	112
第123図	SE075出土遺物実測図③(1/2) ……………	113	第124図	SE079実測図①(1/40) ……………	114
第125図	SE079実測図②(1/40) ……………	115	第126図	SE079出土銭貨実測図(1/1) ……………	115
第127図	SE079出土遺物実測図①(1/3) ……………	116	第128図	SE079出土遺物実測図②(1/3) ……………	117
第129図	SE079出土遺物実測図③(1/3) ……………	118	第130図	SE079出土遺物実測図④(1/3) ……………	119
第131図	SE079出土遺物実測図⑤(1/3) ……………	120	第132図	SE079出土遺物実測図⑥(1/2) ……………	120
第133図	SE079出土遺物実測図⑦(1/3) ……………	121	第134図	SE261実測図(1/40) ……………	122
第135図	SE261出土遺物実測図①(1/3) ……………	123	第136図	SE261出土遺物実測図②(1/3) ……………	124

第39図 第18次西調査区SD011 出土遺物実測図(1/3)	36	第40図 第18次西調査区SD013 出土遺物実測図(1/3)	36
第41図 第18次西調査区SK014 実測図(1/30)	36	第42図 第18次西調査区SK015 実測図(1/30)	37
第43図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図①(1/3)	38	第44図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図②(1/3)	39
第45図 第18次西調査区SK015 出土遺物実測図③(1/3)	40	第46図 第18次西調査区SB017 実測図(1/60)	41
第47図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図①(1/3)	42	第48図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図②(1/3)	43
第49図 第18次西調査区SB017 出土遺物実測図③(1/3)	44	第50図 第18次西調査区SB018 実測図(1/60)	45
第51図 第18次西調査区SB018 出土遺物実測図(1/3)	46	第52図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図①(1/3)	48
第53図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図②(1/3)	49	第54図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図③(1/3)	50
第55図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図④(1/2)	50	第56図 第18次西調査区SF019 出土遺物実測図⑤(1/1)	50
第57図 第18次西調査区SP020 出土遺物実測図①(1/1)	51	第58図 第18次西調査区SP020 出土遺物実測図②(1/1)	51
第59図 第18次西調査区ピット 出土遺物実測図(1/3)	51	第60図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図①(1/3)	52
第61図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図②(1/3)	53	第62図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図③(1/3)	54
第63図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図④(1/3)	55	第64図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図⑤(1/1)	56
第65図 第18次西調査区15層 出土遺物実測図⑥(1/1)	56	第66図 第18次西調査区 出土遺物実測図①(1/3)	57
第67図 第18次西調査区 出土遺物実測図②(1/3)	58	第68図 第18次西調査区 出土遺物実測図③(1/2)	59
第69図 第18次西調査区 出土遺物実測図④(1/1)	59	第70図 第18次西調査区 遺構分布変遷図①(1/250)	61
第71図 第18次西調査区 遺構分布変遷図②(1/250)	62	第72図 第18次西調査区 遺構分布変遷図③(1/250)	63
第73図 第18次西・東調査区 北壁土層断面図(1/120)	64		

第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第74図 第18次東調査区の位置(1/800)	67	第75図 第18次東調査区遺構配置図(1/100)	71~72
第76図 第18次東調査区地形測量図(1/100)	73~74	第77図 第18次東調査区土層図(1/80)	75~76
第78図 SD022・023実測図(1/40、1/50)	78		

第137図	SE261出土遺物実測図③ (1/2) ……	125
第139図	SE307・SK298実測図及び 出土遺物実測図 (1/30、1/3) ……	126
第141図	SX054出土遺物実測図② (1/3) ……	128
第143図	SX054出土遺物実測図④ (1/3) ……	130
第145図	SX062出土遺物実測図① (1/2) ……	131
第147図	SX066出土遺物実測図 (1/3) ……	131
第149図	SX150出土遺物実測図① (1/3) ……	133
第151図	SX256A出土遺物実測図 (1/3、1/2) ……	134
第153図	SX308出土遺物実測図② (1/3) ……	135
第155図	SX076実測図 (1/40) ……	137
第157図	柱穴出土遺物実測図① (1/3) ……	139
第159図	柱穴出土遺物実測図③ (1/1) ……	140
第161図	包含層・壘地層出土遺物実測図① (1/3) ……	142
第163図	包含層・壘地層出土遺物実測図③ (1/3) ……	144
第165図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑤ (1/3) ……	146
第167図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑦ (1/3) ……	147
第169図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑨ (1/3) ……	149
第171図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑪ (1/3) ……	151
第173図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑬ (1/3) ……	153
第175図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑮ (1/1) ……	155
第177図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑰ (1/3) ……	158
第179図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑱ (1/3) ……	159
第181図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉑ (1/3) ……	161
第183図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉓ (1/3) ……	162
第185図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉕ (1/2) ……	164
第187図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉗ (1/2) ……	166
第189図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉙ (1/1) ……	168
第191図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉛ (1/1) ……	170

第138図	SE261出土遺物実測図④ (1/3) ……	125
第140図	SX054出土遺物実測図① (1/3) ……	127
第142図	SX054出土遺物実測図③ (1/3) ……	129
第144図	SX054出土遺物実測図⑤ (1/3、1/2) ……	130
第146図	SX062出土遺物実測図② (1/3) ……	131
第148図	SX150実測図 (1/30) ……	132
第150図	SX150出土遺物実測図② (1/3) ……	133
第152図	SX308出土遺物実測図① (1/3、1/2) ……	134
第154図	SX310出土遺物実測図 (1/3) ……	136
第156図	SX301出土遺物実測図 (1/3、1/2) ……	137
第158図	柱穴出土遺物実測図② (1/3) ……	140
第160図	柱穴出土遺物実測図 (1/1) ……	140
第162図	包含層・壘地層出土遺物実測図② (1/3) ……	143
第164図	包含層・壘地層出土遺物実測図④ (1/3) ……	145
第166図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑥ (1/3) ……	147
第168図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑧ (1/3) ……	148
第170図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑩ (1/3) ……	150
第172図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑫ (1/3) ……	152
第174図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑭ (1/3) ……	154
第176図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑯ (1/3) ……	157
第178図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑰ (1/3) ……	158
第180図	包含層・壘地層出土遺物実測図⑱ (1/3) ……	160
第182図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉑ (1/3) ……	161
第184図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉓ (1/1、1/2、1/3) ……	163
第186図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉕ (1/2) ……	165
第188図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉗ (1/3) ……	167
第190図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉙ (1/1) ……	169
第192図	包含層・壘地層出土遺物実測図㉛ (1/1) ……	171

第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第193図	第28次調査区の位置 (1/800) ……	175
第195図	中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図② (下層遺構群、1/150) ……	177
第197図	SF012土層断面図① (1/50) ……	183～184
第199図	SF012出土遺物実測図① (1/1) ……	186
第201図	SD049実測図 (1/30) ……	187
第203図	SD053出土遺物 (1/40) ……	188
第205図	SD040出土遺物実測図 (1/3) ……	190
第207図	SK002実測図 (1/30) ……	191

第194図	中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図① (上層遺構群、1/150) ……	176
第196図	調査区土層断面図① (1/50) ……	181～182
第198図	第28次調査区における SF012変遷模式図 (1/400) ……	185
第200図	SF012出土遺物実測図 (1/3) ……	186
第202図	SD049出土遺物実測図 (1/3) ……	188
第204図	SD040・SD052実測図 (1/80) ……	189
第206図	SD052出土遺物実測図 (1/3) ……	190
第208図	SK002出土遺物実測図 (1/3) ……	191

第209图	SK007实测图 (1/30)	191	第210图	SK007出土文物实测图 (1/3)	191
第211图	SK008a · 008b · 009实测图 (S=1/30)	192	第212图	SK008a · 008b出土文物实测图 (1~20±1/3, 21~22±1/1)	193
第213图	SK009出土文物实测图 (1/3)	194	第214图	SK010实测图 (S=1/30)	195
第215图	SK010出土文物实测图 (S=1/3)	195	第216图	SK011实测图 (1/30)	195
第217图	SK011出土文物实测图 (1/3)	195	第218图	SK015实测图 (1/30)	196
第219图	SK016 · 022实测图 (1/30)	196	第220图	SK022出土文物实测图 (1/3)	196
第221图	SK017实测图 (S=1/30)	197	第222图	SK018~020实测图 (1/30)	197
第223图	SK018出土文物实测图 (1/3)	198	第224图	SK019出土文物实测图 (1/3)	198
第225图	SK020出土文物实测图 (1/3)	198	第226图	SK021实测图 (1/30)	199
第227图	SK021出土文物① (1/3)	199	第228图	SK021出土文物② (1/3)	199
第229图	SK025实测图 (1/30)	200	第230图	SK025出土文物实测图 (1/3)	200
第231图	SK026实测图 (1/30)	201	第232图	SK026出土文物实测图 (1/3)	201
第233图	SK028实测图 (1/1)	201	第234图	SK028出土文物实测图 (1/3)	202
第235图	SK029实测图 (1/30)	203	第236图	SK029出土文物实测图 (1/3)	203
第237图	SK030实测图 (S=1/30)	204	第238图	SK030出土文物实测图 (S=1/3)	204
第239图	SK031实测图 (1/60)	205	第240图	SK31b出土文物实测图 (1~6±1/3, 7~8±1/1)	206
第241图	SK032实测图 (1/30)	206	第242图	SK033实测图 (1/40)	207
第243图	SK033出土文物实测图 (1~3 · 5 ±1/3, 4 ±1/1)	208	第244图	SK035实测图 (1/30)	208
第245图	SK035出土文物实测图 (1/3)	209	第246图	SK038实测图 (1/30)	210
第247图	SK038出土文物实测图 (1/3)	210	第248图	SK042实测图 (1/30)	211
第249图	SK043实测图 (1/30)	211	第250图	SK043出土文物实测图 (1/3)	211
第251图	SK044实测图 (1/30)	211	第252图	SK044出土文物实测图 (1/3)	211
第253图	SK045 · SK046实测图 (1/30)	212	第254图	SK045出土文物实测图 (1/3)	212
第255图	SK046出土文物实测图 (1/3)	213	第256图	SK047实测图 (1/30)	213
第257图	SK047出土文物实测图 (1/3)	214	第258图	SK048实测图 (1/30)	214
第259图	SK048出土文物实测图 (1/3)	214	第260图	SK050实测图 (1/30)	215
第261图	SK050出土文物实测图 (1/3)	215	第262图	SK051实测图 (1/30)	216
第263图	SK051出土文物实测图 (1~14±1/3, 15±1/1)	217	第264图	SX005实测图 (1/30)	218
第265图	SX005出土文物实测图 (1/3)	218	第266图	SX006实测图 (1/30)	219
第267图	SX006出土文物实测图① (1/3)	220	第268图	SX006出土文物实测图② (1/3)	221
第269图	SX006出土文物实测图③ (1/3)	222	第270图	SX013实测图 (1/30)	222
第271图	SX013出土文物实测图① (1/3)	223	第272图	SX013出土文物实测图② (1/3)	224
第273图	SX014实测图 (1/30)	225	第274图	SX024实测图 (1/30)	225
第275图	SX036实测图 (1/30)	226	第276图	SX037实测图 (1/30)	226
第277图	SX037出土文物实测图 (1/3)	227	第278图	SX039实测图 (1/30)	227
第279图	SX039出土文物实测图 (1/3)	227	第280图	SX003实测图 (1/30)	229
第281图	SX003出土文物 (1/3)	229	第282图	SX023实测图 (1/30)	229
第283图	SX023周边出土文物实测图 (1/3)	229	第284图	SB060实测图 (1/50)	230

第285図	SB060出土遺物実測図(1/3) ……………	230	第286図	SX059実測図(1/50) ……………	230
第287図	ビット配置図(1/200) ……………	231	第288図	ビット出土遺物実測図① (1は1/2、2～4は1/1) ……………	231
第289図	ビット出土遺物実測図②(1/3) ……………	232	第290図	ビット出土遺物実測図③(1/3) ……………	233
第291図	ビット出土遺物実測図④(1/3) ……………	234	第292図	ビット出土遺物実測図⑤(1/3) ……………	235
第293図	SE027実測図(1/30) ……………	236	第294図	SE027出土遺物実測図(1/3) ……………	236
第295図	SX004出土遺物実測図(1/3) ……………	237	第296図	SX034出土遺物実測図 (1は1/3、2は1/1) ……………	237
第297図	包含村・豊地厩出土遺物実測図①(1/3) ……	239	第298図	包含村・豊地厩出土遺物実測図②(1/3) ……	240
第299図	包含村・豊地厩出土遺物実測図③(1/3) ……	241	第300図	包含村・豊地厩出土遺物実測図④(1/3) ……	242
第301図	包含村・豊地厩出土遺物実測図⑤(1/2) ……	242	第302図	包含村・豊地厩出土遺物実測図⑥(1/2) ……	242
第303図	包含村・豊地厩出土遺物実測図⑦(1/2) ……	243	第304図	包含村・豊地厩出土遺物実測図⑧(銅鏡1/1) ……	244
第305図	第28次調査区遺構変遷図①(1/200) ……	248	第306図	第28次調査区遺構変遷図②(1/200) ……	249

表 目 次

第4章 中世大友府内町跡第18次調査区

第1表	遺構一覧表 ……………	3
-----	-------------	---

第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第2表	遺構一覧表① ……………	69
-----	--------------	----

第4表	SD023計測表 ……………	77
-----	----------------	----

第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第5表	遺構一覧表① ……………	178
-----	--------------	-----

第7表	中国産茶人出土地点一覧 ……………	238
-----	-------------------	-----

第3表	遺構一覧表② ……………	70
-----	--------------	----

第6表	遺構一覧表② ……………	179
-----	--------------	-----

遺物観察表目次

遺物観察表 1

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類①) ……………	253
-----------------------------------	-----

遺物観察表 3

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類③) ……………	255
-----------------------------------	-----

遺物観察表 5

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑤) ……………	257
-----------------------------------	-----

遺物観察表 7

第18次西調査区遺物観察表	
---------------	--

遺物観察表 2

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類②) ……………	254
-----------------------------------	-----

遺物観察表 4

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④) ……………	256
-----------------------------------	-----

遺物観察表 6

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑥) ……………	258
-----------------------------------	-----

遺物観察表 8

第18次西調査区遺物観察表	
---------------	--

(土器・陶磁器類⑦)	259	(金属製品・土製品・石製品・骨製品・瓦)	260
遺物観察表 9		遺物観察表10	
第18次西調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(銭貨)	261	(土器・陶磁器類①)	262
遺物観察表11		遺物観察表12	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類②)	263	(土器・陶磁器類③)	264
遺物観察表13		遺物観察表14	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類④)	265	(土器・陶磁器類⑤)	266
遺物観察表15		遺物観察表16	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類⑥)	267	(土器・陶磁器類⑦)	268
遺物観察表17		遺物観察表18	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類⑧)	269	(土器・陶磁器類⑨)	270
遺物観察表19		遺物観察表20	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(土製品・石製品・木器・金属製品①)	271	(金属製品②)	272
遺物観察表21		遺物観察表22	
第18次東調査区遺物観察表		第18次東調査区遺物観察表	
(金属製品③)	273	(瓦・ガラス製品・銭貨①)	274
遺物観察表23		遺物観察表24	
第18次東調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(銭貨②)	275	(土器・陶磁器類①)	276
遺物観察表25		遺物観察表26	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類②)	277	(土器・陶磁器類③)	278
遺物観察表27		遺物観察表28	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(土器・陶磁器類④)	279	(土器・陶磁器類⑤・土製品・その他)	280
遺物観察表29		遺物観察表30	
第28次調査区遺物観察表		第28次調査区遺物観察表	
(金属製品・ガラス製品・石製品・木製品)	281	(瓦・銭貨)	282

写真図版目次

写真図版 1	
第18次西調査区全景	285

写真図版 2

- 第18次西調査区全景(南から)
第18次西調査区SD003、D-H断面
第18次西調査区SD007-3ピット列(南から)
第18次西調査区SD007-3(南から)
第18次西調査区SD007-3(東から)
第18次西調査区SD008-2(西から)
第18次西調査区SD008-2(南から)
第18次西調査区SD013(西から)…………… 286

写真図版 4

- 第18次西調査区SF019・SD007・SD008(北から)
第18次西調査区SF019土層
SD007-3出土遺物
SF019出土遺物…………… 288

写真図版 6

- 中世大友府内町跡第18次調査区全景(北から)…………… 290

写真図版 8

- SK078・SK085・SK244・SK252…………… 292

写真図版10

- SK292・SK293・SK300・SX080・SX244
SX245・SX302・SX303・SX309…………… 294

写真図版12

- SE079・SE261…………… 296

写真図版14

- SX054・SX062・SX066・SX310
遺物出土状況
土層剥ぎ取り作業…………… 298

写真図版16

- 漆器陶・三連分銅・分銅・和鏡…………… 300

写真図版18

- 中世大友府内町跡
第28次調査区全景(上層遺構群)…………… 302

写真図版20

- SF012全景(南から)
道路上の柱穴
SF012準南三彩出土状況
SF012瀬戸美濃産天目出土状況
SF012鉄包丁出土状況
SF012ガラス玉出土状況

写真図版 3

- 第18次西調査区SD010(北東から)
第18次西調査区SD009(東から)
第18次西調査区SD010・SD009・SB018(北東から)
第18次西調査区SB018-P2
第18次西調査区SK015遺物出土状態
第18次西調査区SK015完掘状態
第18次西調査区SB017遺物出土状態
第18次西調査区SB017完掘状態…………… 287

写真図版 5

- SF019出土遺物
SF020出土遺物
15層出土遺物
第18次西調査区出土遺物…………… 289

写真図版 7

- SD023・SD306・SK046・SK065
SK075・SK067・SK068・SK077…………… 291

写真図版 9

- SK253・SK254・SK255・SK256
SK262・SK273・SK274…………… 293

写真図版11

- SE176・SE075…………… 295

写真図版13

- SE261…………… 297

写真図版15

- SE079出土漆器皿・椀
SE261出土木製品
備前陶器小壺・金箔土師器
土人形…………… 299

図版17

- 鉄・銅・ガラス製品・硯…………… 301

写真図版19

- 中世大友府内町跡
第28次調査区全景(下層遺構群)…………… 303

写真図版21

- SD040(南から)
SD040(北から)
SD053
SD049…………… 305

SF012撤去後（南から）			
SF012撤去後（北から）	304	
写真図版22			写真図版23
SK002			SK010検出状況
SK007			SK010完掘状況
SK008検出状況			SK011
SK008a土層			SK015
SK008a完掘状況			SK016
SK008b遺物出土状況			SK017
SK009			SK018
SK010遺物出土状況	306	SK019
写真図版24		
SK020			307
SK021			写真図版25
SK022			SK029
SK025			SK030
SK026			SK031検出状況
SK026遺物出土状況			SK031完掘状況
SK028検出			SK031b漆器出土状況①
SK028完掘状況	308	SK031b漆器出土状況②
写真図版26			SK032
SK035			SK033
SK038		
SK042			309
SK043			写真図版27
SK044			SK048
SK045			SK050
SK046検出			SK051
SK047	310	SX005
写真図版28			SX006
SX036			SX013
SX037			SX014
SX037完掘			SX024
SX039		
SX003検出状況			311
SX003			写真図版29
SX023			SE027
SX023根締め石	312	SE027（井筒部分）
写真図版30			SB060
SF012出土遺物			SX004（焼土刷）
SD049出土遺物			SX034
SD040出土遺物	314	SP1209
			L17区漳州窯系青花出土状況
			懸仏出土状況
		
			313
			写真図版31
			SK007出土遺物
			SK010出土遺物
			SK008出土遺物

写真図版32		SK009出土遺物	
SK025出土遺物		SK020出土遺物	
SK026出土遺物		SK021出土遺物	315
SK028出土遺物		写真図版33	
SK029出土遺物		SK033出土遺物	
SK031出土遺物	316	SK044出土遺物	
写真図版34		SK038出土遺物	
SK051出土遺物		SK043出土遺物	
SX005出土遺物	318	SK050出土遺物	
写真図版36		SK045出土遺物	317
ビット出土遺物		写真図版35	
SE027出土遺物	320	SX013出土遺物	
		SX037出土遺物	
		SX029出土遺物	319
		写真図版37	
		包含層・整地層出土遺物	321

第4章 中世大友府内町跡第18次西調査区

第1節 調査の概要

第18次西調査区は大分市錦町3丁目に所在する。現在は宅地として利用されているが、昭和30～40年代まで水田が広がっていたと伝えられるように、地表下1m前後において水田面が広がり、その上には盛土による整地が行われていたことが確認できた。本調査区は、「府内古園」による大友館北西端と第2南北街路、および第2南北街路に面する「桜町」の位置に該当し、これらの遺構群の実態が発掘調査によって明らかとなった。

発掘調査は、450㎡の調査面積を平成13年11月から平成14年3月まで5ヶ月間、実施した。

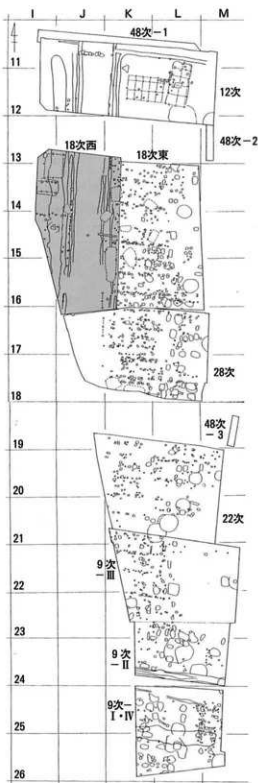
調査期間
2002年
11月～
2003年
3月

発掘調査
面積450㎡

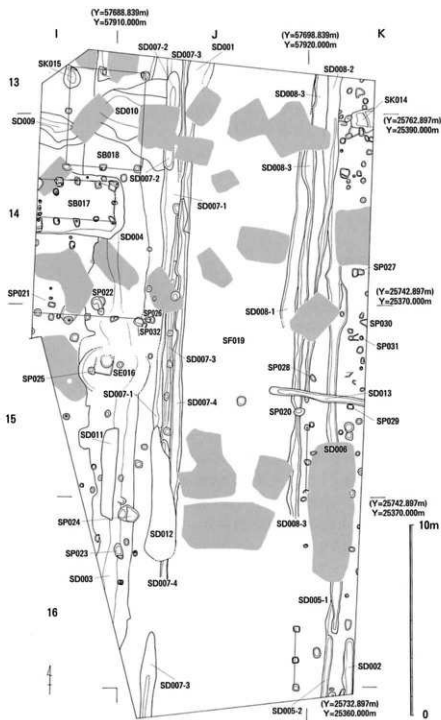
第2節 遺構と遺物

本調査区の主要遺構は第2南北街路に相当するSF019、それに伴う道路側溝(SD007・SD008)、およびこれらと重複して先行する溝状遺構(SD001・SD003・SD004)であろう。道路遺構に先行して西側に最も早く営まれる溝状遺構は14世紀に帰属すると考えられるSD001であり、このSD001の西側肩部を切り、SD003・SD004が掘削されるが、この両者は開削された時期が異なり、調査区中央付近で南北に分かれる。この両者が埋没して以降、第2南北街路の整備およびその東西には町屋関連の遺構がひろがる。今回の調査では、大友氏館跡の保存に伴い、第2南北街路(SF019)下のSD001・SD004は断ち割り調査を行い、将来の史跡保存整備に向けての基礎データの取得のみに留めた。また、第2南北街路(SF019)に関しても完掘せず、断ち割り調査による土層堆積状況の把握のみに留めた。

第2南北街路(SF019)整備後には、急速に町屋の整備が進展する状況が確認できる。第2南北街路(SF019)の西側には2棟の掘立柱建物跡(SB017・SB018)が建てられ、このほかにもビット群が多く検出されている。第2南北街路(SF019)東側にもビット群が多く確認でき、これは18次東調査区にも続く傾向である。これらの中世遺構を覆う形で、調査区北西隅一帯に火災処理土が大量に堆積していた。



第1図 第18次西調査区の位置(1/800)



第2図 第18次西調査区遺構配置図 (1/80)

第1表 遺構一覧表

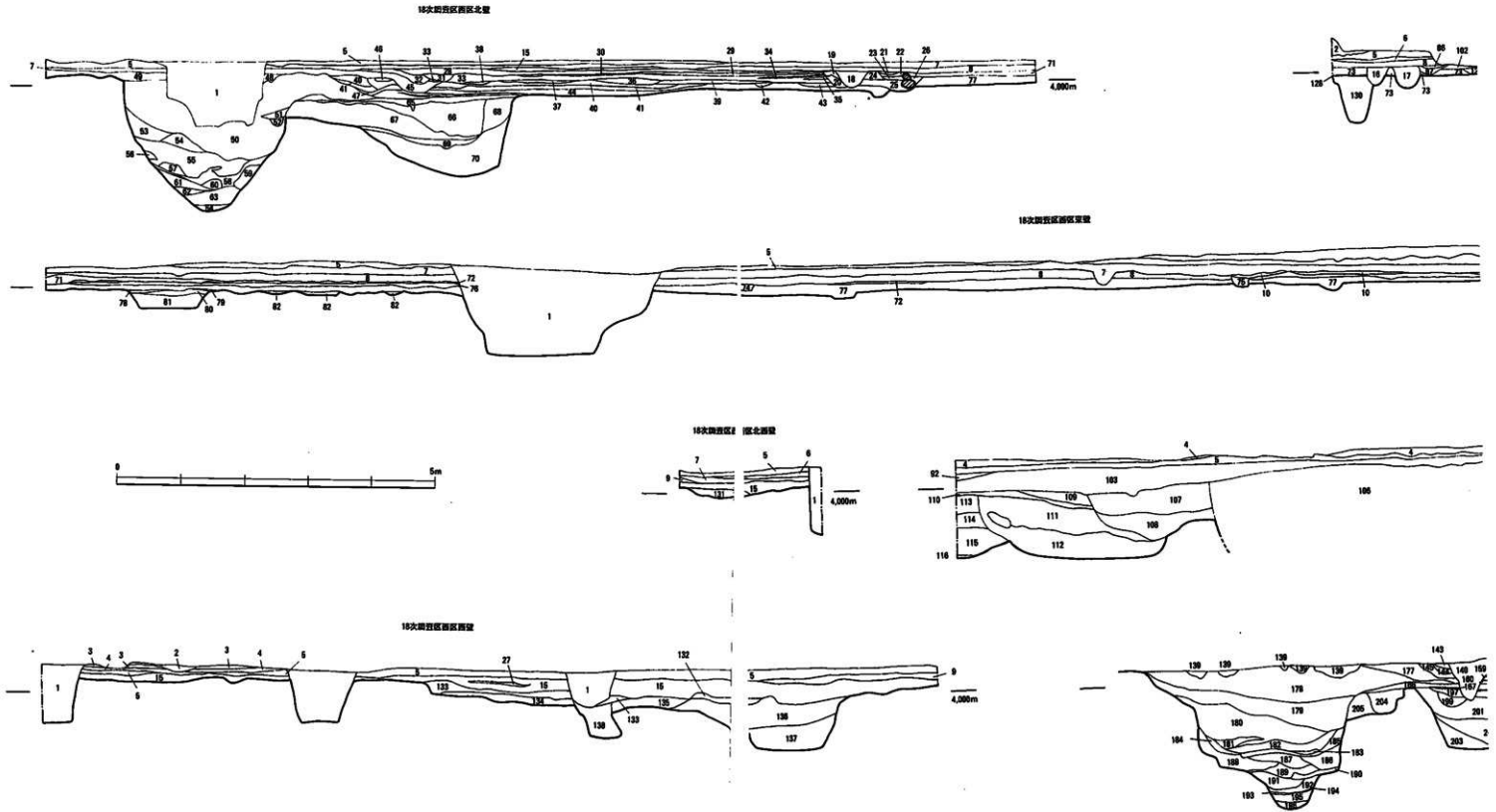
本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD001	S018	溝	J13区・J14区・J15・J16区	14世紀		9
SD002	S019	溝	K16区・K17区	14～15世紀		9
SD003	S017-2	溝	I15区・I16区・J15区・J16区	14世紀後半～15世紀前半		11
SD004	S017-1	溝	I・J-13・14・15区	16世紀前半～中葉		11
SD005-1	S004-1	溝	K16区	16世紀中葉～後葉		21
SD005-2	S004-2	溝	K16・K17区	16世紀中葉～後葉	SD006と同一遺構か	21
SD006	S016	溝	K14・K15区	16世紀中葉～後葉	SD006と同一遺構か	21
SD007-1	S005-4	溝	J13区・J14区・J15区	16世紀後葉～末葉	SD005-1・2と同一遺構か	21
SD007-2	S005-3	溝	J13区・J14区・J15区	16世紀後葉～末葉		21
SD007-3	S005-2	溝	J14区・J15区・J16区・J17区	16世紀後葉～末葉		21
SD007-4	S005-1	溝	J14区・J15区・J16区	近世		21
SD008-1	S006-3	溝	J・K-13・14・16区	16世紀後葉～末葉		23
SD008-2	S006-2	溝	K13区・K14区・K15区	16世紀後葉～末葉		23
SD008-3	S006-1	溝	J・K-13・14・15・16区	近世		23
SD009	S009-3	溝	I14区	16世紀後葉～末葉		24
SD010	S015	溝	I13区・I14区・J13区・J14区	16世紀後葉～末葉	SD010と同一遺構か	24
SD011	S001	溝	I15区・I16区	近世	SD009と同一遺構か	29
SD012	S002	溝	J15区・J16区	近世		29
SD013	S003	溝	J15区・K15区	近世		29
SK014	S020	土坑	K13区・K14区	～14世紀		32
SK015	S009-1	土坑	I13区	16世紀後葉～末葉		32
SD016	S021	井戸	I15区	15世紀～16世紀中葉		33
SB017	S008	竪立柱建物跡	I14区・J14区	16世紀中葉～後葉		33
SB017-P1	S008-P1	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P2	S008-P2	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P3	S008-P3	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P4	S008-P4	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P5	S008-P5	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P6	S008-P6	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P7	S008-P7	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P8	S008-P8	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P9	S008-P9	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P10	S008-P10	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P11	S008-P11	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P12	S008-P12	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P13	S008-P13	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P14	S008-P14	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB017-P15	S008-P15	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB017の柱穴	33
SB018	-	竪立柱建物跡	I13区・I14区	16世紀中葉～後葉		41
SB018-P1	P32	柱穴	J13区	16世紀中葉～後葉		41
SB018-P2	S014	柱穴	I13区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P3	-	柱穴	I13区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P4	P18	柱穴	J14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P5	P19	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SB018-P6	-	柱穴	I14区	16世紀中葉～後葉	SB018の柱穴	41
SP019	-	道路	J・K-13・14・15・16・17区	16世紀中葉～近世	SB018の柱穴	42
SP020	P1	ビット	J15区	近世	近世まで営まれている	47
SP021	P2	ビット	I14区	16世紀後葉～末葉		47
SP022	P3	ビット	I14区	16世紀後葉～末葉		47
SP023	P10	ビット	J16区	16世紀後葉～末葉		47
SP024	P11	ビット	J16区	16世紀後葉～末葉		47
SP025	P15	ビット	I15区	16世紀後葉～末葉		47
SP026	P16	ビット	J15区	16世紀後葉～末葉		47
SP027	P26	ビット	K14区	16世紀後葉～末葉		47
SP028	P27	ビット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP029	P28	ビット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP030	SP34	ビット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP031	SP35	ビット	K15区	16世紀後葉～末葉		47
SP032	SP36	ビット	J15区	16世紀後葉～末葉		47

18次調査区西区トレンチ土層断面観察表

- 1 攪乱土
- 2 青灰色粘質土 (昭和期水田耕作土)
- 3 褐灰色土 (昭和期水田床土 5層に近似するが、酸化鉄の沈着が認められない)
- 4 褐灰色土 (昭和期水田床土 酸化鉄の沈着が著しい)
- 5 褐灰色土 (昭和期水田床土 遺物包含層 酸化鉄の沈着が認められる 炭・炭土を多く含む)
- 6 褐灰色土 (遺物包含層)
- 7 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガンの沈着が認められる)
- 8 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガンの沈着が認められる)
- 9 褐灰色土 (遺物包含層 基本的に6層と同じであるが、マンガンの沈着が乏しい)
- 10 灰黄褐色土
- 11 暗褐色土 (マンガンが著しく沈着する 焼土粒を含む)
- 12 灰褐色土 (基本的に5層と同じであるが、マンガンの沈着が認められない)
- 13 灰黄色砂質土 (基本的に14層と同じ)
- 14 灰黄褐色砂質土 (基本的に13層と同じ)
- 15 灰黄褐色土
- 16 ビット (炭・炭をひじょうに多く含む)
- 17 ビット
- 18 褐灰色土 (SD008-3 焼土粒・土器粒をわずかに含む)
- 19 におい黄褐色土 (SD008)
- 20 灰黄褐色土 (SD008 砂粒を含む)
- 21 褐灰色土 (SD008 土器粒・焼土粒をわずかに含む)
- 22 褐灰色土 (SD008)
- 23 におい黄褐色土 (SD008)
- 24 褐灰色土 (SD008 土器粒・焼土粒・炭をきわめて大量に含む)
- 25 褐灰色砂シルト (SD008 シルト・細砂を含む)
- 26 灰黄褐色砂質土 (SD008 石組みの裏込め土)
- 27 灰
- 28 褐灰色砂質土 (SF019 道路敷地最上層 小さな焼土粒・炭を含む)
- 29 褐灰色砂 (SF019 砂・粗砂からなり、上面はひじょうに固く締まる)
- 30 褐灰色粘質土 (SF019 ひじょうに固く粘性が強い 34層とほとんど同じ)
- 31 褐灰色砂質土 (SD007-4)
- 32 褐黄褐色土 (SD007-3 土器粒・焼土粒・炭をきわめて大量に含む)
- 33 褐黄褐色砂 (SF019 比較的柔らかく、砂・粗砂がまんべんなく含まれる)
- 34 褐灰色粘質土 (SF019 ひじょうに固く粘性が強い 30層とほとんど同じ)
- 35 褐灰色砂 (SF019 33層より細かく均質な砂)
- 36 褐灰色砂 (SF019 比較的きれいな砂が互層に堆積している)
- 37 におい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 38層と同じか)
- 38 におい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 38層と同じか)
- 39 褐灰色砂 (SF019 比較的均質な砂)
- 40 におい黄褐色土 (SF019 44層に近似する)
- 41 におい黄褐色シルト質粘土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 42-43層と同層かもしれない)
- 42 灰黄褐色土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 41-43層と同層かもしれない)
- 43 灰黄褐色土 (SF019 比較的硬く、焼土粒・土器粒を含む 41-42層と同層かもしれない)
- 44 褐灰色シルト (SF019 41層よりはシルト質が強い)
- 45 灰黄褐色土 (SD007 粗砂・シルトを含む)
- 46 褐灰色土 (砂質がかっており、バラバラしている)
- 47 褐灰色シルト (SF019 44層に近似する)
- 48 灰黄褐色土 (45層とほぼ同じだが、粒子が粗い)
- 49 におい黄褐色土 (遺物包含層 焼土粒・土器粒・炭粒を含む)
- 50 灰黄褐色土 (SD004 地山土をはじめてと小さいブロックを含んでおり、一気に入埋された様相をもつ)
- 51 灰黄褐色土 (SD004 50層より暗く、わずかに炭・炭土が混入)
- 52 灰黄褐色細砂 (SD004 ブロック状態で入っている)
- 53 褐灰色粘質土 (SD004 50層に近似するが、やや粘質が強い)
- 54 褐灰色粘質土 (SD004 50層に近似するが、やや暗い)
- 55 におい黄褐色粘質土 (SD004 地山のブロックからなる層であり、部分的に褐灰色シルトのブロックが混入する59層と同層か)
- 56 灰黄褐色砂 (SD004 小さな小石を含む粗砂質 ブロック状態で入っている 57層と同層か)
- 57 灰黄褐色砂 (SD004 小さな小石を含む粗砂質 ブロック状態で入っている 56層と同層か)
- 58 におい黄褐色砂 (SD004 小石・粗砂を含み、56-57層と近似する)
- 59 におい黄褐色粘質土 (SD004 地山のブロックからなる層であり、部分的に褐灰色シルトのブロックが混入する 55層と同層か)
- 60 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 55層に近似する)
- 61 におい黄褐色砂 (SD004 砂層中に60層と同じの小さいブロックが含まれる)
- 62 におい黄褐色砂 (SD004 砂層中に60層と同じの小さいブロックが含まれる61層に近似するが、小さいブロックが少ない)
- 63 におい黄褐色砂 (SD004 粗砂・小石が混じる)
- 64 灰黄褐色粘土 (SD004 粗砂が混じる 水性堆積層)
- 65 におい黄褐色砂 (部分的に小さな小石を含む粗砂が混じる)
- 66 灰黄褐色土 (SD001 わずかに焼土粒を含む 地山の小さいブロックが含まれており、一気に入埋されたものであろう)
- 67 におい黄褐色土 (SD001 地山や褐灰色土の小さいブロックが大量に含まれており、一気に入埋されたものであろう)
- 68 灰黄褐色土 (SD001 微細な炭・焼土粒を含む 2-20mmの小石を多量に含む)
- 69 におい褐色粘質土 (SD001 粘性が強い)
- 70 におい褐色粘質土 (SD001 砂粒が大きい)
- 71 褐灰色砂質土
- 72 灰白色砂質土
- 73 灰黄褐色砂質土 (炭・焼土粒を多く含む)
- 74 ビット
- 75 灰黄褐色土 (ビット内埋土?)
- 76 におい黄褐色粘質土 (マンガンの沈着が著しい)
- 77 灰黄褐色土
- 78 灰黄褐色粘質土 (SK014)
- 79 灰黄褐色粘質土 (SK014 砂質が強い)

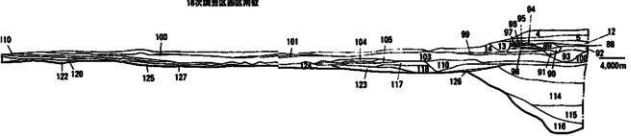
- 80 灰黄褐色粘質土 (SK014 焼土粒・炭粒がわずかに含まれる)
- 81 褐灰色粘質土 (SK014 土器粒がわずかに含まれる)
- 82 褐灰色粘質土 (均質な土)
- 83 におい黄褐色土
- 84 褐灰色砂
- 85 ビット
- 86 灰黄褐色粘質土 (SD005 焼土粒をわずかに含む)
- 87 灰黄褐色砂土 (SD005 細砂部分と粗砂部分が見られる マンガンの沈着が見られる)
- 88 褐灰色土 (マンガンの沈着が見られる)
- 89 灰黄褐色土 (SD007 炭・焼土をきわめて大量に含む)
- 90 褐灰色砂 (SD007)
- 91 におい黄褐色砂と灰黄褐色粘質土ブロックの混在層 (SD007)
- 92 灰黄褐色粘質土 (SD007 焼土粒をわずかに含む)
- 93 褐灰色粘質土 (SD007 焼土粒をわずかに含む)
- 94 灰黄褐色粘質土 (SF019 マンガンの沈着が認められかなり硬い)
- 95 におい黄褐色砂 (SF019)
- 96 灰黄褐色粘質土 (SF019 炭・焼土粒を含む かなり硬い)
- 97 褐灰色砂 (SF019)
- 98 灰黄褐色粘質土 (SF019 部分的に砂がみられ、焼土粒をわずかに含む マンガンの沈着が認められる)
- 99 灰黄褐色粘質土 (SF019 98層と類似するが、マンガンの沈着が認められない)
- 100 褐灰色土 (SF019)
- 101 灰 (SF019)
- 102 灰黄褐色土 (SF019 焼土粒が含まれる)
- 103 灰黄褐色土 (SF019 焼土粒・炭粒・土器粒が大量に含まれる)
- 104 103層と105層の混在層 (SF019)
- 105 灰黄褐色細砂シルト (SF019 炭が多く含まれる)
- 106 SD004埋土 (古墳時の壁面崩落のため土層観察不能)
- 107 SD001埋土
- 108 SD001埋土
- 109 SD001埋土
- 110 灰黄褐色土 (SF019 小さい焼土粒・炭粒が含まれる)
- 111 SD001埋土
- 112 SD001埋土
- 113 灰黄褐色土 (SD001 110層と近似するが、より茶色味が強い 小さい焼土粒・炭粒が含まれる)
- 114 灰黄褐色粘質土 (SD001 焼土・炭を含む一部に焼土上の小ブロックを多く含む)
- 115 灰黄褐色粘質土 (SD001 焼土・炭をわずかに含む)
- 116 SD001埋土
- 117 におい黄褐色粘質土と灰黄褐色粘質土の混在層 (SF019 硬質)
- 118 灰黄褐色土とにおい黄褐色土の混在層 (SF019 人工的露地層)
- 119 におい黄褐色粘質土 (SF019 1cm内外の焼土ブロックを大量に含む)
- 120 褐灰色砂 (SF019 粗砂と砂が混在)
- 121 におい黄褐色粘質土 (SF019 炭・灰が含まれる)
- 122 褐色粘質土 (SF019 焼土粒上面で酸化し、ひじょうに硬化している 道路面被古段層か)
- 123 灰黄褐色砂
- 124 灰黄褐色土 (SF019 127層と同一層か)
- 125 におい黄褐色粗砂 (SF019)
- 126 におい黄褐色砂 (SF019 均質な砂)
- 127 灰黄褐色砂 (SF019 124層と同一層か)
- 128 灰黄褐色砂 (きめの細かい砂)
- 129 黒褐色土
- 130 灰黄褐色粘質土 (SD002 均質な土)
- 131 におい黄褐色シルト (焼土・炭をわずかに含む)
- 132 灰黄褐色土 (136層に似ているが、炭が薄く樹状にはいる)
- 133 灰黄褐色土 (炭・焼土が含まれるが、15層と比較すればはるかに少ない)
- 134 灰黄褐色土 (基本的に133層と同じであるが、炭・焼土はほとんど含まない)
- 135 灰黄褐色土 (炭・焼土・礫が含まれる)
- 136 灰黄褐色土 (炭・焼土・礫を含むが、15層より少ない)
- 137 灰黄褐色土 (136層に近いが、炭・焼土がより少なく、粘性をもつ)
- 138 灰黄褐色土 (ビット 炭・焼土を含む)
- 139 灰黄褐色土 (焼土粒を大量に含む 遺物を含む)
- 140 灰黄褐色土 (土坑内埋土 焼土・炭・小石をはじめ、硬質の土粒がブロック状態で大小混じる)
- 141 褐灰色粘質土 (SD008-3 焼土粒をわずかに含む)
- 142 褐灰色砂土 (SD008-2 焼土粒をわずかに含む)
- 143 灰黄褐色土 (SD007 ほとんど焼土粒からなる)
- 144 灰黄褐色土 (SD007 ほぼ143層と同じであるが、焼土粒がやや少ない)
- 145 におい黄褐色土 (SD007 少量の焼土粒を含む)
- 146 灰黄褐色砂 (SF019 粗砂と細砂が樹状に堆積する)
- 147 におい黄褐色砂土 (SF019 砂質が強く、小石も混じる)
- 148 褐灰色砂土 (149層とほぼ同じだが、焼土粒を含む)
- 149 褐灰色砂土 (148層とほぼ同じだが、砂質が強く、酸化鉄を含む)
- 150 灰黄褐色砂 (SF019)
- 151 灰黄褐色砂 (SF019 147層と比較すれば粒子の粗い砂も含む)
- 152 におい黄褐色土 (SF019 少し砂質があり、土器粒・焼土粒を含む)
- 153 におい黄褐色粘質土 (SF019 かなり硬くしまり、土器粒・焼土粒をわずかに含む)
- 154 におい黄褐色シルト
- 155 褐灰色土
- 156 におい黄褐色土 (SF019 土器粒・小石を含む)
- 157 褐灰色砂土 (SF019)
- 158 におい黄褐色土 (SF019 153層と似ており、土器粒・焼土粒を含むが、やや粘性が強い)
- 159 におい黄褐色粘質土 (SF019)
- 160 におい黄褐色粘質土 (SF019 土器粒・焼土粒をわずかに含む)
- 161 灰黄褐色粘質土 (SF019 粗砂でシルト質に近い)
- 162 褐灰色砂 (SF019)
- 163 明黄褐色シルト (SF019 162層と砂が互層に堆積したもの)
- 164 明黄褐色シルト (SF019 163層と同一層か)
- 165 褐灰色粘質土 (SF019 土器粒をわずかに含む)
- 166 におい黄褐色土 (SF019 互層に粘質土が堆積する)
- 167 灰黄褐色砂 (SF019 部分的に小石を含む)
- 168 褐灰色砂 (SF019)
- 169 におい黄褐色シルト (SF019)
- 170 褐灰色砂 (SF019 168層と同一層か)
- 171 におい黄褐色シルト (SF019 部分的に砂が混じる)
- 172 褐色砂 (SF019 173・176層と同一層か)

- 173 におい黄褐色砂 (SP019 172・176層と同一か)
- 174 褐灰色シルト (SP019 171層と同一層に思えるが、わずかに炭・焼土が混じる)
- 175 におい黄褐色土 (SP019)
- 176 におい黄褐色砂 (SP019)
- 177 におい黄褐色土 (少量だが焼土粒・土器片を含む)
- 178 におい黄褐色土 (焼土粒を含む 小さな焼土ブロックが入っており、一気に埋められたものであろう)
- 179 におい黄褐色粘質土 (SD004 焼土粒・炭粒を含む 小さな焼土ブロックが入っており、一気に埋められたものであろう 178層との境目は漸移的である)
- 180 におい黄褐色粘質土 (SD004 様相は179層と同じだが、地山ブロックが多い)
- 181 灰黄褐色粘質土 (SD004 様相は180層と同じだが、地山ブロックがほとんど含まれていない)
- 182 灰黄褐色粘質土 (SD004 181層と近似する)
- 183 灰黄褐色粘質土 (SD004 185層と近似する)
- 184 におい黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積状の粘土であり、溝開溝時最終段階の潜水状態を示す層であろう 185層と同一)
- 185 におい黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積状の粘土であり、溝開溝時最終段階の潜水状態を示す層であろう 184層と同一)
- 186 におい黄褐色粘質土 (SD004 焼土粒・炭をきわめて少量含む)
- 187 におい黄褐色粘質土 (SD004 186層と近似する)
- 188 灰黄褐色土 (SD004 焼土粒・炭をきわめて少量含む わずかに砂質化する 186・187層と同一層か)
- 189 褐灰色粘質土 (SD004)
- 190 灰黄褐色砂粘質土 (SD004 均質な土)
- 191 灰黄褐色砂粘質土 (SD004 190層と似ているが、砂の小さいブロックを含む)
- 192 におい黄褐色砂 (SD003 小石が上層に多く混じる)
- 193 灰黄褐色粘土 (SD003)
- 194 におい黄褐色粗砂 (SD003 小石が混じる)
- 195 褐灰色砂 (SD003 小石がわずかに混じる)
- 196 灰黄褐色粘土 (SD003 粘土と砂・粗砂が混在する)
- 197 におい黄褐色細砂土 (SD001 うすい層が互層に入っている部分もみられる)
- 198 におい黄褐色粘質土 (SD001)
- 199 褐色粘質土 (SD001 焼土粒・炭粒が含まれる 僅3cm前後の川原石を多く含む)
- 200 褐色粘質土 (SD001 きわめて均質な土)
- 201 におい褐色粘質土 (SD001 きわめて均質な土)
- 202 におい褐色粘質土 (SD001 201層よりは粘性が強い)
- 203 褐色粘砂質土 (SD001 砂質の粒子が大きい)
- 204 灰黄褐色粘質土 (焼土粒や六小の地山ブロックがみられ、一気に埋められたものであろう)
- 205 におい黄褐色土 (焼土粒・炭粒を若干含む)



第3図 第18次調査区トレンチ土層断面図 (1/60)

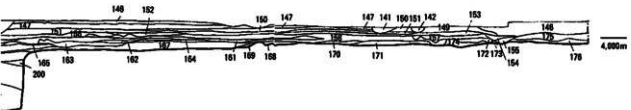
18次調査区南区南段



18次調査区南区南段



18次調査区西区中央トレンチ



近世に至ると、急速に遺構が少なくなり、第2南北街路（SF019）とその周辺に少数のピット・溝が確認できているのみである。

1. 溝

SD001（第4図）

調査区中央東側のJ13区・J14区・J15区・J16区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）下に確認された溝状遺構である。当遺構は保存目的のため、完全な発掘調査を行わず、調査区南北端のトレンチおよび中央に東西方向に設定したトレンチやJ14区・J15区の数5カ所のトレンチにおいて、遺構の存在が確認できたため、南北に連なる溝状遺構と認識した。その断面図は第3・5・6図に示したが、SF019堆積土下において確認でき、また、いずれもSD003・004に切られているため、SF019およびSD003・004に先行する遺構であることがわかる。確認できた幅は1.6～2.7m以上であり、深さ1～1.2mを測る。溝の断面形態も様々で、逆台形からU字形まで様々である。下層には礎や瓦片が比較的多く確認できている。

SD001出土遺物（第7～10図）

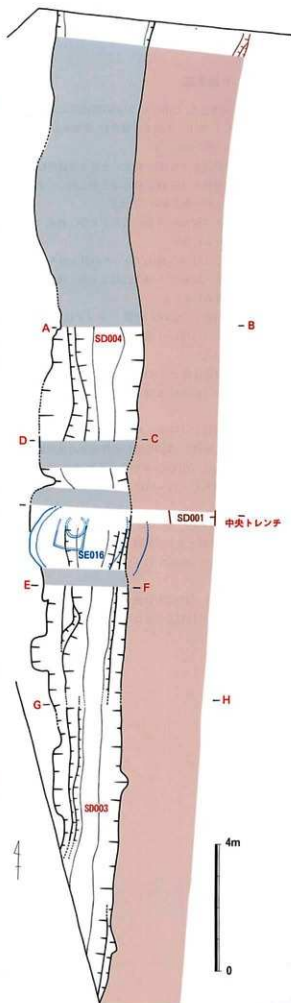
第7図1・3は軒平瓦である。1は瓦頭に唐草文がみえ、内区と外区の間境界線をめぐらす。3は変形花菱文の中心飾りをもつ均整唐草文であり、内区と外区の間境界線をめぐらす。2は軒丸瓦であり、瓦頭には左巻き三つ巴文とその周縁に珠文を配している。

第8図はいずれも丸瓦の玉縁部である。1には凹面に布目痕が、2・3には布目痕をはじめ吊り紐痕、コビキ痕が残る。凸面はいずれも縄目叩きの上からナデ消しを行っている。

第9図はいずれも丸瓦である。凹面には布目痕をはじめ吊り紐痕、コビキ痕が残る、凸面にはナデ消しがみられる。

SD002（第11図）

調査区南東端のK16区・K17区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）下に確認



第4図 第18次西調査区SD001・SD003・SD004・SE016実測図 (1/120)

SD003、E-F断面図

- 1 ぶい黄褐色土 (SF019 SD004埋没後に堆積したものであろう 焼土・土器を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 2 ぶい黄褐色土 (SD003 焼土・土器を少量含む)
- 3 ぶい黄褐色土 (SD003 様相は2層と同じであるが、地山ブロックの混入がみられる)
- 4 浅黄褐色土 (SD003 5層に近似するが、地山ブロックの混入がみられる)
- 5 灰黄褐色土 (SD003 地山ブロックの混入がみられる)
- 6 灰黄褐色土 (SD003 5層に近似するが、地山ブロックの混入がみられない)
- 7 明褐色粘質土 (SD003 軟質 ブロック状)
- 8 灰黄褐色土 (SD003 5層に近似し、地山ブロックの混入がみられる)
- 9 ぶい黄褐色砂質土 (SD003 地山の崩落土)
- 10 灰黄褐色土 (SD003 8層に近似するが、9層の混入がみられる)
- 11 灰黄褐色粘質土 (SD003 地山ブロックがほとんどみられない水性堆積土 溝掘削時の最終段階の堆積層か)
- 12 ぶい褐色土 (SD003 やや粘性を帯びる 地山ブロックが多く混入し、13~15層とともに堆積したものであろう)
- 13 ぶい褐色砂質土 (SD003 小石が多く混入し、砂粒が粗い 12~15層とともに堆積したものであろう)
- 14 褐色砂質土 (SD003 11~15層とともに堆積したものであろう)
- 15 褐色砂質土 (SD003 14層と同じであるが、シルト質を帯びる 11~15層とともに堆積したものであろう)

SD003、SD001、G-H断面図

- 1 ぶい褐色土 (SF019)
- 2 ぶい褐色土 (SF019 土器粒を含む)
- 3 ぶい褐色土 (SF019)
- 4 褐色砂質土 (SF019 硬質 砂粒がやや粗い 中央トレンチ土層168層(第3図)に対応する)
- 5 ぶい黄褐色土 (埋没後に堆積したものであろう 炭・焼土・土器を含む 中央トレンチ土層178層(第3図)に対応する)
- 6 ぶい黄褐色土 (炭・焼土・土器を含む)
- 7 ぶい黄褐色土 (8層とほとんど同じだが、地山ブロックが大きい)
- 8 ぶい黄褐色土 (炭・焼土・土器を含む 地山の非常に小さいブロックを含む)
- 9 ぶい黄褐色土 (地山ブロック 8層の埋め戻しに伴う地山ブロックと思える)
- 10 ぶい黄褐色土 (8層と同一層か)
- 11 褐色土 (シルト質の均質な土で部分的に酸化鉄が混じる 水性堆積土)
- 12 褐色粘土 (ひじょうに均質な粘土 水性堆積土)
- 13 褐色粘質土 (12~14層より粘性が弱いが水性堆積土であろう 部分的に酸化鉄が混じる)
- 14 褐色粘土 (12層とほぼ同じ)
- 15 褐色粘質土 (10層より粘性が弱く、9層より粘性が強い水性堆積土)
- 16 ぶい黄褐色粘質土 (均質な土で溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 17 褐色砂 (SD003 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 18 褐色砂 (SD003 17層より粒子が粗い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 19 褐色砂 (SD003 18層に似ているが、砂質が均質 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 20 褐色砂 (SD003 18層に似ているが、16層と同じ土のブロックが混じる 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 21 黄褐色粘質土 (SD003 16層の土に砂が多く混じる 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 22 浅黄褐色土
- 23 明褐色砂質土 (SD001 砂粒は細かい)
- 24 浅黄褐色土 (SD001 ブロックの混入土であろう)
- 25 ぶい黄褐色土 (SD001 黄色土ブロックが少量混入)
- 26 ぶい黄褐色土 (SD001 灰土ブロックが多く混入し、やや粘性を帯びる)
- 27 明褐色粘質土 (SD001 ひじょうにしまりがよい土である)

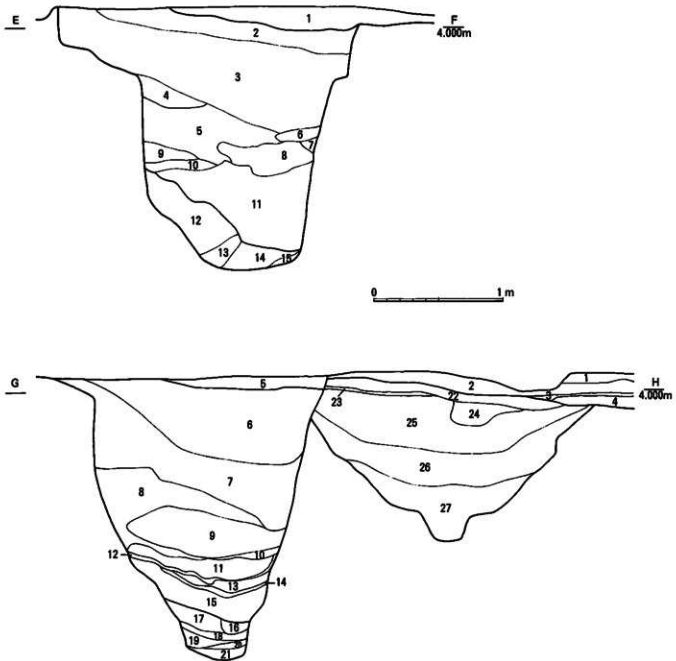
された断面台形状の溝状遺構である。確認できた長さ3mであり、幅0.5m、深さ0.75mを測る。埋土は均質な灰黄褐色粘質土であり、出土遺物も乏しいが、28次調査区に連続する遺構から出土した遺物をみると、14～15世紀に位置づけられる遺構であろう。

SD002出土遺物 (第12図)

第12図は土師質土器甕である。口縁部は厚く、外反する。

SD003・004 (第4・5・6図)

調査区中央東側の1・J-13・14・15・16・17区に南北方向に走る溝状遺構である。当遺構SD004の一部は保存目的のため、完全な発掘調査を行っていないが、遺構上面プランは確認できた。SD



第5図 第18次西調査区SD001・SD003土層断面図 (1/30)

SD004、A-B断面図

- 1 明褐色土 (SF019 硬質 砂粒をあまり含まない)
- 2 明褐色土 (SF019 硬質 砂粒をあまり含まない)
- 3 におい黄褐色土 (SF019 土器・焼土粒を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3層)に対応する)
- 4 におい黄褐色土 (SF019 やや粘性を帯びる 3層に近似 中央トレンチ土層178層(第3層)に対応する)
- 5 におい黄褐色土 (SF019 土器・焼土粒を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3層)に対応する)
- 6 灰黄褐色砂 (ビット)
- 7 灰黄褐色砂 (SF019 細かくしまりがよい 小石をあまり含まない 中央トレンチ土層167層(第3層)に対応する)
- 8 におい黄褐色土 (SF019 4層に近似するが、砂粒が粗い)
- 9 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロックを多く含む 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 10 におい褐色土 (SD004 均質な土で9層に近似するが、地山ブロックは含まない 中央トレンチ土層180層(第3層)に対応する)
- 11 におい褐色土 (SD004 10層に近似するが、地山ブロックを含む)
- 12 灰白色粘質土 (SD004 しまりがひじょうに強い)
- 13 におい黄褐色粘質土 (SD004 10層に比較すると、地山ブロックを含まない 中央トレンチ土層182層(第3層)に対応する)
- 14 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 15 におい黄褐色土 (SD004 やや粘性を帯びる)
- 16 におい黄褐色土 (SD004 灰色ブロックを少量含む)
- 17 浅黄褐色土 (SD004 灰色ブロックを少量含む)
- 18 浅黄褐色砂質土 (SD004 ブロック)
- 19 灰白色砂質土 (SD004 ブロック)
- 20 灰白色粘質土 (SD004 帯状に堆積し、粘性が弱い)
- 21 におい黄褐色粘質土 (SD004 砂質ブロックが多く混入)
- 22 浅黄褐色砂質土 (SD004 粗砂 小石が混入する)
- 23 灰白色砂質土 (SD004)
- 24 におい黄褐色粘質土 (SD004 粘性が弱く、小石が混入する)
- 25 浅黄褐色土 (SD004 18層と近似する)
- 26 褐灰色粘質土 (SD004 粘性は弱く、ブロック状を呈す)
- 27 におい黄褐色砂質土 (SD004)
- 28 におい黄褐色土 (SD001 やや粘性を帯び、砂粒をあまり含まない)
- 29 におい黄褐色土 (SD001 地山ブロック)
- 30 におい黄褐色土 (SD001 地山ブロックが混入する)
- 31 褐灰色粘質土 (SD001 粘質で、瓦片・礫が多く出土する)
- 32 におい黄褐色粘質土 (SD001)

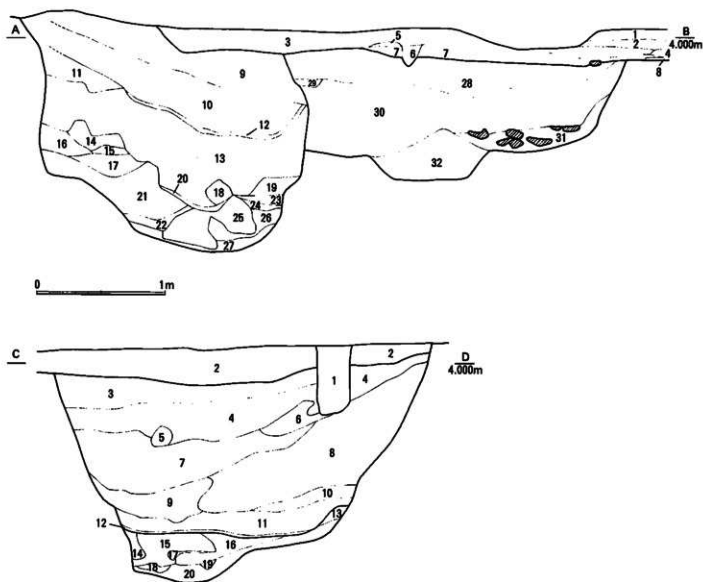
SD004、C-D断面図

- 1 ビット
- 2 におい黄褐色土 (SF019 SD003埋没後に堆積したものであろう 焼土・土器を少量含む 中央トレンチ土層178層(第3層)に対応する)
- 3 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロックを多く含む 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 4 におい黄褐色土 (SD004 3層に近似するが、地山ブロックの混入が少ない 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 5 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 軟質 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 6 におい褐色土 (SD004 均質な土で4層に近似 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 7 灰黄褐色土 (SD004 地山ブロックと灰色土ブロックが混入する 中央トレンチ土層182層(第3層)に対応する)
- 8 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック 軟質 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 9 褐灰色粘質土 (SD004 11層と比較して粘性が弱い 灰色ブロック・炭が少量はいる 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 10 におい黄褐色土 (SD004 8層に近似し、灰色ブロックが少量はいる 中央トレンチ土層179層(第3層)に対応する)
- 11 灰黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積層 中央トレンチ土層185層(第3層)に対応する)
- 12 灰黄褐色粘質土 (SD004 水性堆積層 11層中の有機物が堆積した様相をもつ 中央トレンチ土層185層(第3層)に対応する)
- 13 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 14 におい黄褐色土 (SD004 地山ブロック)
- 15 灰白色粘質土 (SD004 粘性が強い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 16 明褐色粘質土 (SD004 15層より粘性が弱い 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 17 におい褐色土 (SD004 有機物が集積する 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 18 浅黄褐色砂質土 (SD004 シルト状を呈する 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 19 明褐色粘質土 (SD004 ブロック状の混入土 溝掘削直後に埋没したものであろう)
- 20 褐灰色粘質土 (SD004 小石が少量はいる 溝掘削直後に埋没したものであろう)

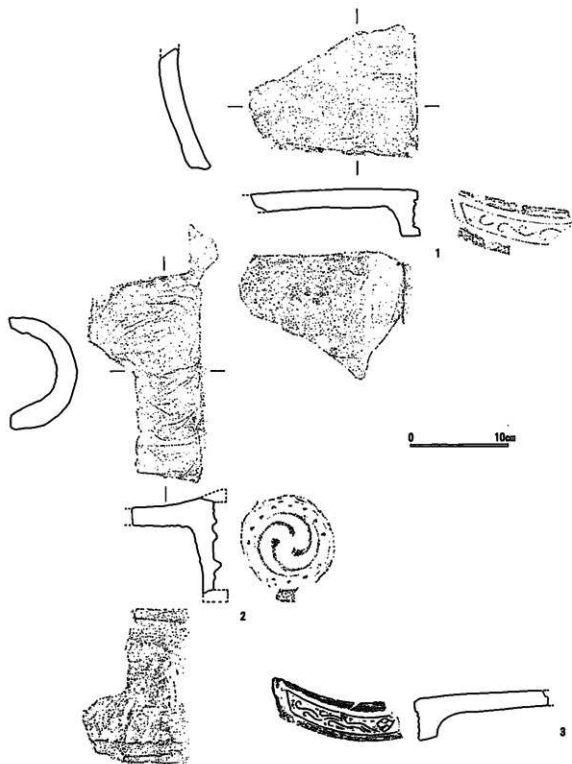
003・004はいずれのトレンチにおいても、SD001を切っており、SD001の西側掘形に重なりながら掘り返された溝状遺構である。

一見、南北に連なる一連の遺構であるようにも見えるが、I15区・J15区において井戸状遺構SE016と切り合い関係を持ったため、SE016周辺の遺構プランを把握し得なかった。しかし、このSE016を境に南北の溝の様相は全く異なり、また、出土遺物からも溝が開溝していた時期の差が認められ、別の遺構であったことが明らかとなった。そこで、SE016の南に延びる溝状遺構をSD003、北に延びる溝状遺構をSD004として把握した。中央トレンチ断面図を観察すると、切り合い関係からSD003が最も古く、次いでSE016、最後にSD004が営まれたことがわかる。

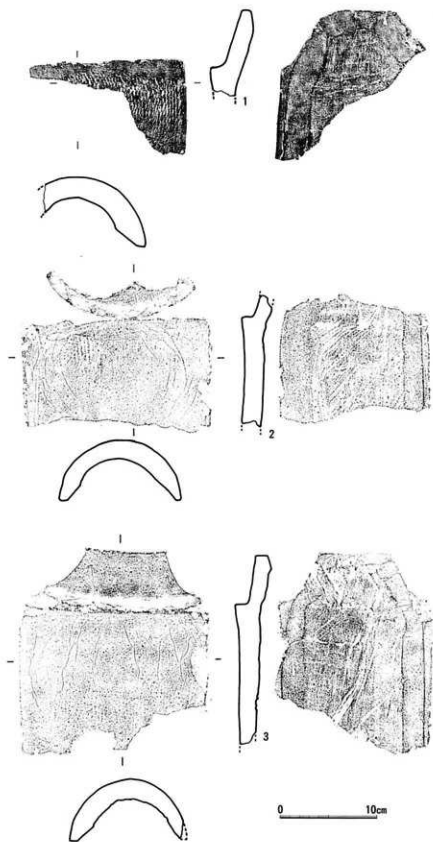
SD003は幅1.8～2.6m、深さ2.0～2.2mを測る断面V字形を呈する溝状遺構である。SD003最下層は、溝掘削が砂層まで及んだせいか、粘土と砂がブロック状に混在した層が確認でき、掘削後に溝壁面が崩落していた様相がうかがえる。滞水状態を示す水性堆積層はこの上面の標高2.2～2.25mのレベルで確認できる。この水性堆積層である粘質土は標高2.65～2.85mまで堆積しており、この



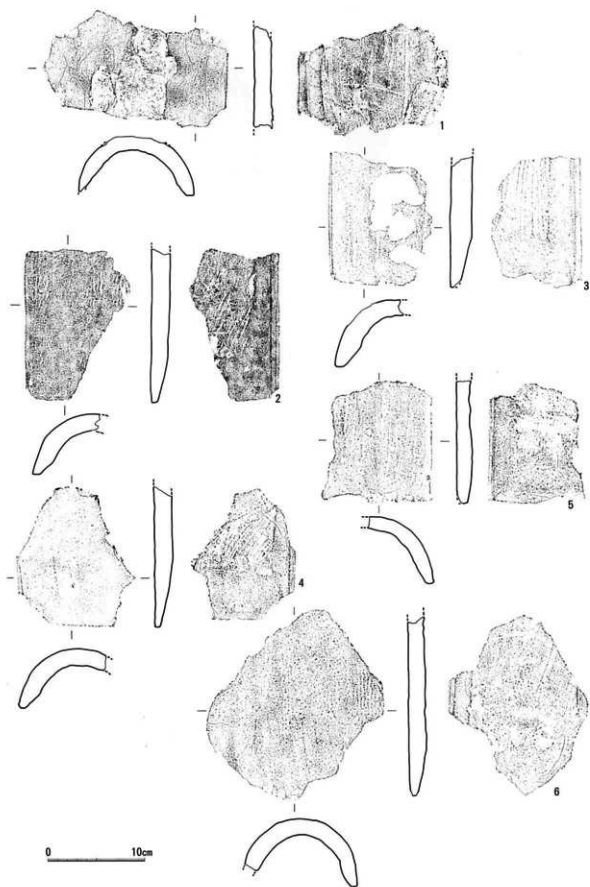
第6図 第18次西調査区SD001・SD004土層断面図 (1/30)



第7圖 第18次西園調査区SD001出土遺物実測図①(1/4)



第8图 第18次西調査区SD001出土遺物実測図② (1/4)



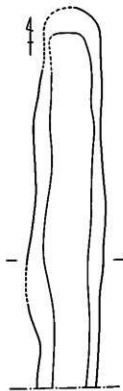
第9図 第18次西調査区SD001出土遺物実測図③ (1/4)

上層は人工的な埋土であると思われる、埋土中に地山ブロックが含まれている。この人工的な埋め土は深さ1m以上におよび、数段階に分けて行われているが、いずれも西側から埋土されたことが土層観察からうかがえる。溝の形態は東側が切り立っており、西側が比較



第10図 第18次西調査区SD001下層出土遺物実測図(1/1)は変わりない。

的緩やかだが、峻険な溝であることにSD004は幅2.6~3.2m、深さ1.6~2.0mを測る断面U字形を呈する溝状遺構である。南限はSE016と重複するあたりであり、北限は12次調査区のSD08に続く。SD004最下層は、SD003と同様に、G-H断面17~21層のように粘土と砂がブロック状に混在した層が確認でき、掘削後に溝壁面が崩落していた様相がうかがえる。G-H断面11~15層に対応する滞水状態を示す水性堆積層は、この上面の標高2.65~2.8mのレベルで確認でき、南では厚さ5cmを測るが北に向かうにしたがい、明確でなくなる。この水性堆積層である粘質土の上層(G-H断面7~10層)は人工的な埋土であると思われる、埋土中に地山ブロックが含まれている。この人工的な埋め土は深さ1m以上におよび、数段階に分けて行われておるが、いずれも西側から埋土されたことが土層観察からうかがえる。溝の形態は東側が切り立っており、西側が比較的緩やかである。人工的に埋め戻した溝の最終段階は深さ50cmと、幅に比較すれば浅く窪地状を呈していたことがわかるが、G-H断面1~2層埋土には炭・焼土・土器を含み、これを埋め戻し整地を行うことにより、新たな都市形成の平坦地を確保したことがわかる。

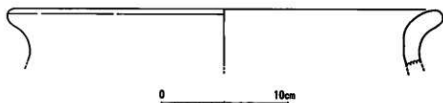


SD003・004出土遺物(第13~16層)

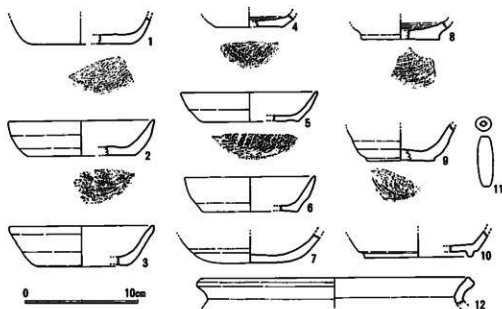
第13図はSD003の下層(G-H断面11~15層)から出土した遺物である。1~3・5・6・9は土師質土器坏あり、すべての資料は底部に回転糸切り痕がみえる。5には回転糸切り離し後に板状圧痕が確認できる。4・8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ目が残る。7は底部を丸く仕上げる土師質土器坏である。内面を横方向に磨き、外面には丁寧な細かい横方向の削りを施す。10は須恵器坏である。7・10とも古代に属するものであろう。12は瓦質土器埴の口縁である。11は土唾である。



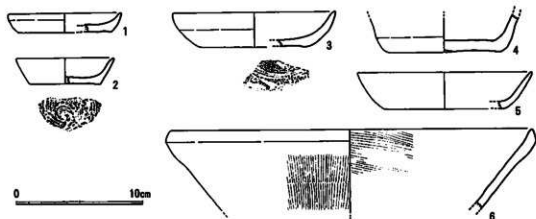
第11図 第18次西調査区SD002実測図(1/30)



第12図 第18次西調査区SD002出土遺物実測図(1/3)



第13図 第18次西調査区SD003下層出土遺物実測図 (1/3)

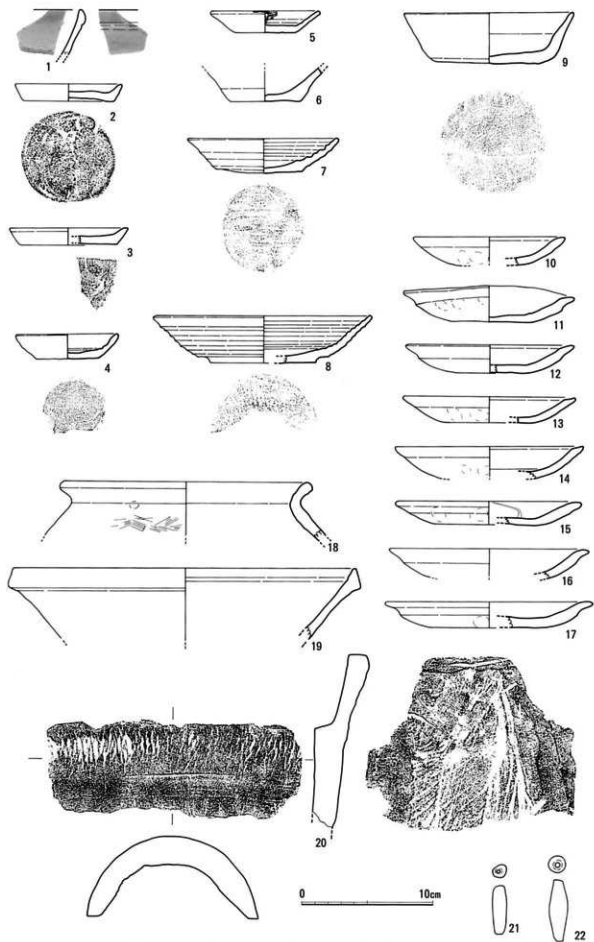


第14図 第18次西調査区SD003中層出土遺物実測図 (1/3)

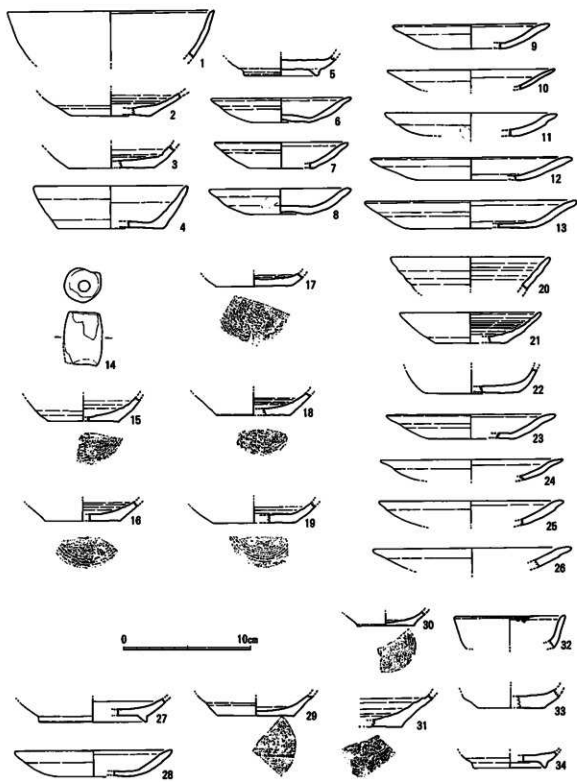
第14図はSD003の中層（G-H断面7～10層）から出土した遺物である。1・2は土師質土器皿であり、3～5は土師質土器杯である。6は東播系須恵器こね鉢である。

第15図はSD003の上層（G-H断面5～6層）から出土した遺物である。1は玉縁口縁をもつ白磁碗である。2～5は土師質土器小皿である。4・5は内面に強い螺旋状のロクロ目を残すタイプであり、5は口縁に煤が付着し、灯明皿として利用されていたことがわかる。7・8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ目を残し、底部には板状圧痕がみえる。6・9は土師質土器杯であり、9は底部を糸切り後にへう調整が施されている。10～17は京都系土器器皿である。埴地編年1～3期に属する特徴をもつ。18は瓦質土器壺である。19は東播系須恵器こね鉢である。20は丸瓦の玉縁部である。凹面に布目、凸面にタタキをナデ消した痕跡がみえる。21・22は土師である。

第16図1～13はSD004上層から、14～26はSD004中層から、29～34はSD004下層、27・28は床面直上から出土した。1・5・27・34は土師質土器碗である。古代の遺物であろうか。2・3・15～21・29～31は土師質土器皿であり、螺旋状のロクロ痕がみられる。4・22・32・33は土師質土器杯



第15图 第18次西調査区SD003上層出土遺物実測図 (1/3)



第16図 第18次西調査区SD004出土遺物実測図 (1/3)

である。32は灯明皿として利用されている。6～13・23～26・28は京都系土師器皿である。塩地編年1期を主体に2期が若干量混じる特徴をもつ。14は土鍾であり、径が2.9cmを測り、大振りである。

SD005-1・2、SD006（第17図）

調査区中央東側のK16区に位置する南北方向に走る溝である。SD005-1埋土はシルト質の堆積土であり、SD005-2埋土は粗砂の堆積土である。SD005-1は最大幅約20cm、最深約10cm程度であり、SD005-2は最大幅約25cm、最深約10cm程度である。この両者は上下層に重なるため、同一遺構の上下層埋土である可能性も残るが、SD005-1埋没後にSD005-2が掘り直された印象が強い。SD005-1・2はK15・16区にみられる現代の攪乱坑により切られているが、この攪乱坑の北に確認できたSD006埋土はSD005-2に近似するため、同一遺構である可能性をもつ。SD006は北側で消滅し、また、南側は調査区南側の28次調査区にのびている。このSD005-1・2は検出面がSD008-2・3検出面の下層から確認できたため、SD008-2・3に先行するものであることがわかり、SF019と重なるため、道路側溝としての機能を考えるべきであろう。

SD005-2、SD006出土遺物（第18・19図）

第18図はSD005-2出土遺物である。1は中国産青磁碗であり、外面口縁部付近に簡描波状文が一部に残る。2は中国越州窯系青磁碗の高台部である。古代のものであろう。3は口縁が端反りタイプの中国景德鎮窯系青花皿である。4は内面につよいロクロ痕を残す土師質土器皿である。5・6は京都系土師器皿である。

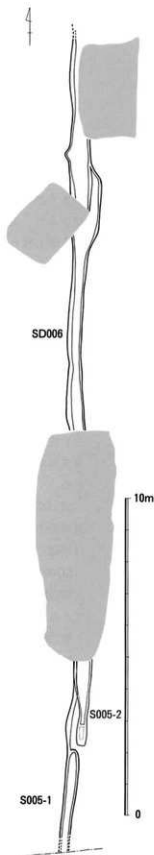
第19図はSD006出土遺物である。土師質の燭台であり、中央に細い円形孔が確認できる。

SD007-1・2・3・4（第20図）

調査区中央西側のJ-13・14・15・16・17区に南北方向に走る第2南北街路（SF019）の西側道路側溝である。4時期の掘り返しが確認され、古い段階からSD007-1、SD007-2、SD007-3、SD007-4と、掘り返され宮まれている。

SD007-1は幅1.2～1.8m、最深約40cmと最も規模が大きく深く、以後、掘り返される側溝はいずれもSD007-1の範囲内でおさまる。SD007-1は調査区の北側に延びるが、南側は遺構面の削平が著しいせいか、J16区・J17区においては失われている。埋土は粗砂やシルトを含む灰黄褐色土である。

SD007-2は東側部分をSD007-3・4の掘り直しにより失われているため、その全貌はうかがえないが、ほぼ、SD007-1の範囲内において、東側に沿って掘り直された側溝であることがわかる。一部、J13区・J14区において最大幅60cm、最深15cmを測る規模で確認されている。このSD007-2段階には、数基のピットが溝底に掘られており、うち2例は、同様な様相をもち、中に礫が詰められ



第17図 第18次西調査区SD005・SD006実測図（1/120）

た径50cm、深さ45～50cmのピットが2.6mの心々間で営まれていた。道路側溝を隔てて、道路側を画する施設の一部と考えられよう。

S007-3はS007-2のさらに東側に重なりながら掘り直された側溝である。遺構面の削平によるためか、J14区において約4mの長さで消滅している箇所が確認できるが、調査区外の南北に延びる最も残りのよい道路西側側溝である。調査区南端部にはSD007-3の西側肩に人頭大の石を利用して石積み状に組んだ施設が検出できた。この溝状の特徴として西側肩部が直立状に立ち上

がり、東側肩部は比較的緩やかな傾斜をもつ。それとともに、溝底に7間（心心間総長12.0m、平均1.7m）のピット列8基が検出でき、溝とするよりは、柵状遺構に伴う掘り込み遺構に近い性格であった可能性も残る。埋土中には炭や焼土が大量に含まれており、火災処理に伴い埋められた遺構であることがわかる。

SD007-4はSD007-3のさらに東側に掘り直された側溝である。遺構面の削平によるためか、I16区において消滅しそれ以南には確認できない。埋土は褐色の砂質土が主体をしめる。

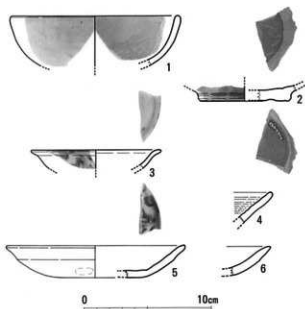
SD007-1・2・3・4出土遺物（第21～27図）

第21図はSD007-1出土の遺物である。1は瀬戸美濃系陶器筒形碗であり、大窯4期に属するものであろう。2は土師質土器皿、3は京都系土師器皿である。3は塩地編年2期に属するものである。

第22図は銅銭であるが、銭種不明である。

第23図はSD007-2出土の遺物である。1は中国景徳鎮窯系青花碗であり、外面に毛彫りの花文様が見られる。2・3は朝鮮王朝産陶器碗であり、3には見込みおよび高台畳付けに砂目痕が残る。4～11は京都系土師器皿であり、塩地編年1～3期の資料が混在することがわかる。4・8・11は灯明皿として利用されている。12は土師質土器皿であり、内面に螺旋状のロクロ目が残る。13は備前系統締陶器插鉢であり、乗岡編年中世4b～5a期に属するものである。14・15は備前系統締陶器水屋甕である。

第24図はSD007-3出土の遺物である。1・2は中国景徳鎮窯系青花皿であり、2は小野分類B群に属し、外面に唐草文、見込みに龍文がみえる。3は中国漳州窯系青花皿である。4は白磁碗である。5は朝鮮王朝産陶器碗である。6は土師質土器器環である。7は土師質土器皿であり、内面に螺旋状のロクロ目を著しく残す。8・10～20は京都系土師器皿であり、9は京都系土師器環である。21～24は備前系統締陶器である。21は肩に耳のつく壺であり、胴部に「大」の刻字がみえる。22は玉縁状口縁をもつ壺であり、乗岡編年中世4～5期に属する特徴をもつ。25は瓦質土器鍋である。



第18図 第18次西調査区SD005-2出土遺物実測図 (1/3)



第19図 第18次西調査区SD006出土遺物実測図 (1/3)

第25図はSD007-3出土の遺物である。1は瓦質土器鉢である。2は軒平瓦である。瓦当文様は唐草文がみえる。3は丸瓦である。凹面にナナメのコビキ痕がみえる。4は砥石であるが、尖頭状の工具を研いだためか、数本の葉研状の溝が残る。5は筭である。

第26図はSD007-3出土の茶臼であり、きわめて丁寧に調整されている。

第27図はSD007-4出土の遺物である。1は中国景徳鎮窯系青花碗である。2は瀬戸美濃系天目碗である。3は備前系焼締陶器壺である。4～10は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期の資料が混在することがわかる。4は灯明皿として利用されている。

SD008-1・2・3 (第28図)

調査区東側のJ・K-13・14・15・16区に南北方向に走る第2南北街路(SF019)の東側道路側溝である。3時期の掘り返しが確認され、古い段階からSD008-1、SD008-2、SD008-3と、掘り返され営まれている。

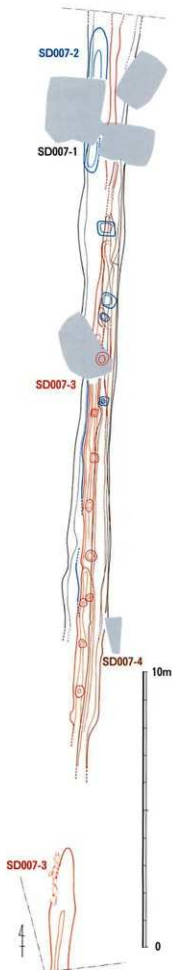
SD008-1は最大幅0.9mであり、最深は10cmに満たないが、溝として把握した。東側道路側溝としては、最も道路中央側を走る。この側溝は調査区中央以南においては、削平されているが、本来は南に続いていたことが想定できる。

SD008-2は幅0.9m、最深約25cmを測り、調査区中央以南においては削平されている。一部が、SD006に繋がるため、切り合い関係からSD006の掘り直し部分も存在するものと思える。遺構内に人頭大の石を利用した石積み状の石列が西側の面を揃えて3.2mの長さで検出でき、この石列は調査区外北側にも続くものと想定できる。溝内の石列東側の埋土は石積みを安定させるための裏込め土であり、溝埋土最下層の褐灰色シルトも石列を安定させるものであった可能性が高い。そのため、溝絶後の埋土は、炭や焼土が大量に含まれる火災処理土であったことがわかる。また、一部、この石列を生かし、さらに埋土が渡えられ、溝として機能していた時期が存在したことが、土層観察で確認できた。埋土の様相から道路西側側溝のSD007-3に対応するものであろう。

SD008-3はSD008-1とSD008-2との間におさまる側溝である。幅0.8m、最深約25cmを測り、遺構面の削平によるためか、南に延びるほどに規模が小さくなり、J16区において消滅している。埋土は褐灰色土であり、焼土粒・土器粒を若干含むほかは、比較的多くの礫が出土している。埋土の様相から道路西側側溝のSD007-4に対応するものであろう。

SD008-1・2・3出土遺物 (第29～34図)

第29図はSD008-1出土遺物である。1は中国景徳鎮窯系青花碗であり、外面に花文がみえる。2は中国漳州窯系青花皿であるが、2次焼成を受け、変質している。3～9は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属する資料である。



第20図 第18次西調査区SD007実測図(1/140)

第30図はSD008-1から出土した「皇宋通寶」(1038年初鋳)である。

第31図はSD008-2出土遺物である。1は中国景德鎮窯系青花皿である。2は備前系統締締陶器平鉢である。3・5・6は京都系土師器皿である。4は土師質土器環である。

第32図1はSD008-3から出土した菌形分銅である。重量1.4gを量る。2はSD008-3から出土した円形分銅である。銅製で錆着が著しいが重量2.0gを量る。

第33図はSD008-3出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる餛飩心碗の形態をもつ。見込み部には花文がみえる。2は中国漳州窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。高台周辺と見込み部に2重圈線を廻し、内外面とも高台周辺および見込み部は露胎のままである。2次焼成を受けているため胎調・釉調とも変質している。3・5は中国龍泉窯系青磁碗であり、3には内外面に片切り彫りの文様がみえる。4は中国龍泉窯系青磁香炉であり、筒状の器形に脚が3カ所につく。6は瀬戸美濃系陶器折縁皿であり、低平な器形をもち、大窯4期末(16世紀末～17世紀初)に比定されよう。7・8は瀬戸美濃系陶器天目碗の底部片であるが、高台周辺を打ち欠き、円盤状に加工したものである。9は備前系統締締陶器鉢であり、10は備前系統締締陶器壺である。11～13は京都系土師器皿である。14・15は土師質土器を径5cm弱に加工した円盤状製品である。16は備前系統締締陶器播鉢であり、放射状スリメに加えて、ナメ方向のスリメが付加されており、乗岡編年近世1c期に帰属するものである。17は五質土器風炉である。

第34図はSD008-3から出土した銅銭である。1は「洪武通寶」(1368年初鋳)である。2は「崇寧通寶」(1102年初鋳)であり、径3.3cmを測る当十銭である。3は「寛永通寶」(1636年初鋳)であり、古寛永に属する。4・5は銭種不明である。

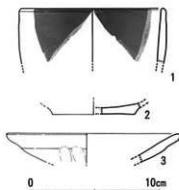
SD009、SD010 (第35図)

SD009およびSD010はI・J13・14区に位置し、その間を現代の掘乱坑により破壊されているが、一連の遺構である可能性が高い。SD010の東はSD007-1と接し、SD009の西は調査区外に延びる。双方の床面はSD009が低いため、溝状遺構であれば東から西への水流があったものと考えられる。下層に存在するSD004の調査で、SD009下部においてSD004に直交して連なる小さな溝の存在が確認できたため、その埋没過程で生じた地形の落ち込みであるとも考えられる。しかし、作為的であろうとならうと、この両者が一連の遺構であるなら、溝状を呈していたことは疑う余地がない。遺物は下層のSD004埋没後に浅い窪地状地形を呈していた段階で廃棄された状況がうかがえる。比較的多くの遺物が出土し、埋土中には炭・焼土がわずかに含まれていた。

SD009、SD010出土遺物 (第36～38図)

第36図は「景德元寶」(1004初鋳)である。

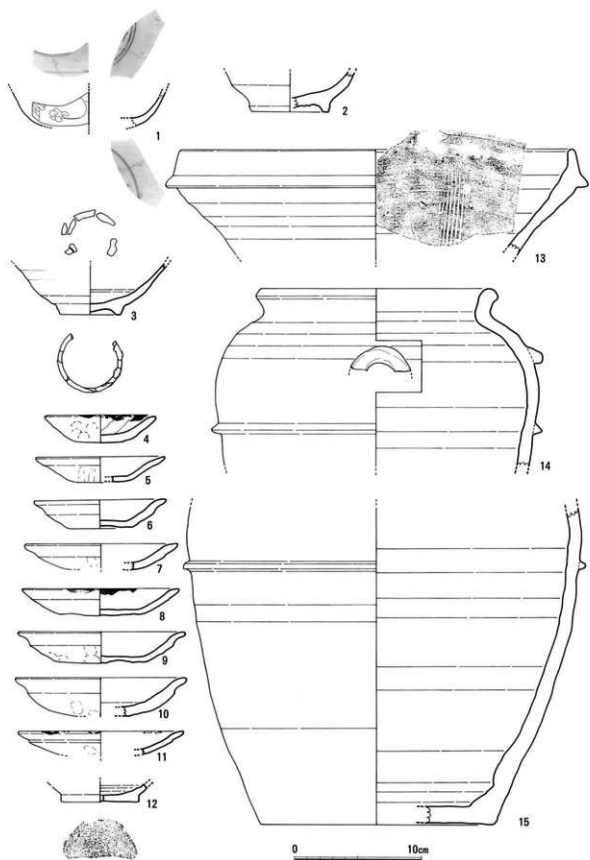
第37図1・3は中国景德鎮窯系青花碗である。1は小野分類E群におさまる餛飩心碗の形態を



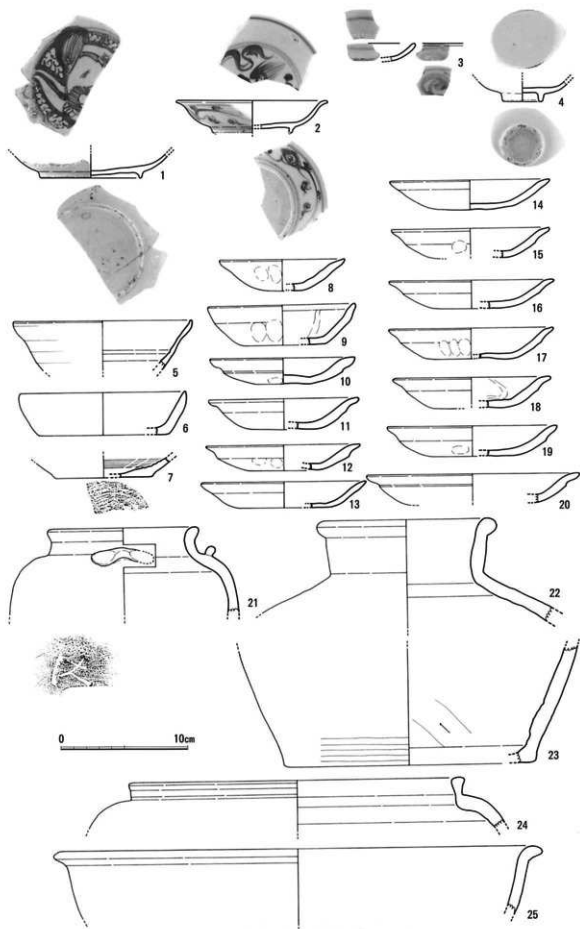
第21図 第18次西調査区SD007-1出土遺物実測図(1/3)



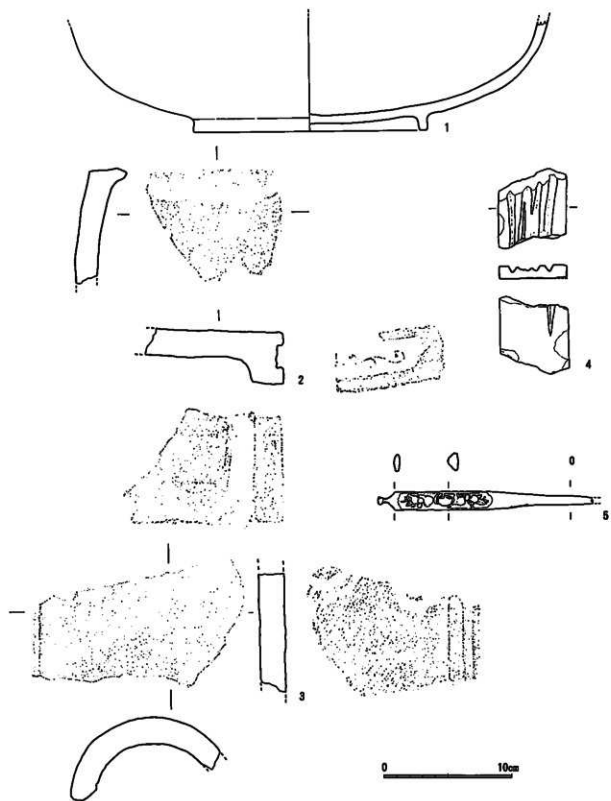
第22図 第18次西調査区SD007-2出土遺物実測図①(1/1)



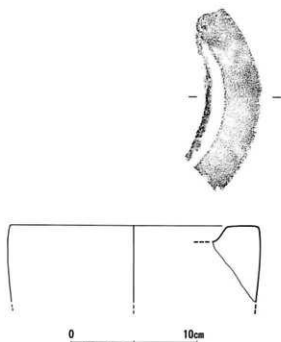
第23図 第18次西調査区SD007-2出土遺物実測図② (1/3)



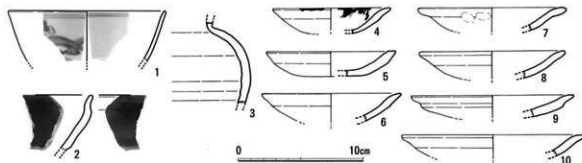
第24図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図① (1/3)



第25図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図② (1/3)



第26図 第18次西調査区SD007-3出土遺物実測図③ (1/3)



第27図 第18次西調査区SD007-4出土遺物実測図 (1/3)

もち、見込み部には龍文、高台内には字款がみえる。4・5は中国景德鎮窯系青花皿である。小野分類B群におさまる口縁端反りタイプの皿である。6は瀬戸美濃系灰軸陶器壺である。肩部と胸部に1単位ずつの櫛描文がみられ、それに挟まれ耳がつく。施軸は外面および内面首部にみられる。7～9・13は朝鮮王朝産陶器である。8は舟徳利であり、その他は碗である。碗には高台畳付けおよび見込みに重ね焼き痕がみえる。10～12は京都系土師器である。

第38図1は中国景德鎮窯系青花皿である。2は朝鮮王朝産陶器碗である。3は土師質土器小皿であり、4～6は土師質土器皿である。4の内面には螺旋状のロクロ目を顕著に残している。7～9は体部が立ち上がる京都系土師器小皿であり、焼塩壺の蓋を転用したものである。10～38は京都系土師器皿である。塩地編年1～3期の特徴をもつものが混在するが、図化しえなかった遺物も含めて3期のものが圧倒的に多い。39・40は備前系焼陶器搦鉢である。39は口縁を上方に拡張する形態の特徴をもち、乗岡編年中世5 a 期に属する。40は放射状スリメに加えて、ナナメ方向のスリメ

が付加されており、乗岡編年近世1a b期に属するものである。

SD011 (第2図)

調査区南西側のJ15区・J16区に位置するN-4°-E方向に走る溝である。長さ4.8m、幅60~80cm、深さ約40cmを測る溝である。埋土は現在の水田に伴う床土(にぶい黄橙色土)と同じであり、近世以降、水田耕作に伴う溝であると考えられる。

SD011出土遺物 (第39図)

第39図1は瓦質土器である。しだいに肥厚しながら口縁に延びる筒状の形態をもつが、器種は明らかでない。2は朝鮮王朝産陶器碗であり、竹節高台をもつ。3・4は京都系土師器皿である。

SD012 (第2図)

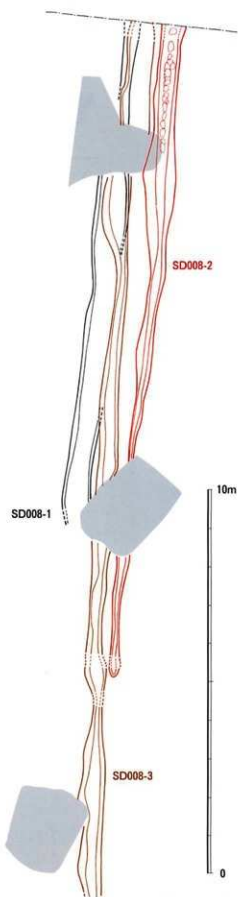
調査区南西側のJ15区・J16区に検出された南北方向に走る溝である。長さ約7m、幅約1m、深さ約20cmを測る溝である。SD011と約2mの間隔を開けて並行して走り、埋土もSD011と同様に現在の水田に伴う床土(にぶい黄橙色土)と同じであり、近世以降、水田耕作に伴う溝であると考えられる。

SD013 (第2図)

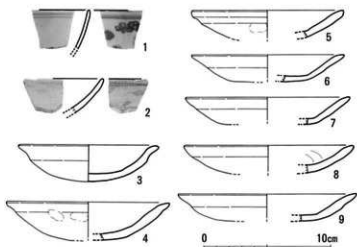
調査区中央東側のJ15区・K15区に位置するW-8°-N方向に走る長さ約5m、幅15~20cm、深さ最深約30cmを測る溝であり、東限は大友18次東調査区に延びている。出土遺物は少量ながら16世紀後半に属するもののみであるが、大友18次東調査区では、近世に属するものが出土しているため、近世以降の遺構とすべきであろう。

SD013出土遺物 (第40図)

第40図は瀬戸美濃系灰釉陶器壺である。施軸は外面胴部にみられる。円盤状の底部に粘土紐を積み上げて成形しており、また、高台も粘土紐を底部に貼り付けて成形したことがわかる。



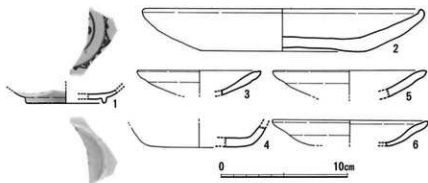
第28図 第18次西調査区SD008実測図 (1/50)



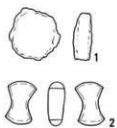
第29図 第18次西調査区SD008-1出土遺物実測図① (1/3)



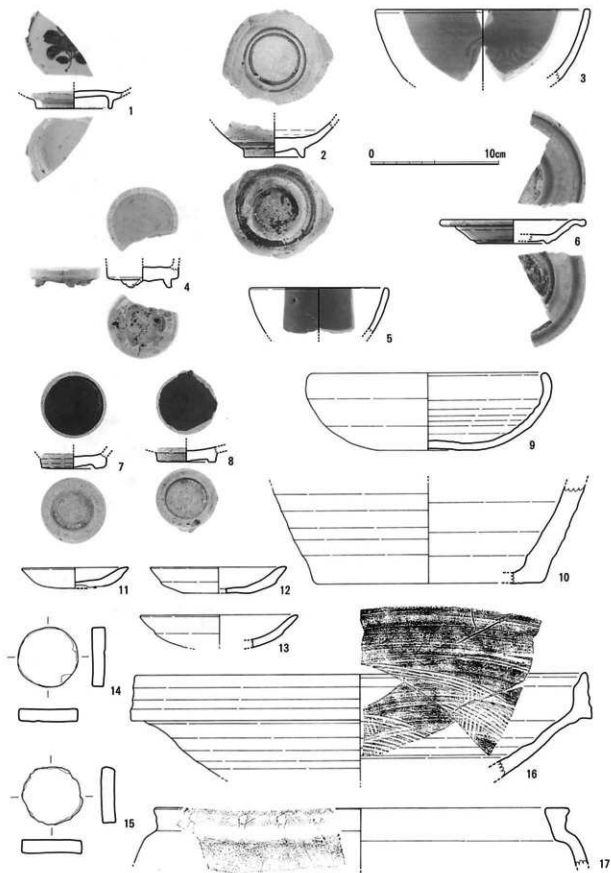
第30図 第18次西調査区SD008-1出土遺物実測図② (1/1)



第31図 第18次西調査区SD008-2出土遺物実測図 (1/3)



第32図 第18次西調査区SD008-3出土遺物実測図① (1/1)



第33图 第18次西調査区SD008-3出土遺物実測図② (1/3)

2. 土坑

SK014 (第41圖)

調査区北東端のK13区・K14区に位置する不定形土坑で、幅約1m、深さ約20cmを測る。埋土は暗茶褐色で、古代の土師器環等がみられるが、図化できる大きさのものは出土していない。

SK015 (第42圖)

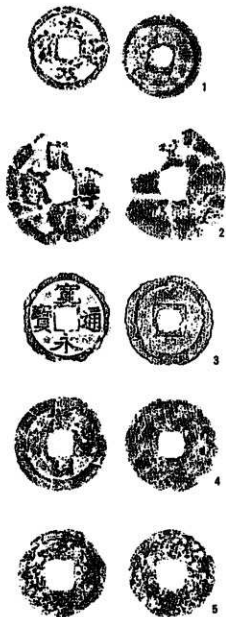
調査区北西端のI19区に位置する長径80cm、短径70cm、深さ約50cmを測る楕円形土坑である。埋土は暗茶褐色土で、焼土とともに瓦片と醜が多くみられる。このSK015は、掘立柱建物(SB018)の北西端柱穴を切っており、掘立柱建物(SB018)廃絶後に火災処理土坑として掘削されたものであることがわかる。

SK015出土遺物 (第43～45圖)

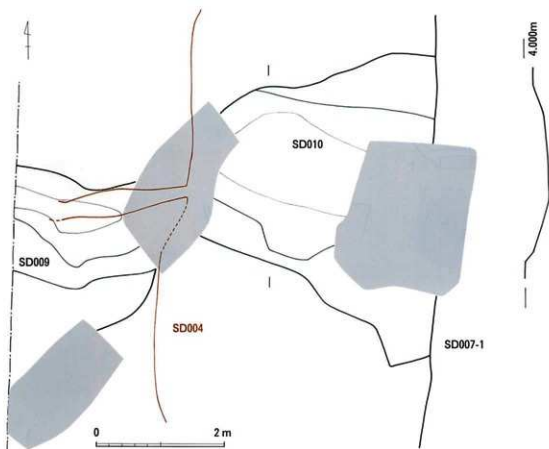
第43図1・2は中国景德鎮窯系青花碗である。1は腰部で屈曲し緩やかに外反しながら上方に延びる。3・4は中国景德鎮窯系青花皿であり、4は小野分類皿E群に属するものである。3・4とも2次焼成を著しく受けている。5～7・9・10は朝鮮王朝産陶器碗である。8は朝鮮王朝産陶器舟徳利である。11は備前系統締締陶器甕であり、口縁部の特徴から乗岡編年中世6期に属するものであろう。12・14～16は京都系土師器皿であり、埴地編年1～2期に属する特徴をもつ。13は京都系土師器環であり、埴地編年3期に属するものであろう。17は備前系統締締陶器搦鉢であるが、平鉢に近い形態をもつ。18は陶器鉢である。内外面に透明釉がかり、胎土が褐色を呈するため、褐色の発色をもつ。器壁は薄く、やや厚い口縁部は鋭くS字状に外反させている。口縁上端には重焼き痕が残る。朝鮮王朝産か。19は瓦質土器火鉢である。外面口縁付近に2条の細い突線を巡らし、突線間に双頭竜手流雲文のスタンプを巡らす。

第44図1・2は平瓦である。1の凹面はコビキ痕のあとをナデ消している。3は軒丸瓦であり、瓦頭文様は中央に反時計回りの巴文とその周囲に連珠帯を配する。4は丸瓦であり、凹面にコビキ痕がのこる。

第45図1～3はいずれも丸瓦であり、いずれも凹面に吊り紐痕がみられる。1には玉縁部に釘穴がみられる。



第34図 第18次西調査区SD008-3出土遺物実測図③ (1/1)



第35図 第18次西調査区SD009・SD010実測図 (1/60)

3. 井戸

SE016 (第4図)

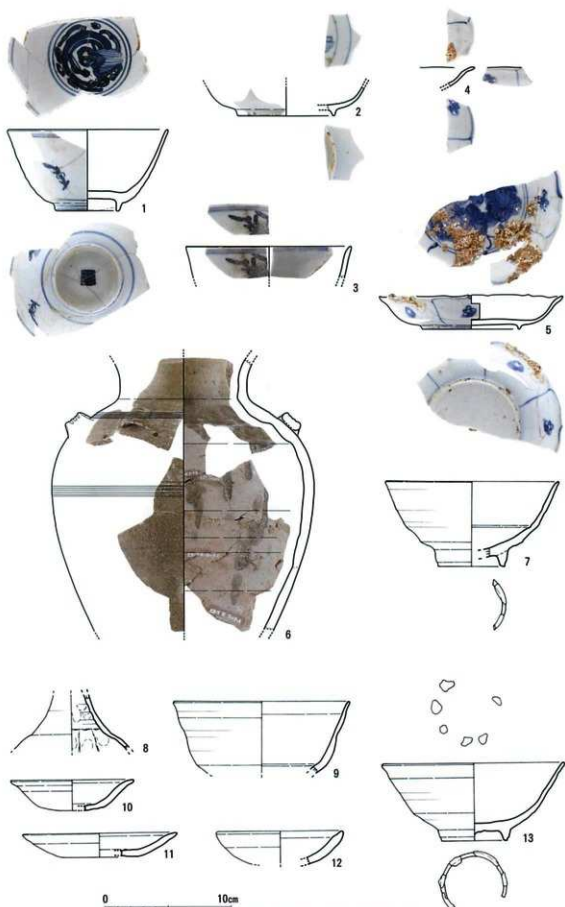
調査区中央西側の1・J-13・14・15・16・17区に南北方向に走る溝状遺構であるSD003、SD004の重複部に営まれた井戸である。SD003、SD004調査時にSE016の存在を認識しておらず、掘り下げにしたい井戸の存在が確認できた。そのため、明確な遺構プランは確認できなかったものの、把握できた部分から径3.8m程度の円形掘形をもつことが明らかとなった。幸いにも調査区中央トレンチでSE016およびSD003、SD004の切り合い関係が確認でき、SD003埋没後にSE016が営なまれ、SE016埋没後にSD004が掘削されたことが確認できた。SE016は掘形床面が砂層まで達し、井筒が存在していたものと考えられる径60cm、深さ40cm程度の円形掘形が確認できた。これを取り囲むように一辺90cm、深さ20cmの方形掘形が確認できたため、木製井戸枠が井筒上に存在した可能性が考えられる。しかし、井戸枠・井筒とも木製品の痕跡はいっさい確認できなかった。出土物はほとんど確認できなかった。

4. 掘立柱建物跡

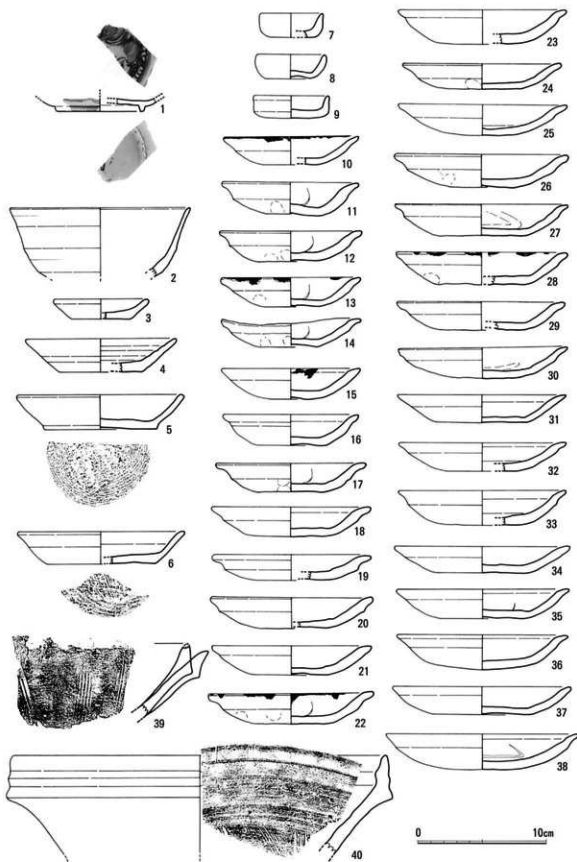
SB017 (第46図)

調査区北西端のI14区・J14区に検出した東西棟掘立柱建物跡である。調査区内には東西(桁行)4間(心・心間総長390cm)が確認され

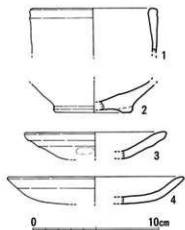
第36図 第18次西調査区SD009
出土遺物実測図① (1/1)



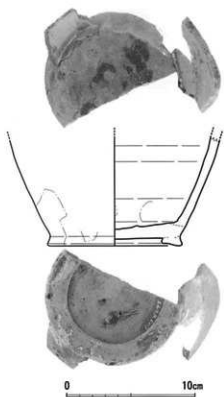
第37図 第18次西調査区SD009出土遺物実測図②(1/3)



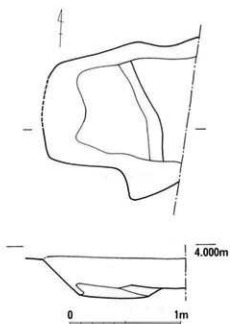
第38图 第18次西調査区SD010出土遺物実測図 (1/3)



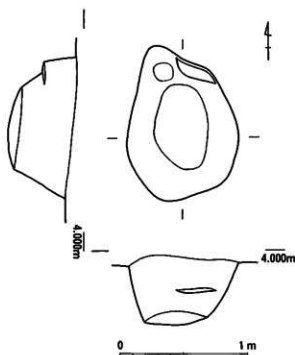
第39図 第18次西調査区SD011
出土遺物実測図 (1/3)



第40図 第18次西調査区SD013出土遺物実測図 (1/3)



第41図 第18次西調査区SK014実測図 (1/30)



第42図 第18次西調査区SK015実測図(1/30)

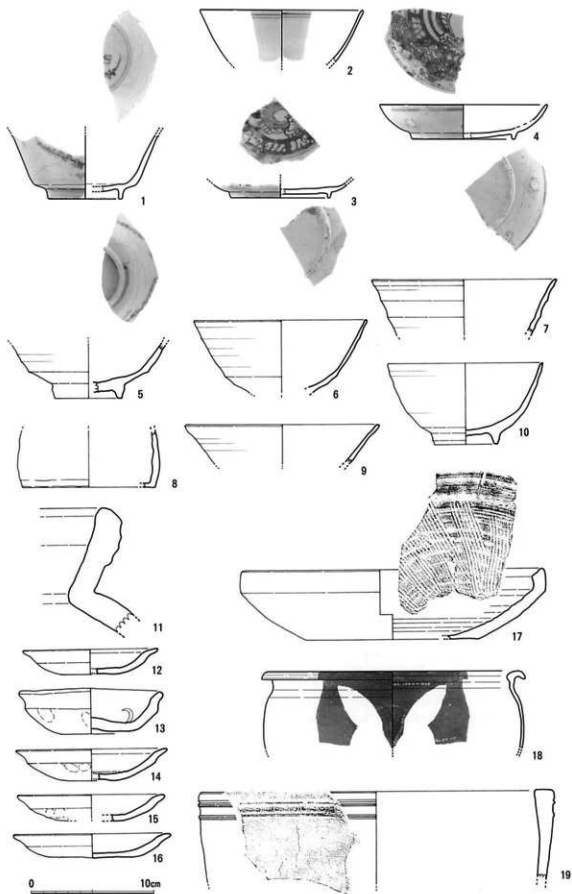
ており、各心心間は90～95cmを測る。この遺構が調査区西端に位置するため、西限はさらに調査区外に延びる可能性がある。南北(梁間)2間(200cm、北から100cm+100cm)である。すべての柱穴には径6～14cmの柱痕が確認できた。この掘立柱建物跡は平面プランが長方形になるように、周囲を最深約45cm程度掘りくぼめて設定しており、柱穴群に沿って、外側が1段高い。南北3.2m、東西4.6m以上の方形掘り沈めが確認できた。この窪地状地形に大量の焼けた川原石・瓦片を含む焼土が堆積しており、当時、周辺において火災後の片づけの際にSB017廃絶後のこの窪地に廃棄されたものと考えられる。

SB017出土遺物(第47～49図)

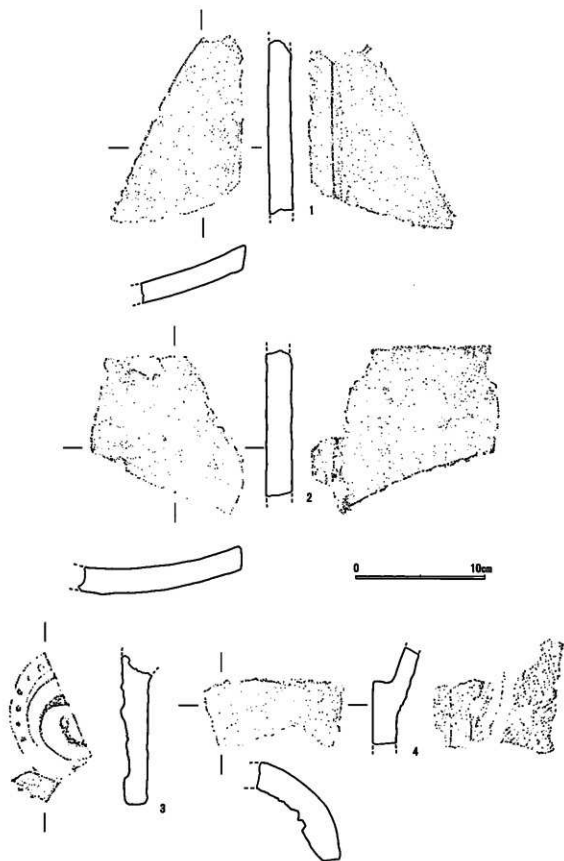
第47図1～8はSB017下層から、また、9はP1、10はP5、11はP15、12はP14、13はP13からそれぞれ出土した。1は中国産白磁碗であり、S字状に外反する口縁をもつ。乳白色の釉薬が厚くみられ、見込み部に砂目の重焼き痕が確認できる。2は中国景德鎮窯系青花碗であり、外面に菊文様がみえる。3・9は土師質土器皿であり、内面にはロクロ痕が残る。4は土師質土器環である。5～8、10～13は京都系土師器皿であり、塩地編年1期に属する特徴をもつ。

第48図はSB017が廃絶後の窪地状地形に廃棄された遺物である。1～5は中国景德鎮窯系青花碗である。5は小野分類E群におさまる椀頭心タイプの形態をもち、見込みに亂文、高台内に「上品□□」の字款がみえる。6は中国産白磁碗の底部片であり、内面見込み部に蛇の目状に釉剥ぎしている。高台に沿って円形に打ち欠いて成形し、再利用している。7は中国景德鎮窯系青花碗であり、腰部で折り曲げ上方に延びる小野分類D群におさまる。8は中国景德鎮窯系青花皿である。破片であるが円形に加工しているようにもみえる。9は中国龍泉窯系青磁壺である。10は黒軸瓶である。丸い胴部にまっすぐ上方に延びる首をもつ形態をもち、内外面に黒軸が施されている。中国産であろうか。11・12は朝鮮王朝産陶器碗であり、見込み部および高台皿付けに砂目痕がのこる。13～15は土師質土器皿である。16～23は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属するものであろう。

第49図はSB017が廃絶後の窪地状地形に廃棄された遺物である。1～3は備前系焼締陶器播鉢で

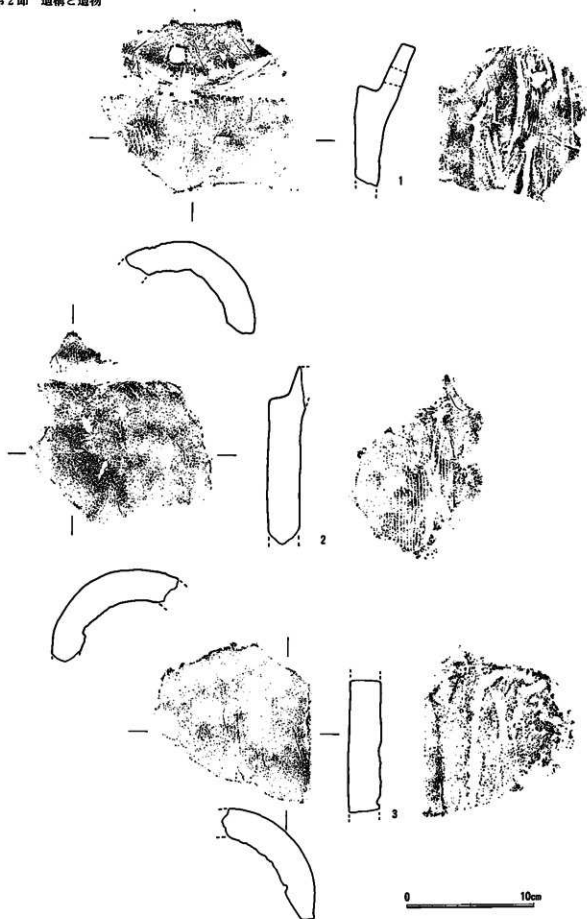


第43図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図① (1/3)



第44図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図② (1/3)

第2節 遺構と遺物

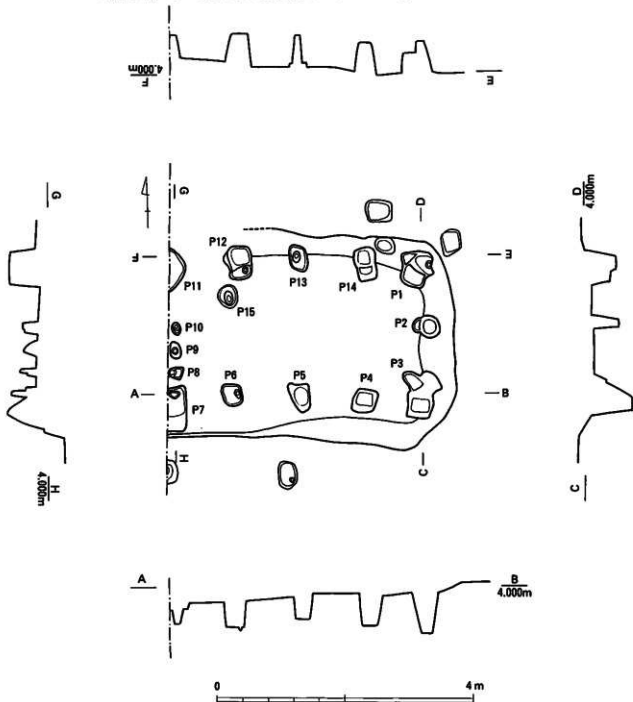


第45図 第18次西調査区SK015出土遺物実測図③ (1/3)

ある。1・3は放射状スリメに加えて、ナナメ方向のスリメが付加されており、乗岡編年近世1c期に属するものである。4は瓦質土器鉢である。5～7は軒平瓦であり、唐草文がみえる。8は丸瓦であり、凹面にナナメ緩弧状の糸切り痕（コビキA）がみえる。9は平瓦である。

SB018（第50図）

調査区北西端のI13区・I14区に検出した東西棟隔立柱建物跡である。調査区内には東西（桁行）2間（心間総長390cm、西から190cm+200cm）が確認されており、この遺構が調査区北西端に位置するため、西限はさらに調査区外に延びる可能性がある。南北（梁間）1間（530cm）であるが、梁間間には現在の撥乱やSD009、SD010の遺構が存在し、削平されていることも考えられるが、その可能性は低いものと思える。梁間方向はN-4°-Eである。



第46図 第18次西調査区SB017実測図 (1/60)

SB018出土遺物（第51図）

第51図1・2・4・5・8はP1、3・6・7・9・10・13はP2、11・14はP4、12はP5から出土した。1は丸い胴部に短く外反する口縁がつく中国製白磁壺である。2次焼成を受けており、変質している。2は朝鮮王朝産陶器碗である。3は土師質土器皿である。4～11は京都系土師器皿であり、塩地編年1～2期に属する資料である。12は土師質土器皿である。径が18cmを測り、大振りであり、口縁部を上方につまみ上げる特徴的な形態をもつ。13は備前系統締締陶器甃の底部片である。14は土鍾である。

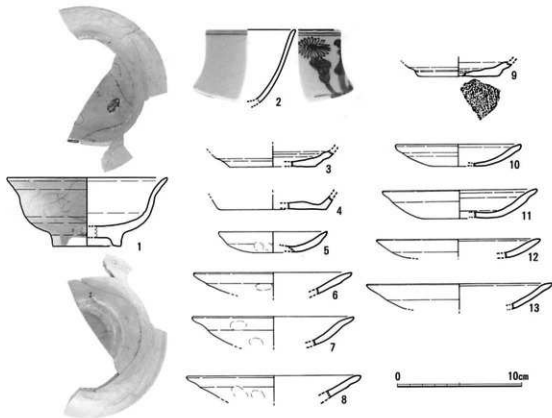
5. その他の遺構

SF019（第2・3図）

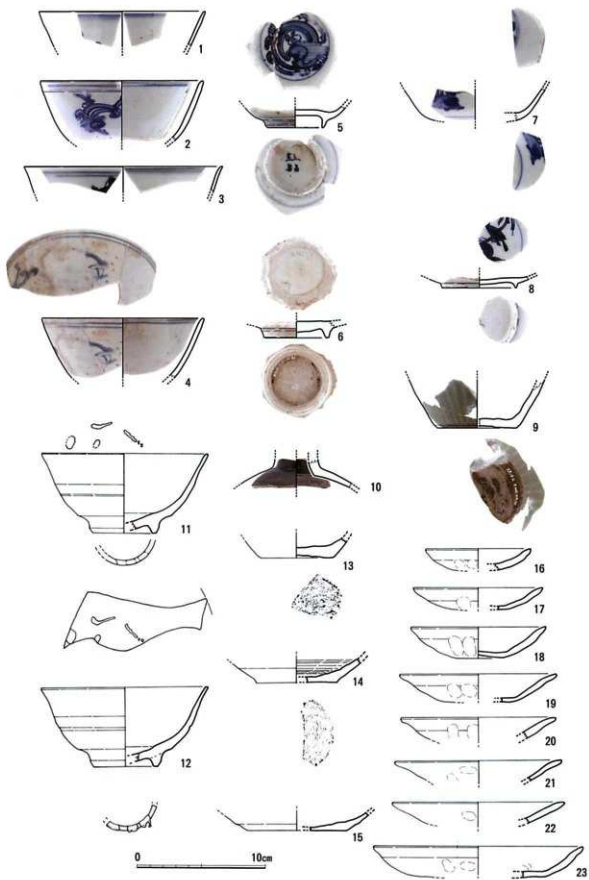
調査区中央に南北に連なり、嵩上げされている道路遺構である。地山上の最下層に灰褐色シルトが堆積し、この上面に細かく砕いた土器片（第52図）が敷かれており、道路敷設時の整地作業であると判断した。厚さ5～10cmの堆積土の嵩上げが施され、道路整地層の総厚30cm程度を測る。堆積土は砂層とひじょうに硬質な薄い粘土層が重なり合う特徴をもち、最上層は小さな炭・焼土を含む整地層であるため、火災処理土を道路整地に利用して最終段階の道路面としたことがわかる。

SF019出土遺物（第52～56図）

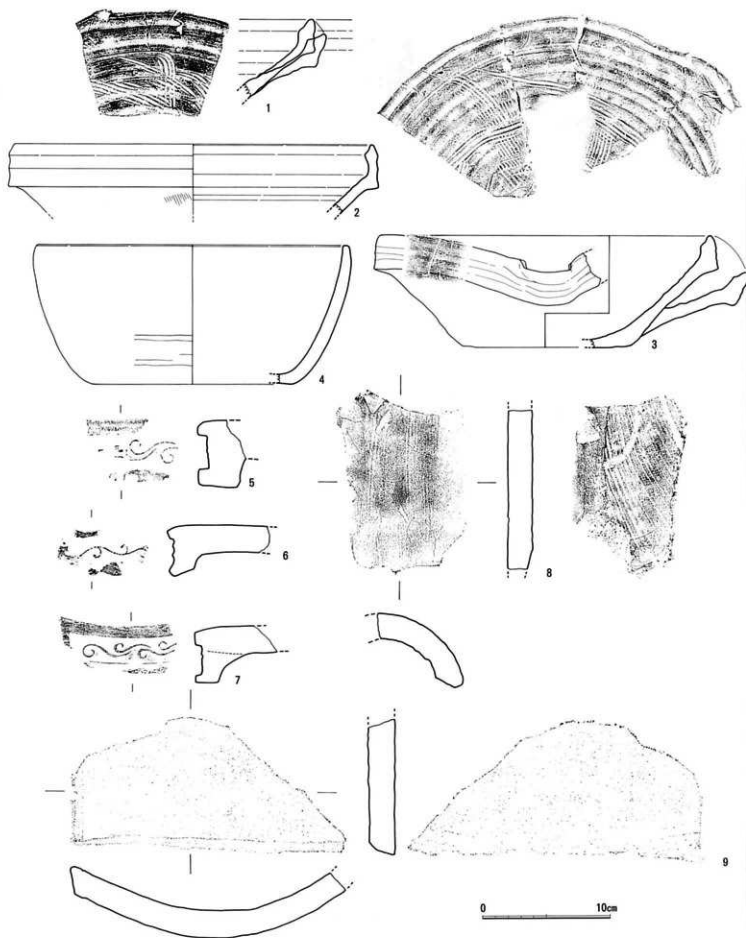
第52図はSF019最下層(44層)から検出された遺物である。1は中国景德鎮窯系青花瓶であり、緩やかに外反する頸部に直立する口縁がつく。2は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類C群におさまる碁碁底タイプの形態をもつ。2次焼成を受けているため、胎調も軸調も変質している。3は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる餛飩心タイプの形態をもつ。高台内には字款がみえる。4は中国龍泉窯系青磁皿である。5中国同安窯系青磁皿であり、見込みにには梅描文がみえる。6～14は土師質土器皿である。15は土師質土器香炉である。逆台形の脚を付け、調整は丁車



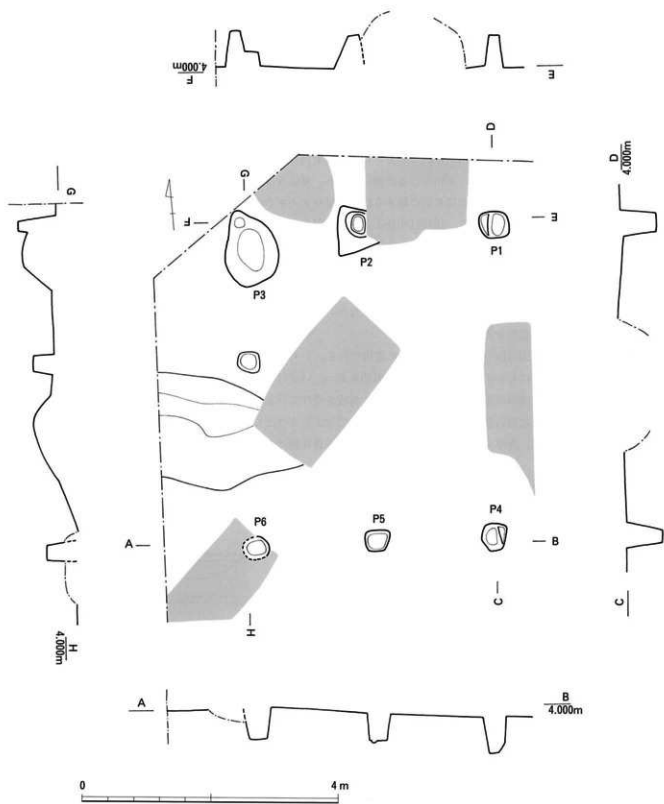
第47図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図①(1/3)



第48図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図② (1/3)



第49図 第18次西調査区SB017出土遺物実測図③ (1/3)

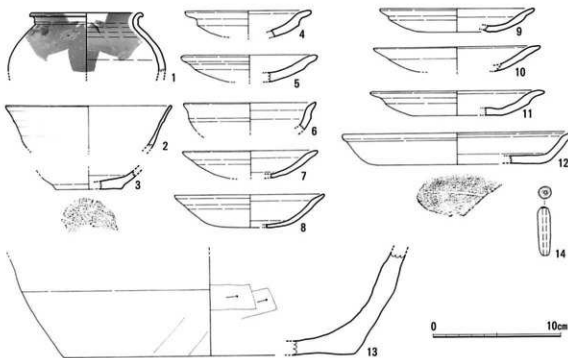


第50図 第18次西調査区SB018実測図 (1/60)

に磨いている。16～34は京都系土師器皿である。埴地編年1～2期に属する資料である。35は中国龍泉窯系青磁盤である。口縁部をくの字状に折り曲げ、口縁端部を上方に突出させる形態をもつ。36は中国漳州窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗である。外面腰部に蓮弁文を廻し、見込み部には草書体の「福」の字を描いている。

第53図1～24は33層から、また、25～31は37・39層から出土した遺物である。1は白磁皿であり、乳白色の厚い釉がかけられている。2は中国漳州窯系青花皿であり、見込み部は露胎のままである。2次焼成をうけ胎調・軸調とも変質している。3は白磁皿であり、つば皿の口唇を稜花状に仕上げている。4は青白磁香炉である。5は備前系統締締陶器壺であり、肩部に輪描文を描く。6は備前系統締締陶器搦鉢であり、放射状スリ目にナナメスリ目を付加している。7は土師質土器環である。8は土師質土器皿であり、内面に強い螺旋状のロクロ痕が残る。9～11は京都系土師器皿であり、9は灯明皿として再利用されている。12は銅製金具である。鞘尻金具であろうか。13は高台から口唇部に向かい、逆ハの字状のびる白磁皿である。見込みは露胎のままであり、乳白色の釉薬をかけている。14は小野分類皿B群に属する口縁端反りタイプの中国漳州窯系青花皿である。15から20は京都系土師器皿であり、15は灯明皿として再利用されている。21は土師質土器皿であり、外面に強い螺旋状のロクロ痕が残る。22は用途不明の銅製品である。断面八角形の棒状製品であり、太い端に2本の刻目をもつ。23は瓦質土器鉢である。24は備前系統締締陶器搦鉢である。25は中国漳州窯系青花碗であり、見込みは露胎のままである。見込みの軸境には重ね焼き痕が残る。26は龍泉窯系青磁皿である。腰で折れて口縁に端反りしながら延び、内外面に線彫り模様が見られる。27～31は京都系土師器皿である。

第54図はSF019から検出された遺物である。1・2・7は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる優頭心タイプの形態をもつ。いずれも見込みに花文、高台内に字款がみえる。3は中国漳州窯系青花碗であるが、2次焼成を受けているため、変質が著しい。4は砥石である方柱状粘板岩質石製品の中央に切り目を入れて加工しようとした未製品である。5は軒平瓦であり、瓦当文様に唐草文がみえる。6は中国漳州窯系青花碗であり、見込みを蛇の目状に軸割きしている。



第51図 第18次西調査区SB018出土遺物実測図 (1/3)

8は中国景德鎮窯系青花皿である。9は型作りの白磁小杯である。外面に菊模様をまわし、内面は露胎である。10は中国龍泉窯系盤であり、受け口状の口縁をもつ。11は中国漳州窯系青花碗である。12は褐釉火入れであろうか。13は備前系統焼締陶器小壺であり、肩部に1条の沈線を巡らす。14は備前系統焼締陶器平鉢である。

第55図は用途不明のボタン状ガラス製品である。うすく緑がかかった色調を呈し、表面は風化のためか、白色を呈する。

第56図1・2は銅銭であるが、銭種不明である。

6. ビット

第57図は側面に菊状の条溝をめぐらす銅製権である。上端の吊り紐穴は小さな円孔を呈する。重量は50.9gをはかる。

第58図はSP020から出土した「寛永通寶」（1636年初鋳）であり、古寛永に属する。

第59図はビット出土の遺物である。1は中国景德鎮窯系青花碗であり、3は小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。2は中国漳州窯系青花碗であり、見込みおよび高台周辺を露胎にしている。4は中国景德鎮窯系青花小杯である。腰で折れた形態をもち、見込みに毛彫りの花文を描き、高台内に「宣徳年製」の字款がみえる。6は白磁碗であるが、白濁した厚い釉薬をかけている。7は白磁皿であり、口縁端反りの形態をもつ。9は土師質土器坏である。10～15は京都系土師器皿である。16は備前系統焼締陶器鉢である。

7. 包含層

調査区周辺は、かつて水田地帯が広がっていたが、昭和30～40年代に約40～50cm盛土し、宅地として利用されていた。そのため、盛土下には水田耕作土・水田味土・酸化鉄沈着層・マンガン層などの旧水田に伴う土層が展開していた。旧水田に伴う土層下はほぼ全面に広がる6～9層は5～20cmの厚さで堆積しており、中世の遺構群はこの層を取り除き、はじめて確認できた。

特に注目される層はJ・K-13・14・15地区において確認できた15層である。15層は炭・焼土等が大量に含まれる火災時の堆積層であり、出土遺物も被熱したものが非常に多く確認できる。

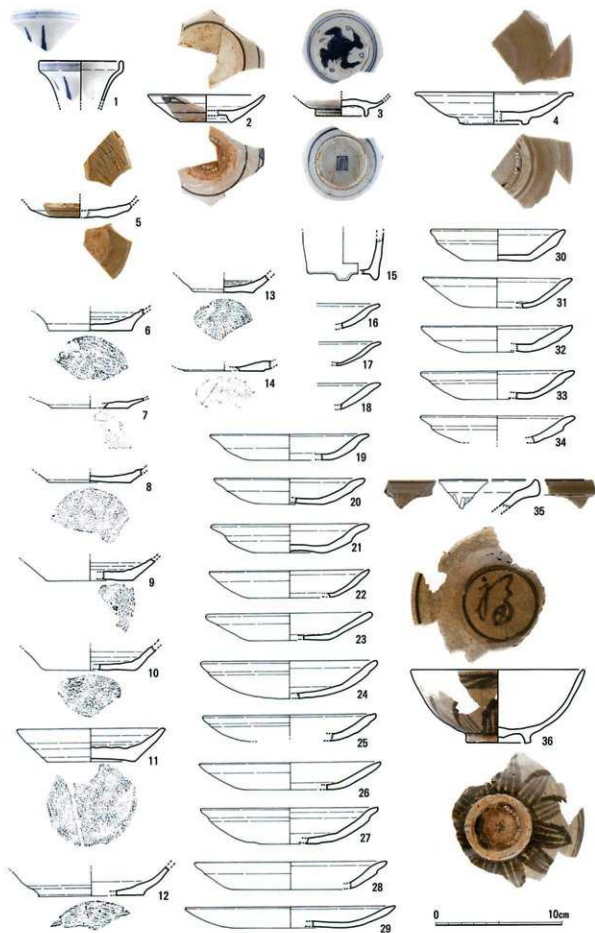
西調査区出土遺物（第60～69図）

15層出土遺物（第60～65図）

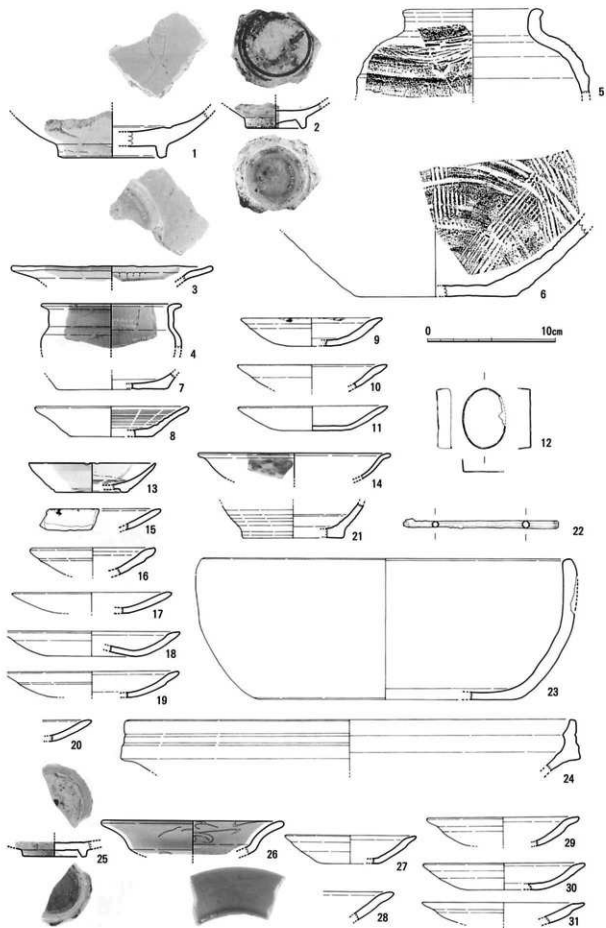
第60図は中国景德鎮窯系青花碗である。1～4・6・9は餽頭心碗のタイプであり、小野分類E群におさまる。1～5・9には高台内に字款がみえ、1～4・6・9は見込みに龍文がみえる。

第61図1～5・7は中国景德鎮窯系青花碗である。小野分類E群におさまる餽頭心碗のタイプであり、1～5には見込みに花文がみえる。8～14は中国景德鎮窯系青花皿であり、8～10は小野分類E群におさまる。15は中国産磁器五彩である。端反り形態の口唇部を玉縁状にしている。内外面に赤・緑の彩色がみられる。16は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類C群におさまる蕃菊底タイプの形態をもつ。見込み部は露胎のままである。

第62図1は白磁碗である。口縁を端反りするタイプであり、外面に横方向のケズリの単位が残る。透明釉がかかるが、磁胎が灰白色を呈するため、同様の発色をもつ。2は中国龍泉窯系青磁碗である。3は中国龍泉窯系青磁香炉である。口縁を内側に肥厚させる特徴をもつ。4は中国龍泉窯系青磁盤である。5は青磁の瓶の類につく注口部であろうか。6は白磁壺である。球形の形態をもち、透明釉がかかるが、磁胎が灰白色を呈するため、同様の発色をもつ。7は白磁壺である。球形の形態に短く外反する口縁部をもつ。2次焼成を受けており、釉調・胎調とも著しく変質している。8は朝鮮王朝産陶器鉢である。薄い器壁と上げ底状の形態が特徴である。底面を含め、内外面に施釉され、陶胎の色から褐色に発色する。9～12・17は朝鮮王朝産陶器碗である。13～15は唐津産陶器皿である。13は釉薬が緑色の発色をもち、15は肌色の色調を呈し、見込みに胎土目の重む焼き痕が



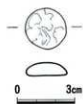
第52図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図①(1/3)



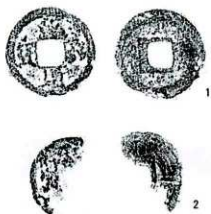
第53图 第18次西調査区SF019出土遺物実測図② (1/3)



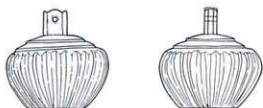
第54図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図③ (1/3)



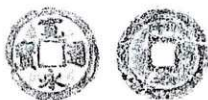
第55図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図④(1/2)



第56図 第18次西調査区SF019出土遺物実測図⑤ (1/1)



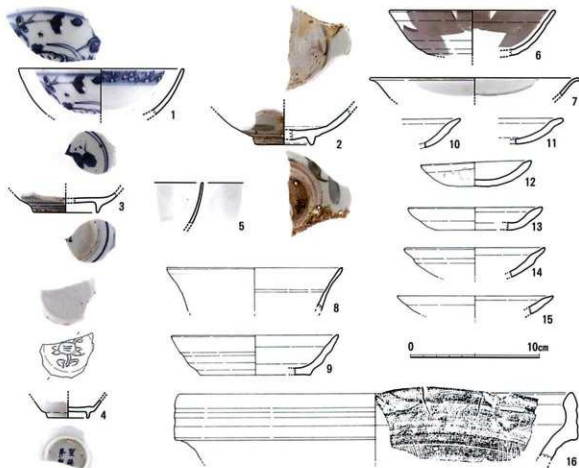
第57図 第18次西調査区SP020出土遺物実測図① (1/1)



第58図 第18次西調査区SP020出土遺物実測図② (1/1)

残る。14・16は唐津産陶器碗であり、いずれも暗緑色の色調を呈する。18・19は朝鮮王朝産陶器舟徳利の口縁部片である。

第63図1は瀬戸美濃系陶器折縁皿である。低平な器形をもち、大窯4期末（16世紀末～17世紀初）の時期に比定されよう。2は土師質土器皿であるが、内面につよいクロロ痕を残す。3は備前系焼締陶器茶入れであろうか。体部に縦方向に2本の不規則な線刻がみられる。5～10・12・13は京都系土師器皿である。11は京都系土師器小皿である。14は備前系焼締陶器である。床面に繡摩文様が著しく確認できる。建水あるいは水差しの類であろうか。15は京都系土師器小皿を、また、16は土師質土器小皿をそれぞれ利用した耳皿である。17は瓦質土器風がである。18は須恵器掘口縁であるが、産地・時期等は明らかでない。19は丸瓦であり、内面に櫛目がみられる。20・21は硯である。22は土師器片を円盤状に再加工したものである。23は土鐘である。24は銅製品である。キセルの吸



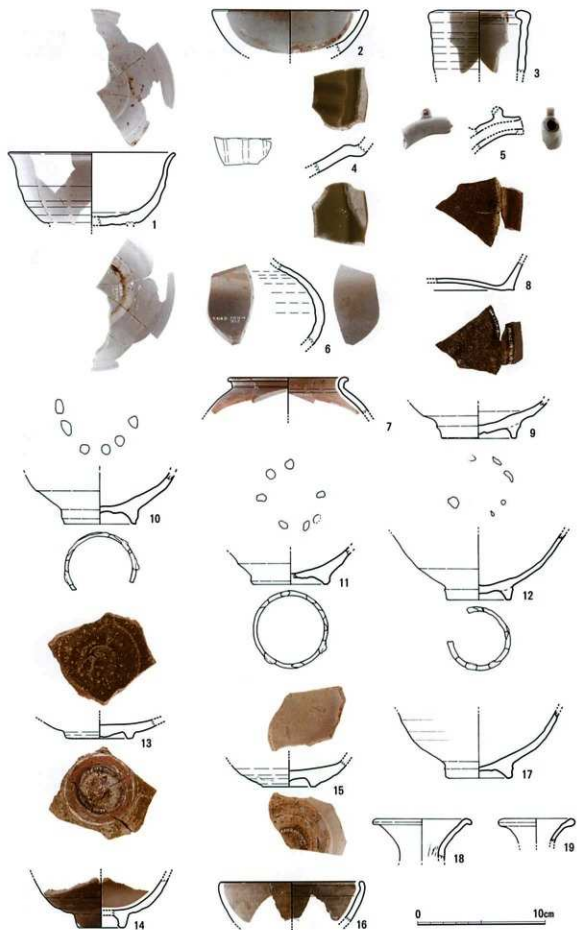
第59図 第18次西調査区ビット出土遺物実測図 (1/3)



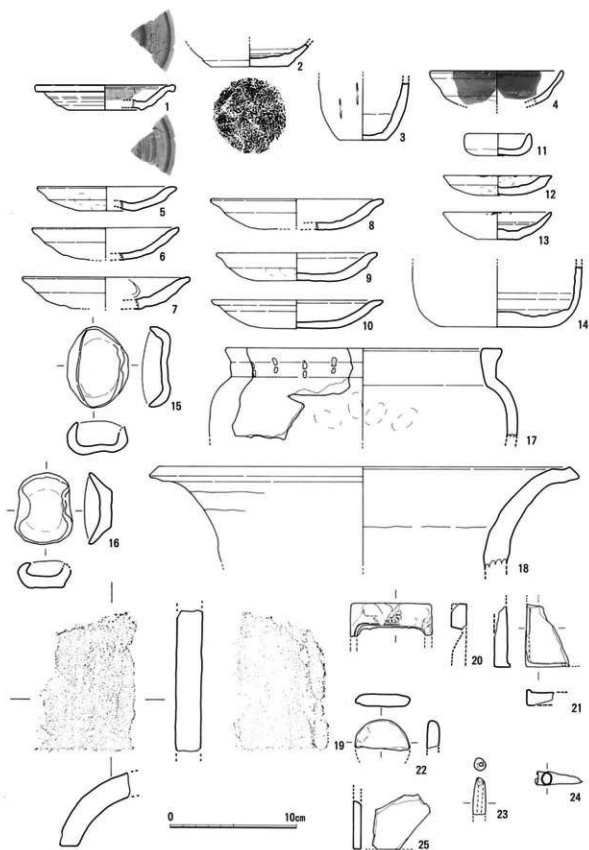
第60図 第18次西調査区15層出土遺物実測図① (1/3)



第61図 第18次西調査区15層出土遺物実測図② (1/3)



第62図 第18次西調査区15層出土遺物実測図③ (1/3)



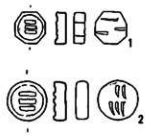
第63図 第18次西調査区15層出土遺物実測図④ (1/3)

い口であろうか。25は板ガラスの破片である。透明緑色を帯び、細かな気泡が含まれる。

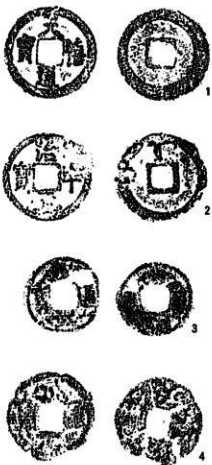
第64図はボタン形をした分銅である。1は平面形八角形の周縁を円形に縁取り、その中に「三」の字に似た意匠を陽刻する。裏面には三本の楔状の陰刻を彫り込んでいる。2は平面形円形の周縁を円形に縁取り、その中に「三」の字に似た意匠を陽刻する。裏面には5本の楔状の陰刻を彫り込んでいる。

第65図は15層山土の銭貨である。1は「天祐通寶」(1017年初鋳)である。2は「治平元寶」(1064年初鋳)である。3・4は銭種不明である。

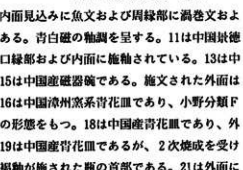
第66図1は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類C群におさまる蓮子碗の形態をもつ。胴部外面には芭蕉文を描き、高台とは圏線で界する。2は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる餛飩心碗の形態をもつ。見込み部には龍文を描き、高台内には「長春□世」の字款がみえる。3は中国景德鎮窯系青花皿であり、高台内には「□□年□」の字款がみえる。4は中国景德鎮窯系青花碗であり、小野分類E群におさまる餛飩心碗の形態をもつ。見込み部には花文を描き、高台内には字款がみえる。5は中国景德鎮窯系青花皿である。胴部外面には細い筋が施されており、高台外面には唐草状の文様が施されている。6は中国漳州窯系青花碗である。2次焼成を受けており、磁胎・釉調とも変質している。外面高台部および内面見込み部は露胎のままであり、それぞれの軸端に圏線を回している。7は中国景德鎮窯系青花皿であり、小野分類E群におさまる。8は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類E群におさまる。9は中国景德鎮窯系青花皿であり、内面見込みに魚文および周縁部に渦卷文および波文を配する。10は荊苳底タイプの中国産磁器皿である。青白磁の釉調を呈する。11は中国景德鎮窯系青花小杯である。12は中国産白磁紅皿であり、口縁部および内面に施軸されている。13は中国漳州窯系青花皿である。14は中国産磁器皿である。15は中国産磁器碗である。施文された外面は青磁であり、内面は白磁の口縁に圏線を廻している。16は中国漳州窯系青花皿であり、小野分類F群におさまる。17は中国産白磁皿であり、口縁端反りの形態をもつ。18は中国産青花皿であり、外面に濃青緑色の釉が施され、内面に青花がみられる。19は中国産青花皿であるが、2次焼成を受けており、磁胎・釉調とも変質している。20は内外面に褐釉が施された瓶の首部である。21は外面に

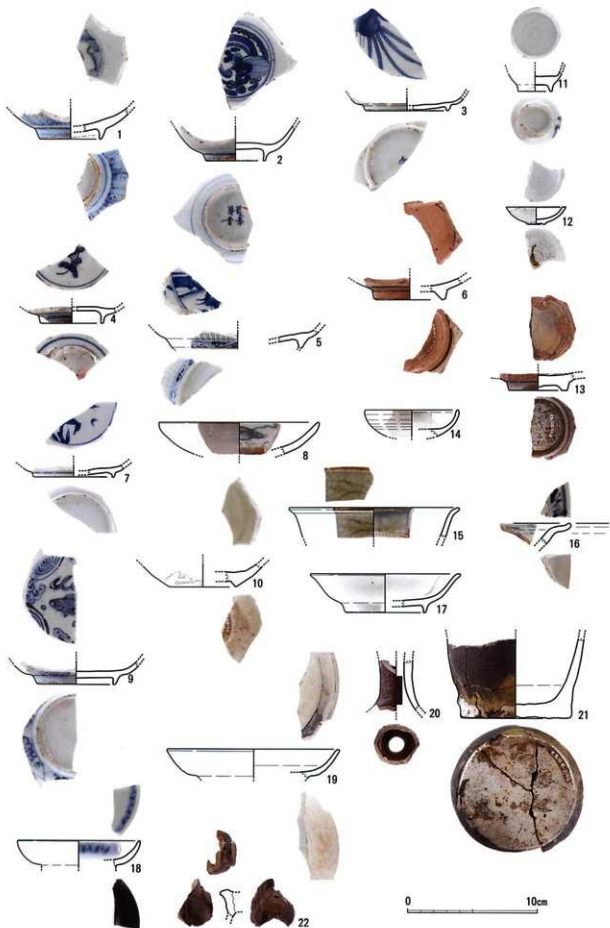


第64図 第18次西調査区15層出土遺物実測図⑤ (1/1)

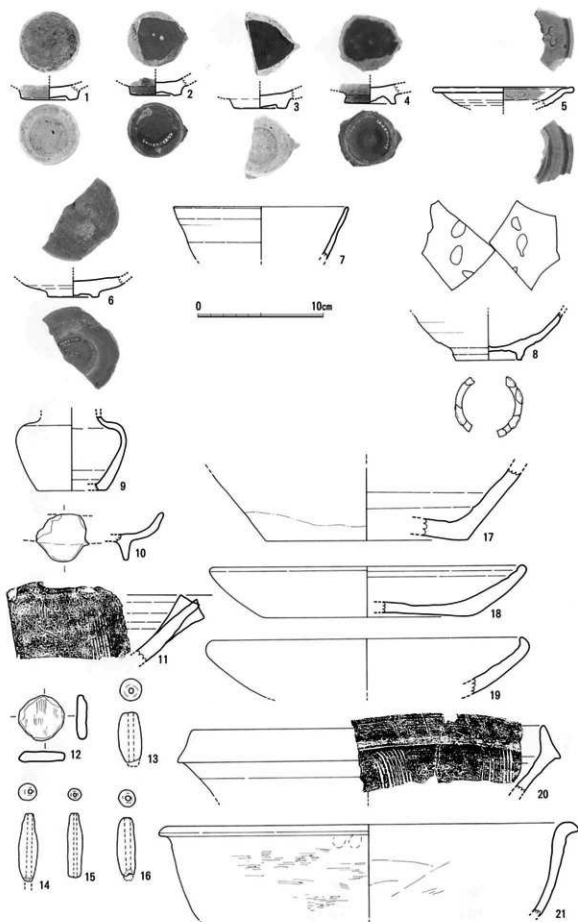


第65図 第18次西調査区15層出土遺物実測図⑥ (1/1)





第66図 第18次西調査区出土遺物実測図① (1/3)

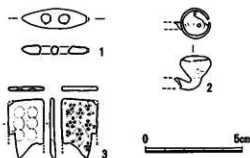


第67図 第18次西調査区出土遺物実測図② (1/3)

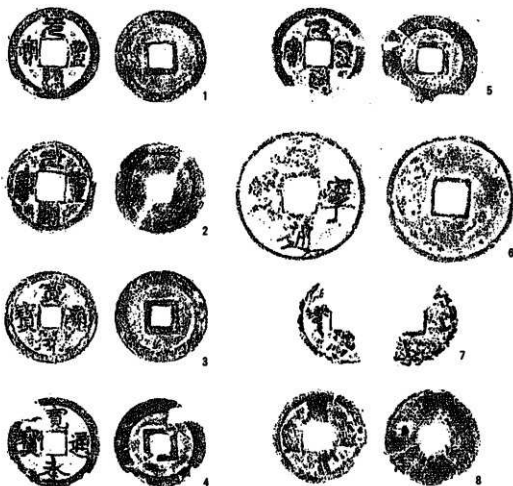
褐釉が施された長胴瓶の底部片である。22は外面に褐釉が施された人形であろうか。20・21・22とも中国南方産か。

第67図1～3は瀬戸美濃産陶器天目碗の底部片であり、円盤状に再加工したものである。4・6は唐津産陶器碗であり、4は底部片を円盤状に再加工したものである。5は瀬戸美濃系陶器折縁皿であり、器高が低平であり、大窩4期末（16世紀末～17世紀初）のものである。内面には印花技法による花文がみられる。

7・8は朝鮮王朝産陶器碗であり、8には内面見込みおよび高台置付けに砂目の重焼き痕がみえる。9は備前系統埴輪陶器小壺である。10は土師質土器皿であるが、U字形の脚を付け、在地に稀有な類例である。11は備前系統埴輪陶器搦鉢である。口端下角がわずかに突出し、乗岡編年中世3a期（14世紀後半）に属するものであろう。12は土師質土器片を円盤状に加工したものであり、用途は明らかでない。13～16は土師質の土鍾である。17は黄軸の陶器壺であり、外面底部付近まで施軸されている。中国南方産であろうか。18・19は備前系統埴輪陶器平鉢である。20は備前系統埴輪陶器



第68図 第18次西調査区出土遺物実測図③ (1/2)



第69図 第18次西調査区出土遺物実測図④ (1/1)

鉢であり、口縁を上方に突出させており、乗岡編年中世4a期(15世紀第2四半期)に属するものであろう。21は瓦質土器鍋であり、外面に細かいケズリを横方向に施している。

第68図1は銅製靴である。復元長縦4.5cm、横1cm、厚さ0.4cmを測り、径5mmの円形孔が2カ所に穿たれている。2は銅製キセル雁首の火皿部の破片である。3は骨を加工した骨牌である。片面に細い毛彫りの菱形模様の中に花状の模様を彫刻している。また、もう一面には円形の陰刻を6カ所彫り沈めている。

第69図は18次西調査区出土の銭貨である。1・2・5は「元豊通寶」(1078年初鋳)である。3・4は「寛永通寶」(1636年初鋳)であり、古寛永に属する。6は「崇寧通寶」(1102年初鋳)で、径3.3cmを測る当十銭である。7・8は銭種不明である。

第3節 小 結

1. 第18次西調査区における遺構変遷

本調査区は「府内古図」に照らし合わせれば、「大友御屋敷」東隅およびその東側に走る第2南北街路、また、第2南北街路に接する「桜町」に比定されよう。それでは、各時期の遺構群の変遷を追ってみよう。

本調査区では、14世紀代に遺構群が形成され始める。まず、遺構の西百部が他の溝により切られているためその全貌がつかめないが、幅2m前後と思われる溝(SD001)が南北に連なる。これは、後に第2南北街路(SF019)が敷設される位置の西端にあたるため、何らかの空間を画する機能を有していた可能性が高い。また、調査区東南端にも第28次調査区に延びる溝(SD002)が存在するため、これについても第2南北街路敷設前の空間を限る機能を有していたものかもしれない。本文中でふれたが、第2南北街路(SF019)が保存を検討したため、完備しておらず、調査区大半の14世紀代の遺構は明らかでない。溝状遺構のほかには不定形の土坑(SK014)が1基確認できているのみである。

14世紀後半～15世紀前半には溝(SD001)が埋没したあとに、溝(SD003)が溝(SD001)のやや西側に営まれている。溝(SD003)は調査区南側に延びるが、北側が溝(SD004)に切られているため、溝(SD004)の位置まで延びるのか、調査区中央で途切れるのか判断しにくい。

溝(SD004)埋没後には、15世紀～16世紀前半にこの位置に井戸(SE016)が営まれており、井戸(SE016)埋没後に16世紀前半～中葉に溝(SD004)が掘削されている。この溝(SD004)は井戸(SE016)の位置より北側に延び、第12次調査区に北限が確認されており、総長35m程度であったことがわかる。

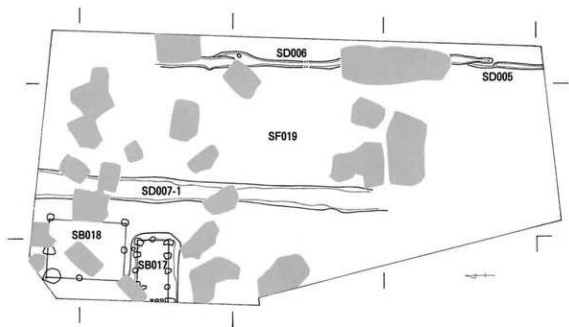
溝(SD004)埋没後の16世紀中葉には掘立柱建物跡(SB017・SB018)が営まれる。特に掘立柱建物跡(SB017)は床面を掘り込んだ倉庫であり、大友31次調査区をはじめ竹田市久住町上屋敷遺跡¹¹⁾・竹田市久住町中原遺跡¹²⁾においても確認されている。しかし16世紀中葉の遺構はこの掘立柱建物跡(SB017・SB018)が営まれる時期と重なるか、やや遅れて第2南北街路(SF019)が敷設されている。最下層には京都系土師器皿・土師質土器皿の細片等を使用して整地した状況が確認できた。第2南北街路(SF019)に伴う道路側溝は道路整地面を除去していくにしがたい、古い段階のものが検出でき、調査区東端において初期の溝としてSD005-1・2、SD006が確認できた。以後、道路面が整地嵩上げされていくにしがたい、道路側溝は造り直されている。道路東側側溝に限れば、柵列状のピットのならばがSD005-1・2、SD006を覆う道路整地面上で確認でき、その他の

註(1) 大分県久住町教育委員会『小路遺跡・上原敷遺跡』2000年

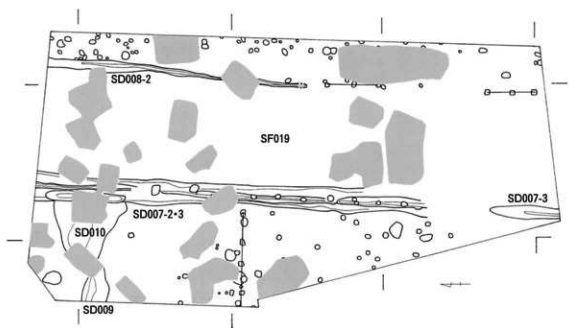
(2) 久住町教育委員会・大分県教育委員会『小城原遺跡・中原遺跡』2002年



第70図 第18次西調査区遺構分布変遷図① (1/250)

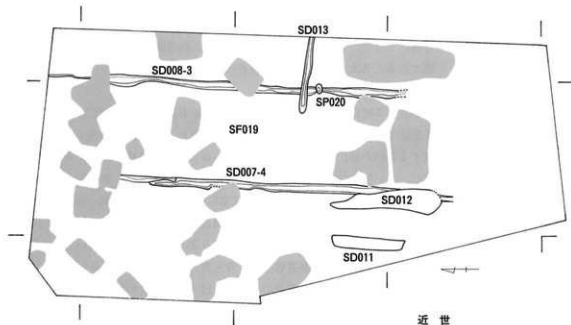


16世紀中葉～後葉



16世紀後葉～末葉

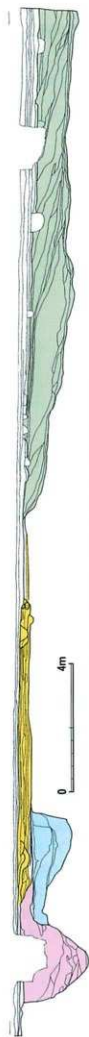
第71図 第18次西調査区遺構分布変遷図② (1/250)



第72図 第18次西調査区遺構分布変遷図③ (1/250)

溝状遺構 (SD008-1・2・3) とともに道路面が嵩上げされるたびに道路中央寄りに近づき、道幅を狭めていることがわかる。これは第2南北街路 (SF019) の西側側溝においても同様であり、SD007は4段階の掘り直しが確認できたが、規模を小さくしながら、道路中央寄りに近づいていく様相が確認できる。側溝を含んだ幅が、16世紀中葉当初、10m程度であったものが、16世紀末葉には8mに満たない道幅に狭められていることがわかる。これらは16世紀後葉～末葉の事象であり、同時代に第2南北街路 (SF019) の両側には数多くのピット群が営まれているため、この時期に一斉に町屋整備が行われたことがわかる。ピット群の中には町屋の何らかの空間を画するものと考えられる柵列状のピットの列が第2南北街路 (SF019) 西側において東西方向に確認できている。この段階の最新遺構である溝状遺構 (SD007-3) やピット群には炭・焼土が大量に含む火災処理土が堆積しているため、1580年代後半に一帶が灰燼に帰すほどの大火災が生じたことがうかがえる。さらに、16世紀末葉の1590年代にはこれらの遺構群を覆うように炭・焼土および被熱した遺物を大量に含む焼土 (火災処理土) が堆積している。

近世に至ると、第2南北街路 (SF019) は継続して営まれ、両側側溝には17世紀中葉までの遺物が確認できる。また、寛永通寶 (古寛永) と銅製権が出土したSP020の存在は、何らかの商業活動の場が周辺に存在する可能性があり、興味深い。しかし、このほかには近世に属する遺構はほとんど確認できなくなり、前述した遺構から17世紀中葉までは、何らかの生活空間として機能し続けていたことがうかがえる。その後の遺構として、SD011・SD012・SD013のような溝状遺構が確認されているが、これらは周辺の調査地区でも確認されているように、段階の田畑に伴う溝である可能性が高く、近世中葉にはすでに周辺が可耕地化された様子がうかがえよう。



第73図 第18次西・東調査区北壁断面図(1/120)

2. 桜町周辺における遺構変遷

前項では、第18次西調査区における大友館前の南北に延びる第2南北街路周辺の遺構変遷について、概観してきた。

この第2南北街路の東側には「府内古図」によると「桜町」の存在が確認できる。そこで、ここでは、第18次西調査区の調査成果をふまえて、「桜町」の一部であると考えられる第18次東調査区の遺構群との関連について、若干ふれておきたい。

平成13年度以降の一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査では、「桜町」と想定できる遺構群全体の調査が行われてきた。第18次東調査区では、古代に属する井戸が検出できた以外には、そのほとんどの遺構が16世紀後葉～末葉に属し、長い間、空閑地であったことがわかる。そのため、第2南北街路を隔てた大友氏館前の空間は16世紀後葉～末葉以前には、生活の痕跡が極めて乏しかったようである。それでは第2南北街路周辺の遺構変遷について、第73図の第18次西・東調査区北壁断面図を通してみてみよう。その変遷について、土層断面図にみえる大まかな主要遺構を赤・青・黄・緑のトーンで表わし、それらの変遷過程を追ってみよう。青色のSD001(14～15世紀)が最も先行する遺構として存在し、その埋没後に、赤色のSD004(16世紀前葉～中葉)が営まれている。これらはいずれも第2南北街路の西側端付近に営まれており、14世紀～16世紀中葉には、大友氏館の東に位置する溝が存在していたことがわかる。第18次西調査区ではSF019(第2南北街路)を保存対象として検討していたため、SF019整地層下の遺構群の実態については把握しきれなかった。しかし、第28次調査区においては第2南北街路下にはほとんど遺構が確認できなかったため、SD001・SD004以東には空間地が広がっていたことが推測できる。

このSD004埋没後、黄色のSF019が普請されることになるが、最下層整地層から、最新の遺物として塩地編年2期に属する京都系土師器皿や中国漳州窯系青花碗皿類が出土するため、16世紀中葉～後葉に、道路普請がはじまることが確認できる。以後、継続して嵩上げ整地されながら営まれており、最上層には焼土・炭が混じる整地層が確認でき、また、SF019に伴う西側側溝をみると、天正14年(1586)の島津氏侵攻時の焼土と思われる埋土が入るSD017-3を切って、SD007-4が営まれているため、侵攻後に復興され、再度、道路として機能し続けていたことがわかる。その変遷過程で、道路両端の側溝は、規模を小さくし、あるいは、道路中央に寄り、道幅を狭くしながらも営まれ続けていたようである。

それでは、この第2南北街路と「桜町」部分の遺構との関係はどうであろうか。北壁断面図には緑色の大きな落ち込み遺構の埋没過程がうかがえる土層状態が確認できる。この落ち込み遺構は1mを超える深さを有し、土層観察から絶えず第2南北道路側から埋め戻され続けている様子がうかがえた。この落ち込み遺構は第12次・18次東・28次調査区へと続き、南北60m、東西15m以上にも及ぶ大型のものであり、同様な落ち込み遺構は第22次調査区から9次調査区においても確認できており、この両者は同一のものである可能性が高い。さらには、「御所小路」を挟んで南側に位置する「御内町」部分においても同様な遺構が確認でき、これらの空閑地では、周辺の土木工事に伴い、盛んに土採りが

行われる場所であったことがわかる。第18次東調査区ではこの落ち込み遺構が、第2南北街路の初期の整地層を覆う土層を切ることが観察でき、16世紀中葉～後葉にかけてか、あるいはそれ以降に土採りを行った遺構であることが確認できた。しかし、この土採り坑と思われる落ち込み埋没後には、もうすでに16世紀後葉～末葉に町屋遺構と思われる遺構群が営まれているため、掘削後、さほど長い期間を要せず埋められていたことがわかる。別の調査区の落ち込み状遺構と比較すれば、第9次調査区Ⅲ区では、落ち込み状態が長く続き、最も低い位置に存在するSX034は水溜り状を呈し、この中に、埴地編年3期に属する京都系土師器Ⅲや「彫三鳥」とよばれる朝鮮王朝産陶器碗が出土するため、16世紀後葉～末葉に至っても、落ち込み状態のまま放置されていたことがわかる。これは、第12次・18次東・28次調査区では落ち込み状遺構が比較的2南北街路に近接した場所であったため、町屋形成のためには、埋め戻す必要性があったことに対し、9次調査区の落ち込みは、町屋裏の廃棄土坑や井戸等の施設より、さらに裏手に位置するため、必ず埋め戻さなければならないという必要性に乏しかったためであろうか。

以上、第18次西・東調査区の北壁断面図により、大友館前の濠・道路・町屋の形成過程について略述してきたが、大溝が営まれた時期（14世紀～16世紀中葉）と第2南北街路が営まれ、町屋が形成された時期（16世紀中葉～近世初頭）に大きく遺構の変遷が区分できよう。

第5章 中世大友府内町跡第18次東調査区

第1節 調査の概要

中世大友府内町跡第18次東調査区は大分市錦町3丁目に所在し、標高約5.5mの沖積低地上に立地する。現在周辺地域は宅地として開発されているが、昭和30～40年代までは、水田として利用されていた。

1987年に大分市史編さん委員会により作成された「戦国時代の府内復元図」によると、当該調査区は大友氏館跡とは第2南北街路を挟んで隣接し、中世府内を構成する40町余りのひとつである「桜町」の一画に該当する地点である。

本章で報告する第18次東調査区は、1993年発行の『大分県遺跡地図』で「中世大友城下町跡」で登録されていることや、平成12年度以降継続されている一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査で、中世の遺構・遺物の存在が確認されていることから、当地区も平成14年4月中旬から平成15年3月までの間、約700㎡の調査を行った。

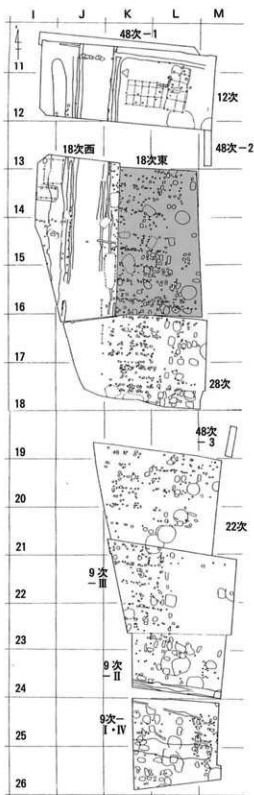
当調査区の東側は第2南北街路の調査を行った第18次西調査区、南側は第28次調査区と接している。

第2節 遺構と遺物

1. 遺構の概要と層序

一般国道10号古国府拡幅事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、事業対象区を国土座標に乗せた10m方眼で区画している。各区画には西から東へA～M、北から南へ1～78の番号を付し、アルファベットと数字の組み合わせで、各々の区画を呼称している。本章で報告する第18次東調査区は、東西K～M、南北14～17区内に位置する。

本調査区は、後世の開発による削平がかなり進行していて、遺構上面の残りはあまりよくない。さらに調査区東側のほぼ全域において、深さ約1.5mに及ぶ土取りによる削平を受け、それ以前の遺構はほぼ消滅していると考えられる。土取りの時期は遺構の切り合いや出土遺物からみて、16世紀後半代と考えられる。この土取りを行った部分には、その後整地が行われていて、整地層内からは8～16世紀後半代の遺物が多量に出土している。



第74図 第18次東調査区の位置 (1/800)

大友氏館跡

桜町

調査期間
2002年
4月中旬～
2003年
3月発掘調査
面積約700㎡

土取り

整地

第2節 遺構と遺物

検出された主要な遺構は、溝状遺構9条、土坑40基、集石遺構6基、井戸5基、土器集中区7カ所、道路状遺構1条、柱穴および小穴多数である。

8世紀前半
の井戸

検出した遺構で一番古い遺構は、8世紀前半代の井戸（SE176）である。この井戸は、土取りによる削平を免れていて、唯一残る古代の遺構である。他の遺構は、そのほとんどが16世紀後半～末葉の時期である。

本調査区は、旧表土上に近世の造成による整地層が1m前後堆積しており、この下位に近世～近現代の水田層が認められる。発掘調査は近年の整地層すべてと、近世・近代の水田層の大部分を重機による除去を行い、その後は人力による掘り下げを行った。水田層は中世の遺構面をかなり削平して耕作されており、中世上面からは、唐津系陶器や土人形など、近世前期の遺物が出土している。

水田層を除去すると、溝状遺構SD022やSD023、焼土層、中世末から近世初頭にかけての整地層が現れる。焼土層は、第18次西・第28次調査区では顕著に確認されたが、当調査区では削平によるためか、ごく一部分での検出であった。これらを全て除去すると、多数の柱穴群、廃棄土坑、井戸等の遺構が検出された。本報告では、これらの遺構群を「上層遺構群」としている。上層遺構群では、K15・16区付近で多数の柱穴群、KL15・16付近では廃棄土坑、L15・16付近で井戸などが検出されている。これらは16世紀後葉～末葉前後に比定される町屋関連の遺構と推定される。

上層遺構群
16世紀後葉
～末葉

これらの町屋関連の遺構群は、府内古図に記載されている「桜町」の一面に相当する可能性が高いと考える。

下層遺構群
16世紀
第3四半期
以前

本調査区における黄褐色粘質土の基盤層は、K14区の西半分、K15のほぼ全域、K16の全域とL16東側では確認できる。基盤層の残っている範囲はごく僅かで、基盤層の直上で確認できた遺構は柱穴と土取りと思われる大型の掘り込みだけである。この遺構を本報告では「下層遺跡群」と命名している。これらの遺構の時期は、16世紀第3四半期以前頃に比定される。この大型の掘り込みを整地するため、幾重にも埋土を行っており、整地層の上に生活基盤面がみられる。掘り込みは検出面から1.5m以上掘り込まれていて、この面では16世紀中葉前後の遺構は存在しない。

本調査で検出された遺構は、8世紀代の井戸遺構1基と16世紀後半～17世紀初頭に比定されるものである。遺物は整地層内から、8・9世紀代から16世紀後半代のもので出土する。

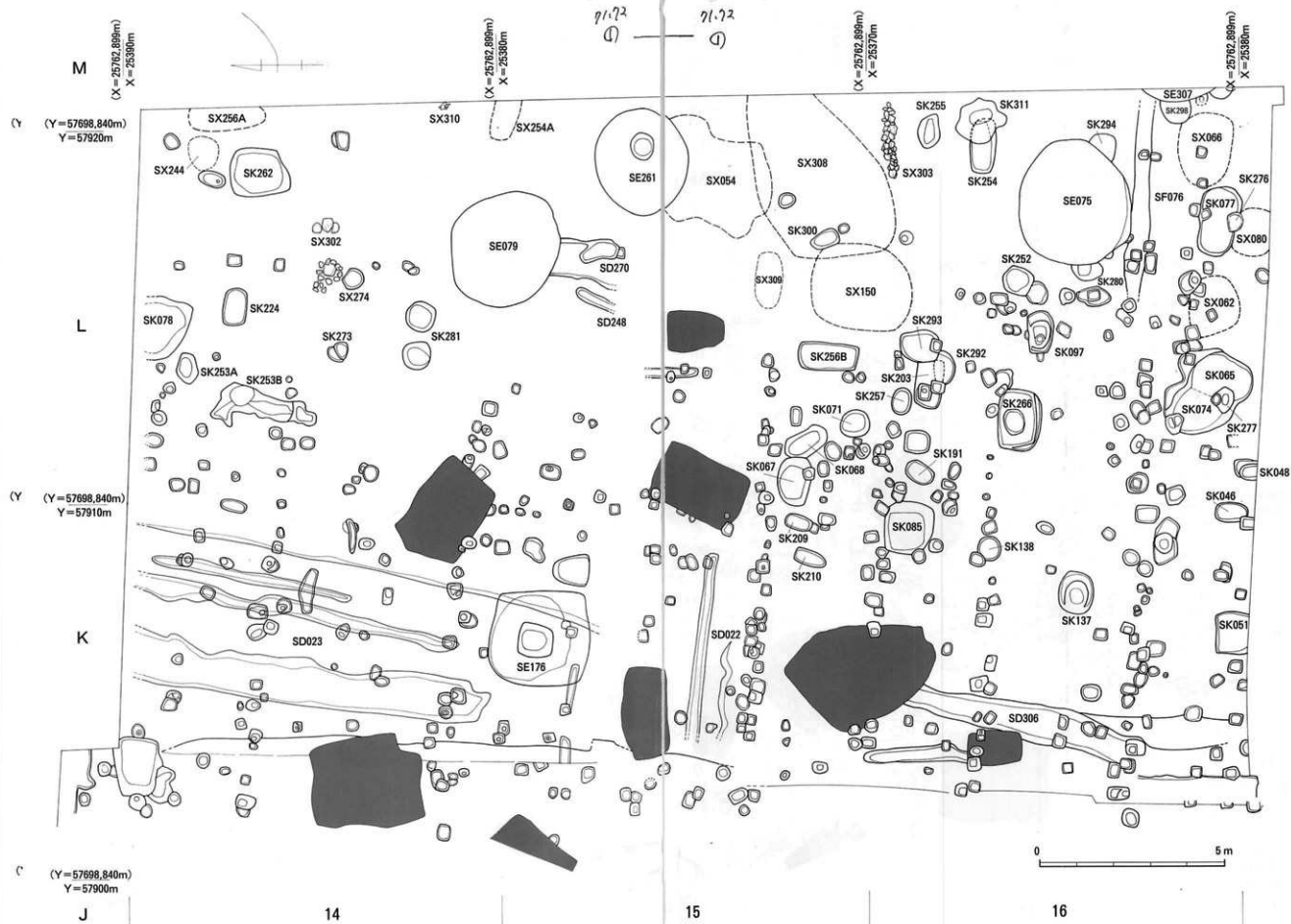
以下、遺構と出土遺物の詳細を報告する。

第2表 遺構一覧表①

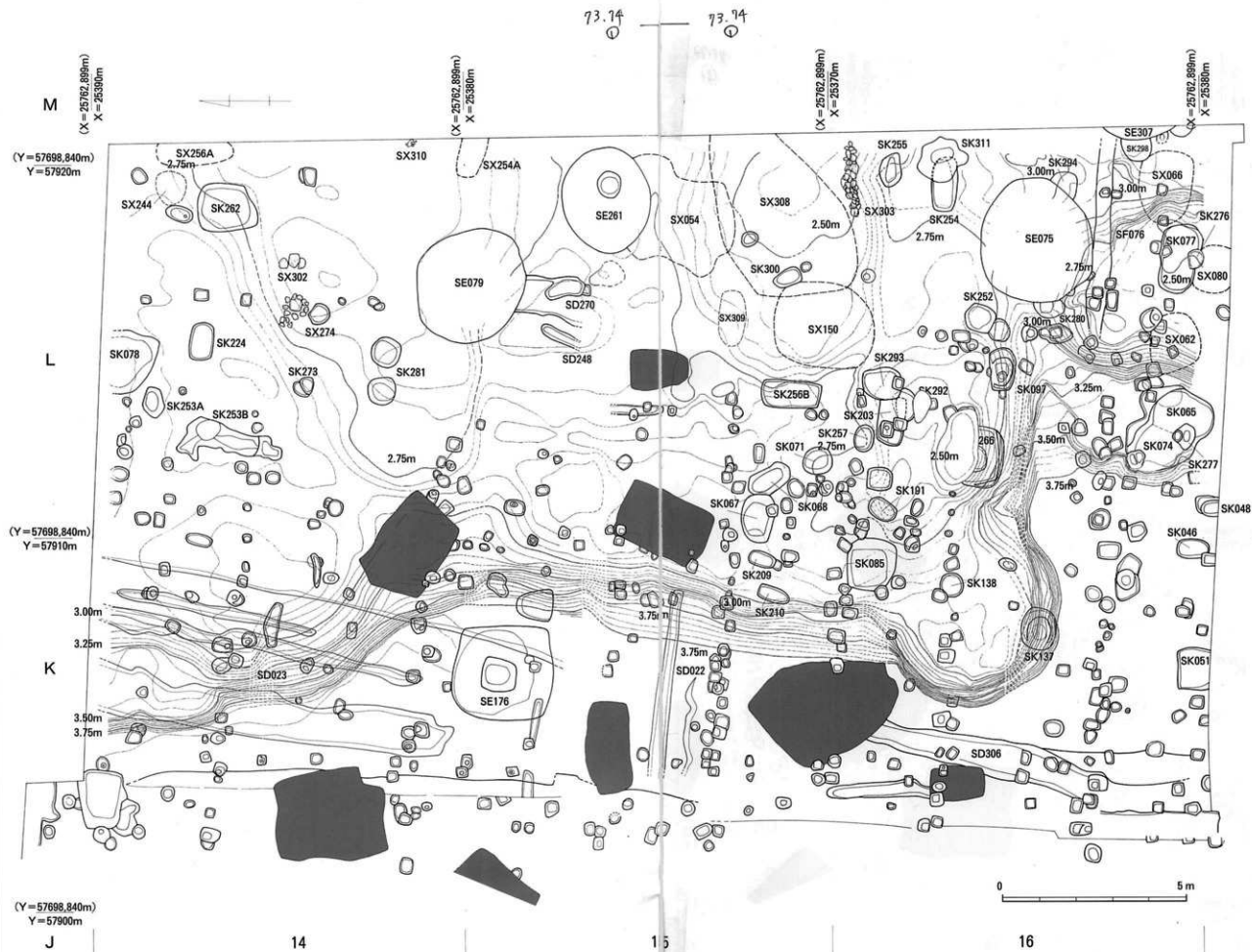
本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD022	S022	溝状遺構	K15	近世		77
SD023	S023	溝状遺構	K14・15	近世		77
SD248	S248	溝状遺構	L15	16世紀後葉～末葉?		77
SD270	S270	溝状遺構	L15	16世紀後葉～末葉?	井戸施設の一部か?	77
SD306	S306	溝状遺構	K16	16世紀後葉	一部未掘	77
SK046	S046	土坑	K16・17	16世紀末葉		80
SK048	S048	土坑	L16・17	16世紀後葉?	トレンチにより一部不明	80
SK051	S051	土坑	K16・17	16世紀末葉	一部未掘	80
SK065	S065	土坑	L16・17	16世紀末葉		80
SK067	S067	土坑	KL15	16世紀末葉		84
SK068	S068	土坑	L15	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	85
SK071	S071	土坑	L15・16	16世紀末葉		85
SK074	S074	土坑	L16	16世紀末葉	SK065に切られる	84
SK077	S077	土坑	L16	16世紀末葉		86
SK078	S078	土坑	L14	16世紀末葉	一部未掘	87
SK085	S085	土坑	K16	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	88
SK097	S097	土坑	L16	16世紀末葉		91
SK137	S137	土坑	K16	16世紀末葉		92
SK138	S138	土坑	K16	16世紀末葉		92
SK191	S191	土坑	L16	16世紀末葉		93
SK203	S203	土坑	L16	16世紀末葉	SK292・293に切られる	93
SK209	S209	土坑	K15	16世紀末葉		94
SK210	S210	土坑	K15	16世紀末葉		94
SK224	S224	土坑	L14	16世紀末葉		95
SK252	S252	土坑	L16	16世紀末葉	焼土・礎石等廃棄土坑	95
SK253A	S253	土坑	L14	16世紀末葉		95
SK253B	S253	土坑	L14	16世紀末葉		97
SK254	S254	土坑	LM16	16世紀末葉		97
SK255	S255	土坑	LM16	16世紀末葉		97
SK256B	S256	土坑	L15	16世紀末葉		98
SK257	S257	土坑	L16	16世紀末葉		98
SK262	S262	土坑	L14	16世紀末葉		98
SK266	S266	土坑	L16	16世紀後葉～末葉		99
SK273	S273	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		100
SK274	S274	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		100
SK276	S276	土坑	L16	16世紀末葉		100
SK277	S277	土坑	L16	16世紀末葉		100
SK280	S280	土坑	L16	16世紀後葉～末葉		100
SK281	S281	土坑	L14	16世紀後葉～末葉		101
SK292	S292	土坑	L16	16世紀末葉	SK203を切る、焼土・礎石等廃棄土坑	94
SK293	S293	土坑	L16	17世紀末葉	SK203を切る、焼土・礎石等廃棄土坑	94
SK294	S294	土坑	L16	16世紀後葉～末葉	SE075の施設の一部	111
SK298	S298	土坑	M16	16世紀後葉～末葉	SE307の施設の一部	126
SK300	S300	土坑	L15	16世紀末葉		102
SK311	S311	土坑	LM16	16世紀後葉～末葉		102
SX080	S080	集石	L16・17	16世紀末葉		103
SX244	S244	集石	L14	16世紀後葉～末葉		103
SX245A	S245	集石	LM14・15	16世紀後葉～末葉		103
SX302	S302	集石	L14	16世紀後葉～末葉		105
SX303	S303	集石	L16	16世紀末葉		105
SX309	S309	集石	L15	16世紀後葉～末葉		106
SE075	S075	井戸	L16	16世紀後葉	SK294を含む	108
SE079	S079	井戸	L14・15	16世紀後葉		113
SE176	S176	井戸	K14・15	8世紀前半		108
SE261	S261	井戸	L15	16世紀後葉		123
SE307	S307	井戸	M16	16世紀後葉	未掘・SK298を含む	126

第3表 遺構一覧表②

本報告での遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SX054	S054	土器集中区	L15	16世紀後葉～末葉		127
SX062	S062	土器集中区	L16	16世紀後葉～末葉		131
SX066	S066	土器集中区	LM16	16世紀後葉～末葉		131
SX150	S150	土器集中区	L15・16	時期不明		134
SX256A	S256	土器集中区	M14	時期不明		135
SX308	S308	土器集中区	LM15・16	時期不明		136
SX310	S310	土器集中区	M14	16世紀後葉		136
SF076	S076	道路状遺構	LM16	16世紀後葉?	SE075の南、井戸施設の一部か?	137
SX301	S301	包含層	LM全域	時期不明	整地層の一部	138
SP031	S031	柱穴	K14	16世紀末葉		138
SP035	S035	柱穴	L14	16世紀末葉		138
SP036	S036	柱穴	L14	16世紀末葉		138
SP064	S064	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP070	S070	柱穴	L15	16世紀後葉～末葉		138
SP095	S095	柱穴	K16	16世紀後葉～末葉		138
SP106	S106	柱穴	K14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP123	S123	柱穴	K14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP156	S156	柱穴	K16	16世紀末葉	焼土・炭堆積	138
SP165	S165	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP166	S166	柱穴	L16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP169	S169	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP172	S172	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP173	S173	柱穴	L14	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP188	S188	柱穴	K15・16	16世紀後葉～末葉		138
SP190	S190	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP208	S208	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP211	S211	柱穴	K15	16世紀末葉	炭質土、柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP212	S212	柱穴	K15	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP213	S213	柱穴	K15	16世紀後葉～末葉		138
SP221	S221	柱穴	KL14	16世紀末葉		138
SP234	S234	柱穴	L15	16世紀末葉		138
SP239	S239	柱穴	K16	16世紀末葉		138
SP260	S260	柱穴	L16	16世紀後葉～末葉		138
SP263	S263	柱穴	K16	16世紀末葉	柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP267	S267	柱穴	L16	16世紀末葉	揺鉢	138
SP271	S271	柱穴	L16	16世紀末葉	炭質土、柱痕有り、柱痕理土に焼土・炭堆積	138
SP284	S284	柱穴	K15	16世紀後葉～末葉		138
SP285	S285	柱穴	L15	16世紀末葉		138
SP296	S296	柱穴	L16	16世紀末葉		138



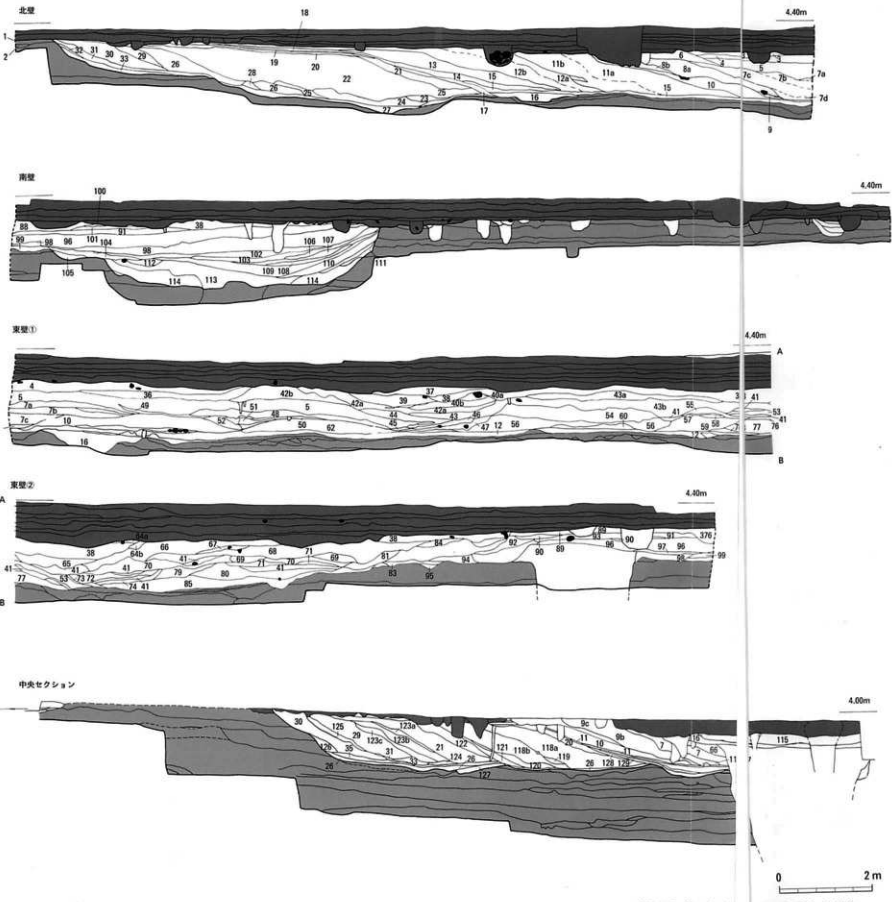
第75図 第18次東側調査区遺構配置図 (1/100)



第76图 第18次東區 區地形測量圖 (1/100)

73.74
②

73.74
③



- 1 灰黄色粘質土 (JHY6/2)
- 2 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 初期の第2南北溝
- 3 灰黄色粘質土 (JHY6/2)
- 4 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰含む
- 5 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰・砂多量を含む
- 6 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰含む
- 7a 黄灰色粘土 (ZSY6/1) 灰含む
- 7b 黄灰色粘土 (ZSY6/2) 砂含む。灰多量
- 7c 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・土層片多量を含む
- 8a 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・砂を含む
- 8b 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・砂を含む
- 9 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・砂を含む
- 10 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 小溝・灰色ブロック多量あり
- 11a 黄褐色粘土 (JHY7/1) 粘性強い
- 11b 黄褐色粘土 (JHY7/1) 砂多量あり
- 12a 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 小溝・砂多量
- 12b 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 9a層より厚大さい
- 13 土壌・黄褐色粘土 (ZSY7/4) 砂多量あり
- 14 黄褐色粘土 (JHY6/3)
- 15a 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 土取り後の自然堆積土
- 15b 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/3) 自然堆積土・砂わずかに含む
- 16 灰黄色土 (ZSY7/2)
- 17 黄褐色粘土 (JHY7/1) 地土
- 18 灰黄色粘土 (ZSY7/3) 生活面?
- 19 灰黄色粘土 (ZSY6/2) 細く連続した。生活面
- 20 灰黄色粘土 (ZSY7/2) 細く連続した。生活面
- 21 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 黄褐色ブロック層に含む
- 22 黄褐色粘土 (ZSY6/2)
- 23 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 膠地層?
- 24 黄褐色粘土 (ZSY7/2) 地土・灰・砂を含む
- 25 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 黄褐色ブロック含む
- 26 黄褐色粘土 (JHY6/6) SX30堆土・地土・砂多量
- 27 灰黄色粘質土 (ZSY7/3) 黄褐色ブロック含む
- 28 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 砂の層一帯
- 29 灰黄色粘土 (JHY6/1) 砂の層一帯
- 30 黄褐色粘土 (ZSY7/2) 砂の層一帯・地土
- 31 灰黄色粘質土 (ZSY7/2) 砂の層一帯・地土
- 32 灰黄色粘土 (ZSY6/2) 砂多量あり
- 33 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰わずかに含む
- 34 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 灰多量含む。ソフト
- 35 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰・砂を含む。37と同層
- 36 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰含む。37・59と同層
- 37 灰黄色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰含む。46層よりやや粘り強い
- 38 黄褐色粘土 (JHY6/1) 粘性強い
- 39 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 地土・灰・砂多量を含む
- 40 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・砂多量を含む
- 41 黄褐色粘土 (ZSY7/1) 粘土多量あり
- 42 黄褐色粘土 (ZSY7/1) フット多量あり
- 43 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/2) 灰・地土・砂多量を含む
- 44 灰黄色粘土 (ZSY7/1) 粘土多量あり
- 45 灰黄色粘土 (ZSY7/1) フット多量あり
- 46 黄褐色粘土 (JHY6/1) 灰わずかに含む
- 47 黄褐色粘質土 (JHY6/1) やや砂多量あり
- 48 黄褐色粘土 (JHY6/1)
- 49 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 砂多量あり
- 50 黄褐色粘土 (JHY7/1) 砂多量あり
- 51 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 黄褐色ブロック含む
- 52 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/3) 黄褐色ブロック含む
- 53 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/2) 地土・灰・砂多量を含む
- 54 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2)
- 55 黄褐色粘質土 (JHY6/1) 灰・地土わずかに含む
- 56 黄褐色粘土 (JHY7/2)
- 57 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 3a層に近い
- 58 砂層・ブロック
- 59 黄褐色粘土 (JHY6/1) ハード
- 60 土壌・黄褐色粘土 (ZSY7/6) 小溝全体に亘る
- 61 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 自然堆積土
- 62 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 地土・灰含む
- 63 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 自然堆積土
- 64 黄褐色粘土 (ZSY6/8) 64a層及された層
- 65 黄褐色粘土 (ZSY6/2)
- 66 黄褐色粘質土 (JHY6/1) 膠地・地土多量を含む
- 67 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/4) 3a層に近い。灰含む
- 68 黄褐色粘質土 (JHY6/1) 膠地・地土多量を含む
- 69 土壌・黄褐色粘土 (ZSY6/2) 小溝と砂の層
- 70 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/2) 地土・灰・砂片を含む
- 71 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2)
- 72 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰・砂多量を含む
- 73 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/3) 膠地・地土多量を含む
- 74 黄褐色粘土 (JHY6/1) 膠地・地土多量を含む
- 75 黄褐色粘土 (ZSY7/4) 地土・灰・砂多量あり
- 76 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/4) 地土・灰・砂を含む
- 77 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/4) 中硬・灰質がある
- 78 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 79 土壌・黄褐色粘土 (ZSY6/4) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 80 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/4) 細粒とシルト質粘土の混じった層
- 81 黄褐色粘質土 (JHY6/2) 粘性が強い。地土・灰含む
- 82 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/4) わずかに灰含む
- 83 黄褐色粘土 (JHY6/4) 灰・地土を含む
- 84 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 粘性強い。灰含む
- 85 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 粘性強い。灰わずかに含む
- 86 灰白色シルト質粘土 (JHY7/1)
- 87 砂層
- 88 砂層
- 89 黄褐色粘土 (JHY6/2) 灰・地土わずかに含む。混じる
- 90 砂層
- 91 黄褐色粘土 (ZSY7/2) 粘着で締まっている。生活面
- 92 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/3) 砂・小溝を含む
- 93 黄褐色粘質土 (JHY6/2)
- 94 黄褐色粘土 (ZSY6/2) シルト質
- 95 黄褐色粘土 (JHY6/2)
- 96 オープン粘質土 (ZSY6/6) 土層が生活面
- 97 黄褐色粘土 (ZSY6/1) 灰・地土を含む
- 98 黄褐色粘土 (ZSY7/2) くぼ地を埋めた際の整理層
- 99 黄褐色粘土 (ZSY6/2) フット
- 100 黄褐色粘土 (ZSY6/2) 粘土層あり。砂含む
- 101 黄褐色粘土 (ZSY6/2) くぼ地を埋めた際の整理層
- 102 黄褐色粘土 (ZSY7/2) くぼ地を埋めた際の整理層
- 103 黄褐色粘土 (ZSY6/2) くぼ地を埋めた際の整理層
- 104 土壌・黄褐色粘土 (ZSY6/6)
- 105 黄褐色粘土 (ZSY6/1) ブロック状
- 106 黄褐色粘土 (ZSY6/2)
- 107 黄褐色粘土 (ZSY7/2)
- 108 黄褐色粘土 (ZSY6/2)
- 109 粘土 (ZSY7/1)
- 110 黄褐色粘土 (ZSY6/1)
- 111 黄褐色粘土 (JHY7/1)
- 112 黄褐色粘土 (ZSY6/2) (ZSY7/8)
- 113 黄褐色粘土 (JHY6/6)
- 114 黄褐色粘土 (ZSY6/1)
- 115 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/2) 灰多量含む。ソフト
- 116 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/6) 灰・地土多量を含む
- 117 黄褐色粘土 (JHY6/4)
- 118a 黄褐色粘土 (ZSY7/6) 118層より締まっている
- 118b 黄褐色粘土 (ZSY7/6)
- 119 黄褐色粘土 (ZSY6/1)
- 120 黄褐色粘土 (JHY6/1) 黄褐色ブロック多量あり
- 121 黄褐色粘土 (JHY6/2) 地土・灰混じり
- 122 土壌・黄褐色粘土 (JHY7/2) 地土・灰混じり
- 123a 黄褐色粘土 (JHY6/2) 灰・地土多量を含む
- 123b 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/2) 灰・地土多量を含む
- 123c 土壌・黄褐色粘土 (JHY6/1) 中硬・粘性強い
- 124 黄褐色粘土 (ZSY7/3)
- 125 黄褐色粘土 (ZSY6/2) わずかに灰含む砂を含む
- 126 黄褐色粘土 (ZSY7/2)
- 127 黄褐色粘土 (ZSY6/6)

第77図 第18次東調査区土層図 (1/80)

2. 溝状遺構

第18次東調査区では9条の溝が確認された。9条とも上層遺構群に属するもので、6条は近世の所産と推定され、いずれも浅い掘り込みの溝である。

SD022 (第78図)

SD022は近世遺構群に所属する溝で、K15区に位置する。表土層除去後の整地面で確認された溝で、2条検出されたが、一部消滅している。遺構の規模は長さ4.8m、幅25～35cm、深さ10cm前後で、西から東方向へ走る。主軸方向はN-84°-Wである。埋土は黄褐色粘質土の単一層で、炭・焼土を多量に含んでいる。溝内からは近世の陶磁器片が出土した。第18次西調査区の第2南北街路とは直交しない。

SD023 (第78図)

SD023もSD022と同様に近世遺構群に所属する溝で、K14・15区に位置する。4条検出されている。西から順にSD022a～SD022dとする。4条とも南北にほぼ並行に走るが、第2南北街路とは並列しない。逆にSD022とはほぼ直交する。埋土は黄褐色粘質土の単一層で、炭・焼土を多量に含んでいる。

表4 SD023計測表

	方 向	方 位	残 存 長	幅	深 さ
SD023a	南→北	N-8°-E	9.42m	0.9～1.25m	0.05～0.14m
SD023b	南→北	N-12°-E	8.62m	0.26～0.5m	0.03～0.06m
SD023c	南→北	N-11°-E	5.48m	0.2～0.3m	0.02～0.05m
SD023d	南→北	N-12°-E	12.28m	—	0.01～0.03m

SD248 (第79図)

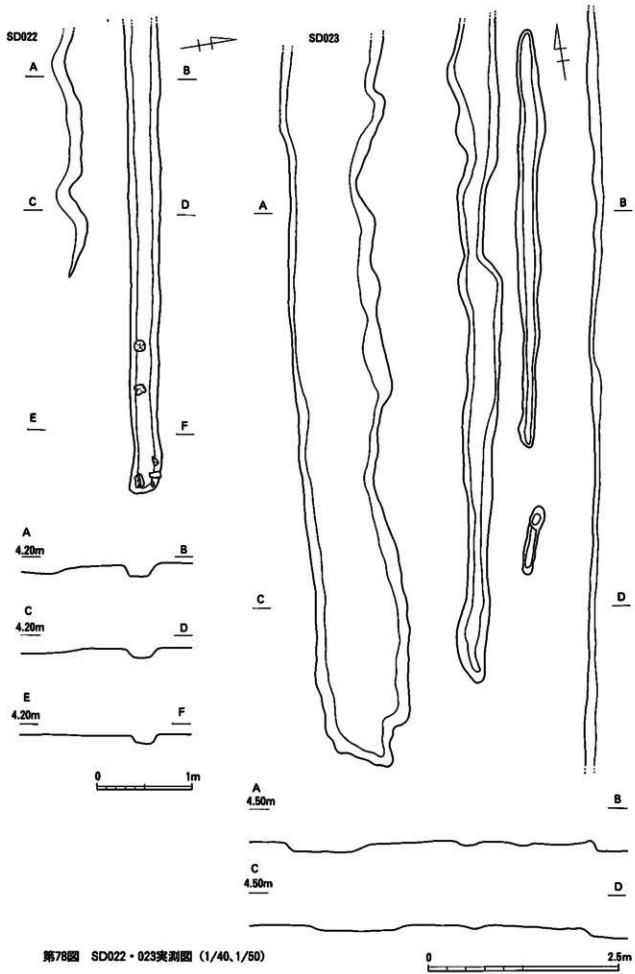
SD248は上層遺構群に属する溝で、L15区に位置する。検出された遺構の規模は長さ1.0m、幅約30cm、深さ10m前後である。北にSE079が位置し、何らかの関連性の施設の可能性を持つものであろう。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

SD270 (第79図)

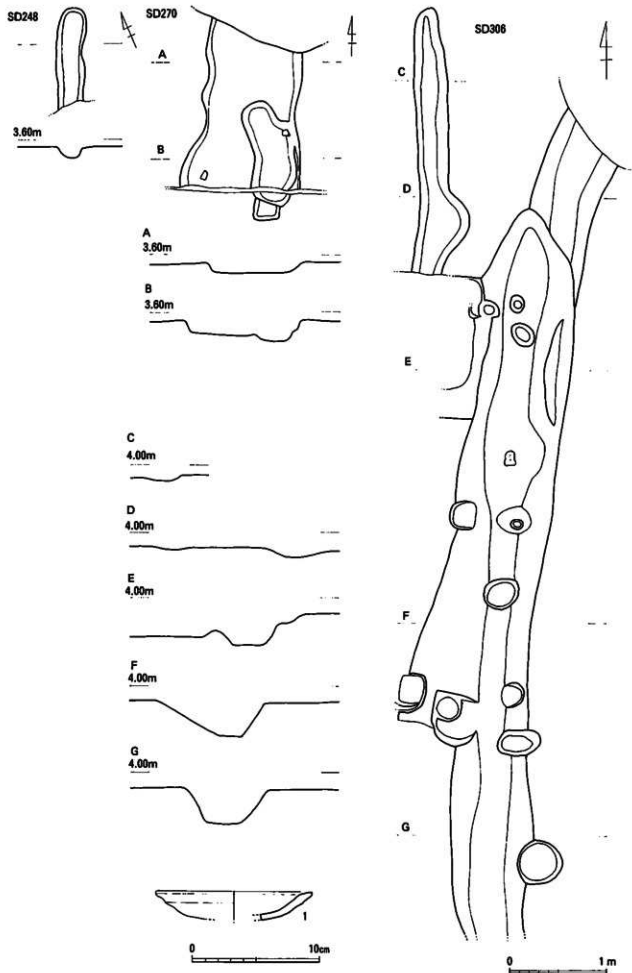
SD270は上層遺構群に属する溝で、L15区に位置する。北側はSE079から派生する。SE079の関連施設である。南はトレンチにより切られているため、全長は不明である。西はSD248が位置する。検出された遺構の規模は現存で1.7m、幅1.0～1.2m、深さ10cm前後である。当遺構は、SE079の排水等の水利施設と考える。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

SD306 (第79図)

SD306は下層遺構群に属すると考えられる溝で、K16区に位置する。基盤層の黄褐色粘質土上で確認されたが、上面は柱穴等の町屋関連遺構に切られている。北側先端は現代の攪乱によって消滅している。南側は第28次調査区へと伸びているが、隣接地区では明確なラインが確認されなかったことから、西調査区の境で終了していたと考えられる。遺構の規模は、現存で8.2m、幅0.7～1.0m、深さ40cm前後、堆積埋土は床面に黄褐色の粘質土、中・上層は黄灰色系の砂層で、焼土・炭等は含



第78圖 SD022・023実測圖 (1/40, 1/50)



第79図 SD248・270・306実測図及び出土遺物実測図 (1/40, 1/3)

まれない。遺構の時期は、図示できたのが1点であるが、出土遺物の年代観からみて、16世紀後葉に比定される。

SD306出土遺物（第79図）

1は京都系土師器の皿である。全体の1/4程度の残存で、器壁がやや厚く、2～3期の特徴を有する製品である。他にも京都系土師器の小破片が出土したが、図示できる個体ではなかった。

3. 土坑

第18次東調査区では40基の土坑が確認された。上層遺構群に属するものである。

SK046（第80図）

SK046は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は楕円形状を呈し、規模は長径0.86m、短径0.49m、深さ10cm前後である。埋土は焼土・炭を多量に含む灰茶褐色粘砂土で、銅と鉛の小破片が出土しているが、図示できる個体ではない。

SK048（第80図）

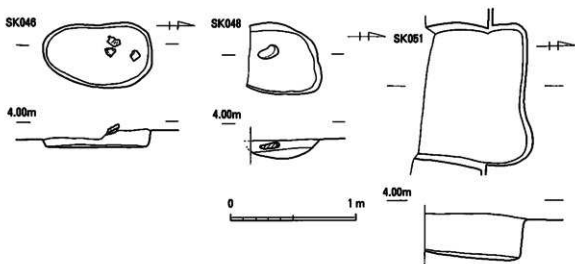
SK048も上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は楕円形状を呈すると思われるが、南側は第28次調査区に延びる。上面は水田によって切られている。規模は残存で長径0.55m、短径0.55m、深さ約13cm前後である。埋土は黄褐色粘質土で焼土・炭等はほとんど含まない。遺物の出土はない。埋土の状況から下層遺跡群の可能性もある。

SK051（第80図）

SK051は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のK16・17区に位置する。平面形態は長方形を呈すると思われるが、南側は第28次調査区に延びる。規模は残存で南北 $0.85 + \alpha$ m、東西1.2m、深さ35cm前後である。埋土は焼土・炭を多量に含む黄茶褐色粘質土で、京都系土師器の小破片数点が出土しているが、図示できる個体ではない。

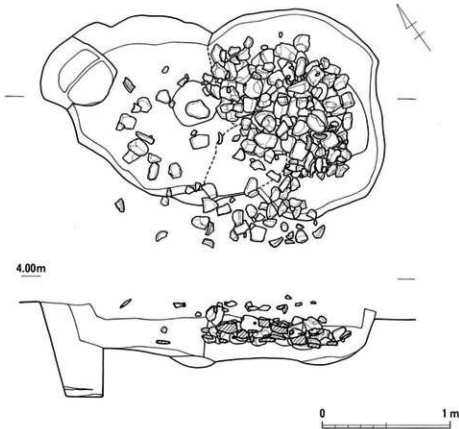
SK065（第81図）

SK065は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16・17区に位置する。SK074を切って構築されている。平面形態は楕円形状を呈する。規模は長径1.6m、短径1.2m、深さ約35cm前後である。

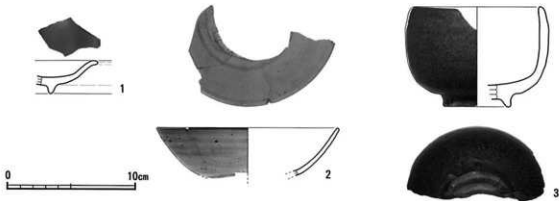


第80図 SD046・048・051実測図（1/30）

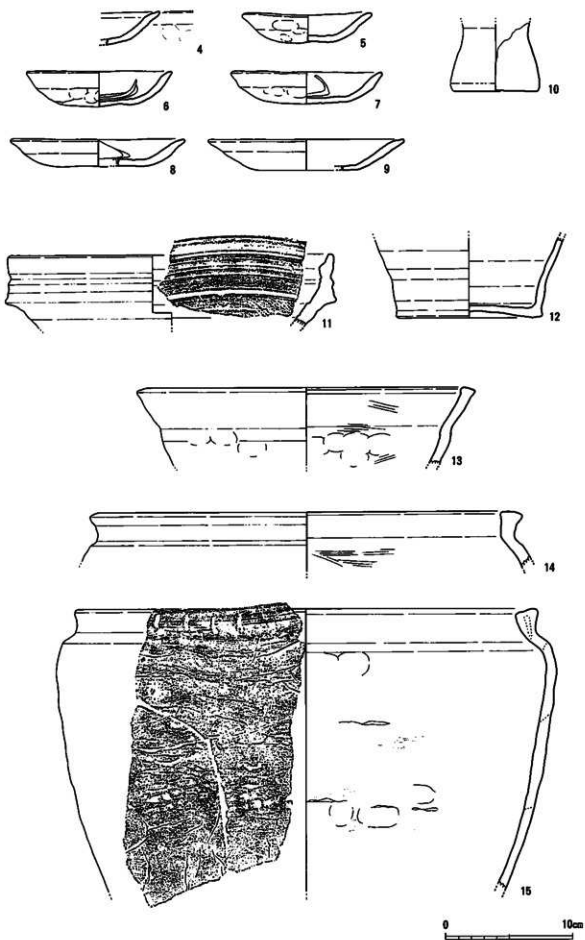
埋土は2層確認できた。下層は褐灰色粘質土で炭・焼土をわずかに含む。この層はSK074の埋土の可能性を持つ。上層は褐灰色粘砂土で炭・焼土を多量に含む。この層はSK074層を覆っている。また、この埋土中には径10～30cmの礫が多量に廃棄された状況が確認された。礫は被熱した物もかなり含まれている。礫に混じて中国産青花碗や、国産陶器・京都系土師器・釘等多量の遺物が出土している。層位や出土遺物などから天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられる。遺構の時期は、土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。



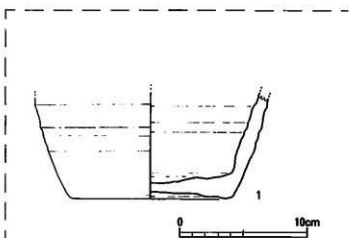
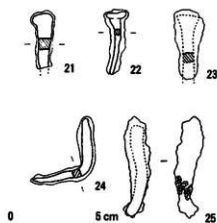
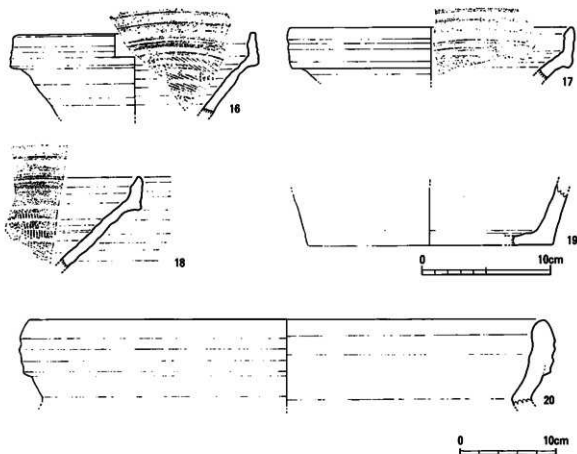
第81図 SK065・074実測図 (1/30)



第82図 SK065 出土遺物実測図① (1/3)



第83圖 SK065出土遺物実測圖② (1/3)



第84図 SK065出土遺物実測図③ (1/3, 1/4, 1/2)

第85図 SK074出土遺物実測図 (1/3)

SD065出土遺物 (第82~84図)

第82図1は中国産白磁皿の小破片である。2は中国漳州窯系の製品で青花碗であるが底部を欠く。3は瀬戸美濃系の碗である。第83図4~9は京都系土師器皿で、内外面に丁寧なナデ調整を施している。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。10は土師質土器の場合で、頂部の一部を欠いているが、ほぼ全面に丁寧なナデ調整を行っている。11・12は須恵質土器で11は播磨の口縁部、内面に斜め播目が確認できる。12は瓶の底部で内外面とも回転ナデを施している。13~15は瓦質土器で、

13は鉢あるいは甕の口縁から胴部の一部で、内面にハケ目調整がみられる。14・15は甕の一部である。14は口縁部の一部で、内面にハケ目調整がみられる。15は口縁部から胴部の一部で、内面は一部ハケ目の後、横ナデ調整を行っている。第84図16～20は備前陶器である。16～18は摺鉢の口縁部で、内面には放射状摺目と斜め摺目が交差する摺目が施されている。19・20は大甕の底部と口縁部である。16～19は近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。21～24は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。25は鉄製品であるが、製品は不明である。一部布と思われる痕跡が付着している。

SK074 (第81図)

SK074は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16区に位置する。SK064に東側の一部を切られている。平面形態は楕円形状を呈すると思われる。規模は残存で長径1.3m、短径1.3m、深さ50cm前後である。埋土は2層確認できた。下層は褐灰色粘質土で炭・焼土をわずかに含む。上層は褐黄褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。埋土中からは備前甕や漆器椀片等の遺物が出土している。遺構の時期は、SK065より先行するが、埋土中の焼土・炭等の混入具合等から、SK065との時期差はほとんど無いものと考えられる。出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。

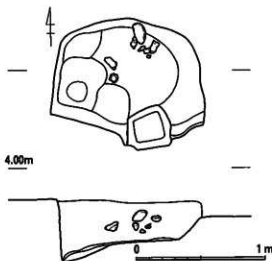
SK074出土遺物 (第85図)

漆器椀

土坑内からは、土器等の遺物数点が出土したが、いずれも細片で図示できる遺物は1点であった。土器片以外では、漆器椀の胴部が出土したが木質部は消滅しており漆の皮膜だけの残存であり、取り上げ時には既に原形を保っていなかった。1は備前陶器の甕の底部から胴部にかけての一部である。外面には自然釉がかかっており、底部未調整である。

SK067 (第86図)

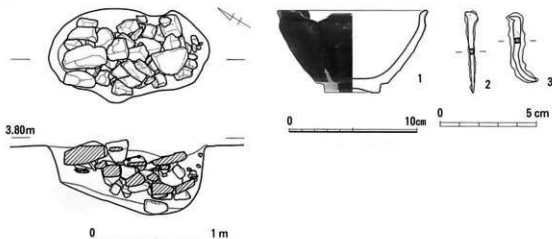
SK067は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。16世紀末葉前後に比定される町屋関連の柱穴やSK068に一部を切られている。平面形態は方形を呈する。規模は長径1.15m、短径0.9m、深さ約30cmである。埋土は暗茶褐色土の単層で、焼土・炭をかなり多く含んでいる。埋土中からは数点の土器片と、5～20cm前後の礎数点が出土した。出土遺物はいずれも小破片のため、図示できない。遺構の時期は、SK068より先行するが、埋土中の焼土・炭等の混入具合等から、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時期の土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。



第86図 SK067実測図 (1/30)

SK068 (第87図)

SK068は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。SK067と接している。平面形態は楕円形に近い隅丸長方形を呈する。規模は長径1.3m、短径0.7m、深さ約40cmである。埋土は黄褐色粘砂土で、焼土・炭を多量に含んでいる。また土坑内には被熱した人頭大の礫がぎっしりと詰まっている。この礫中には建物の礎石数点が確認された。礫に混じて天目茶碗や、瓦・釘等が出土している。遺構の時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。



第87図 SK068実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

SK068出土遺物 (第87図)

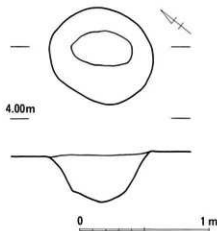
第87図1は瀬戸美濃系为天目茶碗で、体下部まで茶褐色の釉が掛かり外底部は露胎となる。2・3は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。図示以外に、平瓦や須恵質土器鉢の胴部片が出土しているが、全体の遺物出土量は非常に少ない。礎石等の廃棄を目的とした土坑であろう。

SK071 (第88図)

SK071は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態はほぼ円形を呈する。規模は径0.7~0.8m、深さ約40cmである。埋土は黄褐色粘質土で、焼土・炭を多量に含んでいる。埋土中から数点の遺物が出土した。時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、構築年代は16世紀末葉に比定される。

SK071出土遺物 (第89図)

第89図1・2は京都系土師器の製品である。1は器壁が厚く、器高も高く、碗形に近い非ロクロ系土師器杯である。2の皿も器壁が厚くなり、3期の様相を示すものと思われる。3は在地産の土師質土器皿で底部に糸切り痕が見られるが、胴部から口縁部を欠く。4は漳州窯系青

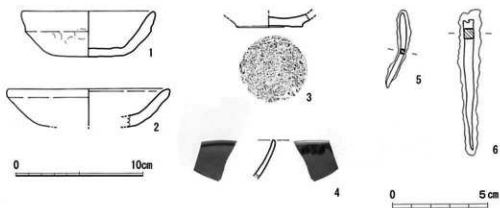


第88図 SK071実測図 (1/30)

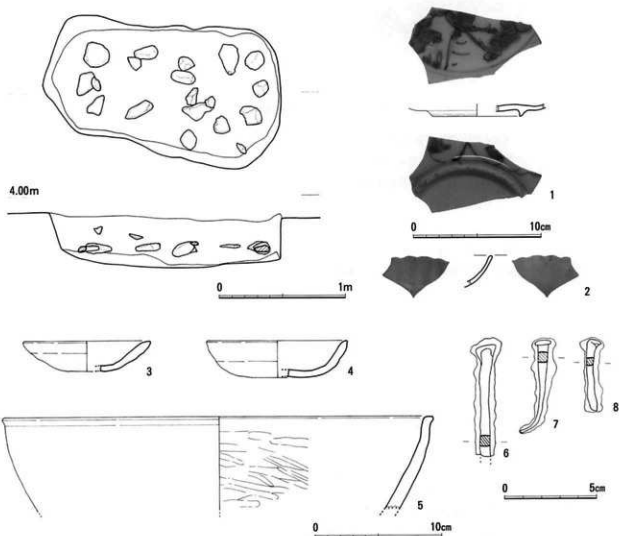
花碗で、口縁部破片である。5・6は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

SK077 (第90図)

SK077は上層遺跡群に属する遺構で、東南端L16区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈する。



第89図 SK071 出土遺物実測図 (1/3、1/2)



第90図 SK077実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

廃棄土坑

規模は長径1.9m、短径1.0m、深さ35cm前後である。埋土は暗茶灰色土で、焼土・炭・砂を多量に含んでいる。土坑の中心からは被熱した人頭大の鏝が10数点出土しているが、建物の礎石は見られなかった。また、鏝とともに京都系土師器や磁器片・釘などが出土している。時期は土坑埋土の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年（1586）12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK077出土遺物（第90図）

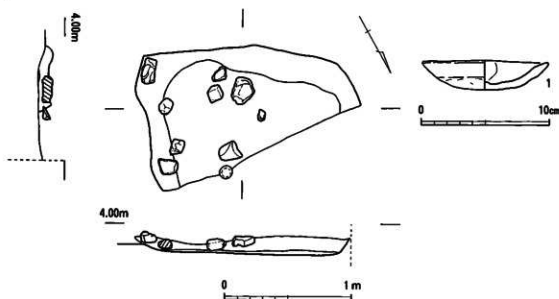
第90図1は中国景德鎮窯系の青花皿の底部破片で、小野正敏分類のE群に属する製品である。16世紀後葉に比定される。2は中国産の白磁皿で、輪花を呈する口縁部の破片である。3・4は京都系土師器の皿で、器壁が厚く、2期から3期の様相を示すものである。5は在地産の土師質土器捏ね鉢で、底部を欠く。6～8は釘で、断面形は方形を呈している。

SK078（第91図）

SK078は上層遺跡群に属する遺構で、L14区の北東端、土取り後の整地層上に構築している。北側は土層確認用のトレンチによって切られている。平面形態は長方形を呈すると思われる。現状での規模は東西1.2m、南北1.0m、深さは最深で約14cmで、レンズ状を呈している。埋土は3層確認できた。上層は焼土・炭混じりの茶褐色土、中層は炭屑で全面に厚く堆積している。下層は暗茶褐色土で焼土・炭混じりである。土坑内からは径20cm前後の鏝10点程が出土している。遺物の出土はほとんど無く、京都系土師器1点だけである。時期は土坑埋土の様相や出土遺物の年代観からみて、16世紀末葉に比定される。

SK078出土遺物（第91図）

第91図1は京都系土師器の皿である。器壁が厚く、3期の様相を示すものである。



第91図 SK078実測図及び出土遺物実測図（1/30、1/3）

SK085 (第92図)

SK085は上層遺跡群に属する遺構で、調査区南端のL16・17区に位置する。SK074を切って構築している。平面形態は一辺1.3m前後の方形を呈する。深さ約0.9mである。埋土は礫等が非常に多く詳細な観察はできなかったが、ほぼ全域に多量の焼土・炭で構成された茶褐色土が堆積していた。土坑内からは被熱した人頭大から拳大の礫が多量に投げ込まれた状態でぎっしりと詰まっている。この礫中には建物の礎石多数が出土している。礫に混じって陶磁器や釘等多数出土しているが、京都系土師器等の出土はほとんどない。また陶磁器等に被熱したものが多数存在する。構築時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK085出土遺物 (第93~96図)

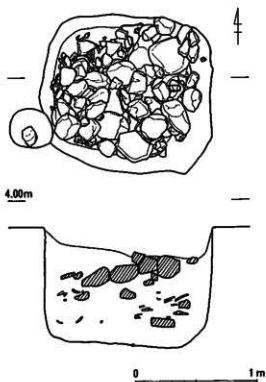
五彩皿 第93図1は中国景德鎮窯系の製品で、五彩皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。2・3・5は中国産白磁の製品である。2は菊花皿で完形品であるが被熱を受けている。白磁皿D群で16世紀後半に比定される。3・5はC群に分類される皿で16世紀中葉頃の所産である。4は朝鮮産白磁の瓶の底部付近の一部である。16世紀代の所産である。6は中国産青磁の皿で外底部は露胎となる。7~11は中国景德鎮窯系の青花碗で、小野分類のE群の製品である。16世紀後半に比定される。7は内底部に「□□佳器」銘が、8は「長春佳器」銘が認められる。

朝鮮産白磁 第94図12~15は中国景德鎮窯系の皿である。12・14・15は小野分類のB1群で、16世紀前半に比定される。13はB類の皿の破片で15世紀中葉の所産である。16~20は中国漳州窯系の製品で、16~19が青花皿、20が青花碗である。

第95図21は京都系土師器の皿で、被熱している。口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期の特徴を示す資料である。22・23は備前系陶器の壺である。22は両部に描書き直線文を施し、自然釉が掛かっている。23は胴部上方に描書き波状文を施す。内面下部は表面が剥離している。

第96図24は土師質土器の捏ね鉢である。内外面とも丁寧なヘラ磨きを行っている。25は茶臼の上石の破片である。26は漆器碗の底部破片である。外面には黒漆を施している。27~29は土鍾。30~36は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。37も鉄製品であるが製品は不明である。38は板状の鉄製品で厚さ2mm、製品は不明である。

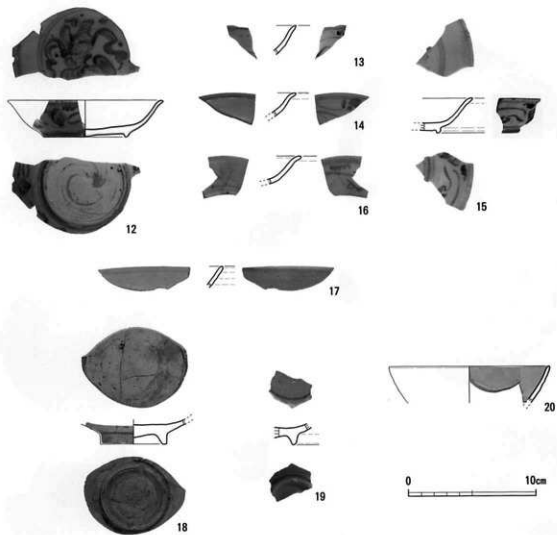
漆器碗



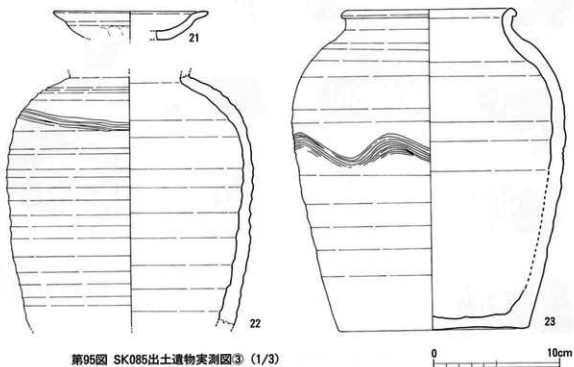
第92図 SK085実測図 (1/30)



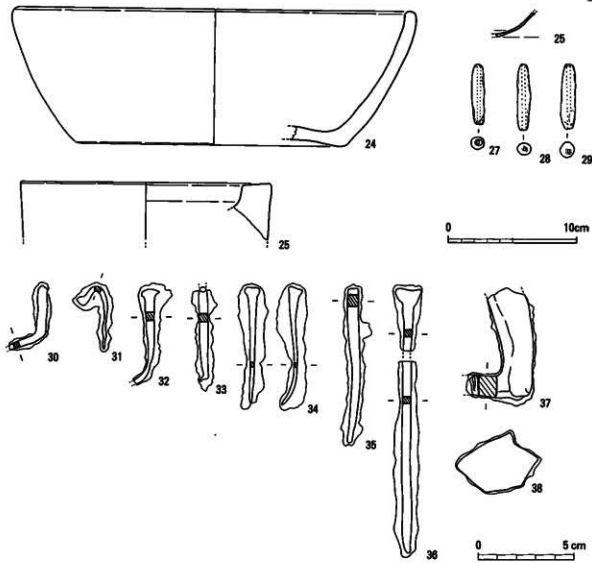
第93図 SK085出土遺物実測図① (1/3)



第94图 SK085出土遺物実測図② (1/3)



第95图 SK085出土遺物実測図③ (1/3)



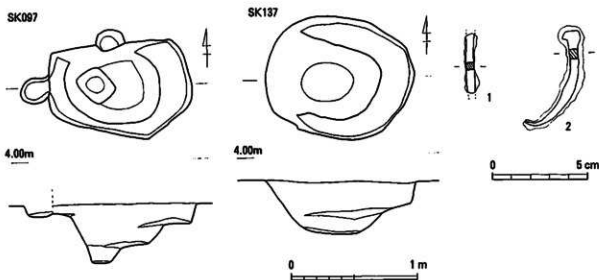
第96図 SK085出土遺物実測図④ (1/3, 1/2)

SK097 (第97図)

SK097は上層遺跡群に属する遺構で、L16区中央付近に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、二段に構築されている。規模は長径1.1m、短径0.7m、深さは約35cmである。埋土は灰茶褐色土で、焼土・炭・砂を含んでいる。土坑の北側と中央に柱穴があり、これらによって構築している。埋土中からは遺物の出土はほとんどない。土坑の時期は埋土の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に構築された土坑で、16世紀末葉に比定される。

SK097出土遺物 (第97図)

第97図1は釘で、頭部と先端部分を失っている。断面形は方形を呈している。



第97図 SK097・137実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/2)

SK137 (第97図)

SK137は上層遺跡群に属する遺構で、K16区に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は長径1.4m、短径0.95m、深さは約40cmである。埋土は2層確認された。上層は灰黄褐色粘質土で、焼土・炭を含んでいる。下層は灰褐色粘質土で、焼土・炭をほとんど含まない。埋土中からは遺物の出土はほとんどない。時期は土坑埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

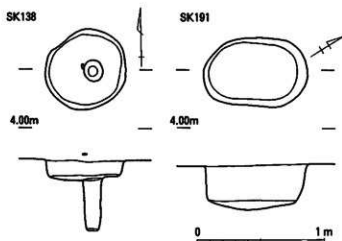
SK137出土遺物 (第97図)

第97図2は釘で、湾曲しているが全体を残している。断面形は方形を呈している。図示していないが、呉須赤絵の小破片一点が出土した。

呉須赤絵

SK138 (第98図)

SK138は上層遺跡群に属する遺構で、K16区に位置する。平面形態は円形を呈している。中央に柱穴痕が確認された。柱穴は掘り下げ後の確認で、土坑検出時及び埋土掘り下げ時には確認できなかった。規模は径0.6m前後、深さは約10cmである。埋土は灰黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からは中国景徳鎮窯系の青花の小破片が出土したが、器種・時期の特定はできなかった。時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。



第98図 SK138・191実測図 (1/30)

SK191 (第98図)

SK191は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.85m、短径0.55m、深さは約35cmである。埋土は暗黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からの遺物の出土はない。時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

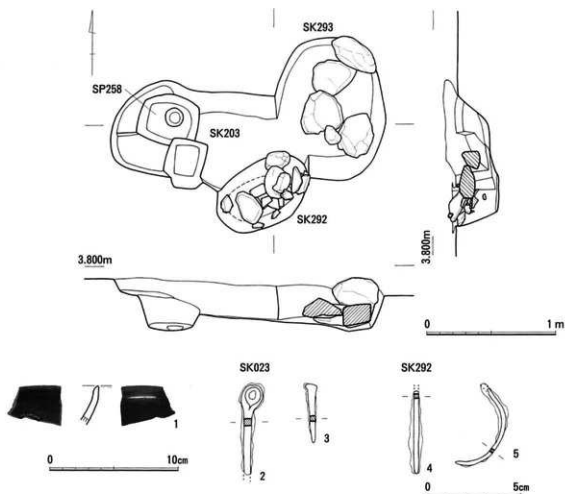
SK203 (第99図)

中国産天目茶碗

SK203は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK292に南側の一部を、SK293に東側の一部を切られている。平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は長径1.35m、短径0.7m、深さ30cm前後である。埋土は黄褐色土で、焼土・炭を含んでいる。埋土中からは中国景德鎮窯系の青花や中国産天目茶碗の小破片・鉄製品が出土したが、ほとんど器種・時期の特定はできなかった。遺構の時期は土坑確認面の状況や埋土の様相からみて、16世紀末葉に比定される。

SK203出土遺物 (第99図)

第99図1は中国産天目茶碗の口縁部の破片である。白色系の胎土である。2は火箸の一部で、捻り手部分である。3は釘で原形を残している。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。



第99図 SK203・292・293実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

第2節 遺構と遺物

SK292 (第99図)

SK292は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK203の南側を切って構築されている。平面形態は楕円形状を呈する。規模は長径0.8m、短径0.5m、深さ35cm前後である。埋土は暗茶褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。また土坑内には一部被熱した人頭大の礫10個程が投げ込まれた状態で確認された。礫に混じて平瓦10数点・土師器小破片・鉄製品が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK292出土遺物 (第99図)

第99図4は釘で頭部を欠く。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。5は湾曲しているが釘の一部と思われる。針金等の可能性もある。

SK293 (第99図)

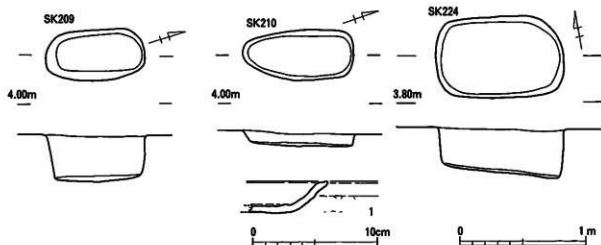
SK293は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。SK203の東側を切って構築されている。平面形態は隅丸長方形形状を呈する。規模は長径1.1m、短径0.85m、深さ30cm前後である。埋土は暗茶褐色粘質土で炭・焼土を多量に含む。また土坑内には大型の建物礎石5点が確認された。これらの礎石は被熱している。埋土中からは土器の小破片がわずかに出土したが、図示できる個体ではない。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SK209 (第100図)

SK209は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.75m、短径0.4m、深さは約35cmである。埋土中からの遺物の出土はない。廃棄土坑と思われ、遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK210 (第100図)

SK210は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径0.9m、短径0.4m、深さは約10cmである。埋土中からは京都系土師器破片数点が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第100図 SK209・210・224実測図及び出土遺物実測図 (1/30, 1/3)

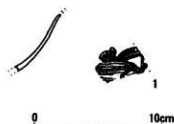
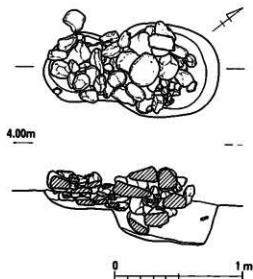
SK210出土遺物 (第100図)

第100図1は京都系土師器の皿で、2期あるいは3期の特徴を有する製品である。

SK224 (第100図)

廃棄土坑

SK224は上層遺跡群に属する遺構で、L13区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.0m、短径0.65m、深さは約35cmである。埋土中からの遺物の出土はない。廃棄土坑と思われる。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第101図 SK252実測図
及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

SK252 (第101図)

被熱した礎石

SK252は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。当初礎群が検出されたため、遺構の周囲を確認すると不定形の掘り込みラインを検出した。礎群除去後に精査すると、当遺構は南から北にかけて段落ちする土坑であった。平面形態は隅丸長方形が2基連なっている形態である。規模は南側が長径0.55m、短径0.5m、深さ約15cm、北側が長径0.8m、短径0.7m、深さ約35cmである。埋土は黄褐色粘質土で炭・灰を多量に含んでいる。また土坑内には被熱した人頭火の礎がぎっしりと詰まっている。この礎中には建物の礎石数点が確認された。礎に混じって磁器や土師器の破片が出土している。遺構の時期は土坑の様相や出土遺物の年代観からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

廃棄土坑

SK252出土遺物 (第101図)

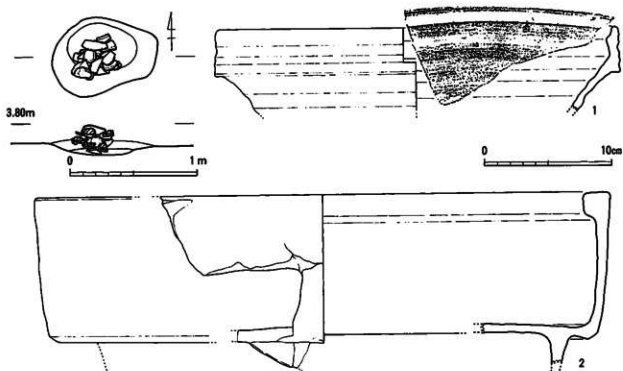
図示した遺物は中国景德鎮系系の青花碗で、胴部破片である。他は小破片で図示できない。

SK253A (第102図)

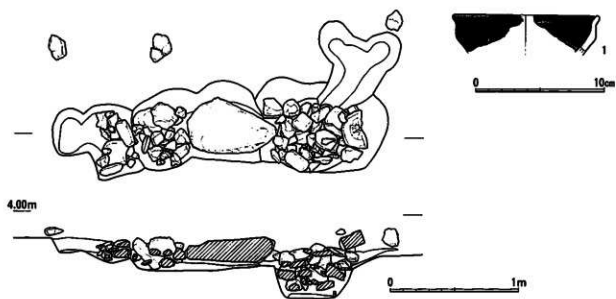
廃棄土坑

SK253Aは上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。当初はSK253Bと連なった溝状の土坑と考えていたが、精査していくと、1基の独立した土坑となった。平面形態は不定楕円形状を呈する。規模は長径0.85m、短径0.55m、深さ10cm前後でレンズ状の土坑である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。また土坑内には一部被熱した径15cm前後の礎20数個が投げ込まれた状況で確認された。礎に混じって平瓦・備前陶器等が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

第2節 遺構と遺物



第102図 SK253A実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)



第103図 SK253B実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

SK253A出土遺物 (第102図)

第102図1は備前福鉢の口縁部で、内面には斜め摺目が施されている。近世1期の初期の所産である。2は瓦質土器の火鉢で内外面ともナデ調整を行っている。また、底部脚部分には隠れ砂が残っている。

SK253B (第103図)

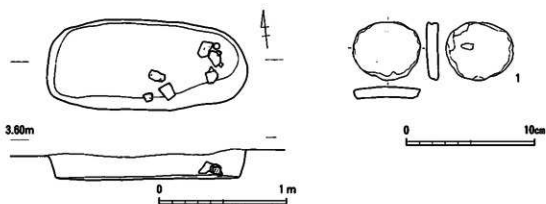
SK253Bは上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。礎群が進んでおり、溝状の土坑と考えていたが、精査していくと3～4基の隅丸長方形の土坑の重なりであった。規模は全長で2.65m、短径0.5～0.7m、深さ10～30cm前後である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。また土坑内には一部被熱した人頭大の踏多数と、長さ70cm、厚さ30cm前後の礎石と考えられる大型の石が投げ込まれた状況で確認された。礎に混じって平瓦や石臼等の破片が出土している。遺構の時期は土坑の様相からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄土坑と考えられ、16世紀末葉に比定される。

礎石

廃棄土坑

SK253B出土遺物 (第103図)

図示した遺物は瀬戸美濃系の天目茶碗の口縁部である。



第104図 SK254実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

SK254 (第104図)

SK254は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.55m、短径0.7m、深さは約20cmである。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を多量に含む。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK254出土遺物 (第104図)

図示した遺物は、土師質土器を再加工した製品で、周辺部に研磨を加え、径5cm前後の円形に加工している。遊具として使用された可能性が高いものと考えられる。

SK255 (第105図)

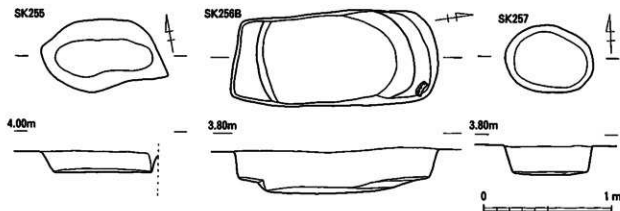
SK255は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。平面形態は不定方形を呈している。規模は長径1.0m、短径0.5m、深さは15cm前後である。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を含む。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK256B (第106図)

SK256Bは上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.6m、短径0.75m、深さは約30cmである。埋土は暗灰褐色粘砂土で炭・焼土を含む。埋土中からは備前搦鉢の口縁部片が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK257 (第106図)

SK257は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.7m、短径0.5m、深さは約20cmである。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。埋土中からは遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



第106図 SK255・256B・257実測図 (1/30)

SK262 (第106図)

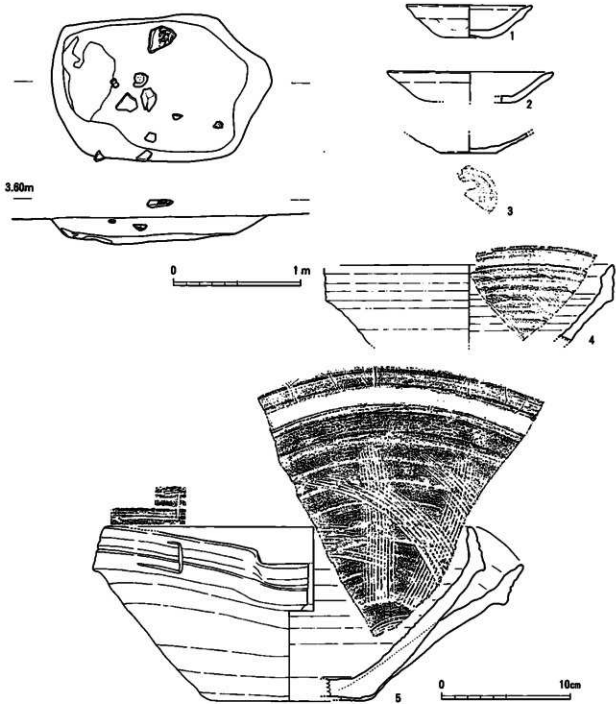
SK262は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈している。規模は長径1.5m、短径1.15m、深さは約20cmである。埋土は2層確認できた。上層は灰黄褐色砂質土で、砂粒が主体で一部黄色粘砂土がブロック状に混入している。下層は暗茶褐色土で、焼土・炭が混入し、ほぼ全面に堆積している。上層埋土からは京都系土師器や備前搦鉢が出土している。下層からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況や出土遺物の年代観、層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。

SK262出土遺物 (第106・107図)

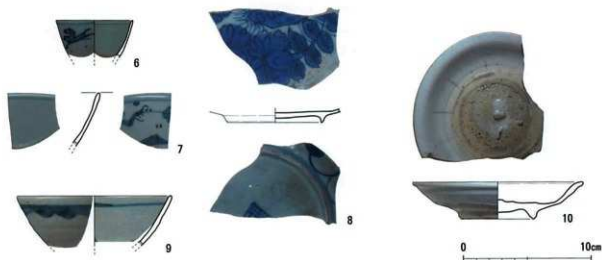
第106図1・2は京都系土師器の皿で、口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。3は在地産の土師質土器皿の底部で糸切り痕が見られる。4は備前系陶器の搦鉢の口縁部である。内面には斜め襷目が施されている。近世1期の所産であろう。5も備前系陶器の搦鉢である。内面には放射状襷目と斜め襷目が交差する襷目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。第107図6～8は中国景徳鎮窯系の青花である。6は小坏の口縁部、7はE群皿の口縁部破片、8はE群皿の底部で、内底部に銘款が認められるが、残存部分が少なく判読できない。9は中国漳州窯系青花碗の口縁部破片である。10は中国産白磁の皿である。高台内面と見込みが露胎となる。

SK266 (第108図)

SK266は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。平面形態は方形を呈している。規模は長径1.6m、短径1.1m、深さは15cm前後である。埋土は灰茶褐色粘質土で焼土・炭はほとんど混入していない。床面で径15cm程の鏝1点が出土している。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第106図 SK262実測図及び出土遺物実測図① (1/30、1/3)



第107図 SK262出土遺物実測図② (1/3)

SK273 (第108図)

SK273は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。平面形態は不定形を呈している。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さは15cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、床面全域で厚さ5cm程度の炭層が確認された。その上に白色粘質土がうすく堆積している。さらに炭層がみられる。遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況等からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK274 (第108図)

SK274は上層遺跡群に属する遺構で、L14区、SK274の東4m付近に位置する。平面形態は隅丸方形を呈している。規模は一辺0.5m程度、深さは20cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期は土坑確認面の状況等からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK276 (第108図)

SK276は上層遺跡群に属する遺構で、L16区、SK077を切って構築されている。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.55m、短径0.4m、深さは10cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273・274と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期はSK077との切り合い関係や土坑確認面の状況等からみて、16世紀末葉に比定される。

SK277 (第108図)

SK277は上層遺跡群に属する遺構で、L16区、SK065・074を切って構築されている。平面形態は不定形を呈している。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さは20cm前後である。土坑内の埋土の堆積状況は、SK273・274・276と同様で、遺構の正確は不明である。埋土中からの遺物の出土はない。遺構の時期はSK077との切り合い関係や土坑確認面の状況等からみて、16世紀末葉に比定される。

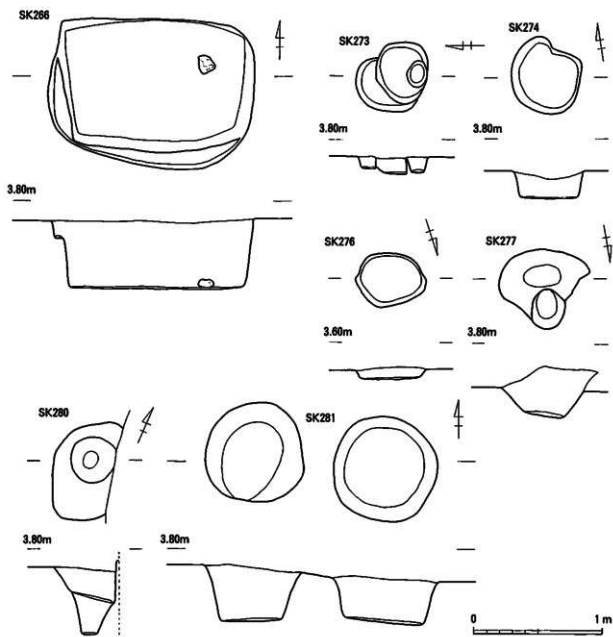
SK280 (第108図)

SK280は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。東側の一部をSE075に切られている。

平面形態は隅丸方形を呈している。中央部に掘り込みがみられ、柱穴の可能性もある。規模は長径0.8m、短径0.5m、深さは50cm前後である。埋土の観察では柱穴の掘り込みは確認できなかった。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。

SK281 (第108図)

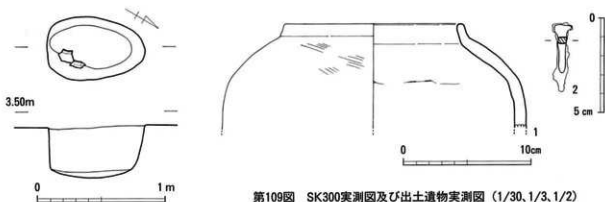
SK281は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。同様の土坑編形が2基確認されたため、西からそれぞれSK281A・281Bとする。形態はA・Bとも円形を呈している。規模は一辺0.8m前後、深さはAが約40cm、Bが約35cmである。埋土中からは土師器破片数点が出土したがいずれも小破片であった。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第108図 SK266・273・274・276・277・280・281実測図 (1/30)

SK300 (第109図)

SK300は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。平面形態は楕円形を呈している。規模は長径0.75m、短径0.5m、深さは40cm前後である。埋土は茶褐色粘質土で炭・焼土を含む。埋土中からは数点の遺物が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀末葉に比定される。



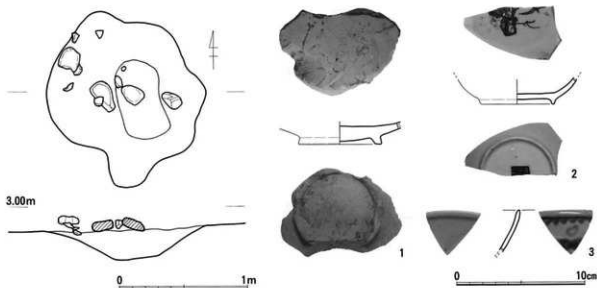
第109図 SK300実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

SK300出土遺物 (第109図)

第109図1は土師質土器の壺の一部分である。外面の一部は黒変している。2は釘で、下部を欠く。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

SK311 (第110図)

SK311は上層遺跡群に属する遺構で、L・M16区に位置する。SK254の下層で確認された。平面形態は不定形を呈している。規模は長径1.3m、短径1.1m、深さは20cm前後である。埋土中からは数点の遺物が出土した。遺構の時期は土坑確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後半～末葉に比定される。



第110図 SK311実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

SK311出土遺物 (第110図)

緑釉陶器

第110図1は緑釉陶器の底部で、猿投窯の製品であろう。見込みに毛彫りの花文を施している。時期は特定できないが、7～11世紀代の製品である。2は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿の底部である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。3は中国漳州窯系青花碗の口縁部破片である。

4. 集石遺構

第18次東調査区では6基集石遺構が確認された。上層遺構群に属するものである。土取り後天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄遺構と考えられる遺構がほとんどである。

SX080 (第111図)

廃棄土坑

SX080は上層遺跡群に属する遺構で、L16・17区に位置し、SK077と接している。土層確認用のトレンチ掘り下げ時に多量の礫群が検出されたため精査を行ったが、掘形ラインは確認できなかった。しかし先述したSK077と同様に礎石等の廃棄土坑の可能性を持つ。礫群は拳大から人頭大の礫で東西に長く廃棄されている。ほとんどが被熱している。規模は東西1.5m、南北0.8mの範囲内に約40cmの高さで構築されている。この礫中には建物の礎石数点が確認されたが、土器等の遺物の出土はない。遺構の構築時期は遺構の様相や周辺状況からみて、天正14年(1586)12月の島津侵攻後に整地された時の廃棄遺構と考えられ、16世紀末葉に比定される。

SX244 (第112図)

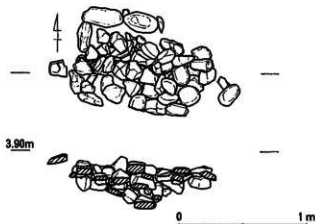
SX244は上層遺跡群に属する遺構で、L14区北東隅に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。東西2m、南北1.5mの範囲にほぼ散発的に礫が確認された。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大の礫で構成されている。被熱した石は見受けられず、礎石等も確認できなかった。集石掘り下げ中に陶磁器や土師器等の遺物が出土している。時期は確認面の状況や層位的な所見、遺構の様相や出土遺物の年代観から、構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

SX244出土遺物 (第112図)

第112図1は中国漳州窯系の青花碗の底部である。2も中国漳州窯系の青花盤の底部である。3は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後半に比定される。4は京都系土師器の皿で、口縁部は外反し、器壁は厚くなる。2期の特徴を示す資料である。5は頂部を欠くが釘で、断面形は方形を呈している。

SX245A (第113図)

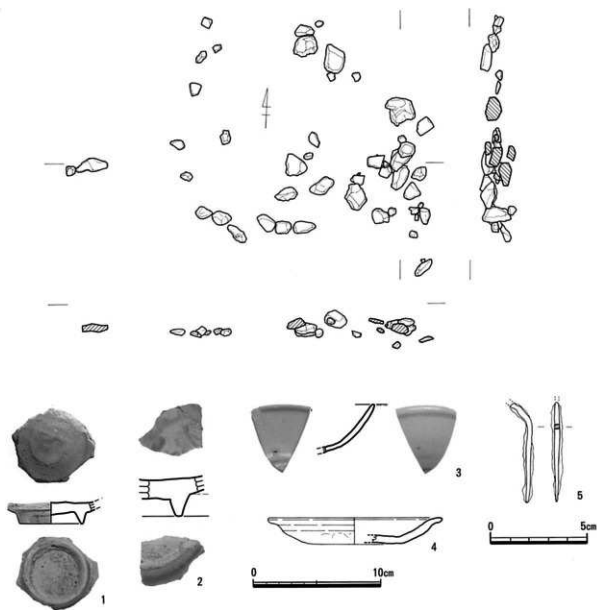
SX245Aは上層遺跡群に属する遺構で、L・M14・15区に位置する。東側は調査区外に延びる。土取り後の整地層上に構築されている。東西1.1m以上、南北0.7mの範囲にほぼ散発的に礫が確認された。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大の礫で構成されている。被熱した石は見受



第111図 SX080実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物

けられず、礎石等も確認できなかった。集石掘り下げ中に土師器等の遺物が出土している。遺構の時期は遺構の様相や出土遺物の年代観からみて、構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

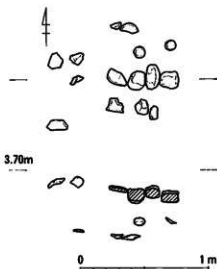


第112図 SX244実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3、1/2)

SX245A出土遺物 (第113図)

巴文

第113図1は在地系の瓦質土器火鉢の口縁部である。燒きがやや甘い。外面の突帯間に刻印による巴文を施している。2は京都系土師器の皿で、器壁は厚くなる。3期の特徴を示す資料である。3は土鍾である。

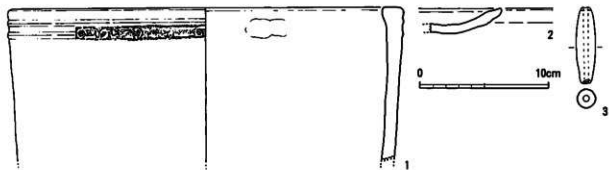


第113図 SX245A実測図 (1/30)

SX302 (第115図)

SX302は上層遺跡群に属する遺構で、L14区に位置する。土取り後の整地層の中心に構築されている。整地は期間をおきながら整地を行っていたと思われ、遺構検出面の床面は灰白色の粘土層が薄く堆積している。集石は2カ所に亘ってみられる。西側は拳大から人頭大の礫を意図的に円形に並べている。約1m東側では、

4個の大型礫を南北方向に1列に並べている。掘り込み等もなく、施設の確認はできなかった。円形礫群は、径0.7m前後である。被熱した石は見受けられず、礎石等も確認できなかった。集石掘り下げ中に陶器片1点が出土しているが、当遺構に伴うかは不明である。時期は遺構確認面の状況や層位的な所見からみて、16世紀後葉から末葉に比定される。



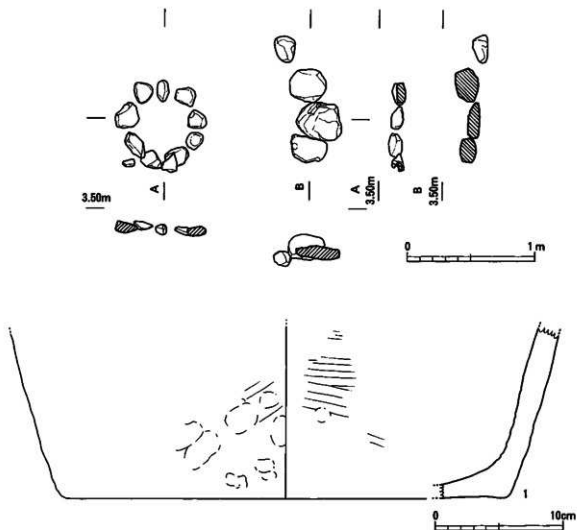
第114図 SX245A出土遺物実測図 (1/3)

SX302出土遺物 (第115図)

図示した遺物は備前陶器の大甕の底部である。内部下面には自然軸が掛かっている。底部のため時期は不明である。

SX303 (第116図)

SX303は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。掘形ラインは確認できなかった。礫群は拳大から人頭大の礫で東西に長く廃棄されている。被熱した石はみられない。規模は東西2.0m、南北0.4mの範囲で、高さは約30cmである。集石掘り下げ中



第115図 SX302実測図及び出土遺物実測図 (1/30、1/3)

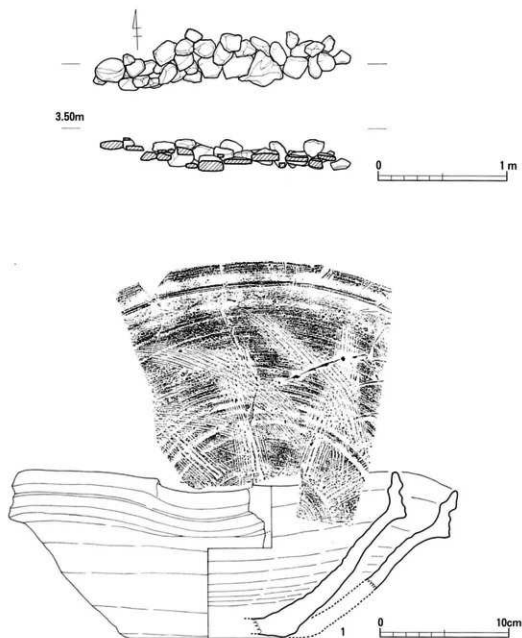
に陶器片1点が出土しているが、当遺構に伴うかは不明である。遺構の様相や出土遺物の年代観から構築時期は16世紀末葉に比定される。

SX303出土遺物 (第116図)

図示した遺物は備前陶器である。擂鉢で、内面には放射状罫目と斜め罫目が交差する罫目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。

SX309 (第117図)

SX309は上層遺跡群に属する遺構で、L15区に位置する。土取り後の整地層中に構築されている。遺構検出の床面には灰白色の粘土層が薄く堆積している。掘形ラインは確認できなかった。礎群は拳大から人頭大の礎で東西に長く廃棄されている。被熱した石はみられない。規模は東西2.7m、南北0.4mの範囲で、高さは約30cmである。集石掘り下げ中の遺物の出土はない。遺構の時期は遺構の様相や出土遺物の年代観から構築時期は16世紀後葉～末葉に比定される。



第116図 SX303実測図及び出土遺物実測図 (1/30, 1/3)

5. 井戸

第18次東調査区では5基の井戸跡が確認された。1基(SE176)を除き、全て上層遺構群に属するものである。16世紀後半代に比定される町屋関連の遺構と推定され、検出位置は調査区の東端に集中している。他地区でみられる井戸相互の切り合いや掘り直し等はみられない。全て単体での検出である。

SE176は奈良時代の井戸跡であり、当時期以外の遺物は1点も含まない。

SE176 (第118図)

奈良時代の
井戸

SE176は奈良時代の井戸で、L16区に位置する。当遺構は16世紀中葉頃の大規模な土取り作業による削平から免れ、上面削平はあるものの主要施設はそのまま残されていた。平面形態は方形を呈する。規模は一辺1.9~2.0m、検出面からの深さは1.5mである。井筒床面の標高は2.4mで、現在の湧水部までは到達していないが、井戸掘形の底部は、小礫混じりの砂利層である。当時の湧水点はこの位置まできていたと考えられる。井筒部掘形の平面プランは楕円形で、長径0.9m、短径0.45mである。井筒本体と埋土間に腐食した木質が残り、空洞が生じている。底部分の井筒は楕円形であるが、全体は回らず、端が互い違いに外れた様相が認められた。この現象は土圧による変形と思われるが、本来の平面形態が楕円形であった可能性も十分考えられる。床面は、礫を敷くこともなく、曲物等の施設も確認できなかった。遺物は土師器皿や坏等が井筒内や、井戸掘形から多数出土している。他の時期の混入は認められない。遺構の時期は出土遺物から8世紀前半代に比定される。

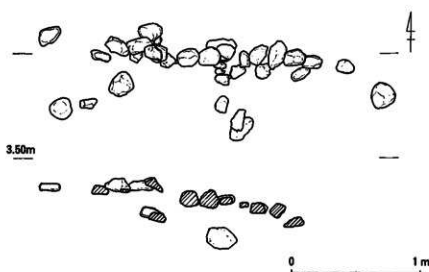
SE176出土遺物 (第119図)

第119図1~5は土師器皿で、いずれも破片のため一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。皿の可能性も持つ。6・7・10・11は土師器坏で、いずれも破片のため、一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。底部は回転ヘラ切りの後に回転ナデ磨きを施している。8・9は土師器塊で口縁部の破片である。いずれも回転磨きを施している。12は土師器壺で、胴部の一部である。内面は回転ナデ、外面は回転磨きを施している。13~15は土師器盤でいずれも破片のため、一部反転復元を行っている。内外面とも丁寧な磨きを施している。17・18は土師器坏蓋である。17は天井部がほぼ平らで、中央部に疑宝珠つまみを有する可能性を持つ。18は天井部が高くほぼ平らである。中央部に疑宝珠つまみを有する。19~21は高台付き坏で、高台を底部外方向に付けている。22は土師器坏身で、底部が丸みをおびる。16・23~35は土師器坏身で内外面とも回転ナデの後、丁寧な磨きを施している。32・33は外面にススが付着している。36は土師器製の口縁部破片で、内面は横ナデ、外面は格子目タタキを施している。

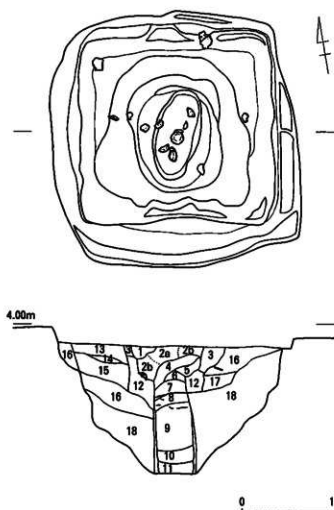
SE075(第120図)

SE075は上層遺構群に属する遺構で、L16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。井戸の掘形はやや楕円形に近い円形のプランである。規模は長径(東西)3.3m、短径(南北)3.0m、確認面からの深さは3.1mである。土層確認や掘り下げ後においても、井戸枠等の内部施設の状況は確認できなかった。井戸の最下層には厚さ1.2mにおよぶ暗青灰色の粘土層が堆積しており、内部からは井戸枠等の木質片多数が出土している。また、中央部分にパイプ状の鉄製品が、刺さった状態で確認された。空気抜き用の施設であろう。粘土層除去後の床面は黄褐色の砂利層である。この面で湧水が認められるため、井戸最下層であろう。この井戸は廃絶時に井筒等の施設の除去など全体を掘り返し、下層に粘土を充填したと考える。埋土中層からは、拳大から人頭大の礫が約30cmの厚みで、多量に廃棄された状況で確認された。いずれも井戸封じの一つと考えられる。礫中からは瓦や、陶磁器、石臼等が出土している。遺構の時期は出土遺物の年代観から、16世紀後半に比

礫の廃棄
井戸封じ

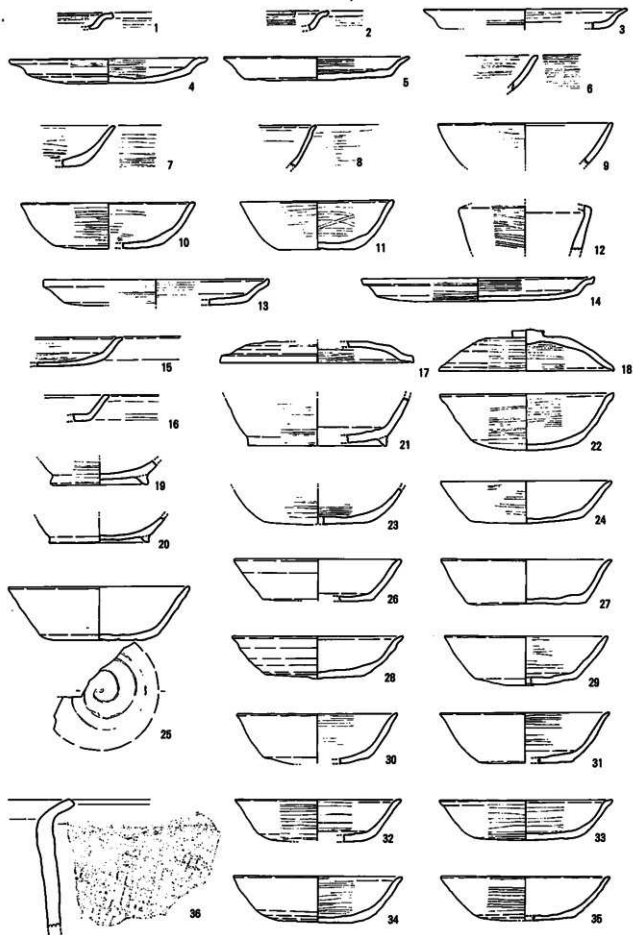


第117図 SX309実測図 (1/30)



- 1 暗灰黄色粘質土 (2.5Y5/2)
- 2 a 淡黄色粘質土 (2.5Y7/3)
焼土・炭わずかに混じる
- 2 b 淡黄色土 (2.5Y8/4)
鉄分混じり、ソフトである
- 3 黄灰色土 (2.5Y6/1)
砂混じり、ソフト
- 4 にぶい黄色粘砂土 (2.5Y6/4)
全体に砂混じり
- 5 淡黄色土 (2.5Y8/3)
バサバサしている
- 6 にぶい黄色粘砂土 (2.5Y6/3)
4層とほぼ同様である
- 7 淡黄色粘質土 (2.5Y7/4)
やや灰色を帯びる、鉄分含む
- 8 淡黄色粘質土 (2.5Y7/4)
7層と同様であるが、ややソフト
- 9 灰色粘質土 (5Y7/2)
粘質が強い
- 10 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)
粘質であるが、バサバサ感がある
- 11 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1)
粘質土
- 12 灰白色粘質土 (2.5Y7/1)
わずかに焼土・炭混じり
- 13 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2)
やや砂混じり
- 14 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)
焼土・炭混じり、粘質で硬い
- 15 灰黄色粘質土 (2.5Y7/2)
13層と同じであるが、やや硬い
- 16 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)
焼土・炭混じり、粘質で硬い
- 17 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)
16層よりややソフト
- 18 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)
17層よりやや硬い

第118図 SE176実測図 (1/40)



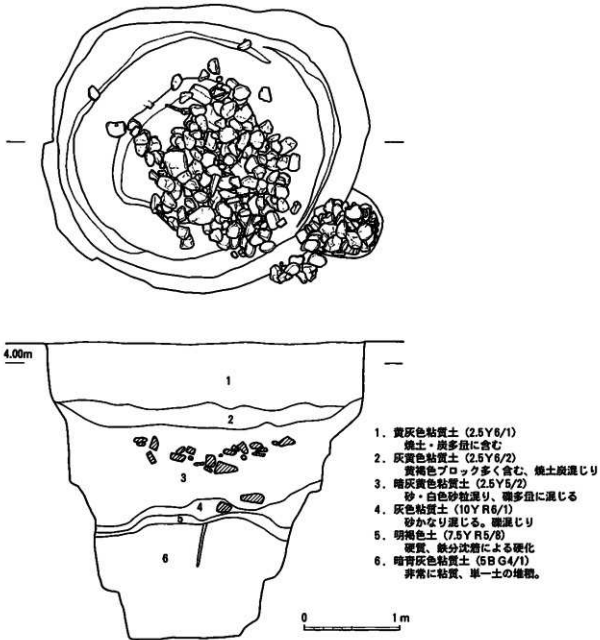
第119图 SE176出土遺物実測図 (1/3)

定される。

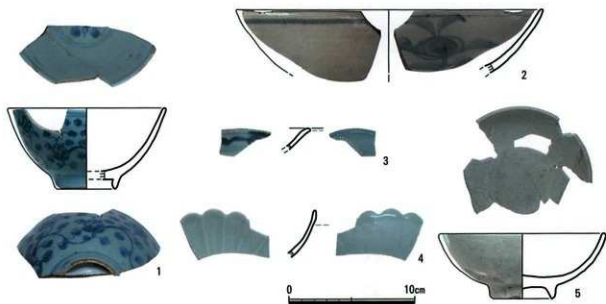
SK294 (第120図)

SK294は上層遺跡群に属する遺構で、L16区に位置する。井戸(SE075)堀形の南東で、井戸に切られるように礎を多量に含んだ土坑状の掘り込みを確認した。このSK294は調査当初、土坑として認識していたが、調査途中で井戸の埋め戻しのための礎の廃棄として使用していたと判明した。

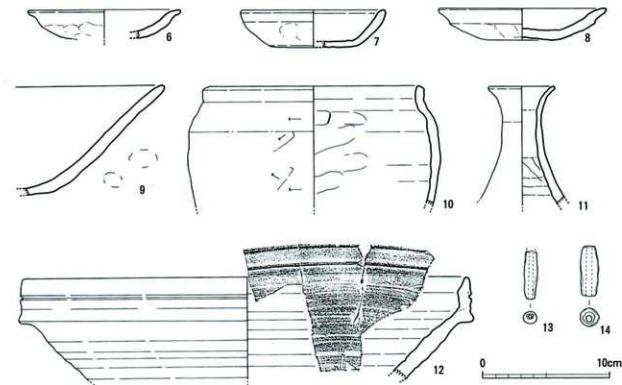
礎廃棄位置 遺構の時期(井戸の廃棄時期)はSE075と同様の時期と考える。



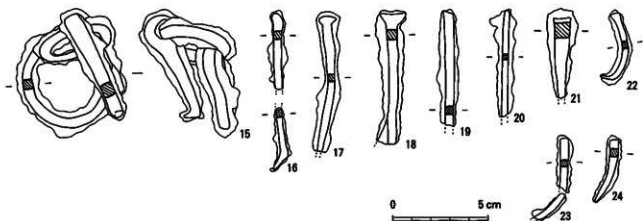
第120図 SE075・SK294実測図 (1/40)



第121図 SE075出土遺物実測図① (1/3)



第122図 SE075出土遺物実測図② (1/3)



第123図 SE075出土遺物実測図③ (1/2)

SE075出土遺物 (第121～123図)

第121図 1は中国景德鎮窯系の製品で、青花碗である。小野分類のC群に分類され、16世紀前半に比定される。2は中国漳州窯系の製品で、青花大皿の口縁破片である。3は中国景德鎮窯系の製品で、青花皿の口縁破片である。4は中国産の青磁で、菊花皿の口縁部である。5も中国産の青磁碗で、二次被熱している。

第122図 6～8は京都系土師器皿で、いずれも被熱している。2～3期の様相を示す資料である。9は瓦質土器の鍋の破片である。内外面とも不定方向のナデを施し、外面にはスガが付着している。10は瓦質土器の壺である。外面はへう削りを施している。11はロクロ成形による国産陶器の瓶の口縁から頸部にかけての破片である。暗灰色を呈し、頸部内部には絞り痕がみられる。12は備前陶器である。楕円で、内面には斜め楕目が施されている。近世1期の時期と考える。13・14は土鍾である。

第123図は全て鉄製品である。埋土上層からの出土である。15は馬具の轡の一部である。16～24は釘で、錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

馬具

SE079 (第124・125図)

SE079は上層遺跡群に属する遺構で、L14・15区に位置する。土取り後の整地層上に構築されている。井戸の掘形はやや重なり円形のプランである。規模は長径(東西)3.1m、短径(南北)2.9m、深さ3.0mである。遺構検出段階で、掘形のほぼ中央部分に大型の礫を多量に破棄した状況が確認された。この状況は検出面から中層までほぼ2mの厚さで堆積している。礫中には陶磁器・木器や土器等多量の遺物を含んでいる。この礫を含む埋土中からは、井戸枠等の内部施設の状況は確認できなかった。礫混じりの埋土を除去すると、井筒は井戸下方の掘形のやや北東で確認された。標高は1.4mで、検出面からの深さは2.3mである。井筒部は井筒の周囲を取り囲むように厚さ10cm前後、一辺を湾曲に削った凝灰岩6枚を使用して(第125図)、配置した施設を検出した。径は0.6mである。水溜部には結桶が使用されている。残りは非常によく、円形で上部径0.58m、下部径0.68m、高さ0.58mである。桶は厚さ1cm前後、幅8cm前後の板材19枚を組み合わせて構築し、目釘穴と一部釘が残っていた。桶の周囲には4段にわたり竹で編んだ籠が確認された。籠の残りも非常に良かったが、空気に触れることで、桶から外れ、籠本来の役目を終えた。桶除去後の床面は砂利層で、湧水が数カ所で確認できた。湧水点の標高は0.7mである。井筒内からは木器を中心に多くの遺物が出土している。井戸廃棄行為は、井筒部分には及んでいない。井筒より上位は施設の除去など全体

凝灰岩を6枚配置

結桶

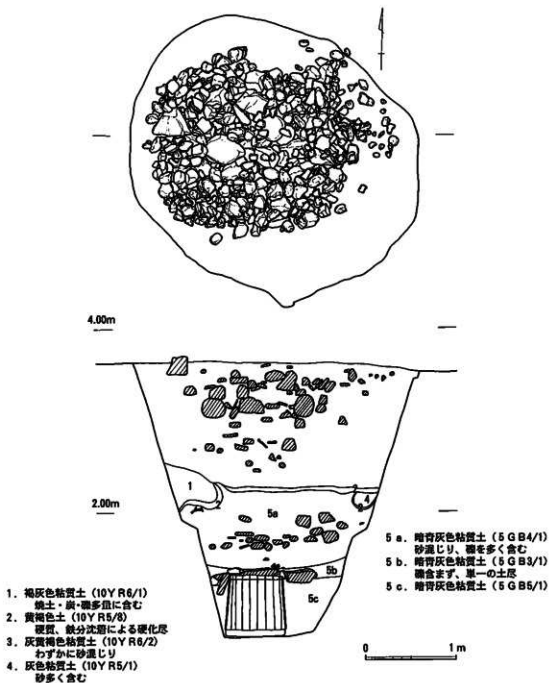
籠

湧水点

第2節 遺構と遺物

井戸廃業
行為 を掘り返し、最初の行為で、約1mを埋め戻している。その後残り上部をもう一度埋め直しているが、その間に時間の経過が見られる。上部施設の痕跡はないが、廃棄された隙中に凝灰岩が含まれることから、井筒部は石組みの可能性も考えられる。さらに上層の埋土の状況から天正14年（1586）

二次使用 12月の島津侵攻後に整地された時期の廃棄土坑として二次使用されたと考える。遺構の実測図（第125図）には結桶の設置状況を模式的に図示している。井戸の構築時期および廃絶時期は出土遺物の年代観から、16世紀後半に比定される。



第124図 SE079実測図① (1/40)

SE079出土遺物 (第126～133図)

第126図1～3は銭貨である。

銭貨

1・2は中国北宋代の「至道元寶」である。書体は1が真書で、2が草書、初鋳年代は995年である。

3は無文銭である。

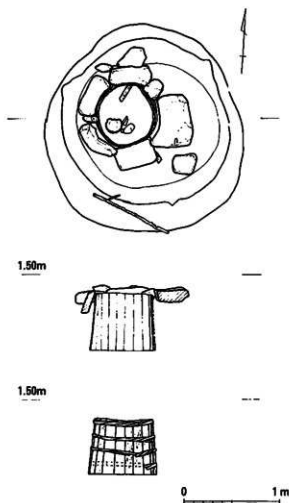
華南三彩壺

第127図4は中国産の華南三彩壺の底部である。5は中国景德鎮窯系の製品で青花皿である。小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。高台内定部に「富貴雙全」銘が入る。6は中国景德鎮窯系の製品で青花碗である。E群に分類され、16世紀後葉に比定される。7は中国景德鎮窯系の製品で青花盤である。F群に分類され、16世紀末葉に比定される。

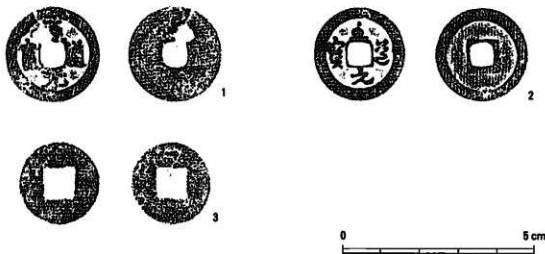
8は中国景德鎮窯系の製品と思われる青花皿である。9・10は中国産の白磁皿である。9は見込みが蛇の目状に軸刺ぎとなる。10は高台が露胎である。いずれも16世紀後半代に比定される。11は中国景德鎮窯系の製品で五彩の皿である。

五彩皿

12は中国産青磁の瓶の胴部であり、15～16世紀に比定される。13は瀬戸美濃系の折縁皿で、大窯3期か。



第125図 SE079実測図② (1/40)



第126図 SE079出土銭貨実測図 (1/1)

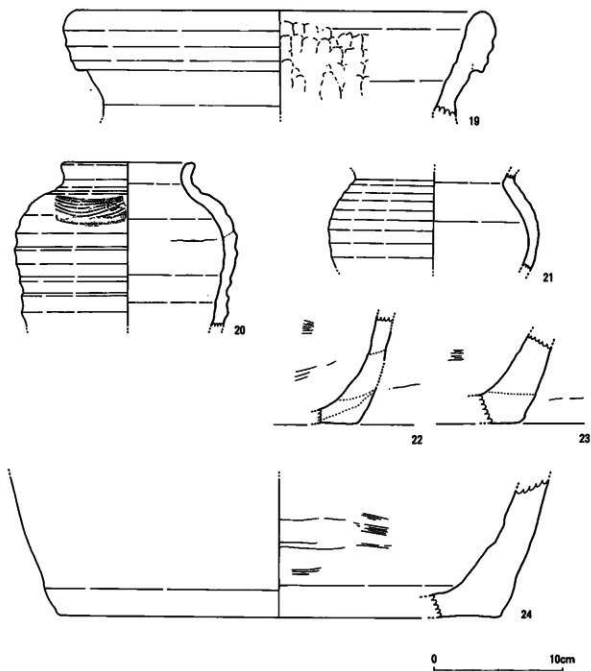


第127図 SE079出土遺物実測図① (1/3)

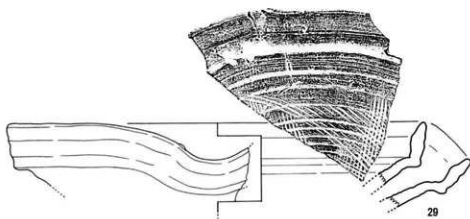
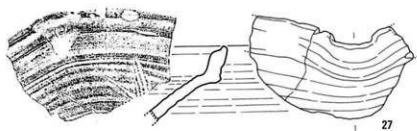
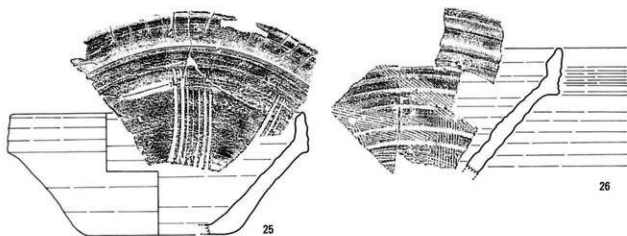
14～18は瀬戸英治系の大目茶碗である。

第128図は備前陶器である。19は大甕の口縁部破片で、自然軸が掛かる。井戸最下層からの出土である。20～23は瓶の一部である。20は底部を欠くが、外面肩部に撫描き波状文を施している。21は胴部の一部である。24は大甕の底部で赤褐色を呈している。23の内面には自然軸が掛かっている。外面はナデ調整で、内面はハケ目調整痕が残る。24は井戸最下層からの出土である。20・21は整地層出土遺物と接合する。

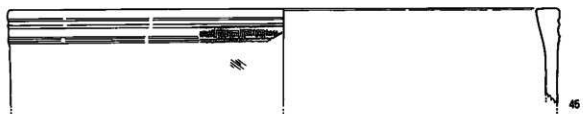
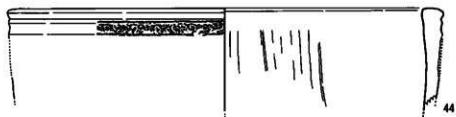
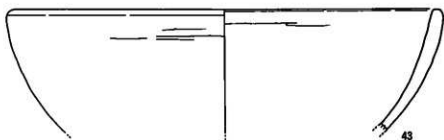
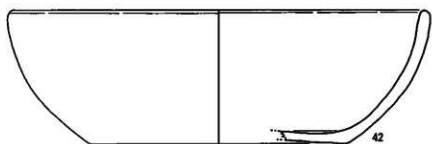
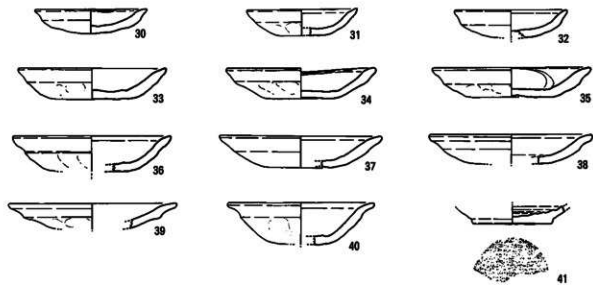
第129図も備前陶器の播鉢口縁部の破片である。25は7条の放射状播目が施されている。16世紀後半代に比定されよう。26～29はいずれも内面に放射状播目と斜め播目が施されている。近世1期



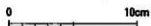
第128図 SE079出土遺物実測図② (1/3)



第129図 SE079出土遺物実測図③ (1/3)



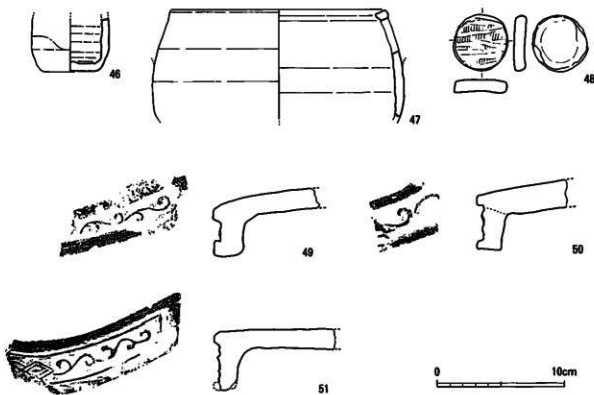
第130图 SE079出土遗物实例图④ (1/3)



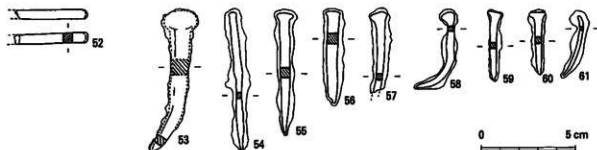
第2節 遺構と遺物

に比定され、16世紀末葉の初産である。

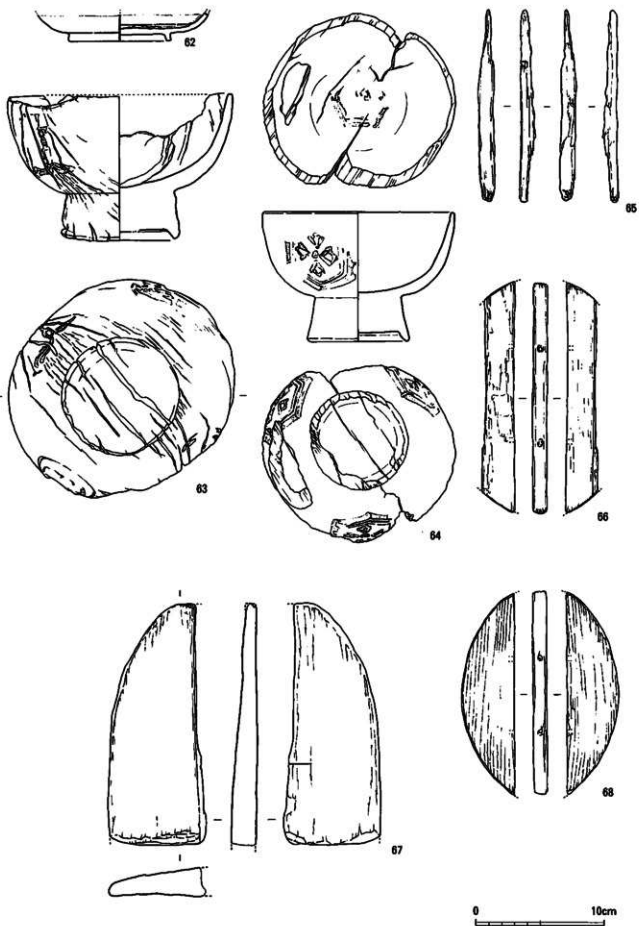
第130図30～39は京都系土師器の皿である。いずれも2～3期の特徴を有する製品である。30・31・34には内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。35は内面に「ノ」の字状のナデ仕上げ痕が認められる。40は京都系土師器の深手の坏である。2期に比定されるものか。41は底部に承切り痕を有する在地系土師質土器皿の底部片である。赤褐色の色調を呈するもので、京都系土師器皿と同じ胎土を用いて制作されたものである。42は土師質土器の鉢である。積み上げロクロ成形で、内外面とも丁寧なナデ仕上げを施している。外面の一部と内面は黒変している。43も土師質土器の鉢の口縁部破片である。積み上げロクロ成形で、内外面とも丁寧なナデ仕上げを施している。口縁端部はへら磨きによる調整を行っている。内面はススと焦げ目が付着し、外面は一部黒変している。44・45は瓦質土器の火鉢である。いずれも口縁部の破片であり、反転による復元である。44は外面の突帯間に巴文を、45は雷文を刻印によって施している。内外面ともハ



第131図 SE079出土遺物実測図⑤ (1/3)



第132図 SE079出土遺物実測図⑥ (1/2)



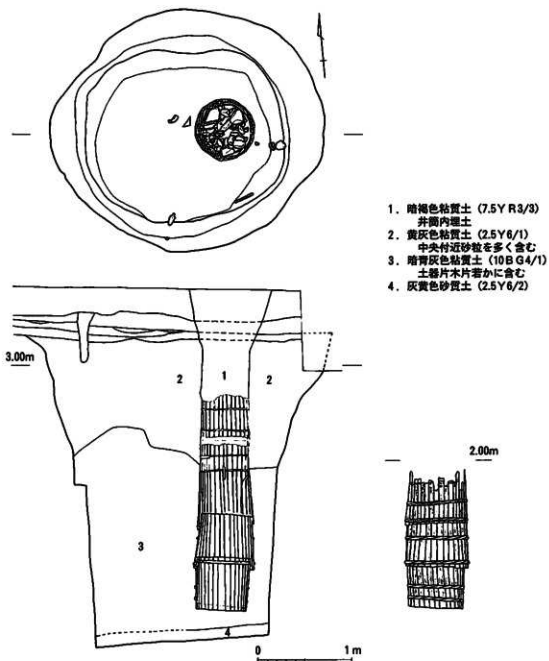
第133图 SE079出土遺物実測図⑦ (1/3)

第2節 遺構と遺物

ケ目調整の後、ナデ仕上げを施している。

第131図46は国産陶器の瓶底部である。暗灰色を呈し、ロクロ成形である。内外面とも回転ナデにより仕上げられていて、底部に刻印がみられる。47は国産陶器の片口鉢である。口径2.7cmの注ぎ口が付くが、注ぎ口は残存しない。この土器片は井戸埋土上層からの出土で整地層内の土器片とも接合する。48は土師質土器を再加工した製品で周辺部に研磨を加え、径4cm前後の円形に加工している。道具として使用された可能性が高いと考える。49~51は軒平瓦の瓦当部破片である。瓦当文様は素文様の均正唐草文である。49・50は破片のため中心飾りは確認できない。51の中心飾りは二重の菱形文を配し、内区に細い界線を持つ。瓦当成形は瓦当上面に平瓦凸面を貼り付けている。櫛目痕は確認できなかった。

軒平瓦
均正唐草文



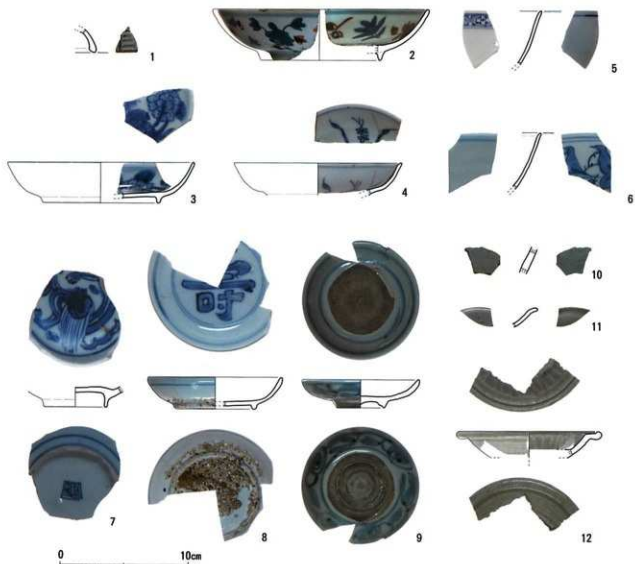
第134図 SE261実測図 (1/40)

錠前 第132図52は銅製品で錠前の一部である。断面形は方形を呈している。53～60は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。61は用途不明の製品である。

漆器皿・椀 第133図62は漆器の皿で、上部を欠く。内外面とも赤漆を施している。63・64は漆器椀である。63は内外面とも黒漆を施し、外面の4カ所に赤漆で紋様を描いているが残存状態が悪く、紋様形態は不明である。64は内外面とも黒漆を施し、外面の4カ所、内面見込みに一カ所、赤漆で紋様を描いている。紋様は「三重亀甲に花菱」と思われる。65は用途不明の木製品である。下方先端部分が焦げている。66・68は曲物底部分の破片である。二カ所に穿孔を施している。67は用途不明の木製品である。

SE261 (第134図)

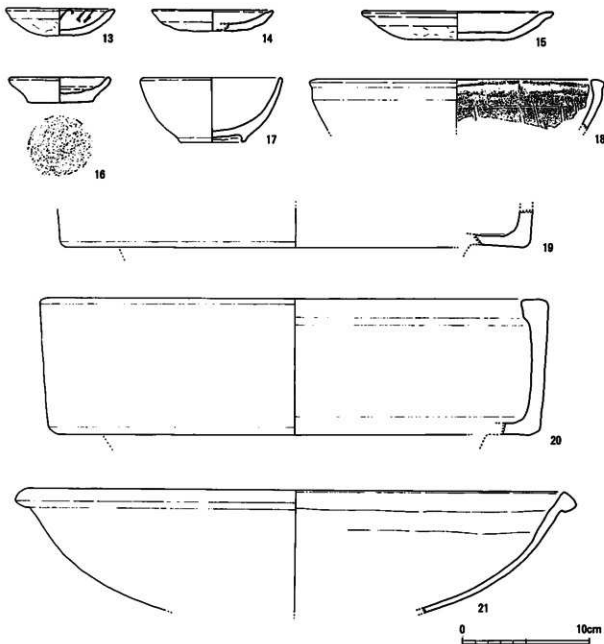
SE261は上層遺跡群に属する遺構で、L・M15区に位置する。土取り後の整地層上、16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構の東側に構築されている。井戸の掘形はやや歪な円形のプランである。規模は長径(東西)2.9m、短径(南北)2.5m、確認面からの深さ3.1mである。遺構検出段階



第135図 SE261出土遺物実測図① (1/3)

第2節 遺構と遺物

結桶 で、井筒の陥没が認められたため確認された。井筒は井戸掘形の東側に位置し、井筒掘形は円形で、
 3段の桶が残存 径0.5mである。水溜部には結桶が使用されている。残りは非常によく、井筒内部の土層観察など
 から4～5段の桶を組んでいたことが確認されたが、現存では3段の桶が残存している。1段目は
 1段目 標高2.7m～1.9mに位置し、2段の桶を使っていると推測されるが、元位置には木材は残っていない
 ため、壁面に残る范跡から推測した。残存1段目は標高1.9m～1.3mに位置し、上部は腐食して
 いるため、高さは確認できなかった。桶は厚さ1cm前後、幅5cm前後の板材34枚を組み合わせて構
 2段目 築している。2段目は標高1.5m～0.9mに位置し、桶は厚さ1cm前後、幅5cm前後、長さ56cmの板
 3段目 材34枚を組み合わせて構築している。3段目は標高1.0m～0.45mに位置し、桶は厚さ1cm前後、
 目針穴 幅5cm前後、長さ56cmの板材33枚を組み合わせて構築している。目針穴と一部釘が残っていた。桶
 桶 の周囲には3段にわたり竹で編んだ桶が確認された。桶の残りも非常によかったが、空気に触れる
 湧水 ことで桶から外れ、本来の役目を終えた。桶除去後の床面は砂利層で、湧水が数カ所で確認され、



第136図 SE261出土遺物実測図② (1/3)

調査中も水が噴出していた。湧水点の標高は0.45mである。3段目の桶内には拳大の鏝を多量に廃棄している様相から、井戸の廃棄に関わる呪術的な行為を行ったと考えられる。井戸の構築時期および廃絶時期は出土遺物の年代観・切り合い等からみて、16世紀後葉頃に比定される。

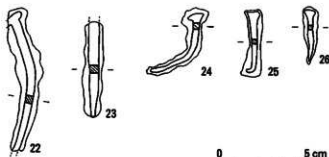
SE261出土遺物(第135~138図)

鉄絵合子
五彩皿

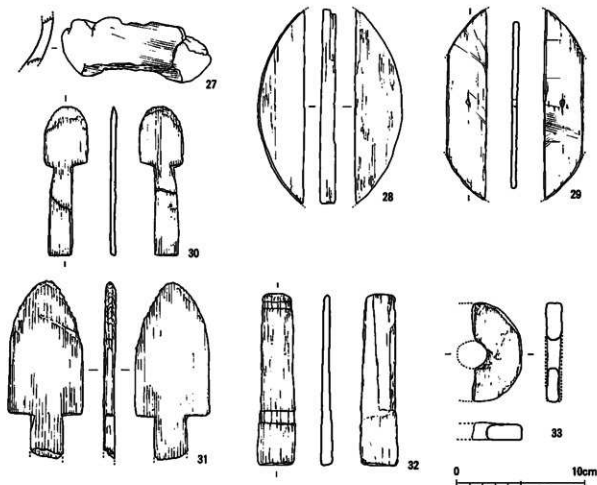
第135図1はタイ産陶器の鉄絵合子の蓋である。井戸掘形埋土内の出土である。2~8は中国景德鎮窯系の製品である。いずれも小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。2は五彩皿である。3・4・8は青花皿である。8は高台の内外面に多量の砂が付着している。また見込みに「壽」字の一部が読み取れる。5・6は青花碗の口縁破片である。5は外面に毛彫り花文が施されている。9は中国漳州窯系の青花皿である。見込みが軸刺ぎとなり、高台は露胎である。10は中国産青白磁の梅瓶の胴部破片である。時期は14~16世紀代に比定される。11は中国白磁皿の口縁

毛彫り花文

梅瓶



第137図 SE261出土遺物実測図③ (1/2)



第138図 SE261出土遺物実測図④ (1/3)

部破片である。12は瀬戸美濃系の折口皿で、器高が低く大窯4期に比定される製品である。井筒陥没時に上層からの下落の可能性がある。

第136図13～15は京都系土師器の皿である。いずれも3期の特徴を有する製品である。13は内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。16は底部に糸切り痕を有する在地系土師質土器皿である。17～20は瓦質土器の製品である。17は碗で井筒内からの出土、内外面とも丁寧なナデ調整で仕上げられている。18は播鉢の口縁部で、放射状掘目が施されている。19・20は火鉢の底部破片である。内外面にススが付着している。21は鍋で底部を欠く。井筒陥没時の上層からの下落の可能性がある。第137図22～26は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。第138図27は漆器碗の胴部破片である。外面は赤漆、内面は黒漆を施している。見込みには赤漆で紋様を描いているが、破片のため判別はできない。28・29は曲物底部分の破片である。29は中央に穿孔を施している。30は匙状の木製品であるが用途不明である。井筒内の封鎖碑とともに出土したことから、呪術的な要素を持つ製品の可能性もある。31も30と同様な製品で、杓子状を呈している。出土状況も同じで井筒内からの出土である。先端部分が焦げている。32は刀等の柄部分である。裏面にえぐりが認められる。33は円形の木製紡錘車状の製品の一部である。用途は不明である。

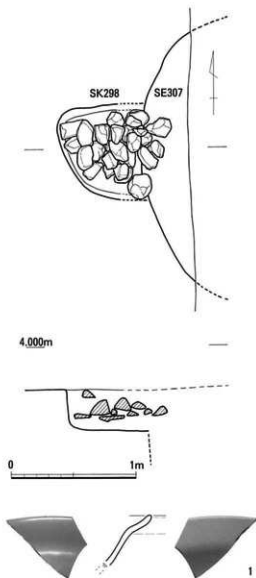
漆器碗

匙状の木製品

杓子状

柄

紡錘車状



第139図 SE307・SK298実測図及び出土遺物実測図(1/30、1/3)

SE307 (第139図)

SE307は上層遺跡群に属する遺構で、M16区に位置する。土取り後の整地層上に構築されているが、調査区東端で、井戸掘形の一部分が確認された。そのほとんどが調査区外のため、危険も考慮して未掘である。井戸の掘形は確認段階で円形のプランと考えられる。規模・井筒施設等は不明である。井戸の構築時期は井戸の検出状況等から考えて、16世紀後葉と考える。

未掘

SK298 (第139図)

SK298は上層遺跡群に属する遺構で、M16区に位置する。井戸(SE307)掘形の西側で、井戸に切られるように土色の違う礫を多量に含んだ土坑状の掘り込みを確認した。このSK298は調査当初、土坑として認識していたが、調査途中で井戸の埋め戻しのための礫の廃棄位置として使用していたと判明した。礫は拳大から人頭大の大きさで、井戸に向かって投げ込まれている状況が伺えた。遺構の構築時期(井戸の廃棄時期)はSE307と同様の時期である。

SK298出土遺物 (第139図)

第139図に図示した遺物は隣群中から出土した中国産白磁の皿である。整地層内からの混入と考えられ、この遺構に伴うものではないであろう。

6. 遺物集中区

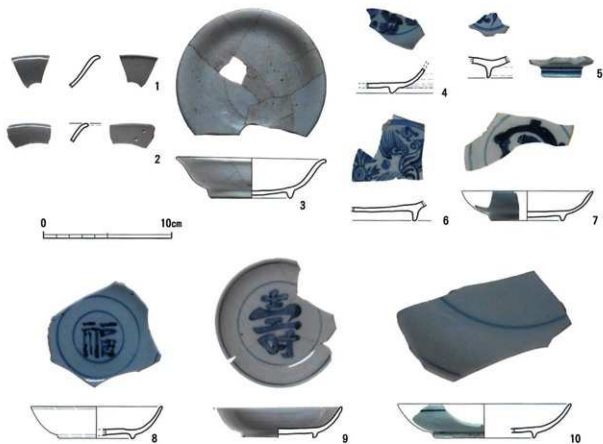
第18次東調査区では7カ所で遺物の集中箇所が確認された。いずれも上層遺構群に属するもので、構築・廃棄された遺構と、土取り後の埋め戻し埋土中に含まれた遺物が集中して検出された遺構、埋め戻し前の遺物廃棄場所の3種類がある。いずれも明確な掘形は検出されなかった。構築された遺構としては、SX054・SX062・SX066・SX310である。埋土中の集中区はSX150・SX256A・SX308があげられる。これらの集中区は遺構とは扱わず、包含層遺物集中区と考えた方がよいであろう。

SX054 (第75図)

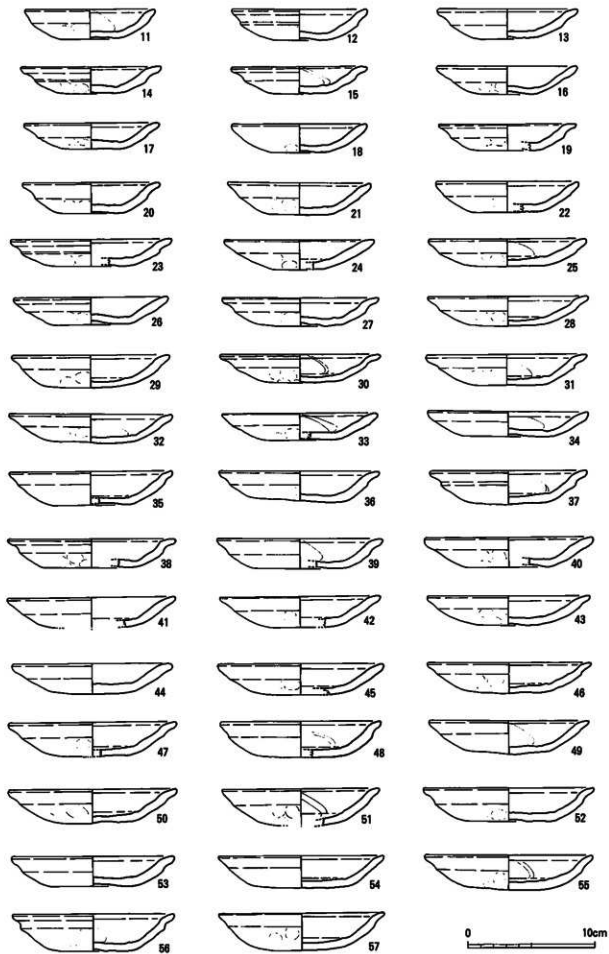
SX054は上層遺跡群に属する遺構で、L15区で検出された遺物集中区である。SE261の埋め戻し後の掘形を切って構築している。東西3m、南北3mの範囲に多量の京都系土師器を中心に、中国産陶磁器や釘等の遺物が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

SX054出土遺物 (第140～144図)

第140図1～3は中国産の白磁の皿である。1・2は口縁部破片で、3は完形に近い製品である。



第140図 SX054出土遺物実測図① (1/3)

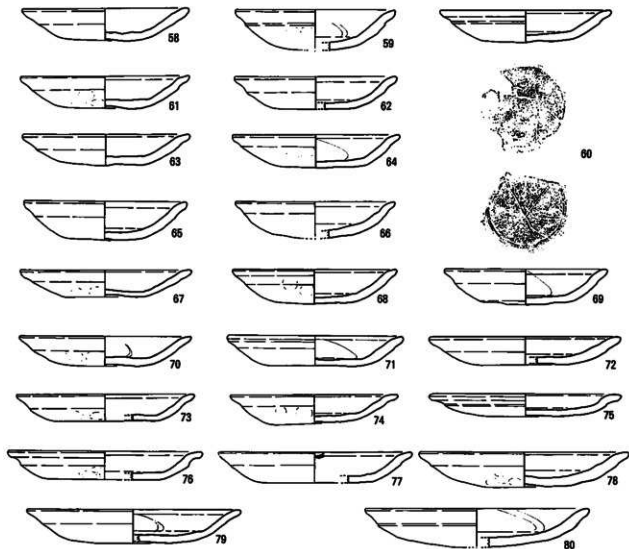


第141图 SX064出土器物实测图② (1/3)

E群に分類され16世紀中葉以降の製品である。4～10は中国景德鎮窯系の青花の製品である。いずれも小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。4は皿の底部で見込みに花文を描く。5は碗の底部片で見込みに二重圓線内に文様を描いているが、小破片のため不明である。6は皿の底部片で、見込みに二重圓線内に崩れた獅子文あるいは龍文を描く。7の皿は口縁端部内面と見込みに圓線を描き、見込み圓線内に崩れた獅子文あるいは龍文を描く。8の皿は口縁端部内面に一重、見込みに二重の圓線を描き、見込み圓線内には「福」字を描く。高台には砂が付着している。9の皿は口縁端部と見込みに圓線を描き、見込み圓線内に「壽」字を描く。10の皿は口縁端部内面と見込み、高台削り出し部に圓線を描いている。第141図11～57、第142図58～80までは京都市土師器の皿である。いずれも2～3期の特徴を有する製品である。口径は10.0～17.4cm、器高は1.9～3.1cmの範囲内である。28・77には内面にススが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。内面に「ノ」の字状のナメ仕上げ痕が認められる個体が多く存在する。63は底部外面にへう記号が、69は底部内面にへう記号が認められる。第143図81～85は赤褐色系の色調を呈する在地系土師質土器皿である。81は口縁部破片であるが、内外面にクロク目が認められる。82～85の底部には糸切り痕が認められる。第144図86は須恵質土器の楕鉢である。注口付きで、内面には7条

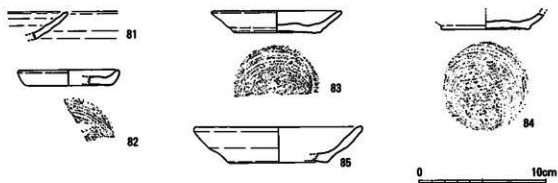
灯明皿

楕鉢

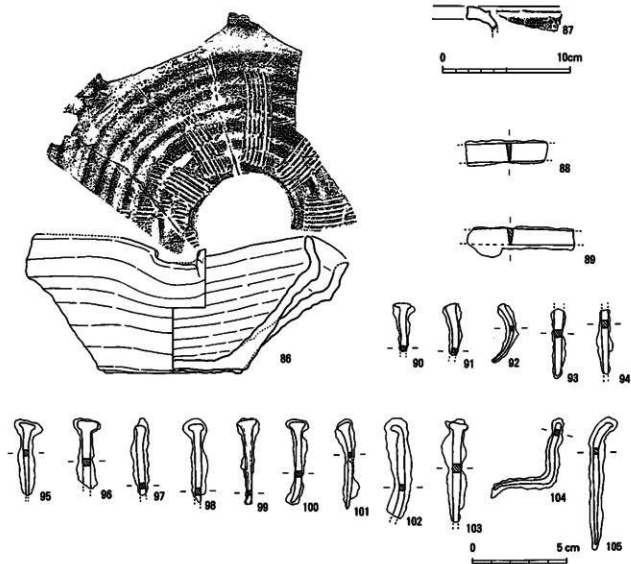


第142図 SX054出土遺物実測図③ (1/3)

0 10cm



第143圖 SX054出土遺物実測図④ (1/3)

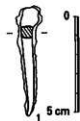
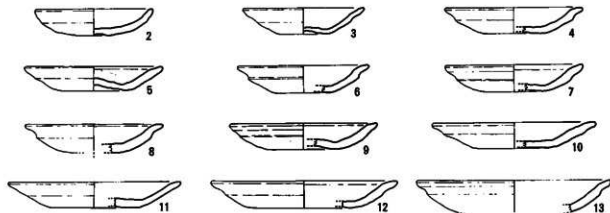


第144圖 SX054出土遺物実測図⑤ (1/3, 1/2)

火鉢

の放射状部目を施している。87は瓦質土器火鉢の口縁部破片である。双頭蔵手流雲文を刻印によって施している。88・89は刀子の刃部の一部である。90～105は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。

当遺構の検出状況は、京都系土師器の皿が幾重にも重なって出土し、その中に一部陶磁器が混入する状況であった。この陶磁器類はほとんどが上層からの出現であった。また、京都系土師器の皿は、上方から順に取り上げたが、明確な時期差を示す結果はでなかった。

第145図 SX062出土
遺物実測図①

第146図 SX062出土遺物実測図② (1/3)



SX062 (第75図)

SX062は上層遺跡群に属する遺構で、L16区南端で検出された遺物集中区である。東西1.7m、南北1.3mの範囲に破砕された京都系土師器を中心に遺物が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。遺物除去後には柱穴が確認された。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

SX062出土遺物 (第145・146図)

第145図に図示した遺物は釘で錆出が著しいが断面形は方形を呈している。第146図は京都系土師器の皿である。比較的器壁が厚く、2～3期の特徴を示す製品である。

SX066 (第76図)

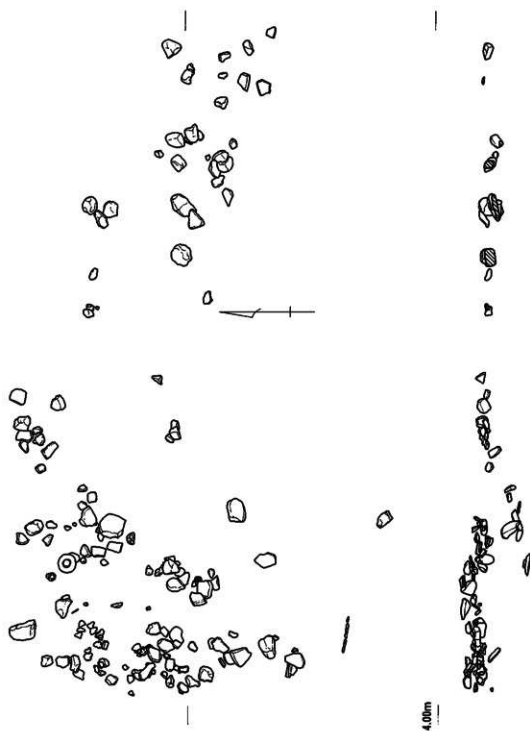
SX066は上層遺跡群に属する遺構で、L16区南東端で検出された遺物集中区である。東西2m、南北1.5mの範囲に破砕された京都系土師器が集中して出土している。土器等の周辺には掘形などは検出されていない。遺物除去後には柱穴が確認された。出土遺物の年代観や層位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半から末葉に比定される遺構である。

SX066出土遺物 (第147図)

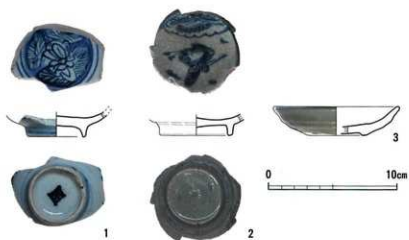
第147図1・2は京都系土師器の皿である。1は口径9.1cm、器高1.9cmで、底部はやや丸みを持つ。内面に「ノ」の字状のナデ仕上げ痕が認められる。2は口径11.0cm、器高2.5cmで器壁が厚くなっている。2～3期の特徴を示す製品である。図示した以外にも多量の京都系土師器の皿が出土している。



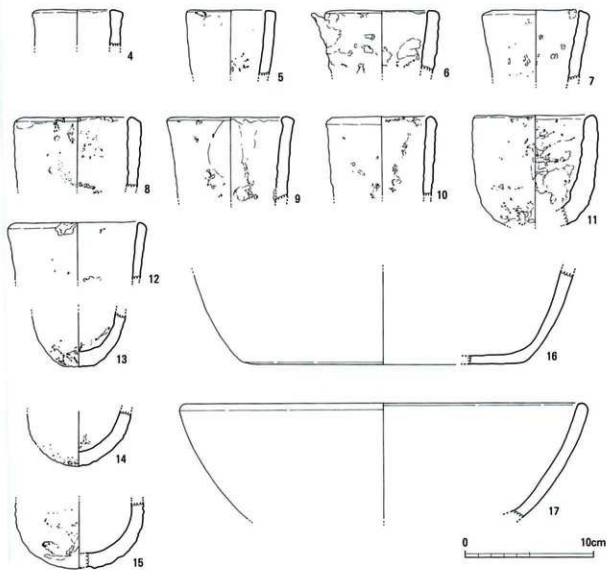
第147図 SX066出土遺物実測図 (1/3)



第148圖 SX150実測圖 (1/30)



第149図 SX150土遺物実測図① (1/3)



第150図 SX150出土遺物実測図② (1/3)

るが、小破片のため、図示できない。

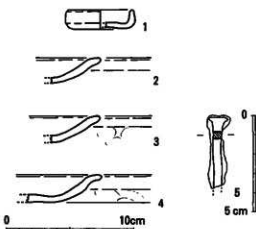
SX150 (第148図)

SX150は、L15・16区で検出された遺物集中区である。東西4.5m、南北2.0m前後の範囲に破砕された埴塼(取瓶)を中心に遺物が集中して出土している。明確な掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋め戻し埋土(整地層)に含まれた遺物が集中して検出された状況であるとする。このため、遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

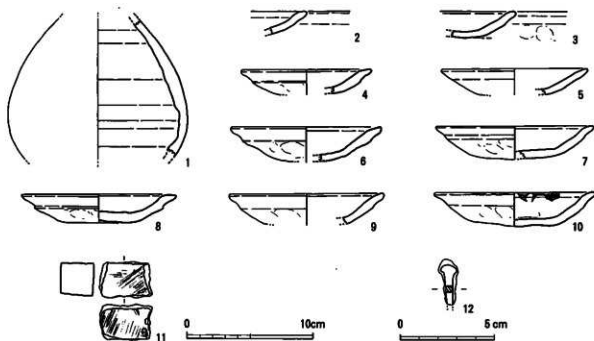
SX150出土遺物 (第149・150図)

第149図の1は中国景徳鎮窯系の青花碗の底部片である。小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。見込みに圏線を描き、圏線内に花文を描く。高台内は四角に縁取りされた字款を描く。2は中国漳州窯系の青花碗の底部片である。見込みに文様を描いている。高台畳付きは露胎となる。3は瀬戸美濃系の陶器皿である。第150図4～15は埴塼(取瓶)の破片である。内面にはガラス状の物質や青灰色の物質、銅など付着物が残存する。集中区周辺には鍛冶工房等の形跡はないが、府内大友の調査では工房跡が確認されている。また、当調査区で出土した三連分銅等の事例もあることから、かなりの数の工房跡があったと考えられる。図示した遺物以外にも多数の破片が出土している。また、調査区整地層内からも散発的に埴塼(取瓶)の破片(第178図)が出土している。16・17は土師質土器の捏ね鉢である。赤褐色を呈し16の底部には離れ砂が認められる。

鍛冶工房
三連分銅



第151図 SX256A出土遺物実測図 (1/3, 1/2)



第152図 SX308出土遺物実測図① (1/3, 1/2)

SX256A (第75図)

SX256AはM14区で検出された遺物集中区である。トレンチ掘り下げ時に遺物が集中して確認された。東は調査区外となる。南北2.5m前後の範囲に破砕された京都系土師器の皿を中心に出土したが、掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋め戻しまでの間、土器等の廃棄場所と考ええる。遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

SX256A (第151図)

1は土師質土器の小皿あるいは焼塩壺の蓋、2～4は京都系土師器の皿の破片、5は釘である。



第153図 SX308出土遺物実測図② (1/3)

SX308 (第75図)

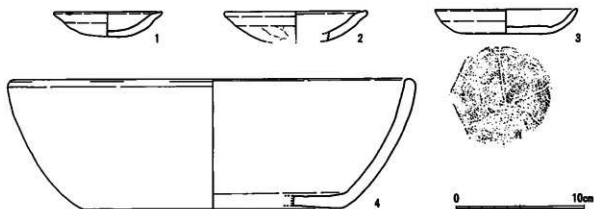
SX308は、L15・16・M15区で検出された遺物集中区である。広範囲に遺物が出土しており、範囲の特定はできなかった。周囲に明確な掘形は検出されなかった。当遺構は、土取り後の埋戻すまでの間の土器等の廃棄場所と考える。このため、遺構として報告するが、包含層と考えた方がよいであろう。

SX308出土遺物 (第152・153図)

第152図1は備前陶器の瓶胴部である。2～10は京都系土師器の皿である。器壁は比較的厚く2期末から3期の特徴を示す製品である。4・10には内面にスガが付着しており、灯明皿として使用されていた製品であろう。11は砥石、12は釘である。第153図13～15は中国漳州窯系の青花碗の口縁部破片である。口縁端部の内面には圈線をもつ。16～22は中国景德鎮窯系の青花の製品である。16～21は小野分類のE群に分類され、16世紀後葉に比定される。22はF群に分類され、16世紀末葉に比定される。16は青花碗で、外面胴部に松樹と月、口縁部に唐草文風の文様、口縁内面に圈線を描いている。17は外面に毛彫り花文を有する青花碗で、口縁内面に四方棒文を描く。18の青花碗は見込みの圈線内の文様は欠損のため不明である。19の青花皿も見込みの圈線内の文様は欠損のため不明である。20の青花皿の見込みの圈線内には崩れた獅子文あるいは龍文を描いていると考えるが、欠損のため詳細は不明である。21の青花皿の見込みの二重圈線内には龍文を描いている。22の青花皿の見込みの二重圈線内には龍文を描いている。高台内には異体字による銘款がみられる。23は中国産の青磁の小坏である。高台内には異体字による銘款がみられる。24は土登呂系陶器の天目茶碗である。胴部下半から高台にかけては露胎である。

毛彫り花文

小坏



第154図 SX310出土遺物実測図 (1/3)

SX310 (第75図)

SX310はM14区の東壁側で整地掘り下げ時に地山上面で確認された。土師質土器が4点集中して出土しているが、斜面からの流れ込みの可能性が高く、周囲に明確な掘形は検出されなかった。出土遺物の年代観や階位的な所見から、廃棄時期は16世紀後半頃に比定される遺構である。

SX310出土遺物 (第154図)

第154図1・2は京都系土師器の皿で、2期～3期の製品であろう。3は赤褐色系の色調を呈する在地系土師質土器皿である。4は土師質土器の壺お鉢である。赤褐色を呈し内外面とも丁寧なナデを施している。底部には離れ砂が認められる。

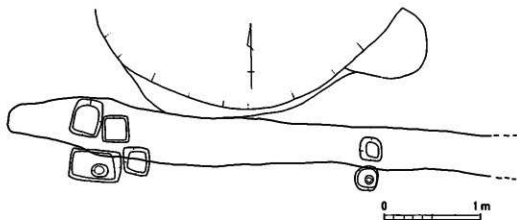
7. その他の遺構

第18次東調査区では1カ所で道路と思われる硬化面の遺構(SF076)が確認された。また、土取り後の整地層内に多量の遺物を含む層が確認されたので、SX301として報告する。

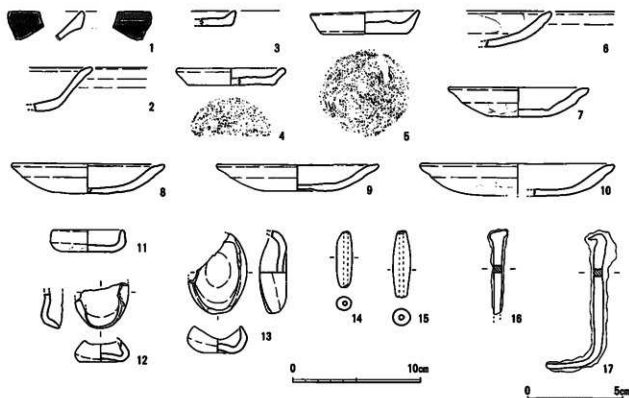
SF076 (第155図)

第2南北
街路
町屋関連
遺構
硬化面

SF076はL・M16区で整地層掘り下げ時に確認された。当調査区の西側には第2南北街路が位置し、調査区内には16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構が存在することから、町屋間には路地等の道路状遺構の存在が考えられたが、調査区内では確認できた1条の硬化面だけで井戸の南側からの検出であった。井戸遺構(SE075)の南側に位置し、東西に走る遺構である。規模は長さ(南北)約5m、幅0.5m部分が硬化していた。西端は自然消滅し、東側は調査区外に延びている。硬化し



第155図 SX076実測図(1/40)



第156図 SX301出土遺物実測図(1/3, 1/2)

第2節 遺構と遺物

た面は厚さ2~3cm程度で、道路として整備した様相ではなく、踏み締めることで自然硬化した面が形成されたと考えられる。井戸に接しているため、井戸使用時に生じた硬化面の可能性もある。遺物等は出土していない。硬化面除去後は柱穴が検出された。

SX301

SX301は、土取り後の埋め戻しを行った整地層の中の1層であり、整地層内のほぼ全域に堆積している。堆積した整地層内に多量の遺物を含む層が確認されたので、SX301として報告する。

SX301出土遺物 (第156図)

第156図1は中国産白磁皿の口縁部破片である。口縁部は断面三角形を呈し、玉縁状となる。横田・森田編年のIV類に比定される資料で、11~12世紀代の所産である。2は土師質土器小皿の口縁部破片である。3~5は胎土が赤褐色系の色調を呈し、底部に糸切り離し痕が残る在地区土師質土器小皿である。5の内面にはクロロ目が残る。6~10は胎土が浅黄色系の色調を呈する京都系土師器皿である。口縁部はやや面を持つように仕上げられている。器壁がやや薄く2期の様相を呈する。6の内面には「ノ」字状のナデ仕上げ痕が認められる。なお、図示していないがSX301では京都系土師器の破片が相当量出土しているが、いずれも小破片であり、ここでは図示可能なものを提示している。11は京都系土師器と同じ浅黄色の色調を呈する土師質土器で、焼塩壺の蓋を盛塩等の小皿に転用したものと推定される。12・13は耳皿である。胎土は京都系土師器と同じ浅黄色系の色調を呈する。14・15は小型管状土甕である。16・17はいずれも釘で、焼出が著しいが断面形は方形を呈している。

柱穴出土遺物 (第157~160図)

碁笥底
飯頭心碗

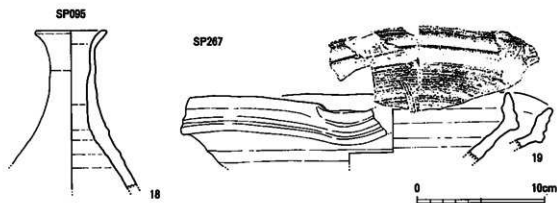
第157図~160図には当調査区の柱穴出土の遺物を提示している。第157図1は中国漳州窯系青花皿である。底部はいわゆる「碁笥底」を呈すると推定され、皿C群に比定される。2は中国景德鎮窯系青花碗の底部破片である。見込み部分が盛り上がる、いわゆる「飯頭心碗」で碗E群に比定される。高台型付きは露胎となる。3は瀬戸美濃系陶器天目碗である。4は中国景德鎮窯系青花皿で口縁部が端反りとなり、皿B1群に比定される資料である。見込みに十字文花が描かれる。高台型付きは露胎となり、砂が付着する。5は中国漳州窯系皿で底部は内外面ともに露胎となる。6は中国景德鎮窯系青花碗で碗E群に比定される資料である。見込み部分には二重圓線の中に花文を描く。高台内には圓線の中に「大明年造」の字款を置く。7は中国景德鎮窯系青花盤の底部破片である。見込みに花文が描かれ、高台外には省略された蓮弁が施される。8は中国景德鎮窯系青花瓶である。口縁部内面には青花で縁取りをし、肩部には二本の圓線を巡らし、その間に規則的に文様を描く。胴部外面にも文様が施される。9は華南三彩である。被熱しているが、蓋の破片と推定する。10は中国漳州窯系青花皿の口縁部破片である。11は中国産白磁皿の口縁部破片である。12は中国景德鎮窯系青花碗の口縁部破片である。外面には唐草文が描かれる。口縁部は端反りとなる。碗E群に比定される。13は中国景德鎮窯系青花碗の口縁部破片で、碗E群に比定される。14は中国産青磁皿である。口縁部は稜花を呈する。15は中国産白磁小杯の底部破片である。見込みに目録が認められる。高台内には四角で枠取りした「福」字を青花で描く。16は中国景德鎮窯系青花皿で、E群に比定される。胴部内外面に草花文を描き、見込み部分には花文を施す。高台内には「長」「富」が認められる。「長命富器」か。17は朝鮮王朝産白磁の胴部破片である。内面にはクロロ目が認められる。器種は不明であるが甕もしくは小壺と推定される。16世紀代の所産である。第158図は備前系統焼陶器を提示した。18は瓶である。口縁部内面から胴部外面にかけて自然軸が掛かる。19は搦鉢である。口縁部は内抱え気味で断面が「く」字状を呈する。口端は上角をナデで強く尖り気

華南三彩

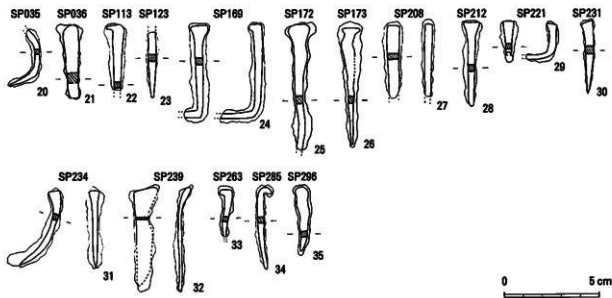
朝鮮白磁



第157図 柱穴出土遺物実測図① (1/3)



第158図 柱穴出土遺物実測図② (1/3)



第159図 柱穴出土遺物実測図③ (1/1)



第160図 柱穴出土銭貨実測図 (1/1)

銭貨

味とし、口端からやや下がった内面に段を持つ。中世6期の様相を呈する資料である。第159図には釘類を提示しているが、32については厚みが無く、板状の鉄製品の可能性もある。いずれも鋳出が著しいが断面形は方形を呈する。第160図には銭貨を提示した。36は錆のため判読が難しいが、篆書による「通」「賈」が判読できる。37は中國北宋代の「紹聖元寶」で、書体は行書である。初鋳年代は1094年である。

8. 包含層・整地層

概要 本項目では、遺構以外の包含層整地層から出土した遺物のうち、残存度の高いものや注目すべきものを選別して報告する。当調査区では16世紀後葉前後に調査区東側の大半が、他地域の整地のために削平を受けており、その削平部分を再び埋め戻すために多量の土が運び込まれている。この運び込まれた埋土中から多量の遺物が出土している。また、削平後埋め戻す間に土器等の廃棄場所として活用されていた様相も伺える。このため、報告すべき資料は多数におよぶが、紙幅の関係から図示した遺物は報告者が特に重要と判断した少数の資料に留まる。

陶磁器類 (第161～175図)

木瓜皿

161図1は中國産五彩の木瓜皿で、内面には磨草文を、外面には蓮弁文を赤と緑の顔料で描いて

黄釉

いる。高台内は無紋である。2～20・第162～164図は中國景德鎮窯系の青花の製品である。2は碗

瑠璃釉

の底部片であるが、内外面ともに黄釉を施している。3は蓋等のつまみで景德鎮窯系ではない可能性もある。4は外面に瑠璃釉を施しているが、器種・形式とも不明である。5は青花皿の口縁部で、

緑彩

外面は緑彩である。口縁内面には四方禪文が描かれる。16世紀代の製品である。6は碗の口縁部で

瑠璃釉

4と同様に外面に瑠璃釉を施している。7は外面に文様を描いているが、欠損しているため判別でき

掛花入れ

ない。時期・器種とも不明であるが、特殊品ではないかと考える。8は青磁の掛花入れの一部で

透明釉

ある。9は青磁の碗である。高台内部は裏白と呼ばれ、透明釉を施している。16世紀代の製品である。10は青花碗の口縁部で、小野編年の碗B群に属する製品で15世紀中頃の製品である。外面に滿

蓮子碗

文風磨草文を描いている。11は青花碗でE群に比定される資料で、胴部に花・岩などの文様を描く。16世紀後葉の製品である。12はC群に比定される青花碗で、いわゆる「蓮子碗」の系統に属する資料である。広く開いた胴をもち、見込みが高台内に凹む器形となる。胴部と見込にはツタ状の文

瓶頭心碗

様が描かれる。第161図13～20、第162図21～25、28～36はE群に比定される、いわゆる「瓶頭心碗」である。13は胴部には〇文が描かれており、月を表現したものであろう。14は胴部外面に鶴が描か

れる。15は見込みに団龍文を描き、高台内には四角の枠取りした「福」字を置く。16は口縁部外面

に二重の團線を描き、その中に花文を施す。胴部には松と月を表現している。17は口縁部外面に花

文、胴部外面に鶴を描く。18の胴部外面には菊花文を描く。19は口縁部内面に四方禪文を描き、胴

部外面には花文を描く。20は口縁部内面に四方禪文、胴部外面には花文を描く。21は口縁部内面に

四方禪文、胴部外面に花文を描く。19と文様構成は同じであるが、同一個体ではない。22は口縁部

内面に四方禪文、胴部外面に花文を描く。23は発色が悪いが、口縁部内面に四方禪文を施し、胴部

外面は毛彫りによる花文が施される。24・25も同様に口縁部内面に四方禪文、胴部外面に毛彫り

による花文が施される。28は胴部外面に人物が描かれる。29～36は底部の資料である。29は見込みに

葉文、高台内には中央に方孔を置き、縦横に「永保長春」の文字が描かれている。30は見込みに人

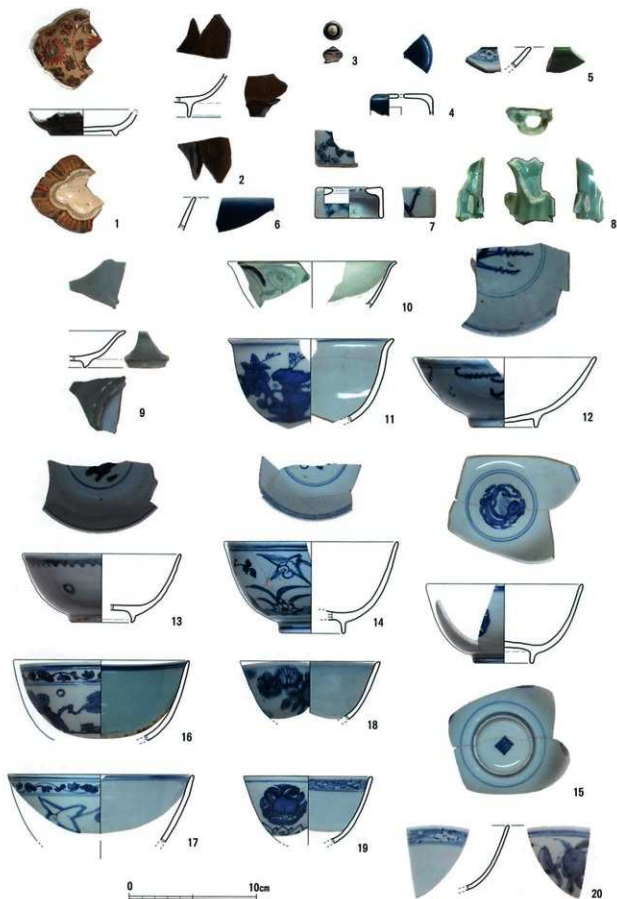
物像を描き、高台内には「大明年造」の字款を置く。31は見込みに団龍文を描き、高台内には四角

の枠取りした「福」字を置く。32も31同様に見込みに団龍文、高台内に四角の枠取りをした「福」

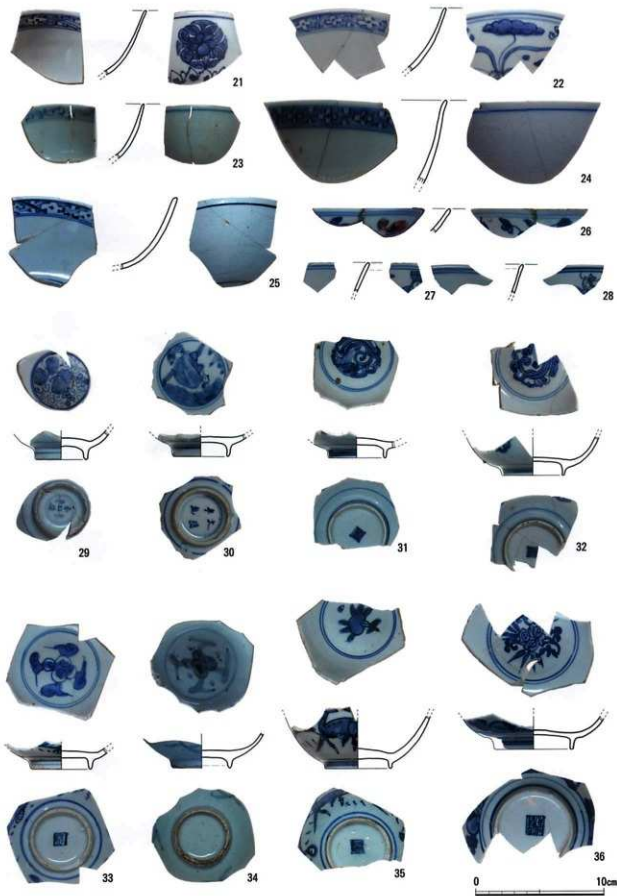
字が描かれる。33は見込みに如意雲を描き、高台内には四角の枠取りの中に「精製」銘が描かれる。

34は見込みに如意雲を描く。胴部には文様が認められるが、高台内は無文である。35は見込みの文

毛彫り花文



第161図 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)



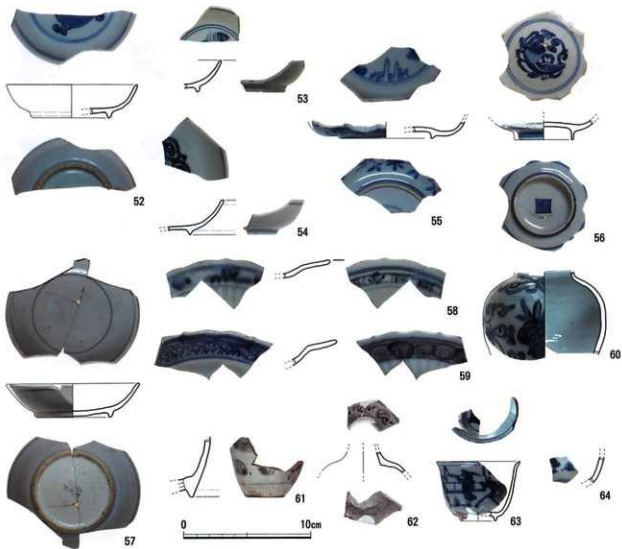
第162図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



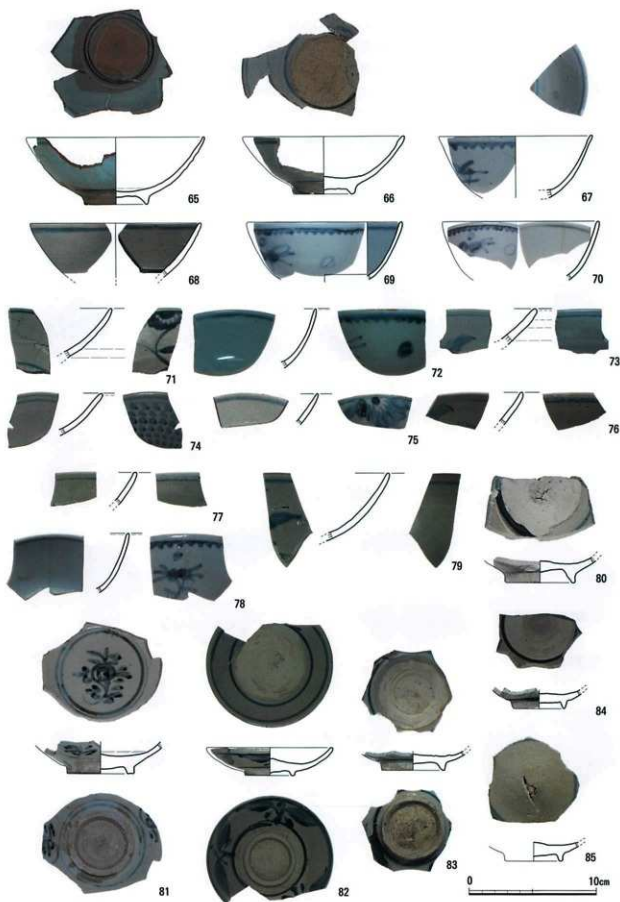
第163図 包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3)

様は詳細不明であるが、胴部外面の文様は鹿等の動物が描かれている。高台内の四角に枠取りされた字款は判読しがたいが「富貴佳器」か。36は見込みに花文を描き、高台内には四角に枠取りされた「精製」銘を描く。26は皿E群に比定される大皿の口縁部破片で、内外面に青花の上に赤と緑の呉須による草花文が施される。27は小杯の口縁部破片である。胴部外面に人物が描かれる。第163図には青花皿を図示した。37はB2群に比定される資料である。見込み部分に梵字が描かれる。胴部外面には唐草文、高台内には長方形に縁取りされた中に1行で「大明年造」の銘が描かれる。38はB1群に比定される資料である。焼成不良で文様ははっきりしないが、花樹が描かれている。39

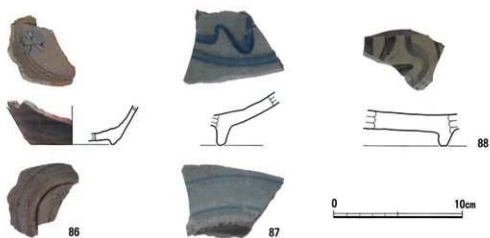
呉須
梵字



第164図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3)



第165図 包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/3)



第166図 包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/3)



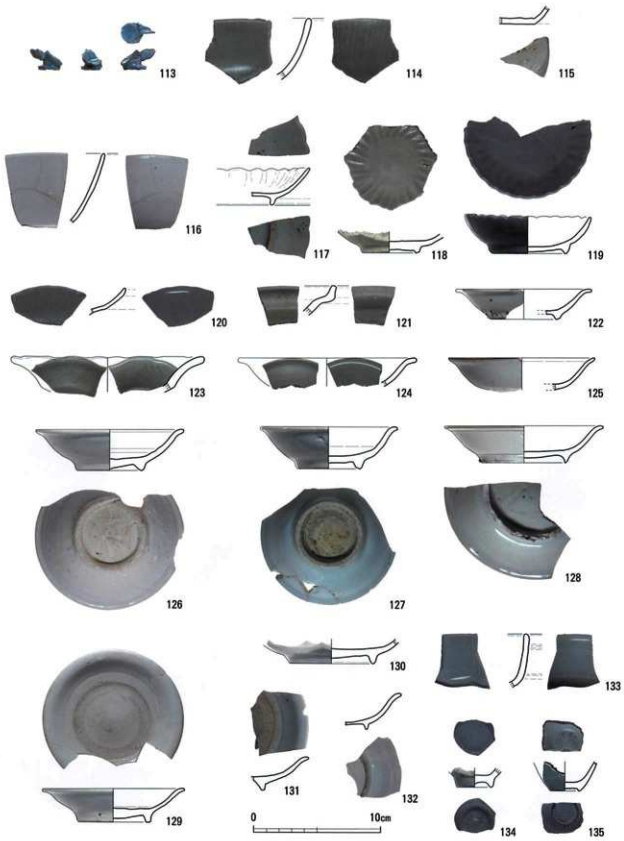
第167図 包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1/3)

碁笥底

は見込み部分に「貴」字が認められることから、B2群に比定される。40は胴部外面に渦状の密な唐草が描かれ、内面にも文様が認められる。口縁部が端反りとなり、B群に比定される資料である。41もB群に比定される資料である。42はE群に比定される資料で見込みに文様が認められ、高台には枠取りした銘が認められる。欠損のため判読できない。43は底部がいわゆる「碁笥底」となるものでC群に比定される資料である。ともに底部外面は露胎となる。44は見込みに菊花文、胴部には芭蕉葉文が描かれる。45は胴部外面に唐草文を描く。46はB2群に比定される資料で、見込みに蟹文が描かれ、高台には「長」「貴」の銘が認められる。47～51はE群に比定される資料である。47は見込みに花樹文を描き、高台内には四角の枠取りをした銘が認められるが、判読不明である。48は見込みに「壽」の銘を描く。49は見込みに花文が描かれ、高台畳付きは露胎となる。50の見込みの文様は獅子である。51は内外面に文様が認められる。第164図52～55は皿E群に比定される資料である。いずれも破片のため文様は不明である。55は焼成の際に腰部が沈んだものであろう。56はE群に比定される碗の底部破片である。見込みの文様は団龍文、高台内には四角で枠取りした銘が描かれる。字が崩れて判読が難しいが「富器佳器」か。57はE群に比定される青花皿である。内外面には圈線が口縁部と底部に施されるが、胴部は無文である。高台内には「福」字が描かれる。58・



第168図 包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/3)



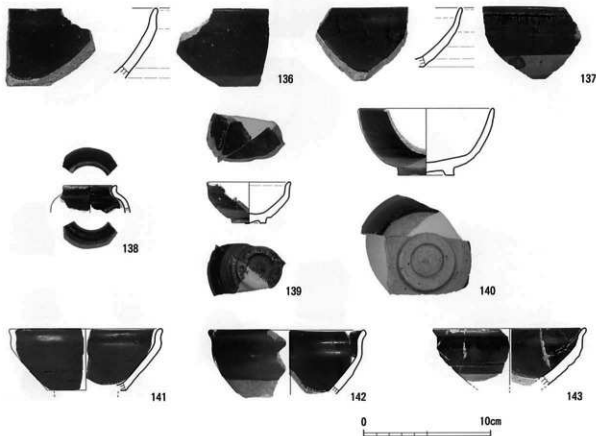
第169図 包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/3)

第2節 遺構と遺物

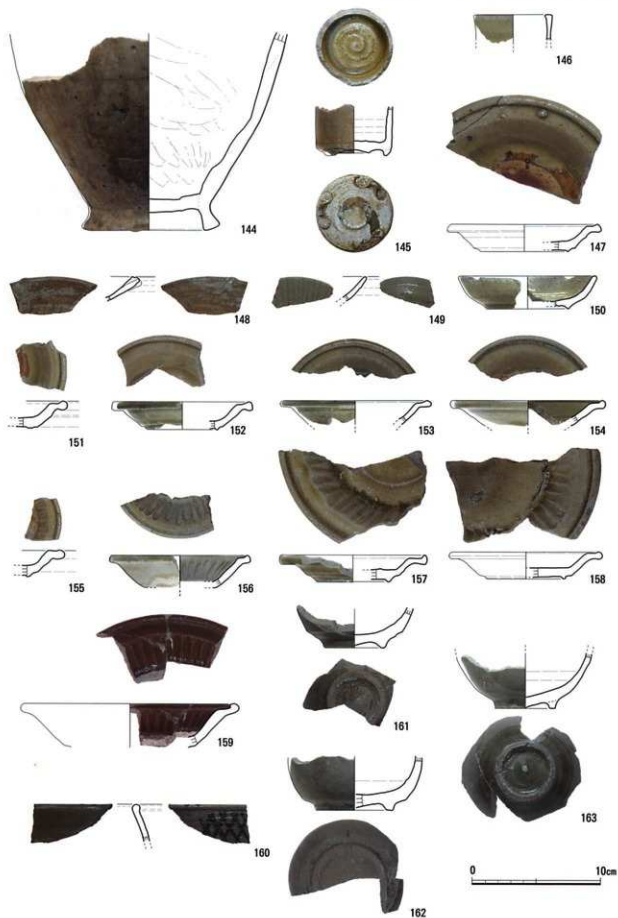
小壺・瓶 59はF群に比定される皿の口縁部破片である。いずれも口縁部内外面に文様が認められる。58は内面に連弁、59は外面に連弁が表現される。60は小壺である。61・62は瓶である。61は被熱している。62は古相を呈するもので15世紀代の所産か。63・64は小坏である。63の外面には笛を吹く人物が描かれている。

第165～166図には中国漳州窯系青花を提示した。第165図65～81は碗である。65・66は口縁部と底部に圈線が施され、胴部は無文である。底部内外面は露胎となる。67は胴部外面に文様が認められるが詳細は不明である。68は口縁部破片で、圈線が認められる。69は胴部外面に○文と花文が描かれる。70の文様構成は69と同様である。71は胴部外面に花文が描かれる。72の文様構成は基本的に68・69と同様と推定されるが、○文が塗りつぶされている。73は胴部外面に文様が認められるが小破片のため詳細は不明である。74は胴部外面に筆による連続した文様が施される。75の外面には花文が認められる。76の内面には文様が認められるが小破片のため詳細は不明である。77は小破片のため文様の詳細は不明である。78は胴部外面に花文が描かれる。79の内面には文様が認められる。80・81は底部破片である。80の底部内外面は露胎となる。胴部には文様が認められる。81は見込みに花文が描かれ、高台部分は露胎となる。82～85は皿である。82は胴部外面の3箇所に二葉の文様が描かれ、底部内面は露胎となる。83・84の胴部外面には文様が認められ、底部内外面は露胎となる。85は高台部分が露胎となる。第166図86は瓶の底部破片である。復元底径は6.4cmで、胴部下半には二重の圈線が施される。87・88は盤の底部破片である。いずれも内面に文様が認められ、高台畳付きには砂が付着する。

タイ宋胡録 第167図89～91はタイ産陶器合子で、いわゆる「宋胡録」といわれ、シーサッチャナライ窯跡で生産された製品である。89・91は蓋、90は身である。91は口径8.5cm、器高4.0cmを測り、宝珠形の



第170図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)

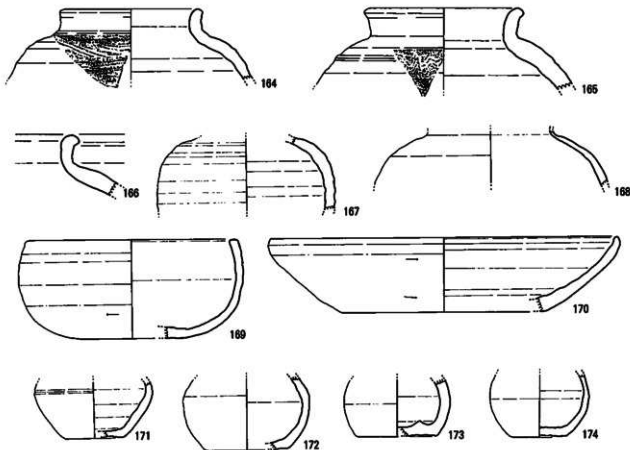


第171図 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)

つまみが付く。92～102は華南三彩である。92は蓋のつまみ部分の破片で、鳥形水注などの蓋の可能性が高い。93は水差し等の脚部で、底部は六角形を呈する。94～102は壺の胴部破片である。刻花による花文が施される。103～105は翡翠軸小皿である。いずれも青軸が掛かり、胴部には蓮弁が表現される。底部は露胎となる。106は翡翠軸の合子である。外面は青軸が掛かり、内面には鉄軸が施されている。第168図107～109にはベトナム産白磁碗を図示している。107の見込み部分には目跡が認められ、高台内は露胎となる。ベトナム北部で生産された可能性が高い。110はベトナム産焼締陶器長胴壺の口縁部破片である。口縁部外面には二本の沈線が施され、突帯状を呈する。色調は青灰褐色を呈する。111は水滴の口縁部破片である。時期・産地は不明である。近世の生産か。112は壺である。胴部外面中位には布等で一部軸を試き取った跡が認められるが、意図的なものかは不明である。産地は不明である。第169図113は青白磁の製品である。梅花を象ったもので装飾品等の一部と推定されるが、器種は不明である。114は青磁碗の口縁部破片である。外面には細線による蓮弁文が施される。115～135は白磁である。115は皿の底部破片である。口縁部が口突となるものと推定される。横田・森田編年のIV類に比定される資料で13～14世紀の所産である。116は碗の口縁部破片である。117～119は菊花皿である。117の高台皿付きは露胎となり、高台内には青花による文様が認められる。国産の可能性が高い。118は底部外面が露胎となる。119の高台皿付きは露胎となり、高台内には砂が付着する。120は小皿か。121は口縁部が屈曲する盤の破片である。123は桜花皿で、内面に刻花による花文が認められる。

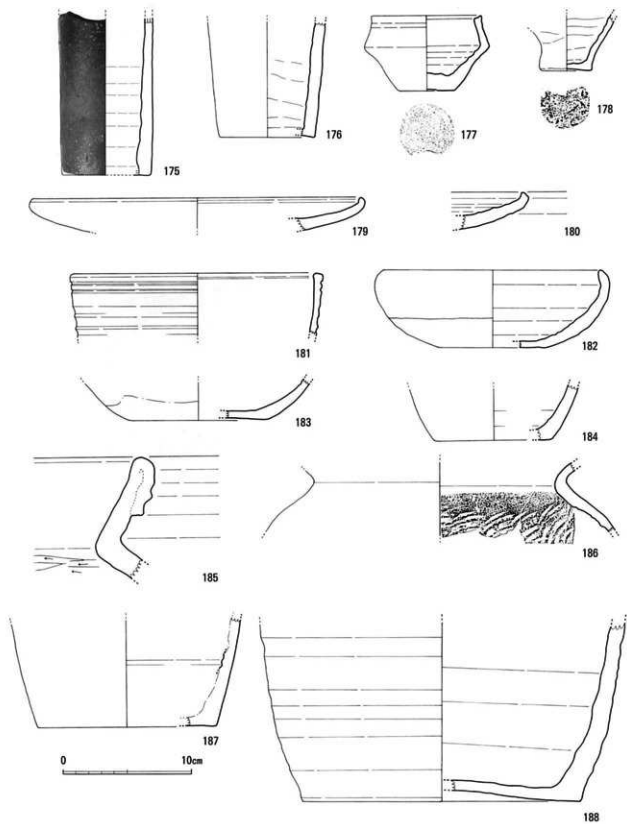
122・124～132は口縁部が端反りとなる皿である。122・130・132の高台皿付きは露胎となる。

126・127の底部外面は露胎となる。128の高台皿付きは露胎となり、砂が付着する。129は見込み部分は蛇の目刺割きとなり、底部外面は露胎となる。131は見込み部分に段をもち、底部内外面は

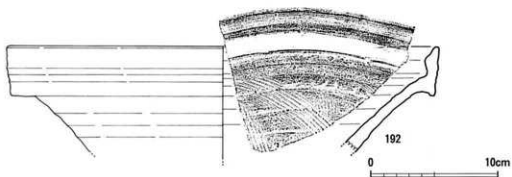
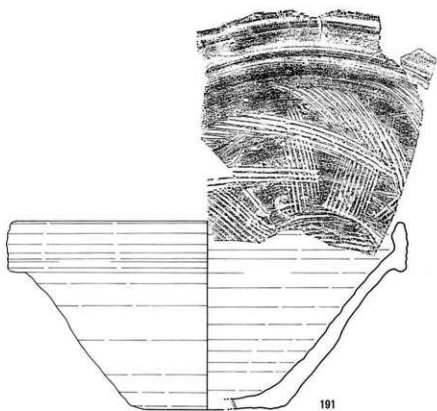
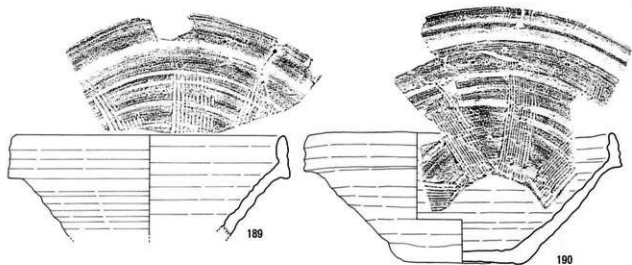


第172図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3)

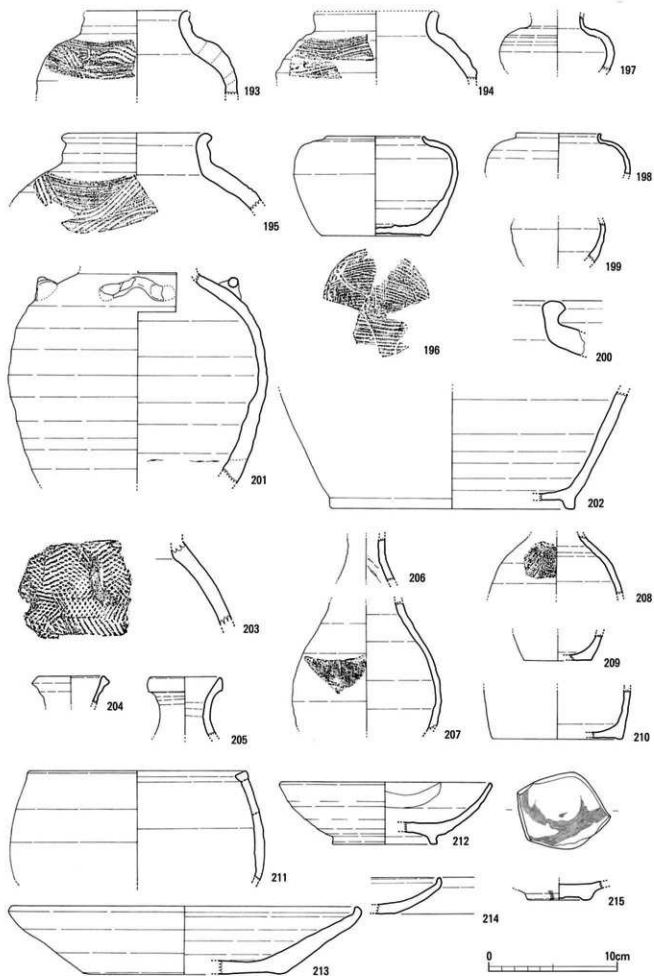
0 10cm



第173図 包含層・整地層出土遺物実測図⑬ (1/3)



第174図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)



第175図 包含層・整地層出土遺物実測図⑮ (1/1)

第2節 遺構と遺物

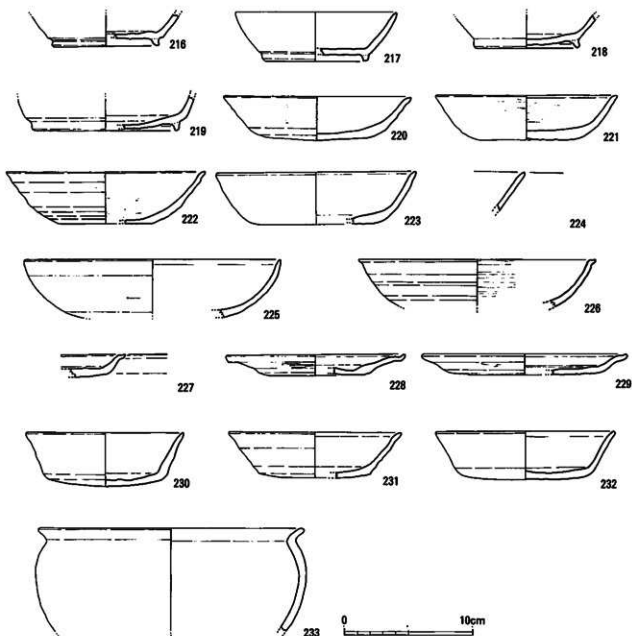
- 茶入れ 露胎となる。133～135は小坏である。第170図136・137・139～143は瀬戸美濃系陶器天目碗である。139は小型のものである。138は瀬戸美濃系陶器茶入れである。瀬戸美濃系茶入れは他に第12次調査区でも出土例がある。第171図144は古瀬戸の瓶子である。外面に灰釉が掛かり、内面と外底部は露胎となる。145～159は瀬戸美濃系陶器である。145は香炉で、内外面に緑色を呈する灰釉が掛かる。3箇所に脚を持つ。146は内外面に灰釉が掛かる。香炉か。147は折縁皿である。内外面に灰釉が掛かり、底部内外面は露胎となる。148は脚皿である。149は丸皿で体部内面に丸ノミ状工具によるソギが入る。150は丸皿である。高台は低く、断面形状が逆三角形を呈する。151～155は折縁皿である。156～159は折縁ソギ皿である。151～158は内外面に緑色を呈する灰釉が掛かる。156は被熱している。159は内外面に鉄釉が掛かり、茶褐色系の色調を呈する。160は肥前(唐津)系陶器鉢で、外面及び口縁端部上面に鉄絵による文様を描く。161～163は土杯軸と呼ばれる深緑色の釉が掛かる肥前(唐津)系陶器碗である。161の外底部は露胎となり高台内部には砂が付着する。162は外底部が露胎となり、163は高台付付きが露胎となるものである。第172～174図には備前系焼締陶器を提示した。第172図164～168は壺である。164・165の胴部には柳描き波状文が施される。169は深鉢である。170は壺である。171～174は小壺もしくは瓶の底部破片である。171は胴部中に沈線が施される。173図175・176は備前系陶器掛花入れである。177は鉢で胴部が「く」字状に屈曲し、口縁端部上面は斜めに面取りされている。底部には糸切り痕が残る、へう記号が認められる。178は壺の底部か。底部には糸切り痕が残る。179・180は皿もしくは盆の口縁部破片である。上方に屈曲する口縁部を持つ。181は鉢の口縁部破片である。口縁部外面下に二条の沈線が施され、胴部には口クロ目が認められる。中国南部～東南アジア産の可能性も否定できない。182・183は浅鉢である。184は鉢の底部破片である。185・186は大甕である。185は中世6期に比定される。186は須恵器である。内面には同心円状当具痕が残る。187・188は甕の底部破片である。第174図には備前系陶器摺鉢を提示した。189・190は中世6期に比定される資料である。191・192は放射状の柵目に加え、ナナメ柵目が施されており、近世1期に比定される。第175図193～202は備前系陶器壺である。193～196の胴部には柳描き波状文が施される。196の底部にはカキ目状の調整が施されている。197～199は小型のものである。201の胴部には横方向の耳が貼り付けられている。四耳壺か。202は底部の破片である。203は東播系焼締陶器の胴部破片である。外面に矢羽根状の並行タタキが施される。204～208は備前系陶器瓶である。204・205は口縁部破片である。206・208の胴部にはへう記号が認められる。209・210は底部破片である。211は片口鉢の口縁部破片である。212は焼締陶器碗で、外面にミガキ調整、内面にナデ調整が施される。産地は不明であるが備前系陶器の可能性も考えられる。213・214は備前陶器鉢である。215は肥前(唐津)系陶器皿の底部破片である。見込み部分に鉄釉による文様が施される。
- 鉄軸
土杯軸
- 掛花入れ
- 四耳壺

土師質土器・瓦質土器(第176～180図)

- 8世紀代 第176図は土師器・須恵器の環・皿等で8～9世紀代の遺物である。当該調査区では、8世紀前半の井戸(SE176)が確認されたことから、周囲には同時代前後の遺構が存在した可能性が高い。216・217は須恵器、218・219は土師器の高台付きの坏で、高台を底部外方向に付けている。いずれも内外面とも回転ナデを施している。高台は貼り付けである。220～222は土師器環で内外面とも丁寧な磨きを施している。底部はへう切りである。223・224も土師器環で内外面ともナデ仕上げを行っている。225・226は土師器碗の口縁部破片で、225は復元口径20cm、外面はへう削りの後ナデ仕上げを行っている。226は復元口径18.5cm、内面は丁寧な磨き仕上げを行っている。口縁部は外方に屈曲する。外面下部はへう削りである。227～229は土師器皿の破片である。大きく開く体部から口縁部は外反し、口縁端部は上方にやや屈曲する。外面はへう磨きを行っている。盤の可能性もある。

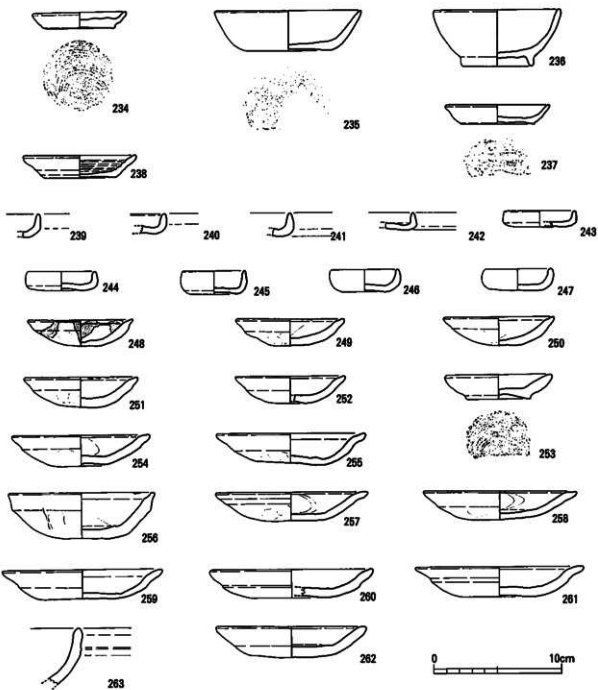
230～232は土師器環で、内外面ともナデ仕上げで、底部はへら切りである。233は蓋の破片である。9世紀代内外面ともナデ調整を行っている。遺物の時期は、216～229は8世紀前半代に、230～233は9世紀代に比定されるであろう。

第177図には土師質土器・瓦質土器を図示した。234・235・237・238は在地系土師質土器皿である。234は小皿で、底部は糸切りである。235は環で、底部から口縁部に向けて直向気味に立ち上がる。底部は糸切りである。236は瓦質土器碗で、内面に布目痕が残る。237の底部は糸切りである。238は内面に強いロクロ目が残る。239～247は径5cm程の小皿で、胎土は京都系土師器と同じ浅黄色系の色調を呈する。焼壺蓋の蓋とも考えられるが、盛塩等の小皿に転用したものか。248～252・254～263は京都系土師器である。256・263は環で、その他は皿である。皿の口徑に注目すると、8～9cm、9～13cm、13cm以上の三法量に分類される。248・249・251・256・258の内面口縁端部にはススが付着しており、灯明皿として使用していたと考えられる。特に248は内外面とも多量のス

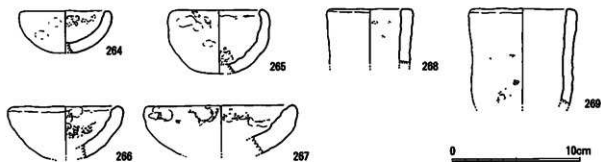


第176図 包含層・整地層出土遺物実測図⑩ (1/3)

第2節 遺構と遺物



第177図 包含層・整地層出土遺物実測図㊸ (1/3)



第178図 包含層・整地層出土遺物実測図㊹ (1/3)

スの付着がみられる。いずれも器壁が厚く、3期の特徴を示すが、257～259は器壁がやや薄くなっており、2期の様相を呈する製品である。

増埴

第178図は増埴（取瓶）の破片である。264～267は碗形を呈している。268・269は筒形あるいは砲弾形を呈しており、SX150で出土した増埴と同形態である。内面にはガラス状の物質や青灰色の胴と思われる物質が付着している。

金箔貼り

鳥型土製品

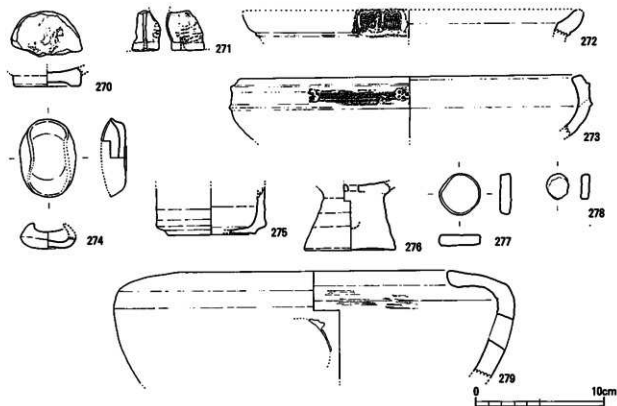
第179図は土師質土器である。270は底部破片で、器種は不明である。高台は削り出し高台で、造りは天目茶碗に類似するが、胎土・色調・焼成ともに土師器である。内面に黒漆を塗り、金箔を貼り付けている。271は鳥型土製品の胴部で、頭部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。近世の初産である。272は鉢と思われる口縁の破片であり、反転による復元である。口縁部外面にスタンプによる蓮華文を施している。273は火鉢口縁部の破片である。口縁外面の突帯間にスタンプによる梅花文を施している。274は耳皿である。胎土は京都系土師器と同じ浅黄灰色の色調を呈する。275は土師質の筒型をした土器の底部破片であるが、三足を持つ香炉の可能性もある。276は燗台で、赤褐色の色調を呈し、底部に糸切り痕が認められる。穿孔は貫通しない。277・278は土師質土器を再加工した製品で周辺部に研磨を加え、円形に加工している。277は直径3.2cm、厚さ1.9cmである。278は直径1.9cm、厚さ0.7cmである。遊具として使用された可能性が高いと思われる。279は風炉の口縁部から胴部にかけての破片で、胴部中位には直径5cm程の透かし孔が認められる。黄褐色の色調を呈し、口縁内面にはカキ目を施している。

香炉

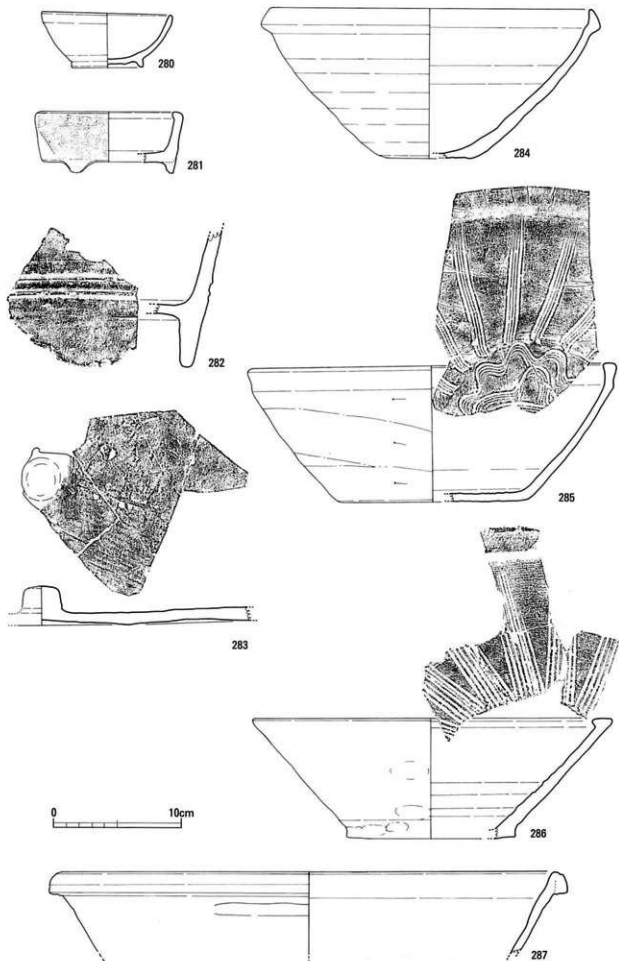
第180図はいずれも瓦質土器である。280は高台付きの壺で口径10.2cm、器高4.4cmである。淡茶灰色の色調を呈し、内面は丁寧なミガキを施し、外面はナデ仕上げを行っている。281は角山産と思われる三足の香炉で、外面口縁部に双頭巖手龍雲文の刻印を等間隔に施している。色調は黒褐色を呈している。282は火鉢の底部破片である。胴部下半の突帯の間には2個一単位の双頭巖手龍雲

角山産

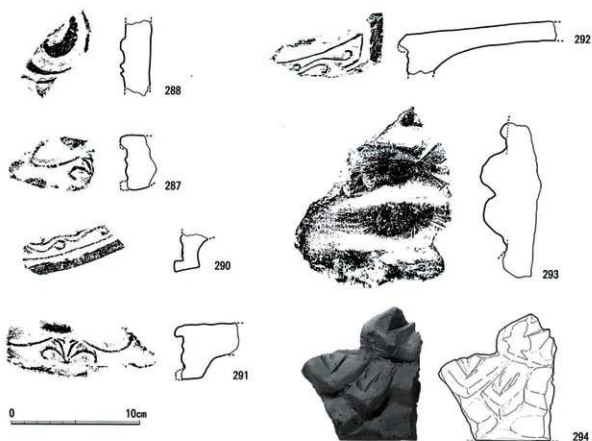
三足の香炉



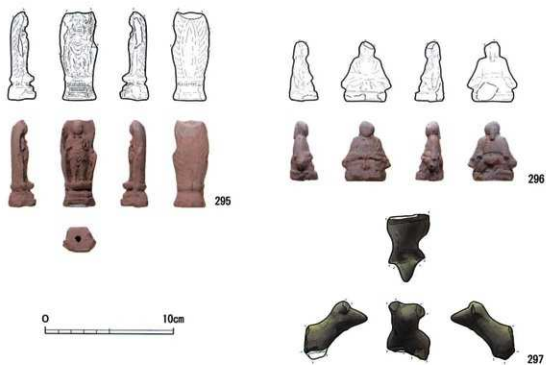
第179図 包含層・整地層出土遺物実測図⑨ (1/3)



第180図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第181図 包含層・整地層出土遺物実測図㉒ (1/3)



第182図 包含層・整地層出土遺物実測図㉓ (1/3)

文を等間隔に押捺する。底部には逆台形状の脚を貼り付ける。内外面とも丁寧なナデ調整が行われている。整地層内からの出土で16世紀後半代の初産である。283は蓋の破片である。直径3cm、高さ2cm程の円錐形つまみを貼り付けている。上面は格子目タタキの後、平行タタキを施している。下面はハケ調整を行った後で、ナデ仕上げを行っている。色調は淡灰色を呈している。284は握ね鉢である。内外面とも丁寧なナデ仕上げを行っている。口縁部には自然釉が掛かっている。285は豊前を中心とする地域で出土する播鉢で、淡灰色を呈する。播目は4本一単位で胴部内面に、見込みには花文状の播目が施されている。口縁は稜をもって上方に立ち上がり、「く」の字形に内反させている。胴部外面は不定方向のへら削りが施されている。286も播鉢で、内面には7本一単位の播目を施している。見込みは欠損のため不明である。胴部外面は不定方向のナデが施されている。287は鍋か鉢の口縁の破片であろう。

瓦類 (第181図)

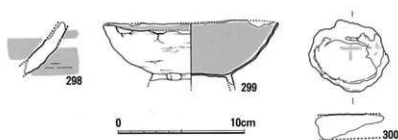
- 軒丸瓦 第181図288は軒丸瓦の瓦当破片である。左巻きの三ツ巴文で、中央部破片のため、蓮珠文や圏線の有無は不明である。瓦当成形は瓦当上面に丸瓦を貼り付けている。289～292は軒平瓦の瓦当破片である。289と291は同一文様の均正唐草文である。中心飾りに左右対称の二葉の唐草を配置し、そこからさらに左右に唐草文を派生させる。内区には圏線は持たない。瓦当成形は瓦当上面に平瓦を貼り付けている。290・292も同一文様の均正唐草文である。中心飾りは欠損のため不明である。現状では四葉の唐草を派生させる。内区に圏線を持つ。瓦当成形は瓦当上面に平瓦を貼り付けている。
- 鬼瓦 瓦当面に離れ砂の痕跡が認められる。293・294は鬼瓦の一部であるが、部位は不明である。

土人形 (第182図)

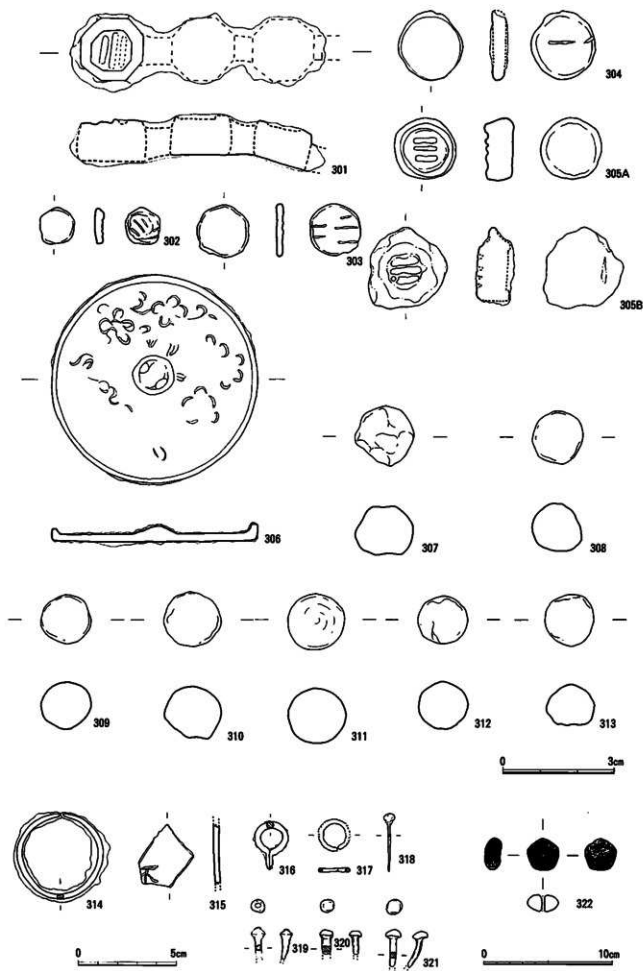
- 観音菩薩 295は観音菩薩の土製品と思われる。光背の頂部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。高さは現存で6.9cmである。調査区上層の攪乱層からの出土であり、近世の初産である。
- 内裏 296は内裏の土製品と思われる。頭部を欠く。型合わせの製品で、底部中央に穿孔が認められる。高さは現存で4.7cmである。調査区上層の攪乱層からの出土であり、近世の初産である。297は大型土製品である。手づくねの製品で、耳と胴部を欠く。安産を祈ったものか。

木製品 (第183図)

- 漆器椀 298は漆器椀の胴部片である。外面は赤漆を施している。内面は黒漆を施し、赤漆で文様を描いているが、残存状態が悪く、文様形態は不明である。299も漆器椀で、口縁部・高台下部を欠く。内外面とも赤漆を施している。木質部がかなり伸縮し、器壁は薄くなっている。300は漆器椀の高台底部である。木質の残りが悪く、漆の皮膜だけの残存である。黒漆の上に赤漆で模様を描いている。文様は「十」の字が確認できる。



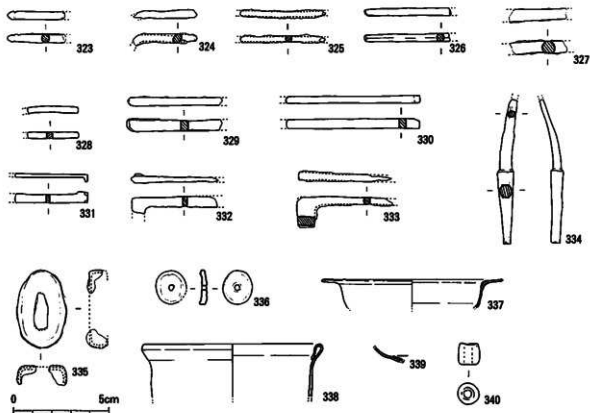
第183図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第184图 包舍厝·整地层出土文物实例图④ (1/1、1/2、1/3)

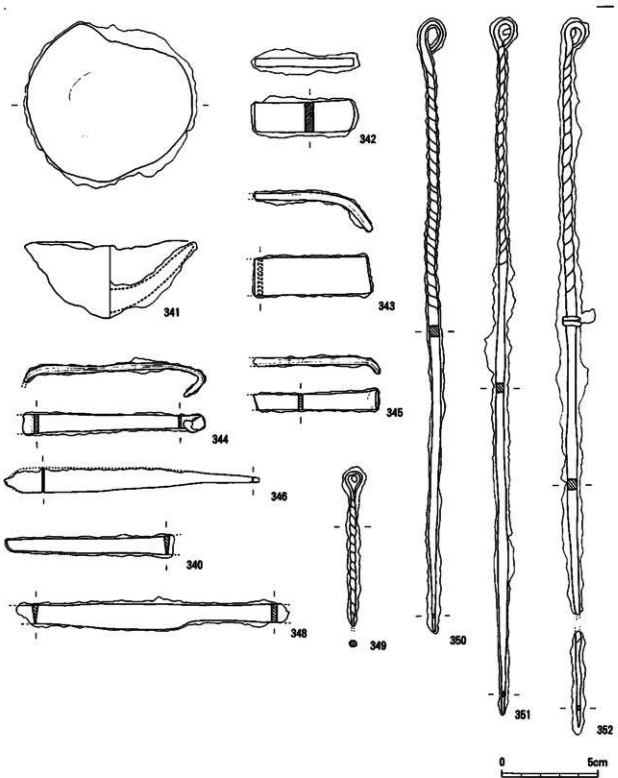
金属製品 (第184~187図)

- 分銅 第184図は主に銅製品を图示している。301~305は分銅である。301は3連の分銅で八角形をしている。表面に大友氏の定紋である「三木文」を表現している。まだ未製品で、バリが付いており、鉤型から取り出したままの状態である。さらに片方向に欠損しており、3連以上の可能性もある。
- 三木文
- バリ
- 八角形分銅 出土層は上層の中近世攪乱包含層である。大きさは全長6.7cm、幅1.8~2.0cm、厚さ0.9~1.0cm、重量60.1gである。302・303も八角形分銅で、ともに厚さ0.2mmと薄い製品である。302はタガネ彫りによる5条の記号が認められる。重量は0.2gである。303はタガネ彫りによる5条の記号が認められる。重量は1.6gである。304・305A・305Bは太鼓型分銅で、304の表面には横「一」紋様が見られる。重量は5.9g、305A・305Bの表面には「三木文」が認められる。305Aは重量は10.4gである。305Bは301と同様に未製品でバリが付いている。重量は16.3gである。当調査区では301の「三木文」3連分銅の未製品や増場が出土していることや、他の大友関連遺跡調査区では鍛冶工房等の施設も確認されていることから、豊後府内では分銅等の製作が行われていたであろう。306は和銭の完形品である。出土位置は上層の中近世攪乱包含層である。縁と鈕の間に花文状の模様を施している。
- 鉛玉 大きさは口径5.4cm、厚さ0.2~0.45cm、重量33.3gである。307~313は鉛玉(鉄砲玉)で一部中央に型合わせの痕跡が認められる。314は鉄製のリング状で用途不明製品であるが、門や軍筒等の把手の可能性もある。断面四角形で径4.8cmである。315は銅製品の破片で板状を呈し、厚さ3mmである。
- 「不」の刻印 表面に「不」の刻印が見られる。316は先端リング状の銅製品である。リング部の径は1.7cmで断面は円形である。317はやはりリング状の銅製品で径1.7mmである。318は針と思われる銅製品である。
- 針



第185図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/2)

注 (1) 森政博「守護大名から戦国大名へ」(『大分市史』中 1987年) 228頁



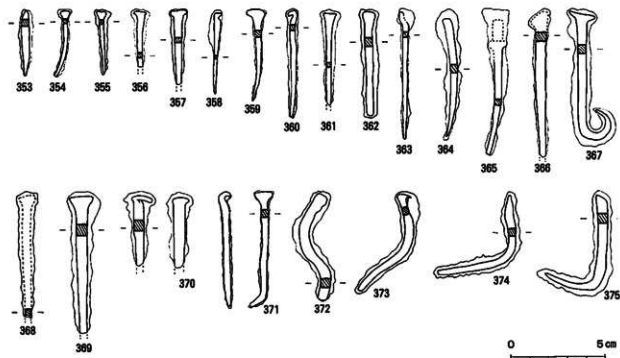
第186图 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/2)

第2節 遺構と遺物

頭部が丸く径6mm、先端は尖っている。全長は3.05cm、重量0.8gである。319~321は釘状の銅製品で先端部を欠く。頭部は円形を呈する。断面は319が丸く、320・321は方形である。322は梅花状の装飾品である。右製品と思われ、中央を穿孔している。

錠前 第185図323~334は錠前の一部でいずれも銅製品である。断面が丸と方形の2種類がある。334は鐔他の錠前と形態が違い、先端部が細くなる。断面は六角形である。335は銅製品で刀の鐔と思われる。長径4.1cm、短径2.5cmで保存状態は良くない。336はボタン状の銅製品で、中央に孔を持つ。長径1.8cm、短径1.6cm、厚さ0.3cm、重量1.4g、中央の孔径0.2~0.25cmである。337は銅製碗の口縁ガラス製品破片と思われる。口径9.5cmで重量は5.7gである。338はガラス製品の口縁部破片である。口径9.6cmで、色調は透化性の濃緑色である。口縁部は折り返している。339もガラスの破片で碗の胴部であろう。色調は透化性の淡茶色である。外面に白色の軸葉で紋様を描いている。340はガラス玉で、高さ1.0cm、幅1.0cm、中央に0.4cmの穿孔を施している。

鉄製の碗 第186図は鉄製品である。341は碗あるいは碗の蓋と思われる。口径8.1~9.0cmで変形している。器高は3.8~4.0cm、重量180.4gである。錆出が著しい。342・343は用途不明の鉄製板状製品である。342は長さ5.3cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重量22.0gである。343は長さ6.5cm、幅2.2cm、厚さ0.5cm、重量13.1gである。344・345も用途不明の鉄製品であるが、斧の可能性もある。346は斧で、ほぼ完形である。全長13.4cm、幅0.3~1.3cm、厚さ0.1cm、重量7.4gである。整地層から出土している。347・348は刀子である。347は刃部で、348は刃部先端を欠く。349~352は火箸である。349は先端部の捻り部分である。先端は折り曲げている。断面は円形となる。350は全長32.0cm、幅0.5cmの完形品である。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度23回捻っている。351は全長36.2cm、幅0.5cmの完形品である。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度18回捻っている。352は全長36.2cm、幅0.5cmで、下方が折れ2点となっているが、同一箇所からの出土のため、同一製品と思われる。断面は方形となり、先端部は彎曲に折り曲げ、下方を12cm程度16回捻っている。



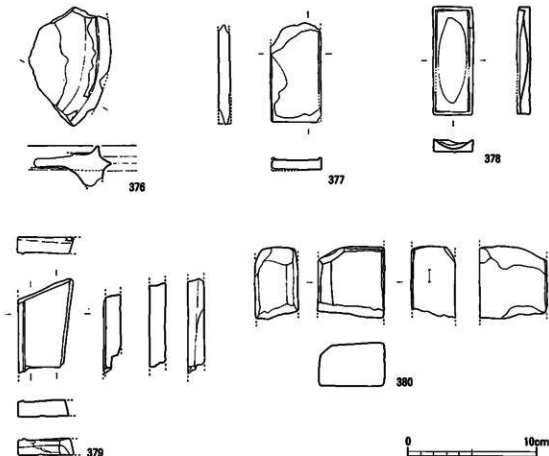
第187図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/2)

第187図は釘である。錆出が著しいが断面形は方形を呈している。完形品で長さ3.3~9.0cmである。大部分が、包含層土上の遺物である。

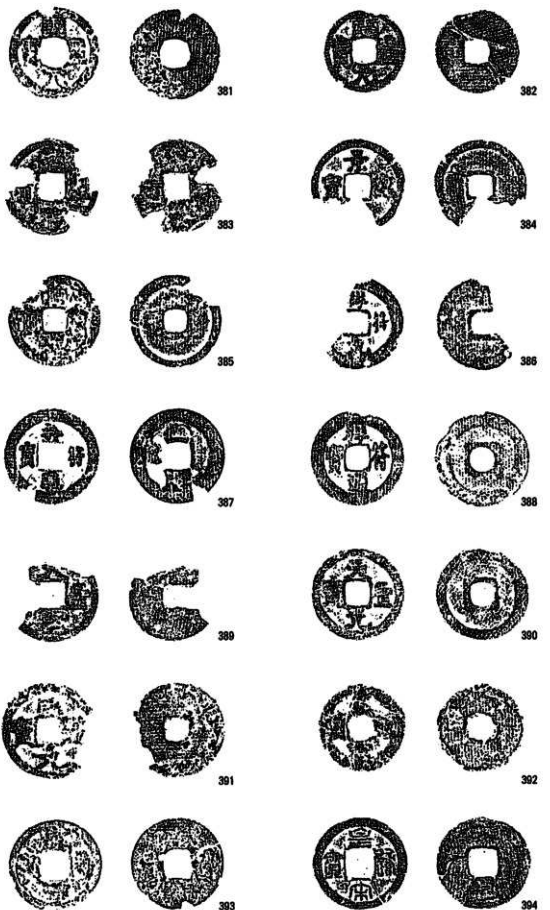
- 円面硯
無堤式
188図376~379は硯である。376は須恵器製品の円面硯の破片で、陸と海を区画する堤を設けない無堤式である。陸部の中央は欠損のため確認しにくい。心もち盛りあがり気味で、使用による研磨痕が見られる。脚部はすべて欠損しているが四角台残存部から判断して、短軸が丸みを持つ透し孔を持つ圓足硯に相当する。透し孔の数は不明である。377は輝緑凝灰岩製、別名赤間石の長方硯で被熱しており、硯頭は欠損している。陸の中央部は堤の研磨により、僅かに窪んでいる。規模は残存で長軸7.7cm、短軸4.0cm、厚さ1.9cmである。携帯用の硯であろう。378は片岩の長方硯で、全容を残している。陸の中央部は堤の研磨により、著しく窪んでいる。規模は長軸8.4cm、短軸3.1cm、厚さ2.3cmである。携帯用の硯であろう。379は砥石で、輝緑凝灰岩製、別名赤間石の被熱した長方硯の転用で、硯頭・硯尻と除かれている。規模は長軸7.5cm、短軸3.3~4.3cm、厚み2.3cmである。380は輝緑凝灰岩製の砥石で、上下とも欠損しているが、側面は全て砥石として使用されている。規模は残存長軸5.4cm、最大幅5.2cm、厚さ3.4cmである。

錢貨

第189~192図には錢貨を提示した。381~383は中国唐代の「開元通寶」で、書体はいずれも真書である。初鋳年代は621年である。384~410までは中国北宋代の銅錢である。384・385は「景德元寶」で、書体は真書。初鋳年代は1004年。386~388は「祥符通寶」で、書体は真書。初鋳年代は1008年。

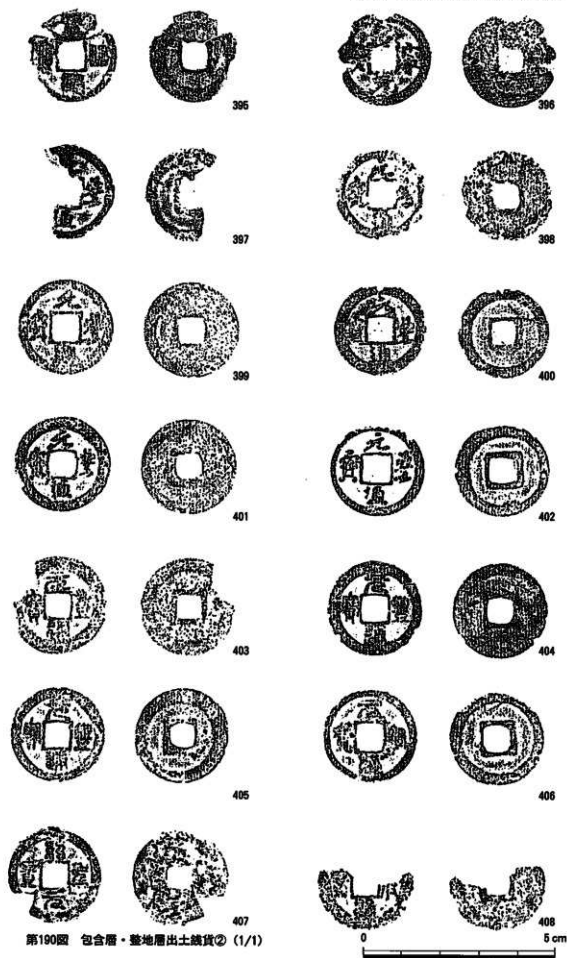


第188図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第189圖 包舍層・整地層出土錢貨① (1/1)

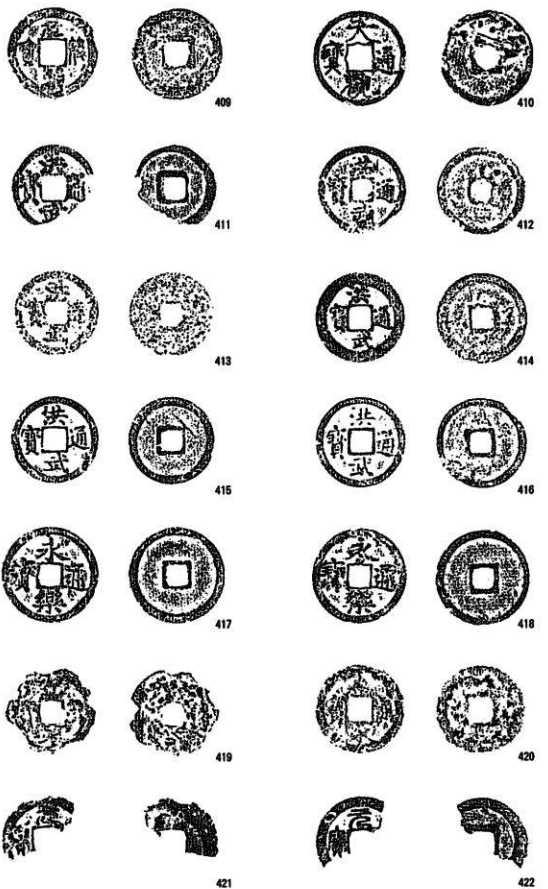




第190図 包含層・整地層出土銭貨② (1/1)

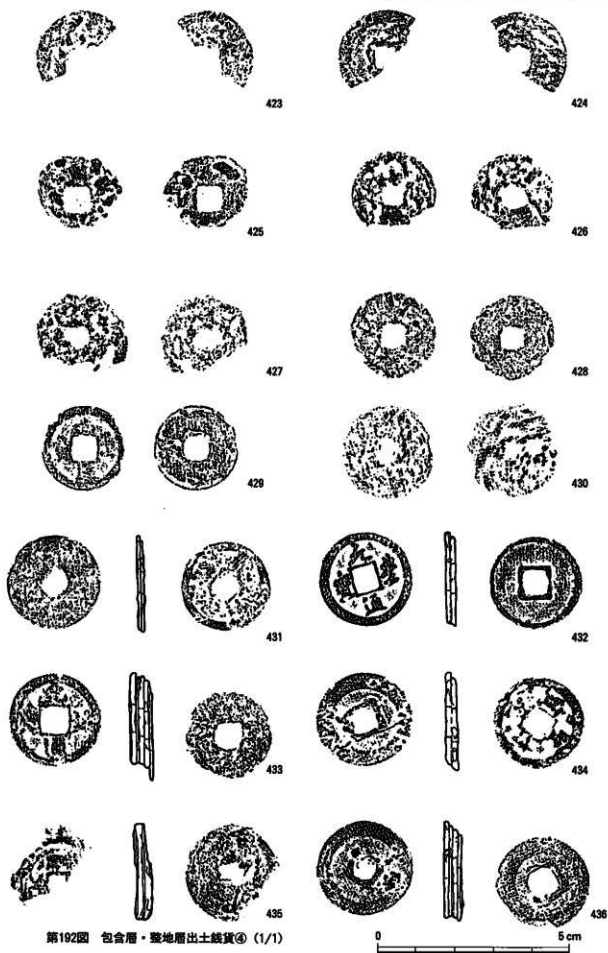
0 5 cm

第2節 遺構と遺物



第191圖 包含層・整地層出土錢貨③ (1/1)





第192図 包含層・整地層出土銭貨④ (1/1)

389・390は「天聖元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1023年。391は「明道元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1032年。392～394は「皇宋通寶」で、書体は391・392が真書で393が篆書。初鑄年代は1038年。395は「嘉祐通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1056年。396は「熙寧元寶」で、書体は真書。初鑄年代は1068年。397～405は「元豐通寶」で、397～402の書体は行書で、403～405は篆書。初鑄年代は1078年。406は「元祐通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1086年。407は「紹聖元寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1094年。408・409は「元符通寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1098年。410は「大觀通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1107年。411～418までは中国明代の銅銭である。411～416は「洪武通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1368年。417・418は「永樂通寶」で、書体は真書。初鑄年代は1408年。419・420は日本の銅銭で、「寛永通寶」、書体は真書。初鑄年代は1638年。表土層除去後の精査中の出土品である。421～430は錆のため判読が難しいが、421・422は篆書による「元」「寶」が判読できる。431～436は数枚が付着した状態での出土である。431～434の判読面は中国北宋時代の銅銭である。431は「治平元寶」で、書体は篆書。初鑄年代は1064年、2枚付着。432は「元豐通寶」で、書体は行書、2枚付着。433は「元祐通寶」で、書体は行書、5枚付着。434は「皇宋元寶」で、書体は行書。初鑄年代は1101年、2枚付着。435は不明で3枚付着。436も不明で4枚付着している。以上が大友18次東地区から出土した銅銭である。整地層としているが、調査当初は島津侵攻復興後の面を整地層としていたため、土取りをした後の埋土整地層と混同した部分が一歩考えられる。よって、整地層として取り上げている遺物中には近世に擾乱を受けて上面に浮上した遺物を含んでいる可能性を持つ。

第3節 小 結

1. 遺構の変遷

下層遺構群 中世大友府内跡第18次東調査区で検出された遺構群は、16世紀後葉以前の「下層遺構群」と16世紀後葉以降の「上層遺構群」に大別される。これらはさらに切り合い関係や出土遺物によって、8世紀前半、16世紀中葉、16世紀後葉、16世紀後葉～末葉、16世紀末葉～17世紀初頭の5時期に細別される。

8世紀代の遺構

SK176 8世紀代に比定されるものは、井戸（SK176）がある。当該時期の遺構はこれが唯一のものであるが、同時期から9世紀代の遺物が土取り後の埋め戻し整地層内から出土している。本来は当地区を含む周辺には古代の遺構が展開していたであろうが、中世～近世段階の整地や土取り、遺構の構築によって他の遺構は消滅したと推定される。

16世紀中葉の遺構

土取り 16世紀中葉の遺構は、当調査区では触れていないが、16世紀中葉と断定できる遺構は確認できない。しかし、16世紀後葉以降の遺構埋土とは違うと思われる柱穴が僅かながら検出されている。土坑は未確認である。当地区は、周辺の調査区より遺構検出面の削平が激しく、また、16世紀第3四半期前後の土取りによる削平で、調査区の当時の遺構の大半が削平を受けて消滅したと推定している。

16世紀後葉の遺構

第2南北街路 16世紀後葉の遺構で確認できる遺構は、溝状遺構（SD306）、井戸（SE075・079・261）、柱穴群等である。後葉前後から当地区では第2南北街路の整備とともに、町屋に関連する遺構群の形成が始まり、東西方向に確認された柱穴等が柵列として機能し始める頃と考える。この柵列が町屋の区画となり、井戸は比較的等間隔で検出されている。この井戸は町屋の附帯施設と考えられ、この時期に掘られたものと考えられる。また、土層の堆積状況から、1986年の島津侵攻時には破壊され廃棄土坑として二次使用されていた井戸も確認されている。

16世紀後葉～末葉の遺構

16世紀後葉～末葉になると、町屋に関連する遺構群の形成がほぼ完成をみたものと推定する。土坑 (SK266・273・274) や、渠石 (SX244・245・302)、土器集中区 (SX054・062・066) 等である。検出された遺構は削平により比較的少ないが、末葉以降 (島津侵攻後) に構築された遺構の内容から、礎石を使用した整った町並みが推測できる。

16世紀末葉～17世紀初頭の遺構

16世紀末葉～17世紀初頭になると、構築される遺構は最盛期を迎えるが、そのほとんどが廃棄土坑である。SK065・068・085・252・292・293等はその典型であり、天正14年 (1586) 12月の島津侵攻後に構築された遺構である。土坑内には多量の焼土・炭とともに、被熱した礎石や土器等が廃棄されていた。整地を行った時の廃棄土坑である。また、使用を停止している井戸等も、廃棄土坑としての二次使用が認められた。

2. まとめ

桜町 中世大友府内町跡第18次東調査区を含む周辺の調査では、「戦国時代の府内復元想定図」による「桜町」の一面に相当するが、この想定図の元となった「府内古園」の内容とほぼ一致する結果 (第2南北街路や名小路の確認と周辺に展開する町屋等) となっている。

生活空間 当調査区では、16世紀以前の遺構は奈良時代の井戸1基を確認しただけで、他は16世紀中葉以降の遺構である。奈良時代の井戸は検出面からは1.5m前後であり、かなりの削平を受けている。井戸が検出されたことから、周辺は当時の生活空間であったと推測され、集落等の存在がほぼ確実であろう。これ以降については、9～15世紀の遺物が少量出土しているが、包含・整地層内からの出土であるため、他地域からの流入も十分考えられ、遺構の存在は確認できない。周辺の様相からも考えて、本地区を含む周辺はほとんどが空地であった可能性が高い。この地域が町として機能を持ち始めたのは16世紀中葉から後葉前後の大友宗麟治世から大友義統治世の時代になってからであろう。特に16世紀後葉頃になると第2南北街路の整備に始まり、街路周辺の町屋整備に発展している。街路の整備にやや遅れるように、大友氏館内の整備と推測される、街路周辺の大規模な土取り作業が行われている。この土取り作業は、当調査区のほぼ2/3が対象となっている。第2南北街路整備と土取りの関係は、当調査区北壁の土層観察の結果から、土取り作業は街路の整備後 (初期)

埋め戻し に行われていることが確認されている。土取り後、ほとんど間を置かず埋め戻しの整備を行い、櫓列 町屋を形成していると推測される。当調査区でも4基の井戸と、東西に走る柱穴群を9条確認したが、礎石・根石を持つ柱穴はほとんどなく、獨立柱建物跡というより、櫓列 (間仕切り) と考える方が妥当であろう。また、櫓列間にも多数の柱穴と土坑が確認されている。その後、天正14年 (1586) 12月の島津侵攻で焼き討ちに遭い、焼失したと思われる。復興の兆しとして、多くの土坑が確認されている。そのほとんどが火災処理土坑で、焼土・炭とともに被熱した大型の礎石や土器が多量に廃棄されている。確認された柱穴等は埋土に焼土・炭等を含んでおり、家屋等の復興をしたと考える。当地域では17世紀初頭までは町屋としての機能があったと思われる、唐津系や瀬戸美濃系の土器が少量ながら出土している。遺構の検出はみられなかった。その後は府内城下に移動し、空地 再び空地となり水田として使用され、現在に至ったと考える。

以上のように、本地区は水田等による削平もあり、16世紀中葉以前の生活基盤面は現存していないため、詳細は不明であるが、周囲の状況や出土遺物の年代観からみて、生活空間として活用されていたのはごく短期間であったと考えられる。奈良時代の一時期と16世紀中葉も遅い時期から17世紀初頭までの時期であろう。

第6章 中世大友府内町跡第28次調査区

第1節 調査の概要

中世大友府内町跡第28次調査区は大分県大分市錦町3丁目に所在し、標高約5.5mの沖積低地上に立地する。1987年に大分市史編さん委員会が作成した「戦国時代の府内復元図」によると、当該調査区は大友氏館跡と第2南北街路を挟んで隣接し、中世府内を構成する40余りの町のひとつである「桜町」の一面に相当する地点である。

本章で報告する第28次調査区については、1993年発行の『大分県遺跡地図』において、「中世大友城下町跡」の名称で登録されていたことや平成12年(2000年)度以降継続されている一般国道10号古国府拡幅事業に伴う周辺地域の発掘調査で、戦国時代の遺構・遺物の存在が確認されていたことから、平成15年(2003年)度に発掘調査(本調査)を行った。本調査区は北に位置する第18次調査区と隣接し、南側の第22次調査区とは道路を挟んで隣接する(第193図)。調査期間は2003年5月中旬から12月下旬までの約9ヶ月間であり、発掘調査面積は約480㎡におよぶこととなった。

調査期間
2003年
5月中旬～
12月下旬

発掘調査
面積約480㎡

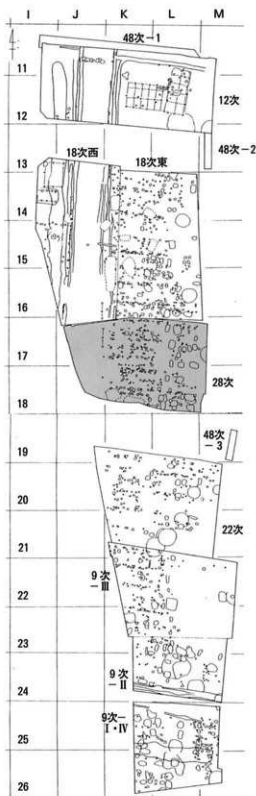
第2節 遺構と遺物

1. 遺構の概要と基本層序

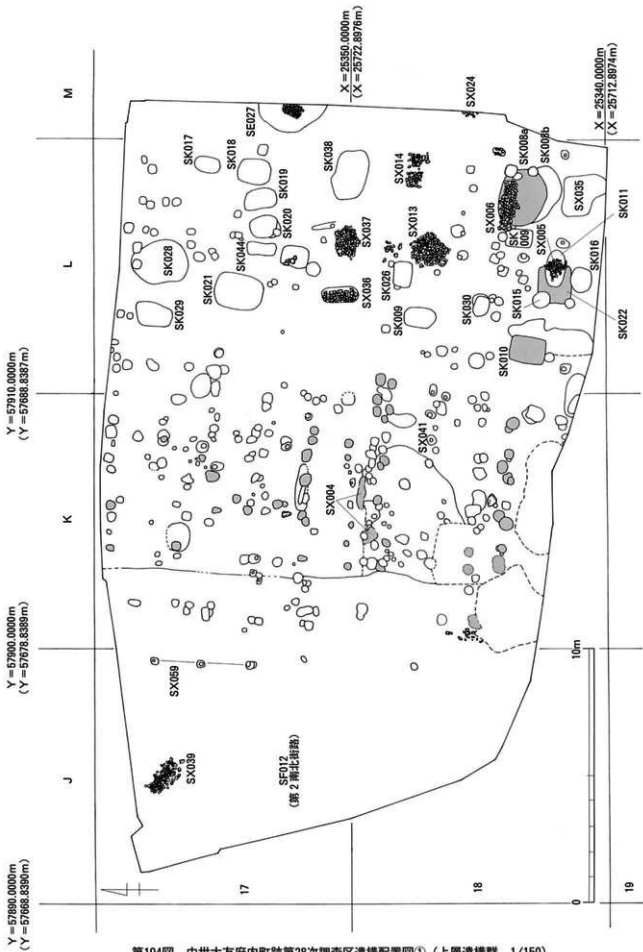
一般国道10号古国府拡幅事業に伴う発掘調査では、事業対象地区を国土座標に乗せた10m方眼で区画している。それぞれの区画には西から東へJ～M、北から南へ1～78の番号を付し、アルファベットと数字の組み合わせで、各々の区画を呼称することとしている(例えばJ17区、L18区など)。本章で報告する第28次調査区は、東西J～M区、南北17・18区の位置に相当する(第193図)。

中世大友府内町跡第28次調査区で検出された主要遺構は、道路遺構(第2南北街路)1、溝4、土坑34、集石遺構8、井戸1、掘立柱建物1、礎石2、その他の遺構3、柱穴および小穴多数があり、その大半が15世紀後半から16世紀代の戦国時代に比定されるものである。

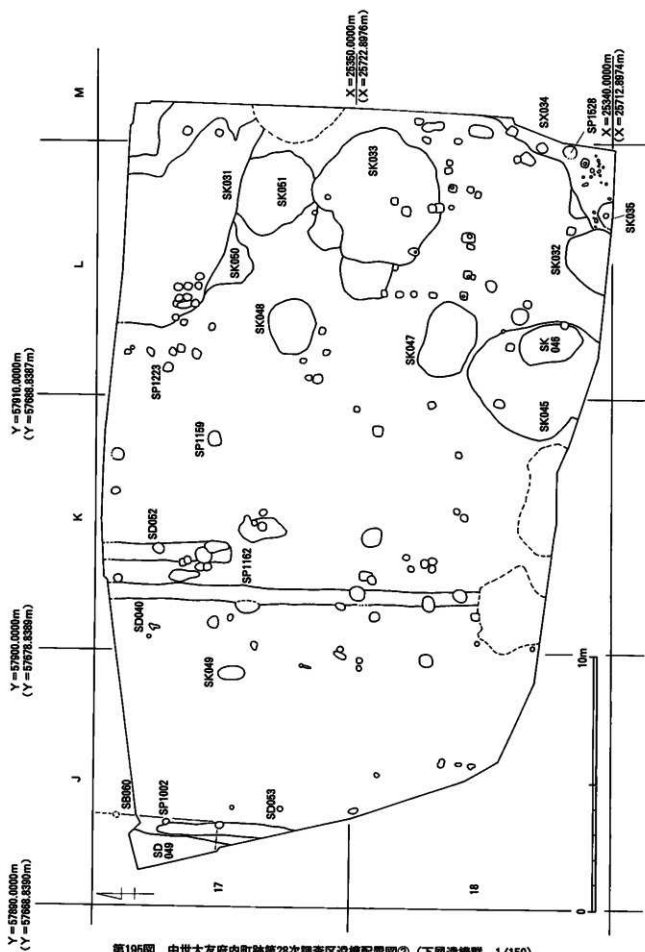
本調査区では、旧表土上に近年の造成による置土が0.8～1.2mほど堆積しており、この造成土の下位に近世から近現代の所産と思われる水田形成



第193図 第28次調査区の位置(1/800)



第194図 中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図① (上層遺構群、1/150)
 ※アミ掛けは焼土を含む遺構



第195図 中世大友府内町跡第28次調査区遺構配置図②(下層遺構群、1/150)

第2節 遺構と遺物

第5表 遺構一覧表①

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SD001	S001	溝	L18	近世	水田耕作に伴う溝?未調査(割愛)	-
SK002	S002	土坑	K17	16世紀後葉~末葉		191
SX003	S003	礎石・焼土層	K18	16世紀末葉	天正14年(1586)焼土層	229
SX004	S004	焼土層	K18	16世紀末葉	天正14年(1586)焼土層	237
SX005	S005	集石遺構	L18	16世紀末葉~17世紀初頭		218
SX006	S006	集石遺構	L18	16世紀末葉		219
SK007	S007	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		191
SK008	S008a	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		191
SK008	S008b	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		191
SK009	S009	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		194
SK010	S010	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		195
SK011	S011	土坑	L18	16世紀末葉		195
SP012	S012	道路	J17~K18	16世紀後葉	第2南北街路	185
SX013	S013	集石遺構	L18	16世紀末葉		222
SX014	S014	集石遺構	L18	16世紀後葉~末葉		225
SK015	S015	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		196
SK016	S016	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		196
SK017	S017	土坑	L17	16世紀後葉~末葉		197
SK018	S018	土坑	L17	16世紀後葉~末葉		197
SK019	S019	土坑	L17	16世紀後葉~末葉		197
SK020	S020	土坑	L17	16世紀後葉~末葉		197
SK021	S021	土坑	L17	16世紀末葉		199
SK022	S022	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		197
SX023	S023	礎石	K18	16世紀後葉		229
SX024	S024	集石遺構	K18	16世紀後葉~末葉		226
SK025	S025	土坑	L18	16世紀末葉		200
SK026	S026	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		201
SE027	S027	井戸	L17	16世紀後葉~末葉		202
SK028	S028	土坑	L17	16世紀末葉		202
SK029	S029	土坑	L17	16世紀末葉		203
SK030	S030	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		204
SK031	S031	土取り遺構	L17	16世紀		204
SK032	S032	土坑	L18	不明		206
SK033	S033	土取り遺構	L18	16世紀後葉		208
SX034	S034	落ち込み状遺構	L18	16世紀後葉		237
SK035	S035	土坑	L18	16世紀後葉~末葉		208
SX036	S036	集石遺構	L17・L18	16世紀後葉~末葉		226
SX037	S037	集石遺構	L17・L18	16世紀末葉		226
SK038	S038	土坑	L17・L18	16世紀末葉		209
SX039	S039	集石遺構	J17	16世紀後葉~末葉	第2南北街路整地併中の集石	228
SD040	S040	溝	K17・L18	14世紀後半~15世紀		189
SX041	S041	整地層	K18	16世紀後葉		237
SK042	S042	土坑	K18	不明		211
SK043	S043	土坑	K17	16世紀末葉		211
SK044	S044	土坑	K18	16世紀末葉		211
SK045	S045	土取り遺構	K18・L18	15世紀後葉		212
SK046	S046	土坑	L18	14世紀末葉~15世紀初頭		213
SK047	S047	土坑	L18	15世紀後葉		214
SK048	S048	土坑	L18	不明		214
SD049	S049	溝	J17	14世紀後半~15世紀		187
SK050	S050	土取り遺構	L17	不明		215
SK051	S051	土坑	L17	14世紀後半~15世紀		215
SD052	S052	溝	K17	14世紀後半~15世紀		190
SD053	S053	溝	J17	14世紀後半~15世紀		188
SX059	-	柱穴列	J18	16世紀後葉~末葉	報告書作成時に遺構番号を設定	230
SB060	-	掘立柱建物	J17	15世紀	報告書作成時に遺構番号を設定	230

第6表 遺構一覧表②

本報告での 遺構番号	旧遺構番号	遺構の性格	遺構の位置	遺構の時期	特記事項	掲載頁
SP1002	S1002	ビット	J17	15世紀	SB060を構成	230
SP1102	S1102	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1107	S1107	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1109	S1109	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1110	S1110	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1114	S1114	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1117	S1117	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1119	S1119	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1120	S1120	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1121	S1121	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1130	S1130	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1135	S1135	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1137	S1137	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1138	S1138	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1141	S1141	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1142	S1142	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1144	S1144	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1146	S1146	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1147	S1147	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1148	S1148	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1150	S1150	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1159	S1159	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1162	S1162	ビット	K17	16世紀後葉～末葉		231
SP1201	S1201	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1209	S1209	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1210	S1210	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1211	S1211	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1214	S1214	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1216	S1216	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1221	S1221	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1227	S1227	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1230	S1230	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1233	S1233	ビット	L17	16世紀後葉～末葉		231
SP1404	S1404	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1408	S1408	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1413	S1413	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1415	S1415	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1419	S1419	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1425	S1425	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1431	S1431	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1432	S1432	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1442	S1442	ビット	K18	16世紀後葉～末葉		231
SP1501	S1501	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1505	S1505	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1512	S1512	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1514	S1514	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1517	S1517	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1526	S1526	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231
SP1527	S1527	ビット	L18	16世紀後葉～末葉		231

第2節 遺構と遺物

層が認められる。発掘調査では近年の造成土のすべてと水田層の大部分を大型重機によって除去し、水田層の下部付近から人力による掘り下げを開始した。水田層は部分的に中世の遺構を削平している地点があり、水田層の下部には肥前（唐津）系陶器や寛永通寶などの江戸時代前期の遺物が包含されていた。

天正14年
(1586)の
焼土層

水田層をすべて除去すると、道路遺構SF012や焼土層、ならびに中世末から近世初頭にかけての整地層が現れる。焼土層の堆積はK18区付近で特に顕著であり、調査区南壁土層（第196図土層③）では約50cm程度の層厚が認められるほか、ブロック状に堆積する焼土層SX004なども確認された。これらの焼土は、層位的な所見や出土遺物などから天正14年（1586）12月の島津侵攻時に形成されたものと推定している。

上層遺構群
16世紀
末葉前後

近世の水田層や島津侵攻時の焼土層を除去すると、SF012とした道路遺構や多数の柱穴群、廃棄土坑、集石遺構、井戸などの遺構が密集して検出された。本報告では、これらの遺構群を「上層遺構群」と命名している（第194図）。上層遺構群では、J17・J18区付近で道路遺構、K17・K18区付近で多数の柱穴群、L17・L18区付近で廃棄土坑、M17区で井戸などが検出され、これらは16世紀末葉前後に比定される町屋関連の遺構と推定される。大友氏館跡との位置関係や府内古園との対比から、これらの町屋関連の遺構群は、府内古園に記載されている「桜町」の一面に相当する可能性が極めて高いと考えている。

下層遺構群
16世紀
後葉
14～15世紀

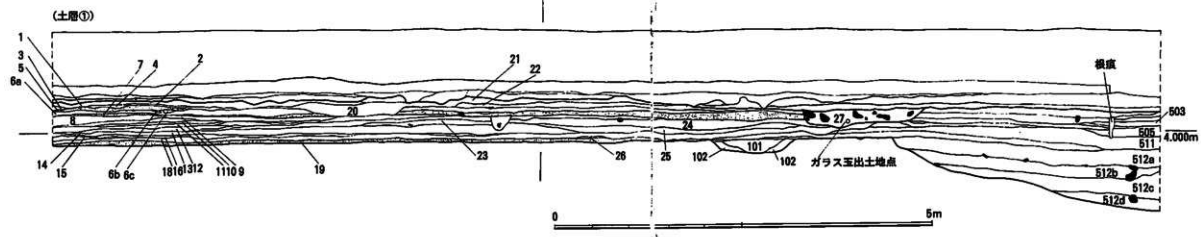
本調査区における基盤層である黄褐色粘質土は、K17・K18区付近で最も標高が高く、東側に向かって緩やかに傾斜している。また、道路遺構SF012を形成する整地層をすべて撤去した後の面からも柱穴、溝などの遺構が検出されている。この黄褐色粘質土の直上で確認した遺構群を、本報告では「下層遺構群」と命名している（第195図）。下層遺構群に所属するものには、溝や柱穴・土坑などのほか、土取りと思われる大型の掘り込みが認められる。これらの遺構の所属時期は、16世紀後葉に比定されるものから、14～15世紀代に遡るものも確認されている。

本調査で検出された遺構は、14世紀から17世紀初頭に比定されるものに限られており、中世前期以前に遡るものは確認されていない。

以下、遺構と出土遺物の詳細を報告する。

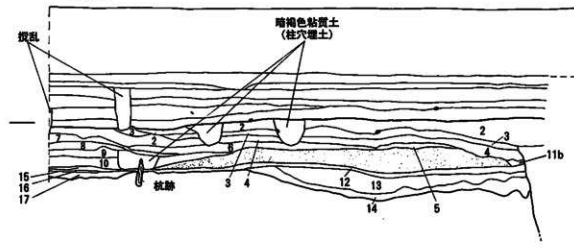
187.182
①

191.182
②

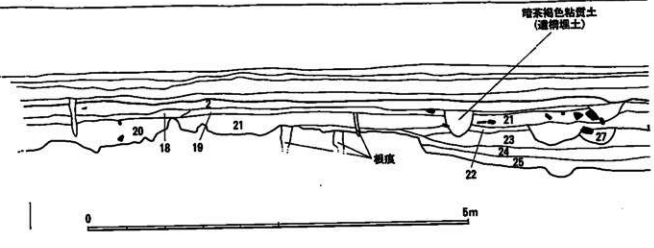


- 0. 近世の水田造成土層群
- 1. 灰褐色粘質土
- 2. 暗茶褐色粘質土 (粘土層を含む。上面が硬化する。)
- 3. 暗褐色粘質土
- 4. 暗茶褐色粘質土 (2層に類似。粘土層をほとんど含まない。上面が硬化する。)
- 5. 黄灰褐色粘質土
- 6 a. 暗褐色粘質土 (粘土層をわずかに含む。上面が硬化する)
- 6 b. 暗褐色粘質土
- 6 c. 赤褐色粘質土
- 7. 黄灰褐色粘質土
- 8. 暗褐色粘質土
- 8. 暗灰褐色粘質土 (粘土層をわずかに含む。)
- 10. 暗褐色粘質土
- 11. 暗灰褐色粘質土
- 12. 暗褐色粘質土
- 13. 暗灰褐色粘質土
- 14. 暗茶褐色粘質土

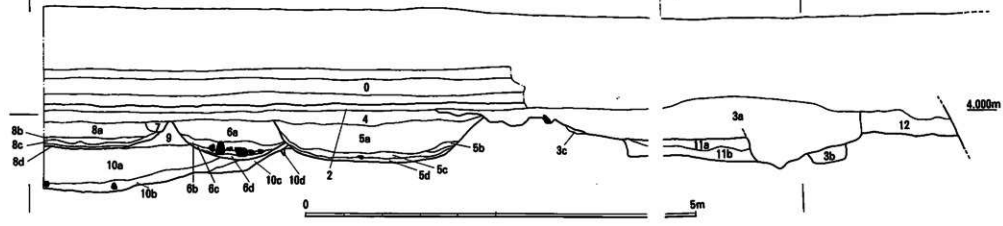
(土層②)



SE027 埋土 (土層崩落)



(土層③)



- 0. 近世の水田造成土層群
- 2. 暗赤褐色粘質土
- 3 a. 暗茶褐色粘質土 (粘土を多量に含む。天正14年(1586) 焼土層か?)
- 3 b. 暗褐色粘質土 (粘土を含む)
- 3 c. 暗褐色粘質土 (粘土を含まない)
- 4. 暗茶褐色粘質土
- 5 a. 暗褐色粘質土 (粘土粒・炭を含む)
- 5 b. 黄灰褐色粘質土
- 5 c. 灰褐色粘質土
- 5 d. 暗灰褐色粘質土
- 5 e. 暗褐色粘質土
- 6 a. 黄灰褐色粘質土
- 6 b. 暗褐色粘質土
- 6 c. 暗茶褐色粘質土
- 6 d. 灰褐色粘質土
- 6 a~6 d. SK005埋土
- 7. 暗褐色粘質土 (柱穴層土) 粘土を多く含む
- 8 a. 暗褐色粘質土 (粘土を少量含む)
- 8 b. 黄褐色粘質土
- 8 c. 暗茶褐色粘質土 (炭を多量に含む)
- 8 d. 暗灰褐色粘質土 (炭をほとんど含まない) * 8 a~d. SK005埋土
- 9. 暗褐色粘質土 (少量の粘土粒・炭を含む)

187.182
③

187.182
③

191.182
④

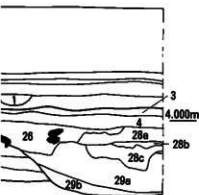
187, 182
②

- 15. 灰茶褐色粘質土
- 16. 暗褐色粘質土
- 17. 暗褐色粘質土
- 18. 暗褐色粘質土
- 19. 灰黄褐色砂質土
(京都系土層部・瀬戸系土層部
陶器天目を含む。)

- 101. 黄褐色粘質土
- 102. 茶褐色粘質土
- * 101・102……SD053埋土

- 503. 暗黄褐色暗黄褐色粘質土
- 506. 暗褐色粘質土
- 511a. 暗褐色粘質土
- 511b. 暗褐色粘質土

- 512a. 灰青褐色粘質土
- 512b. 灰黄褐色粘質土
- 512c. 暗灰黄褐色粘質土
- 512d. 暗茶褐色粘質土
- * 512a~512d……SD049埋土



0. 近世の水田造成土層群

- 1. 暗灰褐色粘質土
(焼土粒を含む)
近世の澁SD001の埋土)
- 2. 暗赤褐色粘質土
(焼土粒を含む)
- 3. 暗茶褐色粘質土
- 4. 暗灰褐色粘質土
- 5. 灰茶褐色砂質土
- 6. 暗灰茶褐色粘質土
- 7. 暗茶褐色粘質土
- 8. 暗茶褐色粘質土
- 9. 茶褐色粘質土
- 10. 暗茶褐色粘質土
- 11a. 暗黄灰褐色砂質土
- 11b. 黄灰褐色砂質土
- 12. 暗黄褐色粘質土
(極めて均質な粘質土)
- * 11・12……SK031aの埋土

13. 暗褐色粘質土

- 14. 暗灰茶褐色粘質土
* 13・14……SK031bの埋土

- 15. 暗灰褐色粘質土
(炭を多量に含む)
- 16. 黄灰褐色砂質土
- 17. 明灰黄褐色粘質土
- 18. 暗赤褐色粘質土
- 19. 暗赤茶褐色粘質土
- 20. 暗灰褐色粘質土
- 21. 暗灰褐色粘質土
(炭・焼土粒を含む)

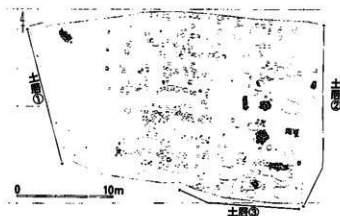
- 22. 暗灰褐色粘質土
- 23. 灰黄褐色粘質土
- 24. 灰茶褐色粘質土
- 25. 暗灰茶褐色粘質土
- 26. 暗褐色粘質土
- 27. 暗茶褐色粘質土

- 28a. 暗褐色粘質土
(焼土粒を少量含む)

- 28b. 黄褐色粘質土
- 28c. 暗灰褐色粘質土
(炭を多量に含む)
- * 28a~28c……SK025の埋土

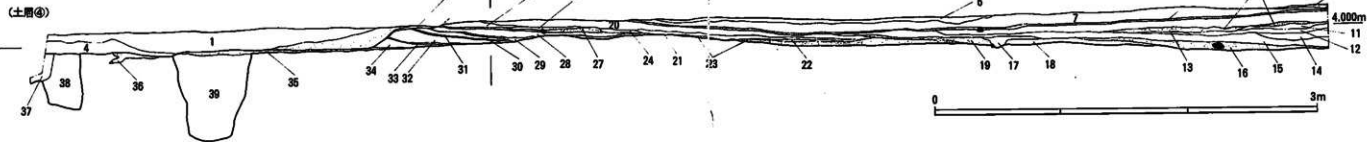
- 29a. 暗灰褐色粘質土
- 29b. 灰青褐色粘質土
(粘質味が強い。澁槽
底面に堆積する。)
- * 29a~29b……SK034の埋土

- 10a. 暗灰褐色粘質土
- 10b. 灰青褐色粘質土
(粘質味が強い。
澁槽底面に堆積する。)
- 10c. 黄灰褐色粘質土
- 10d. 暗褐色粘質土
(底面に認められる杭跡?)
- * 10a~10d……SK034埋土
- 11a. 暗褐色粘質土
- 11b. 黄灰褐色粘質土
- * 11a~11d……SK045埋土
- 12. 黄褐色粘質土

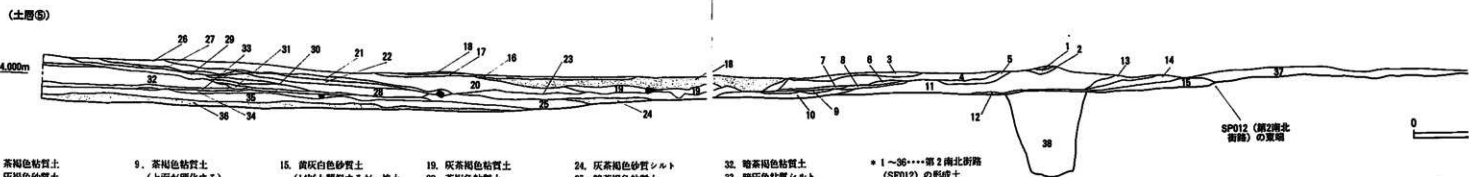


第196図 調査区土層断面図 (1/50)

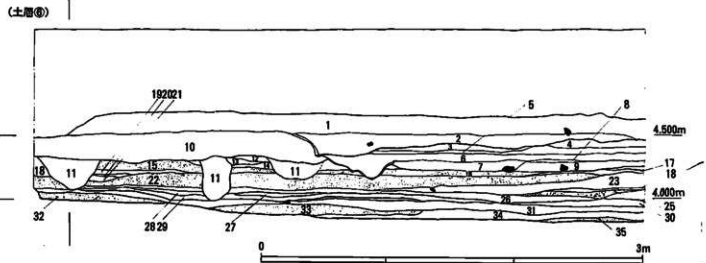
187, 182
④



- 1. 灰褐色 (下部は炭化物)
- 2. 灰褐色
- 3. 明褐色
- 4. 茶褐色 (粘土粒 = 1~4... 陶器など 江戸時代)
- 5. 黄灰色
- 6. 灰褐色
- 7. 茶褐色 (上面が硬)
- 8. 黄灰白
- 9. 茶褐色



- 1. 茶褐色粘質土
- 2. 灰褐色砂質土
- 3. 灰褐色砂質シルト
- 4. 灰褐色砂質シルト
- 5. 茶褐色粘質土
- 6. 茶褐色粘質土
- 7. 灰褐色粘質土 (砂質土が混じる)
- 9. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 10. 黄灰白色砂質土
- 11. 暗褐色粘質土
- 12. 灰茶褐色粘質土
- 13. 黄灰白色砂質土
- 14. 黄灰白色砂質土
- 15. 黄灰白色砂質土 (14層と類似するが、粘土粒・炭化粒・土層小片を含む)
- 16. 灰褐色砂質土
- 17. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 18. 灰褐色砂質土 (上面が硬化する)
- 19. 灰茶褐色粘質土
- 20. 茶褐色粘質土 (土層小片を多量に含む)
- 21. 茶褐色粘質土 (一部が硬化する。下面に薄い砂層を挟む)
- 22. 暗褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 23. 灰褐色粘質土
- 24. 灰茶褐色砂質シルト
- 25. 暗褐色粘質土
- 26. 灰褐色砂質シルト
- 27. 茶褐色粘質土
- 28. 灰褐色粘質土
- 29. 茶褐色粘質土 (キノの細かい砂)
- 30. 灰褐色粘質土
- 31. 茶褐色粘質土
- 32. 暗褐色粘質土
- 33. 暗褐色粘質シルト
- 34. 暗褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 35. 灰褐色粘質土
- 36. 灰褐色粘質土 (上面が硬化する。京都市土師器・瀬戸美濃系天目を含む)
- 37. 黄灰白色砂質土 (均質で、軽質な土。整地機SX041を形成)
- 38. 暗褐色粘質土 (SD040の埋土)

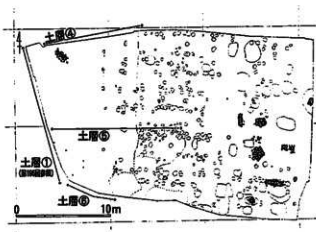
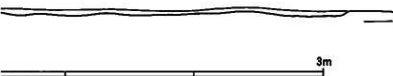


- 1. 黄灰粘質土 (田裏土)
- 2. 暗褐色粘質土
- 3. 灰褐色粘質土
- 4. 暗褐色粘質土
- 5. 黄灰粘質土
- 6. 黄灰粘質土
- 7. 黄灰粘質土
- 8. 黄灰粘質土 (粘土を含む)
- 9. 黄灰粘質土
- 10. 暗褐色粘質土
- 11. 暗褐色粘質土 (遺跡埋土)
- 12. 黄灰粘質土 (粘土を多く含む)
- 13. 黄灰粘質土
- 14. 黄灰粘質土
- 15. 黄灰粘質土
- 16. 黄灰粘質土
- 17. 灰褐色砂質土
- 18. 灰褐色砂質土
- 19. 黄灰粘質土 (一部硬化を含む)
- 20. 灰褐色粘質土 (土層小片を多量に含む)
- 21. 暗褐色粘質土 (一部、砂質土ブロックを含む)
- 22. 暗褐色粘質土 (粘土粒・炭化粒を含む)
- 23. 暗褐色粘質土 (粘土粒・炭化粒を含む)
- 24. 灰褐色砂質土
- 25. 暗褐色粘質土
- 26. 灰褐色粘質土
- 27. 暗褐色粘質土
- (粘土粒・炭化粒を含む)
- 28. 暗褐色粘質土
- 29. 暗褐色粘質土
- 30. 黄灰粘質土 (粘土粒を含む)
- 31. 茶褐色粘質土 (上面が硬化する)
- 32. 灰褐色粘質土
- 33. 暗褐色粘質土
- 34. 暗褐色粘質土
- 35. 暗褐色粘質土 (上面が硬化する。京都市土師器・瀬戸美濃系天目を含む)

- 質土
 土粒、全体に
 (含む)
 質土
 粘質土
 質土
 (炭化物を含む)
 ・質永通質・唐律系
 を含む。
 層の厚平
10. 暗黄灰白色砂質土
 11. 灰褐色粘質土
 12. 黄褐色粘質土
 13. 暗黄褐色粘質土
 14. 茶褐色粘質土
(砂質土・青灰褐色土・
黄褐色土のブロックを
含む)
 15. 茶褐色粘質土
(黄褐色土のブロックを
含む)
 16. 灰黄褐色砂質土
(大粒の砂利を含む)
 17. 灰褐色砂質土
 18. 暗黄灰褐色砂質土
(キメの細かい砂)
 19. 黄灰褐色砂質土

20. 暗黄褐色粘質土
21. 灰茶褐色粘質土
22. 暗褐色粘質土
(上面が硬化する)
23. 灰黄褐色砂質土
24. 茶褐色粘質土
(上面が硬化する)
25. 灰茶褐色粘質土
26. 茶褐色粘質土
(上面が硬化する)
27. 灰褐色砂質土
28. 灰褐色粘質土
29. 黄灰白色砂質土
(キメの細かい砂)
30. 暗褐色粘質土
31. 黄灰白色砂質土
(キメの細かい砂)

32. 暗褐色粘質土
(焼土粒・炭化粒を含む)
33. 黄灰白色砂質土
34. 茶褐色粘質土
35. 暗茶灰色砂質土
(小粒の砂利を含む)
36. 灰褐色砂質土
* 6~36...第2南北新路
(SP012)の形成土
37. 黄白色砂質土
38. 暗褐色粘質土
(焼土粒・炭化粒を含む)
39. 暗褐色粘質土
(SD040の層土)



197図 SF012土層断面図 (1/30)

2. 道路・溝

SF012 (第196～198図)

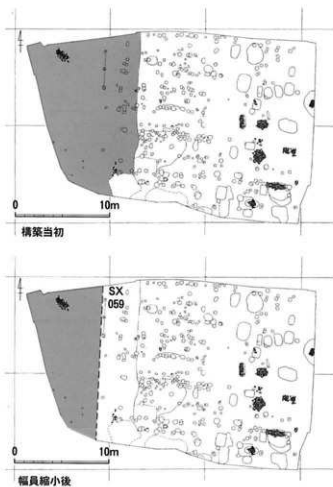
SF012は「第2南北街路」とした道路遺構である。本調査区では調査区西側に相当するJ17～K18区を南北方向に縦走する形で検出された。本調査区においては、SF012に伴う明確な道路側溝が確認されていない。これについては、本来側溝は存在していたものの、近世初頭以降の整地によって削平されてしまった可能性がひとつ考えられる。ただし、本調査区では第12次調査区や第18次調査区で検出されたような石組み施設を有するものや埋土に焼土が混入する溝の延長部は全く確認されておらず、本調査区周辺には明瞭な道路側溝が当初から構築されていなかったと考えることも可能である。この場合、街路東側に存在する町屋関連の遺構群と道路との境界が不明瞭であったことが指摘される。第197図土層⑤の観察所見によると、SF012の構築に当たっては地山を緩やかに掘り窪め、当該部位に砂質土と粘質土を交互に積み上げることによって路面を形成する手法が採用されている。また、土層⑤の一部に街路東端部と推定される土層の堆積が認められ、当該土層の平面的な広がりを確認することにも成功した。このことから、本調査区におけるSF012構築当初の幅員は最大で約12mを測ることが判明した。その後、街路は改修時にかさ上げを繰り返したらしく、堆積が確認される複数の砂質土上面はいずれも硬化面を形成しており、道路の改修ないかさ上げは6～7回を数えることができる。

町屋側からの施設の進出

土層で確認した街路東端ラインより西側には、幅約4mにわたって柱穴群が散在する地点がみられる。これらは本来街路であった地点に町屋側からの施設が進出してきたことを示唆しており、後述するSX059(230頁参照)のように規格的な建物施設も存在するようである。これらの施設の進出により、約12mあった街路の幅員は8m前後まで縮小した可能性が高い(第198図)。

J17区で検出された集石遺構SX039(詳細は228頁参照)は、第2南北街路を構成する整地層内に形成された遺構で、街路の改修時に路面の窪みなどをならす目的で投げ込まれた礫群であると推定している。また、平面プランを明確に検出できなかったが、調査区東壁(第196図土層①)の土層観察時に、街路上位の整地層から掘り込まれた浅い掘り込みを確認しており、当該部分の埋土から、色調が明青色を呈するガラス玉(第199図)が出土した。このガラス玉はキリシタン関連遺物である「コンタ」の可能性が高いと考えられているものである。

ガラス玉(コンタ)の出土



第198図 第28次調査区におけるSF012変遷模式図(1/400)

第2節 遺構と遺物

京都系土師器と瀬戸美濃系陶器天目碗の出土

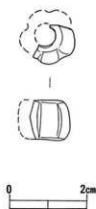
第2南北街路は、16世紀後葉を遡らない

第2南北街路を構成する土層群の中で最も下位に位置し、地山の直上に堆積する土層はきめの細かい砂質土である。この土層は第2南北街路を構成する土層群の中で最も古い時期に構築されたものであるが、当該土層中より京都系土師器皿と瀬戸美濃系陶器天目碗が出土した(第200図7・9)。京都系土師器皿は器壁が厚く、2期に比定される製品でもやや新しい様相を呈し、瀬戸美濃系天目碗は大寛3期に編年される製品である。これらの遺物は第2南北街路構築の初源期を示唆するものとして注目しておきたい。以上の事象より、「府内古園」にみられるようなメインストリートとして第2南北街路が整備される時期は、16世紀後葉を遡らない可能性が高いと考える。なお、第2南北街路を構成する整地層をすべて除去した面には、若干の柱穴群や溝・土坑などが少数検出できたが、遺構密度は極めて疎散的なものであったことを付記しておきたい。

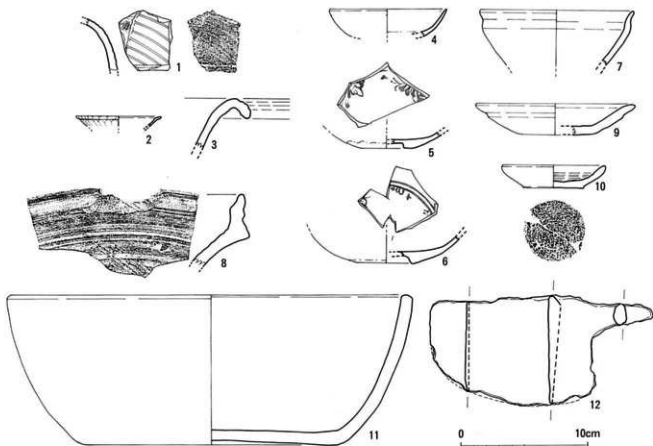
SF012出土遺物(第199・200図)

ガラス玉
(コンタ?)

第199図はガラス玉である。欠損により、全体の2分の1弱程度の破片となっている。現状で最大長1.0cm、最大幅1.2cm、重さ1.1gを測り、色調は明青色(コバルトブルー)を呈する。断面形態は花弁状で、5弁を有する形態に復元されるものと推定する。キリシタン遺物である「コンタ」の可能性が強く考えられる遺物である。SF012中に掘り込まれた浅い掘り込み(調査区東壁断面で確認)の埋土から出土している。出土地点は第196図土層①を参照されたい。第200図1は華南三彩鳥形水注の胴部破片で、外面には型成形による羽毛が表現されている。外



第199図 SF012出土遺物実測図①(1/1)



第200図 SF012出土遺物実測図(1/3)

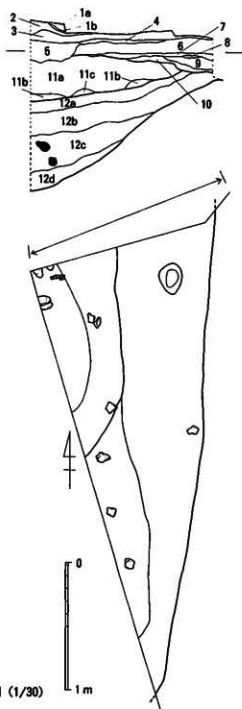
面には緑釉および黄釉の施釉が認められ、内面は露胎となる。2は青釉小皿の破片で、内外面には鮮やかなコバルトブルーの翡翠釉が施されている。3は焼締陶器壺の口縁部で、中国産と推定される製品である。口縁部外面には浅い凹線が認められる。4～6は中国景德鎮窯系青花である、4はE群青花皿で、内外面に圓線文のみが描かれる製品である。5・6は、いずれもC群青花皿の底部破片である。7は瀬戸美濃系陶器天目碗から胴部にかけての破片で、底部を欠損する。大窯3期に比定される製品である。8は備前系陶器播鉢で、内面に放射状播目と斜め播目の一部が認められる。近世1期bに編年される資料である。9は京都系土師器の破片で、器壁がやや厚く、2期でもやや新しい様相を示す資料である。10は赤褐色系の胎土を使用した在地系の土師質土器皿で、内面にロクロ目を有し、底部は回転糸切りとなる。11は瓦質土器の鉢で、これも在地系の製品と推定される。内外面にナデあるいはミガキが施されている。12は鉄砲丁で、刃部が短く、先端が半月形を呈する製品である。その形態から、掛軸などの表袋や裏打ちを行う際に、紙を切断する時に使用する「丸砲丁」と呼ばれるものであろう。

瀬戸美濃系
陶器天目碗

京都系土師器

丸砲丁

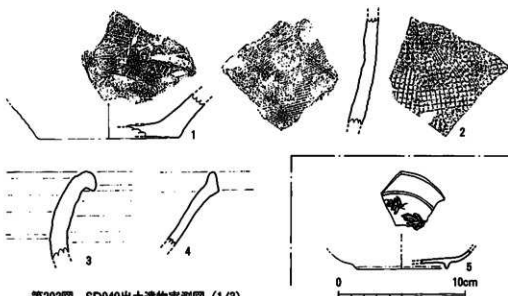
- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 a. 焼土を多量に含む明
褐色粘質土 | 8. 灰褐色砂質土 |
| 1 b. 炭を多量に含む砂質土 | 9. 暗赤褐色粘質土 |
| 2. 灰黄褐色粘質土 | 10. 灰褐色粘質土 |
| 3. 暗赤褐色粘質土 | 11a. 暗褐色粘質土
(焼土粒を含む) |
| 4. 暗赤褐色粘質土
(鉄分、砂質土を多く含
む。酸化する。) | 11b. 暗褐色粘質土ブロック |
| 5. 灰青色砂質シルト | 11c. 高灰褐色粘質土ブロック |
| 6. 暗褐色粘質土 | ● 1～11→SF012(第2南北
街路)形成土 |
| 7. 灰褐色粘質土
(砂質土が水平に輪状に
堆積する。上面に硬化
面を形成する。) | 12a. 灰白褐色粘質土
(焼土粒を含む) |
| | 12b. 灰黄褐色粘質土 |
| | 12c. 暗灰黄褐色粘質土 |
| | 12d. 暗茶褐色粘質土 |



第201図 SD049実測図 (1/30)

SD049 (第201図)

下層遺構群に所属する溝で、J17区に位置する。本調査区で検出された遺構の規模は、長さ3.4m、幅約1.4m、深さ約85cmを測る。溝の北側の延長部は第18次調査区側に伸び、第18次調査区のSD001と同一遺構である可能性が高い。この場合、第18次調査区と28次調査区で検出された当該遺構の総延長は、30m以上におよぶことになる。第2南北街路SF012によって完全にバックされており、SD049の埋土の上層には、溝の廃絶後に窪みとなった部位を意図的に埋めた土層や第2南北街路構築に伴う道路の構築土層が堆積する。底面付近の土層の堆積状況からは、明確な流水の痕跡は認められなかった。溝埋土からの出土遺物や第18次調査区における遺構の切り合い関係より、遺構の構築時期は14世紀代に遡る可能性が考えられる。



第202図 SD049出土遺物実測図 (1/3)

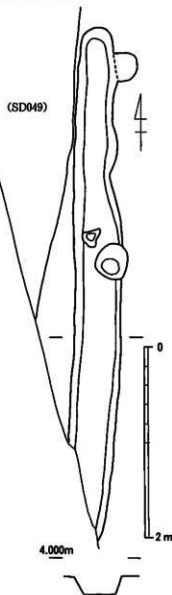
SD049出土遺物 (第202図)

1～4は須恵質土器の製品で、1は壺蓋類の底部、2は大甕の胴部、3は口縁部、4は捏鉢の口縁部である。2については外面に格子目叩き、内面にハケ状工具による調整が認められる。いずれも14世紀以降の製品である可能性が高い。5は中国景德鎮窯系青花で16世紀後葉に比定されるE群青花皿である。5については、SD049出土遺物として取り上げられていたが、1～4と製作年代が大きくかけ離れている遺物であるため、取り上げミスのか、上位に堆積する第2南北街路SF012の包含遺物が混入したものであろう。

青花は混入

SD053 (第203図)

下層遺構群に所属する溝で、J17区に位置する。その規模は、長さ5.4m、幅約0.4m、深さ約20cmを測る。本調査区では溝の北端部を確認し、南側はさらに調査区外に伸びる。掘立柱建物SB060の構築によって切られており、第2南北街路SF012によって完全にバックされている。遺構の構築順序をまとめると、SD053→SB060→SF012となる。なお、西側に位置する溝SD049と接近した位置に構築されていることから、両者は同時に併存したとは考えられないが、これらのふたつの遺構の切り合い関係は確認できていない。SD053からの出土遺物は認められず、詳細な構築時期は不明であるが、歴史的な所見や切り合い関係から、14世紀から15世紀前葉以前に遡る遺構と認識している。



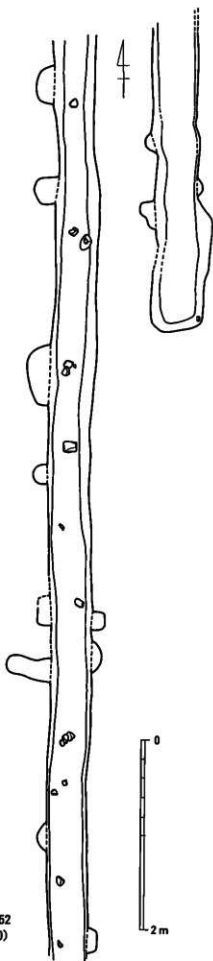
第203図 SD053出土遺物 (1/40)

SD040・SD052 (第204図)

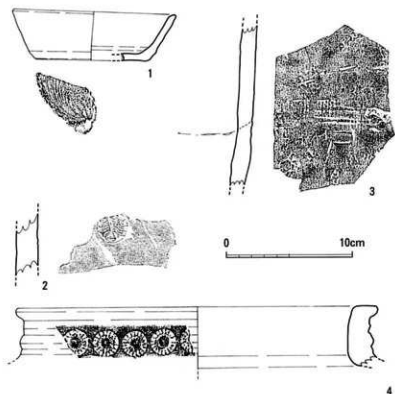
いずれも下層遺構群に所属する溝で、K17・K18区に位置する。SD040は調査区を縦断するような形で検出され、その規模は長さ14.2m、幅約0.6m、深さ約70cmを測る。延長部の北側は第18次調査区に続き、南側は近年の擾乱によって破壊されている。第18次西調査区では溝北端の終息部が確認されており、18次調査区と28次調査区で検出された当該遺構の総延長は、約17mとなる。南側の終息部は擾乱により不明であるが、第22次調査区では当該溝の延長部は確認されていない。溝の断面形態は逆台形状を呈し、第2南北街路SF012に完全にバックされている。埋土は単一の暗褐色粘質土で、一気に埋められたような土層の状況を呈している(第197図土層④参照)。出土遺物は僅少であるが、土師質土器などの特徴から、遺構の所産時期は14世紀後葉から15世紀前葉に比定しておきたい。SD052は長さ4.8m、幅約0.3m、深さ45cmを測る。延長部の北側は第18次調査区に連続する。第28次調査区では溝南端の終息部を確認している。断面形態や埋土の状況はSD040と類似しており、第2南北街路SF012の構築によって、完全にバックされている。出土遺物が極めて少なく、遺構の詳細な構築時期を確定できないものの、14世紀後葉から15世紀前葉に比定される可能性が高い。

SD040出土遺物 (第205図)

1は赤褐色系の胎土で製作された在地系の土師質土器環である。4分の1程度の破片で、底部外面は糸切りとなる。14世紀後葉から15世紀前葉に比定される製品である。2は土師質土器の製品であるが、破片のため、器種不明である。土師質土器にしては硬質に焼き締められている印象を受け、内面に二枚葉をモチーフとした刻印が認められる。3は焼締陶器大甕の胴部で、外面に特徴的な叩き目が認められることから、常滑系陶器であろう。4



第204図 SD040・SD052
実測図 (1/80)

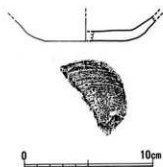


第205図 SD040出土遺物実測図 (1/3)

は瓦質土器の風炉または火鉢である。所産時期やその形態から、在地系というよりも、搬入品である可能性を考慮したい遺物である。

SD052出土遺物 (第206図)

図示した遺物は、土師質土器杯の底部である。赤褐色系の胎土が使用されており、外底部には糸切り痕が認められる。14～15世紀前葉に比定される在地系の製品であるが、破片であるため、詳細な年代を確定できない。

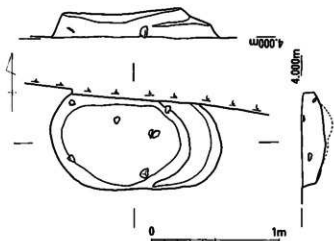


第206図 SD052出土遺物実測図 (1/3)

3. 土坑

SK002 (第207図)

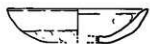
上層遺構群に所属する土坑で、K17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、南側は近年の擾乱で破壊されている。規模は長径1.35m、短径0.7m、深さ20cmを測る。埋土は焼土を多く含む暗褐色土である。出土遺物には京都系土師器や白磁などがあるが、少量でしかも小破片である。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は埋土中から出土した遺物より、16世紀後葉から末葉に比定される。



第207図 SK002実測図 (1/30)

SK002出土遺物 (第208図)

図示した遺物は京都系土師器皿で、16世紀後葉から末葉に比定される遺物である。



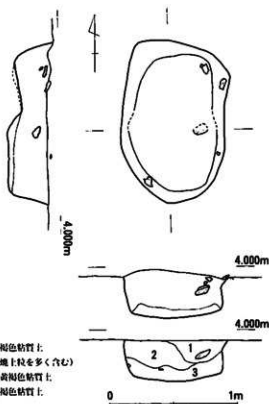
第208図 SK002出土遺物実測図 (1/3)

SK007 (第209図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.25m、短径0.8m、深さ40cmを測る。遺構上面より、背軸小皿・京都系土師器等の小片が少量出土した。埋土中位より以下からは、遺物が出土していない。廃棄土坑と思われる、遺構の時期は出土遺物の年代観や層位的な所見より、16世紀後葉から末葉に比定される。

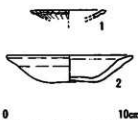
SK007出土遺物 (第210図)

1は中国産の背軸小皿の破片である。
2は京都系土師器で、2期の特徴を有するものである。1は16世紀代、2は16世紀後葉以降に比定される遺物である。



SK008a・SK008b (第211図)

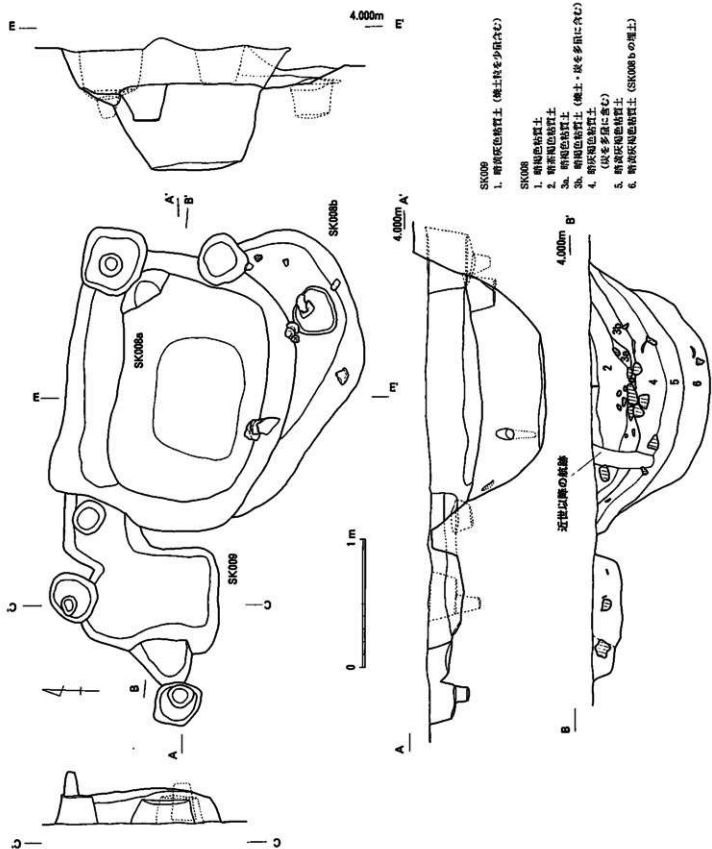
上層遺構群に属する土坑で、K17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、SK008aの規模は長径2.2m、短径1.8m、深さ95cmを測る。SK008bは北西側をSK



第210図 SK007出土遺物実測図 (1/3)

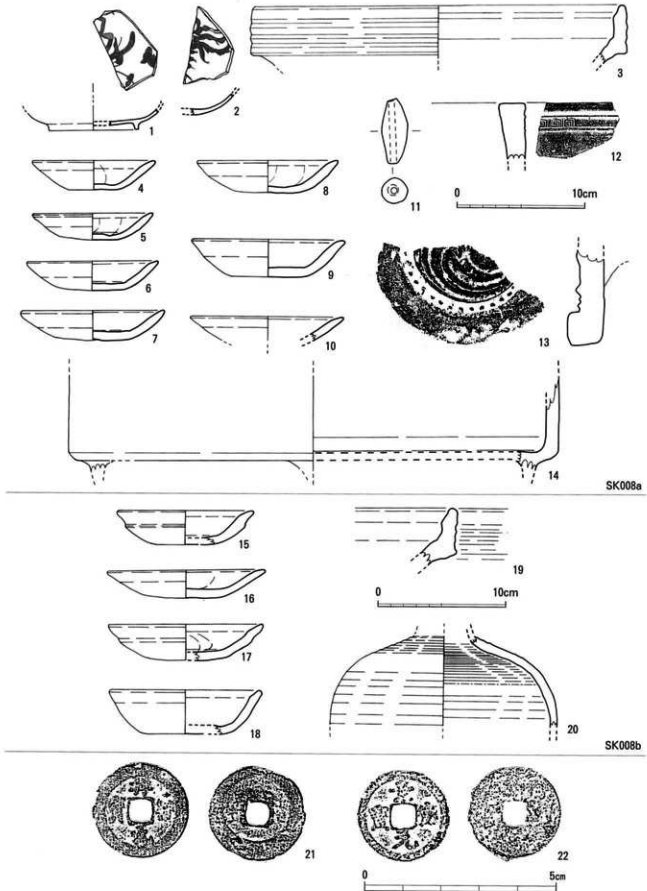
第209図 SK007実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物



- SK006
 1. 暗黄灰色粘質土 (粘土粒を少量含む)
 SK008
 1. 暗褐色粘質土
 2. 暗赤褐色粘質土
 3a. 暗褐色粘質土
 3b. 暗褐色粘質土 (粘土・炭を多量に含む)
 4. 暗灰褐色粘質土 (炭を多量に含む)
 5. 暗赤褐色粘質土
 6. 暗黄灰色粘質土 (SK008bの埋土)

第211図 SK008a・008b・009実測図 (S=1/30)



第212図 SK008a・008b出土遺物実測図(1~20は1/3, 21・22は1/1)

008aによって破壊されているが、長径2m以上、短径1.5m、深さ20cmを測る。SK008aとSK008bは互いに切り合い関係にあり、さらにSK008aの上面には集石遺構SX006が構築されている。以上の切り合い関係から、SX006→SK008b→SK008aの順で構築されていることが判明するが、出土遺物の様相にほとんど差異が認められない。SK008aの埋土中には焼土屑が認められるものがあり、当該焼土が天正14年（1586）に形成されたものと仮定すると、SK008aとSK008bは16世紀後葉から末葉に、SX006は16世紀末葉以降に比定される可能性が高い。出土遺物も上記の想定と矛盾しないものと考えている。いずれも廃棄土坑であろう。

天正14年の
焼土

SK008a出土遺物（第212図1～14・21）

1・2は中国景德鎮窯系の青花皿で、小野正敏分類のE群に属する製品である。いずれも16世紀後葉に比定される。2の内面文様は鳳凰文の一部と推定される。3は備前系陶器插鉢の口縁で、中世6期（16世紀前葉）以降に比定される。4～10は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す。11は土錘である。12は在地産の瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁外面の2条突帯間に刻印による二連雷文を施す。13は右回転の巴文を有する軒丸瓦である。14は瓦質土器の火鉢で、胴部下位の破片と思われる、板状の脚部を有する器形に復元される製品である。21は中国北宋代の銅銭で、「祥符元寶」である。書体は真書体で、初鋳年代は1008年である。

SK008b出土遺物（第212図15～20）

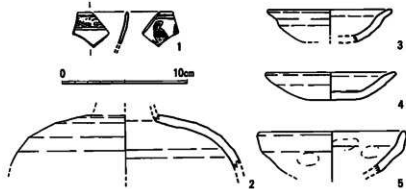
15～18は京都系土師器で、15～17は皿、18は坏である。いずれも2期または3期に比定されるが、器壁が厚い3期の特徴を有するものが主体を占める。19は備前系陶器插鉢の口縁で、中世6期（16世紀前葉）以降に比定される製品である。20は中国産の白磁瓶で、肩部付近の破片である。外面に白磁釉を施し、内面は露胎となる。22は中国北宋代の銅銭で、「景德元寶」である。書体は真書体で、初鋳年代は1004年である。

SK009（第211図）

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略長方形を呈し、その規模は長辺1m、短辺0.8m、深さ20cmを測る。周辺の柱穴や土坑と切り合い関係を有するが、すべての遺構に切られている。埋土は焼土粒を少量含む暗黄灰褐色土で、遺構中位より完形品の京都系土師器皿や磁器片が出土している。廃棄土坑と思われる。遺構の時期は出土遺物の年代観より、16世紀後葉から末葉に比定される。

SK009出土遺物（第213図）

1は中国景德鎮窯系青花で、E群青花碗に分類される製品である。外面に鳥文、内面に四方禪文が描かれている。16世紀後葉に比定されるものである。2は中国産の白磁瓶で、肩部付近の破片である。外面に白磁釉を施し、内面は露胎となる。3～5は京都系土師器で、3・4は皿、5は坏である。このうち、4は埋土中位から出土した完形品である。いずれも2期から3期の特徴を有する製品である。



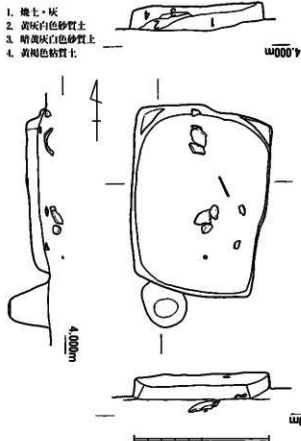
第213図 SK009出土遺物実測図（1/3）

SK010 (第214図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略長方形を呈し、その規模は長辺1.4m、短辺1.0m、深さ20cmを測る。南側に位置する柱穴を切って構築されている。埋土は上位に多量の焼土を少量含む層で構成され、遺構上位より京都系土師器、下位より銅製品などが出土している。焼土を多量に含むことから、天正14年(1586)の火災処理土坑である可能性が考えられる。

SK010出土遺物 (第215図)

1は京都系土師器皿で、2期から3期の特徴を示す製品である。2は銅製品であるが、用途不明である。



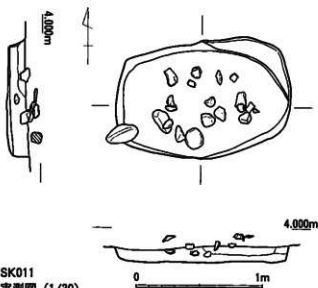
第214図 SK010実測図 (S=1/30)

SK011 (第216図)

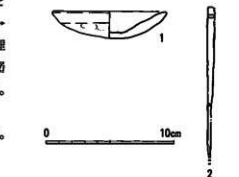
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.4m、短径0.9m、深さ15cmを測る。土坑SK022、集石遺構SX005と切り合い関係を有し、遺構の構築順序はSK022→SK011→SX005となる。遺構上面から京都系土師器等の遺物が、埋土上位から中位にかけて露が出土している。出土遺物や層位的な所見より、遺構の年代は16世紀末葉頃に比定される。

SK011出土遺物 (第217図)

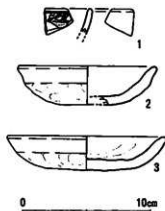
1は中国景德鎮窯系青花で、E群青花碗の口縁部である。



第216図 SK011
実測図 (1/30)



第215図 SK010出土遺物実測図 (S=1/3)



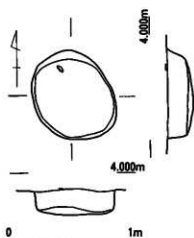
第217図 SK011出土遺物実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物

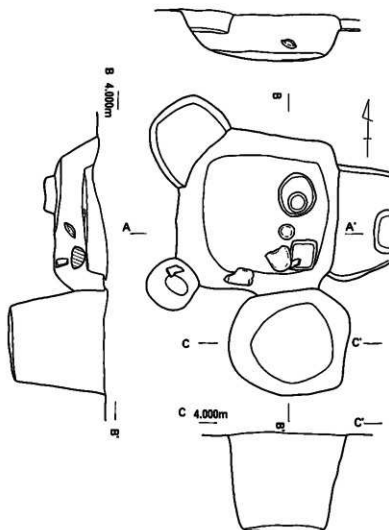
16世紀後葉の所産である。
2・3は京都系土師器で、
器壁が厚いことや器高が高いことから3期に比定される製品である。

SK015 (第218図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略円形を呈し、その規模は径0.65m、深さ20cmを測る。土坑SK022を



第218図 SK015実測図 (1/30)

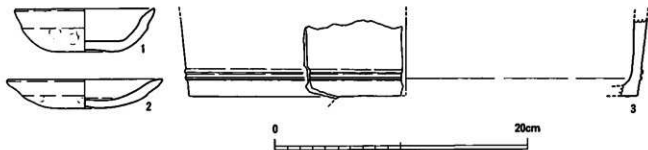


第219図 SK016・022実測図 (1/30)

切って構築されており、構築順序はSK022→SK015となる。遺構上面から、二次的に被熱した京都系土師器が出土しているが、当該遺物は本来切り合い関係にあるSK022の燻風遺物であった可能性が高い。廃棄土坑と推定され、遺構の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

SK016 (第219図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略円形を呈し、その規模は径0.9m、深さ80cmを測る。土坑SK022を切って構築されており、構築順序はSK022→SK016となる。出土遺物は小片で、図示可能なものは認められない。通常の廃棄土坑より深さが深く、遺構の性格は不明



第220図 SK022出土遺物実測図 (1/3)

である。切り合い関係等から、遺構の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

SK022 (第219図)

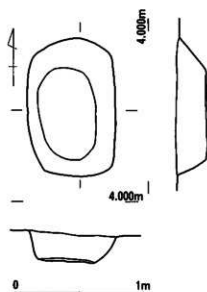
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略方形を呈し、その規模は一辺1.25m、深さ35cmを測る。土坑SK011・015・016や集石遺構SX005と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。埋土に焼土を多量に含むことから、天正14年(1586)の火災処理土坑である可能性が考えられる。出土遺物には埋土下位より京都系土師器の完形品が出土したほか、埋土中から瓦質土器の破片などが認められた。

SK022出土遺物 (第220図)

1・2は京都系土師器で、1は坏、2は皿である。このうち、2は埋土下位から完形の状態で出土した。いずれも器壁が厚く、3期の特徴を有する製品である。3は瓦質土器火鉢で、胴部下位には2条の突帯を有する。

SK017 (第221図)

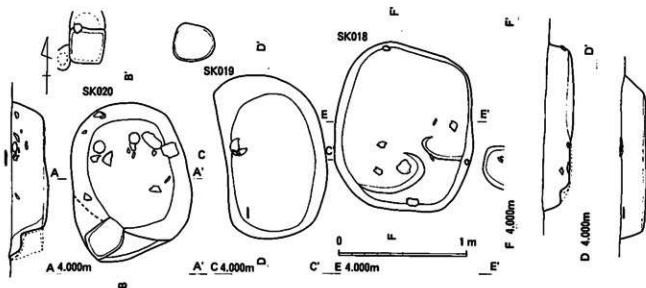
上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径1.1m、短径0.7m、深さ20cmを測る。埋土は単一の暗褐色土で、出土遺物は認められない。廃棄土坑と推定され、歴史的な所見から、遺構の年代は16世紀後葉から末葉である。



第221図 SK017実測図 (S=1/30)

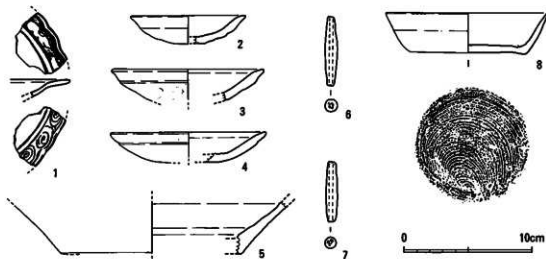
SK018~SK020 (第222図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。いずれも平面形態は略楕円形状を呈し、SK018の規模は長径1.1m、短径1.3m、深さ10cm、SK019の規模は長径1.3m、短径0.8m、深さ10cm、SK020の規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ10cmを測る。いずれも廃棄土坑と推定され、出土遺物



第222図 SK018~020実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物



第223図 SK018出土遺物実測図 (1/3)

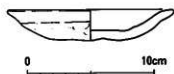
から16世紀後葉から末葉の所産と思われる。

SK018出土遺物 (第223図)

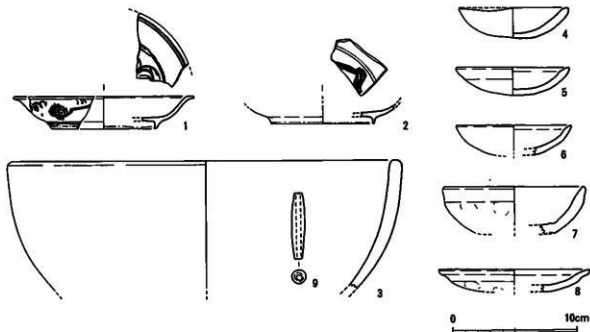
1は中国景德鎮窯系青花で、16世紀後葉に比定されるF群青花皿である。2～4は京都系土師器皿で、2期ないし3期の特徴を有するものである。5は中国産の黒軸陶器壺の底部で、外底部のみ露胎となる。6・7は土鍾である。8は箱形を呈する在産の土師質土器環で、15世紀後葉以降に比定されるものである。8のみ、他の遺物と時代が合わないで、混入品と推定する。

SK019出土遺物 (第224図)

図示した遺物は、京都系土師器皿である。2期あるいは3期の特徴を示す資料である。



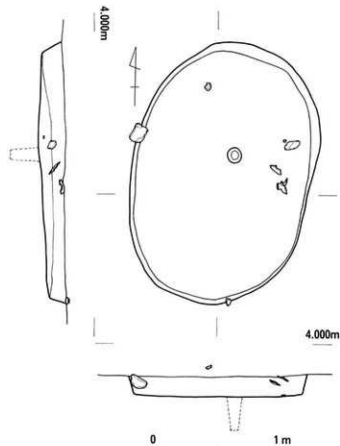
第224図 SK019出土遺物実測図 (1/3)



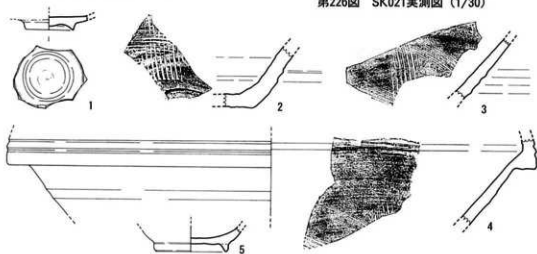
第225図 SK020出土遺物実測図 (1/3)

SK020出土遺物 (第225図)

1・2は中国景德鎮窯系青花で、1はB1群青花皿、2はE群青花皿である。3は瓦質土器の鉢で、在地系の製品と推定される。4～8は京都系土師器で、4～6・8は皿、7は環である。いずれも2期あるいは3期の特徴を示す資料である。9は土鍾である。



第226図 SK021実測図 (1/30)



第227図 SK021出土遺物① (1/3)

SK021出土遺物 (第227・228図)

第227図1は中国漳州窯系青花碗で、見込みと内底部が露胎となる。16世紀末葉の製品である。2～4は備前系陶器擂鉢で、いずれも内面の擂目は放射状擂目と斜め擂目を交差させる特徴をもつ。近世1期に分類され、16世紀末葉に比定される。5は瓦質土器碗の底部で、在地系の製品である。第228図に図示したものは中

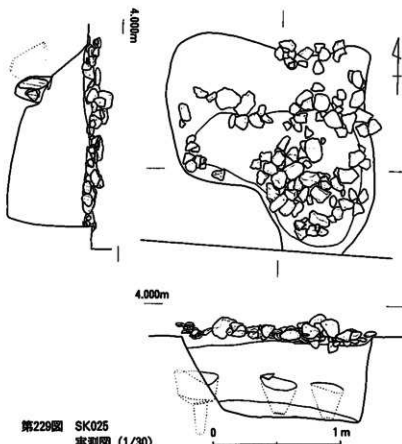


第228図 SK021出土遺物② (1/3)

国産の銅銭で、行書による「口聖元寶」の文字が判読できる。

SK025 (第229図)

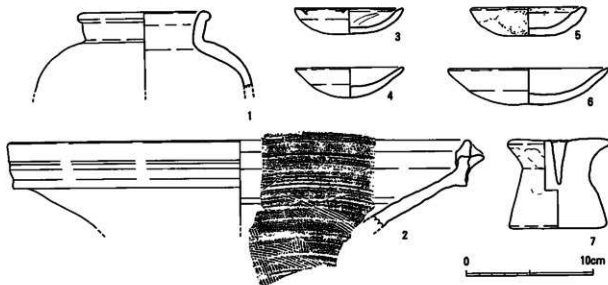
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は不整で、南北1.5m以上、東西1.6m、深さ60cmを測る。南側はさらに調査区外に伸びる。土坑SK035と切り合い関係を有する可能性があるが、互いの埋土の性状が類似しており、明確な前後関係を確定することができなかった。遺構上面から拳大の礫群を検出し、礫中から京都系土師器、備前系陶器、土師質土器燗台などが出土した。遺構の性格は不明である。出土遺物の年代観から、16世紀末葉の所産と推定される。



第229図 SK025 実測図 (1/30)

SK025出土遺物 (第230図)

1・2は備前系陶器で、前者は壺、後者は播鉢である。播鉢については、内面の播目の特徴から、近世1期(16世紀末葉)に比定される。3～6は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す資料である。7は土師質土器の燗台で、底部はナデによって仕上げられている。



第230図 SK025出土遺物実測図 (1/3)

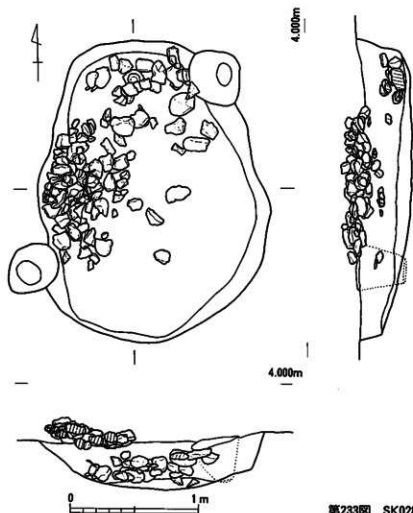


第231図 SK026実測図 (1/30)

SK026 (第231図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略方形で、長辺0.9m、短辺0.7m、深さ30cmを測る。なお、底面中央付近で、柱穴を検出したが、この柱穴はSK026に先行する時期の遺構である。遺構上位より備前系陶器壺の破片や拳大の礫、下位より鉄器が出土した。遺構の性格は不明であるが、廃棄土坑であろうか。詳細な時期を確定できる遺物はないが、層位的な所見より、土坑の年代は16世紀後葉から末葉に比定される。

第232図 SK026出土遺物実測図 (1/3)



第233図 SK028実測図 (1/1)

SK026出土遺物 (第232図)

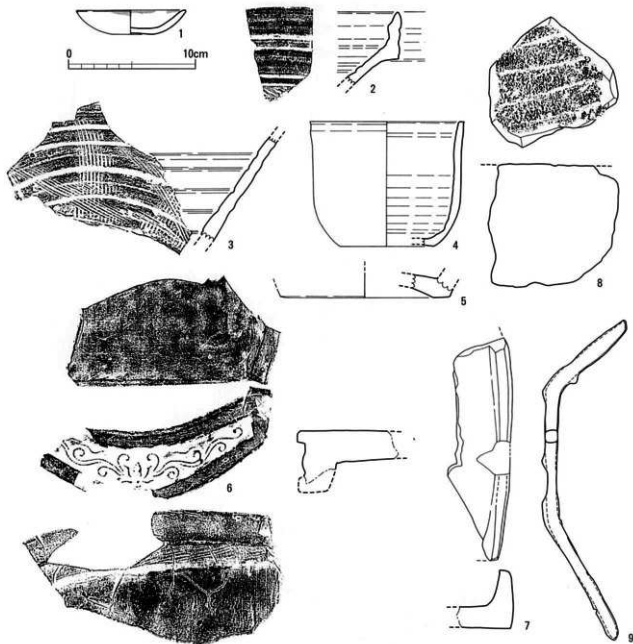
1は備前系陶器壺の破片で、肩部には櫛描波状文の一部が施されている。2は鉄器で、鋳出が著しく、器種不明であるが、火箸等の製品である可能性が考えられる。

SK028 (第233図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。土坑は下層遺構群に属するSX031を切って構築されている。平面形態は略楕円形状を呈し、その規模は長径2.4m、短径1.7m、深さ40cmを測る。検出面上位の中央東寄りと埋土下位北側に拳大の礫が集積されている状況が認められた。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。

SK028出土遺物 (第234図)

1は京都系土師器皿で、口縁端部には煤の付着が認められる。2期の特徴を有する資料である。



第234図 SK028出土遺物実測図 (1/3)

2・3は備前系陶器の擂鉢で、内面には放射状描目と斜め描目が交差する描目が施されている。近世1期に比定され、16世紀末葉の所産である。4は備前系陶器の鉢で、やや特殊な器形を呈する製品である。5は中国産褐輪陶器壺の底部破片で、内外面に施軸され、外底部のみが露胎となる。6は瓦当面に均整唐草文を有する道具瓦である。7は瓦質の製品であるが、器形・用途ともに不明である。8は石臼の破片で、凝灰岩を素材としている。9は用途不明の鉄器である。なお、ここでは図示していないが、備前系陶器四耳壺とタイ産メナムノイ窯系統締締陶器四耳壺の破片が出土しており、集石遺構SX013出土の破片の遺構間接合している。

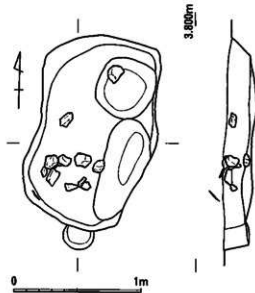
タイ産四耳壺
(SX013と
接合)

SK029 (第235図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整形で、南北1.55m、東西0.9m、深さ20cmを測る。廃棄土坑と推定される遺構である。埋土中より、拳大の礫と遺物が少量出土した。周辺に分布する柱穴群と切り合い関係を有するが、すべての柱穴に切られている。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。



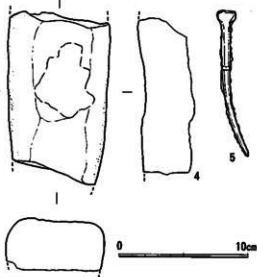
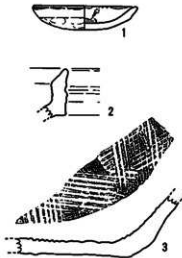
40008°E



第235図 SK029実測図 (1/30)

SK029出土遺物 (第236図)

1は京都系土師質土器皿で、2期から3期の特徴を示す資料である。口縁端部に煤の付着が認められ、灯明皿として使用された状況を示している。2・3は備前系陶器擂鉢で、2は口縁部、3は底部から胴部下位の破片である。口縁形態や描目の特徴などから、いずれも近世1期(16世紀末葉)に比定される資料である。4は叩石で、安山岩を素材とする。中央部に敲打痕が認められる。5は鉄釘で、錆出が著しいが、断面形態は方形を呈するものと思われる。



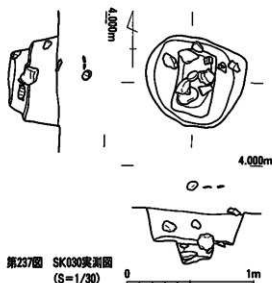
第236図 SK029出土遺物実測図 (1/3)

SK030 (第237図)

上層遺構群に所属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整形形で、断面は2段掘りとなり、その規模は径約0.8m、深さ40cmを測る。遺構上面や埋土中より、鏝や遺物が少量出土している。通常の廃棄土坑と比較して、遺構の様相がやや異なるが、その性格は不明である。出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀後葉から末葉に比定される。

SK030出土遺物 (第238図)

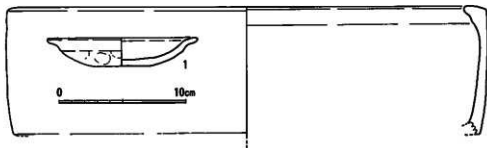
1は京都系土師器皿で、2期の特徴を示す製品である。2は瓦質土器の火鉢である。



第237図 SK030実測図
(S=1/30)

SK031 (第239図)

下層遺構群に所属する大型の遺構で、L17区に位置する。調査区の制限で遺構の一部を検出したに留まり、北側は18次調査区側に、東側は調査区外に伸びる。本調査区での規模は東西8.6m、南



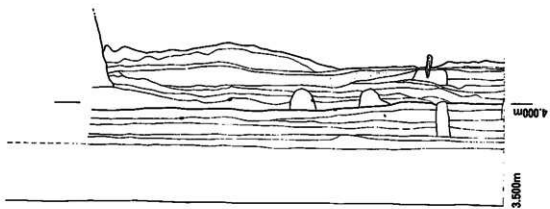
第238図 SK030出土遺物実測図 (S=1/3)

北5.5m、深さ1.1mを測る。埋土の状況は上層に灰黄褐色砂質土、下層に黄白色粘質土が堆積し、さらにその下位(最下層)に滞水状態と推定される粘質土層群が存在する。上層・下層と最下層は整合するため、前者をSK031a、後者をSK031bと呼称することにした。SK031aは土坑SK017・018・028、井戸SE027と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。SK031aからは良好な出土遺物がないが、埋土上位から鉛玉(鉄砲玉)が出土していたことを確認している。(この鉛玉については、掘り下げ時のミスから調査途中で紛失した。)SK031bの埋土からは漆器製品や銅銭などが出土したが、遺構の構築時期を明確にする良好な遺物は出土していない。鉛玉の出土から、SK031aの時期は16世紀中葉以降に比定される。また、SK031bもSK031aと大きな時期差を有するものとは考えがたく、当該遺構の構築時期を16世紀代の時間幅の中で考えておきたい。遺構の性格は不明であるが、平面形態が不整形で大型であることから、現状では土取り遺構の可能性を考えている。

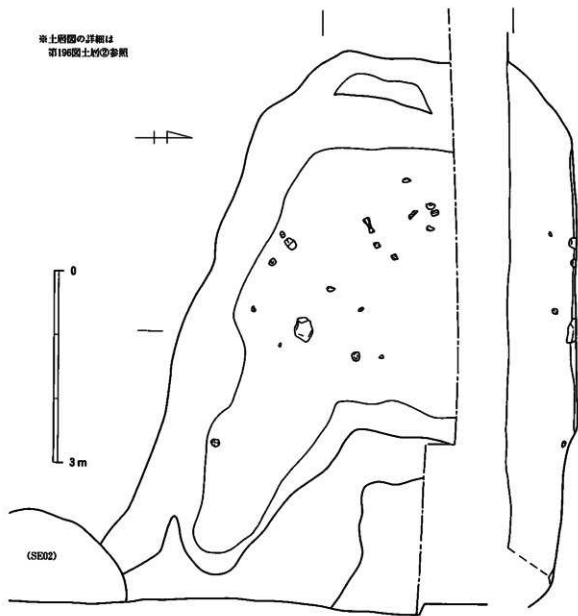
SK031b出土遺物 (第240図)

1・2は中国龍泉窯系雷文帯青磁碗の口縁部で、15世紀代の製品である。2も中国産の青磁で、鉢等に復元される器形の口縁部に相当する。4は黒色土器碗、5は土師質土器の坏である。いずれも9世紀代の製品で、混入品である。6は用途不明の漆器製品で、表面には赤漆が施されており、中央部には黒漆によるワンポイントの文様が認められる。なお、この他に図化不能の漆器碗が出土している(写真図版25)。7・8は銅銭で、7は「元豊通寶」(北宋・1078年・篆書体)、8は「元祐通寶」(北宋・1086年・篆書体)である。

漆器製品

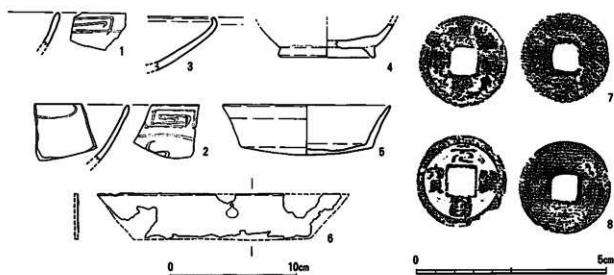


※土層図の詳細は
第198図土層図参照



第239図 SK031実測図 (1/60)

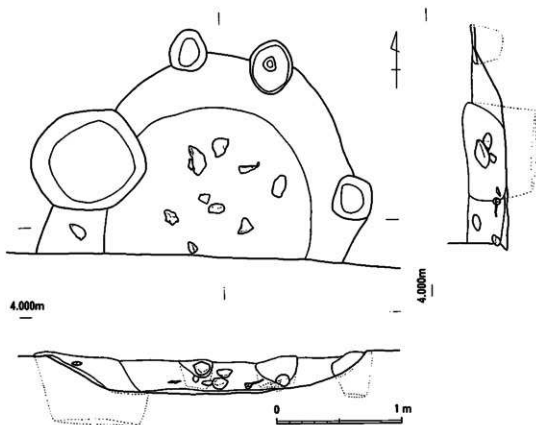
第2節 遺構と遺物



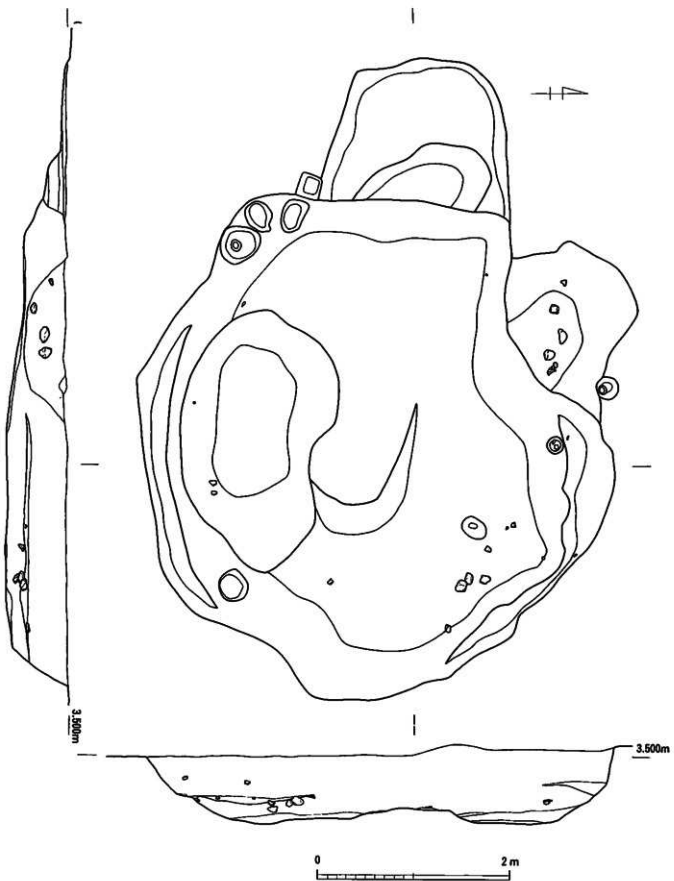
第240図 SK31b出土遺物実測図 (1~6は1/3、7・8は1/1)

SK032 (第242図)

下厩遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。調査区の制限で、遺構のほぼ北半分を検出したに留まり、南側はさらに調査区外に伸びる。その規模は南北1.6m以上、東西2.5m、深さ30cmを測る。埋土中位から下位にかけて、少量の礎と下顎骨と推定される獣骨などが出土した。遺構の性格は不明であるが、廃棄土坑である可能性が考えられる。出土遺物に良好な資料は認められず、遺構の詳細な時期は不明である。



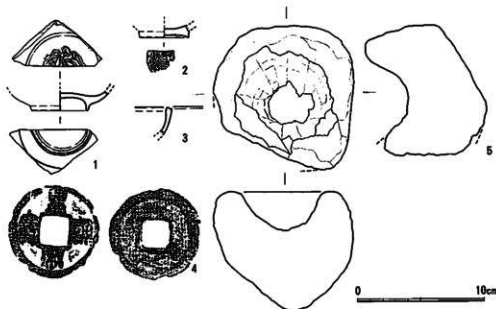
第241図 SK032実測図 (1/30)



第242図 SK033実測図 (1/40)

SK033 (第242図)

下層遺構群に所属する大型の遺構で、L17～M18区に位置する。その規模は南北4.9m、東西5.2m、深さ0.6mを測る。遺構のプランや底面の状況を観察すると、数度の掘り返しが認められるようである。遺構の詳細な性格は不明であるが、平面形態が不整形で大型であることから、土取り遺構の可能性を考えている。出土遺物は僅少で、遺構の時期を正確に反映するものかどうかの判断が難しい部分があるが、現状では、その構築時期を16世紀後葉に比定しておきたい。



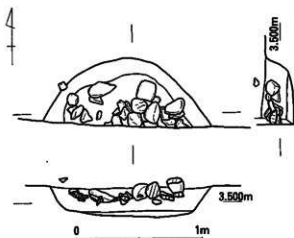
第243図 SK033出土遺物実測図 (1～3・5は1/3、4は1/1)

SK033出土遺物 (第243図)

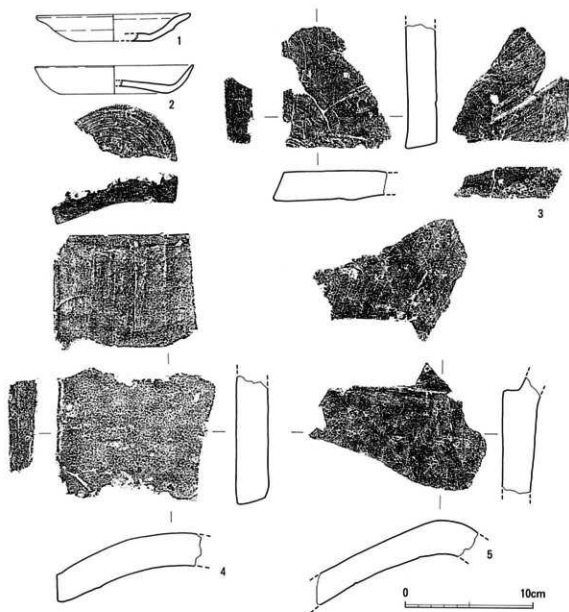
1は中国景徳鎮窯系青花で、E群青花碗である。内底部に銘款が認められるが、残存部分が少なく、判読できない。16世紀後葉の製品である。2は中国産の白磁の底部で、小片のため、器種不明である。外底部に糸切り痕が認められる。3は産地不明の陶器で、合子の身の口縁部と推定される。外面に青灰色、内面に緑灰色の軸が施されている。4は中国北宋代の銅銭で、「皇宋通寶」である。初鋳年代は1038年、書体は篆書体である。5は凝灰岩製の加工品であるが、用途不明の製品である。

SK035 (第244図)

上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。調査区の制限により、北側の一部を検出したに留まる。現状での規模は南北0.55m、東西1.3m、深さ20cmを測る。土坑SK025と切り合い関係を有するがあるが、互いの埋土の性状が類似しており、明確な前後関係を確定できていない。埋土中から拳大の礫と礫の中に混在して、土師質土器や瓦などの遺物が出土した。廃棄坑と推定され、出土遺物の年代観から、16世紀後葉から末葉の所産である。



第244図 SK035実測図 (1/30)



第245図 SK035出土遺物実測図 (1/3)

SK035出土遺物 (第245図)

1は京都系土師器皿で、2期あるいは3期の特徴を示す資料である。2は土師質土器の坏であるが、製作年代が15世紀代のものと思われることから、混入品である可能性が高い。3は平瓦、4・5は伏間瓦の破片である。

SK038 (第246図)

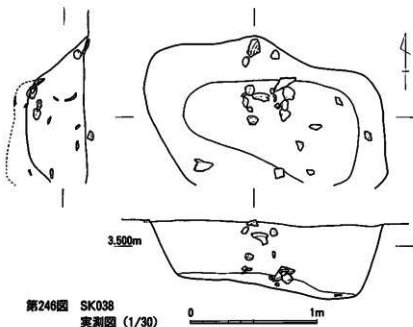
上層遺構群に所属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は不整形であり、東西1.85m、南北1.2m、深さ50cmを測る。底面は東側に向かってやや傾斜し、深くなっている。埋土下位には炭化物を多く含む層が堆積していた。土取り遺構SK033の上面に構築されており、切り合い関係はSK033→SK038となる。廃棄土坑と推定され、出土遺物の年代観から、16世紀末葉の所産である。

SK038出土遺物 (第247図)

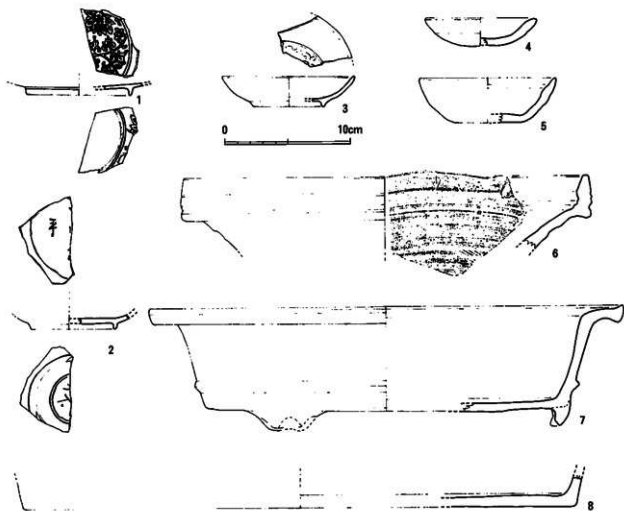
1・2は中国景德鎮窯系青花で、いずれも16世紀後葉に比定されるE群青花皿である。2の見込みと内底部には「天下太平」銘が描かれている。3は中国産の白磁皿で、見込みには毛彫りによる

第2節 遺構と遺物

花文が見られる。
 4・5は京都系土師器で、4は皿、5は坏である。いずれも2期から3期の特徴を示す。
 6は備前系陶器擂鉢で、内面の裾目の状況から、近世1期（16世紀末葉）に分類される。7は瓦質土器の火鉢で、浅鉢形の器形に屈曲する口縁部と板状の脚部を有する。8も瓦質土器火鉢の底部付近の破片で、こちらは長胴形の丸火鉢の形態になると推定される。7・8とも在地系の製品であろう。



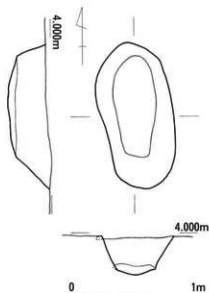
第246図 SK038
 実測図 (1/30)



第247図 SK038出土遺物実測図 (1/3)

SK042 (第248図)

下層遺構群に所属する土坑で、J17区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、長径1.1m、南北0.6m、深さ30cmを測る。第2南北街路SF012の直下に位置し、街路を構成する整地層をすべて撤去した後で検出された。出土遺物が無く、詳細な構築時期は不明である。



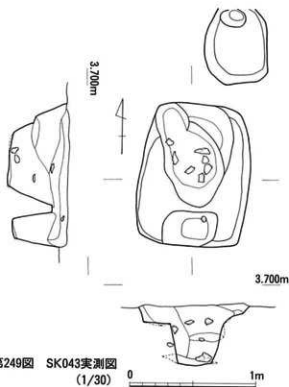
第248図 SK042実測図 (1/30)

SK043 (第249図)

上層遺構群に属する土坑で、K17区に位置する。遺構の平面形態は隅丸方形形状を呈し、その内部に不整形の小穴2基を有する。規模は長辺1.1m、短辺0.9m、深さ50cmで、遺構の性格は不明である。出土遺物の年代観から、構築時期は16世紀末葉である。

SK043出土遺物 (第250図)

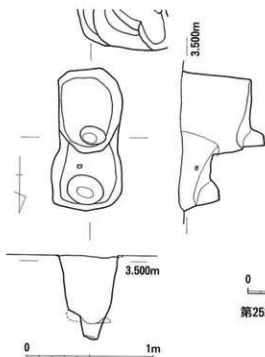
1は中国景徳鎮窯系青花の小坏、2は備前系陶器搦鉢の胴部破片である。1は16世紀代、2は16世紀末葉に比定される。



第249図 SK043実測図 (1/30)

SK044 (第251図)

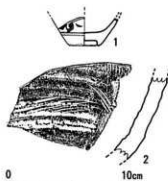
上層遺構群に属する土坑で、L17区に位置する。規模は長辺1.0m、短辺0.5m、深さ50cmを測る。遺構の性格は不明で、その構築時期は16世紀末葉に比定される。



第251図 SK044実測図 (1/30)

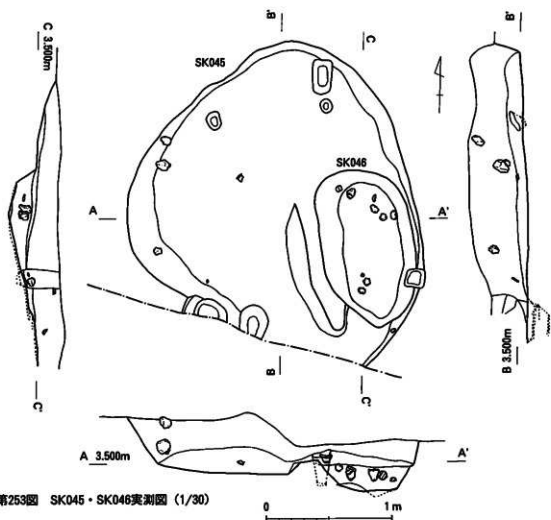


第252図 SK044出土遺物
実測図 (1/3)

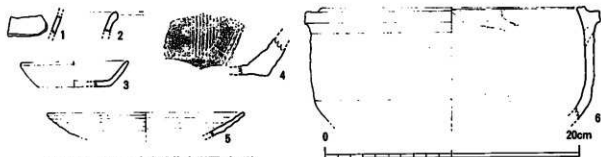


第250図 SK043出土遺物
実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物



第253図 SK045・SK046実測図 (1/30)



第254図 SK045出土遺物実測図 (1/3)

SK044出土遺物 (第251図)

1は中国漳州窯系青花碗の口縁部で、16世紀末葉の所産である。

SK045 (第253図)

下厩遺構群に属する大型の遺構で、K18・L18区に位置する。遺構の平面形態は不整形で、南側はさらに調査区外に伸びる。その規模は南北2.4m、東西2.3m、深さ20cmを測る。遺構の形態から、土取り遺構である可能性が高い。東側で土坑SK046と切り合い関係を有し、構築順序はSK046→SK045となる。埋土中の出土遺物より、遺構の時期は15世紀後葉に比定される。

SK045出土遺物 (第254図)

1は中国景德鎮窯系青花で、小片であるが、B類青花碗に分類される製品である。15世紀後葉以

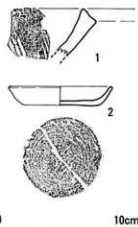
降の所産である。2は中国龍泉窯系青磁碗の口縁部で、これも15世紀代のに比定される。4は備前系陶器搗鉢で、小破片のため、詳細な生産年代を特定できない資料である。5は土師質土器皿で、胎土が白色系の色調を呈し、器壁が薄い特徴をもつものである。6は土師質土器の土鍋で、外面に指頭痕が認められ、内面には刷毛状工具による調整が見られる。

SK046 (第255図)

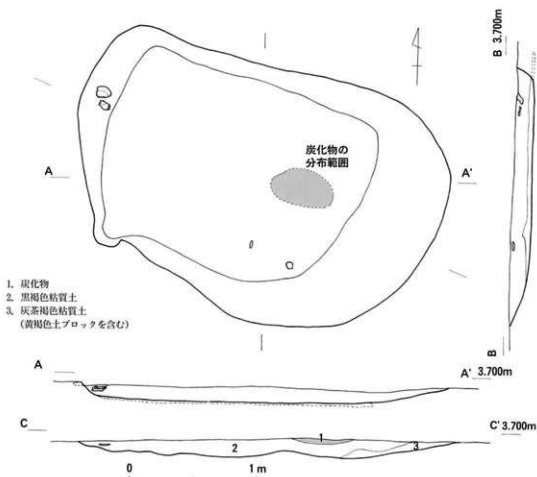
下層遺構群に属する土坑で、L18区に位置する。平面形態は略楕円形状を呈し、長径1.2m、短径0.7m、深さ20cmを測る。土取り遺構SK045の底面で検出されており、切り合い関係はSK046→SK045となる。廃棄土坑と思われ、遺構の時期は、切り合い関係や出土遺物の年代観から14世紀末葉～15世紀初頭以降に比定される。

SK046出土遺物 (第255図)

1は備前系陶器搗鉢で、口縁部の形態から、乗國編年中世3期(14世紀末葉～15世紀前葉)に比定される。2は土師質土器環で、底部外面に回転糸切り痕がみられる在地区の製品である。



第255図 SK046出土遺物実測図 (1/3)



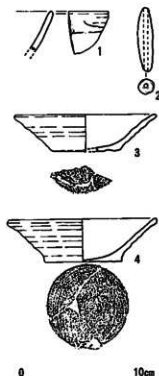
第256図 SK047実測図 (1/30)

SK047 (第256図)

下層遺構群に属する遺構で、L18区に位置する。平面形態は不整形形で、南北2.0m、東西2.9m、深さ15cmを測る。遺構上位に炭化物が集中する部位が認められたが、その性格は不明である。その他、埋土上位から土師質土器等の遺物が出土した。遺構の平面形態が不整形であるため、当該遺構は土取り遺構である可能性が考えられる。出土遺物の年代観から、遺構の時期は15世紀後葉に比定される。

SK047出土遺物 (第257図)

1は中国龍泉窯系青磁で、雷文帯青磁碗の口縁部である。15世紀代に比定される。2は七輪、3・4は土師質土器皿である。3・4は口縁部がラップ状に大きく開く形態を呈し、底部外面に回転糸切り痕がみられる。15世紀後葉に比定される在地系の製品であろう。



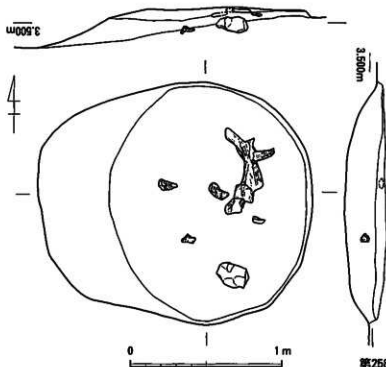
第257図 SK047出土遺物実測図 (1/3)

SK048 (第258図)

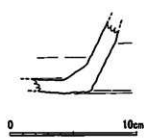
下層遺構群に属する土坑で、L17区に位置する。平面形態は不整形円形で、長径2.15m、短径1.85m、深さ35cmを測る。底面付近から、備前系陶器の破片と劣化して取り上げ不能となった獣骨が出土した。調査当初は、出土獣骨がかなり大型のものであったことから、当該遺構が獣舎を埋葬した窟である可能性も考えた。しかし、獣骨の出土以外に当該遺構を積極的に窟と断定する材料はなく、現状では窟というよりも廃棄土坑の可能性が高いと考えている。出土遺物からは、遺構の詳細な構築時期を特定できなかった。

SK048出土遺物 (第258図)

図示したものは、備前系陶器壺の底部破片である。小片のため、詳細な製作年代を確定できない。



第258図 SK048実測図 (1/30)



第259図 SK048出土遺物実測図 (1/3)

SK050 (第260図)

下層遺構群に属する遺構で、L17区に位置する。平面形態は不整形で、南北0.9m、東西1.5m、深さ80cmを測る。土取り遺構SK031と切り合い関係をもち、遺構の構築順序はSK050→SK031である。遺構の状態から、当該遺構も土取りを目的とする掘り込みであった可能性が考えられるが、その大部分をSK031の構築によって破壊されている。出土遺物が僅少であるため、遺構の詳細な構築時期は不明であるが、切り合い関係から、16世紀以前の所産と推定される。

SK050出土遺物 (第261図)

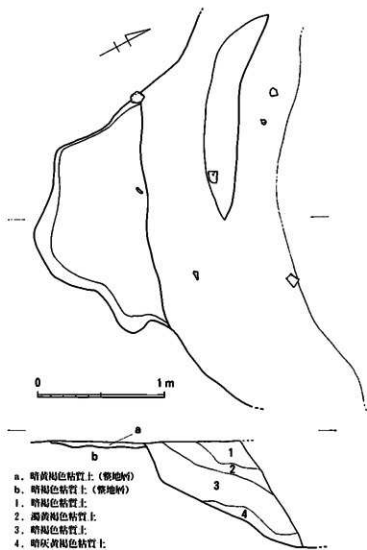
1は在地系の土師質土器皿で、15世紀代に比定される製品である。底部外面には回転糸切り痕が認められる。2は中国龍泉窯系青磁碗で、内底部は露胎となり、見込みには片彫り文様の一部が残存する。14～15世紀代の製品と思われるが、詳細な製作年代を確定できない。

SK051 (第262図)

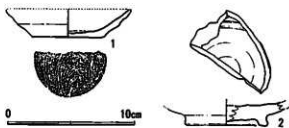
下層遺構群に属する大型の遺構で、L17区に位置する。遺構の平面形態は不整形で、南北3.4m、東西3.2m、深さ50cmを測る。北側をSK031、南側をSK033の構築によって切られている (SK051→SK031、SK051→SK033)。当該遺構も、遺構の平面形態が不整形であることから、土取りを目的とする掘り込み遺構であった可能性が高い。埋土中位から下位にかけて、頭大の礫や石臼・土鍾・銅銭等の遺物が出土した。出土遺物の年代観より、遺構の時期は14世紀代に比定される可能性が高い。

SK051出土遺物 (第263図)

1は中国龍泉窯系青磁碗で、外面に蓮弁文を施すものである。外面文様の蓮弁が、細弁化する以前の形態を呈していることから、14世紀代以前に比定できる資料である。2は中国同安窯系青磁碗で、内外面に髹漆による文様が施されている。13世紀代の製品である。3・4は中国産の白磁で、

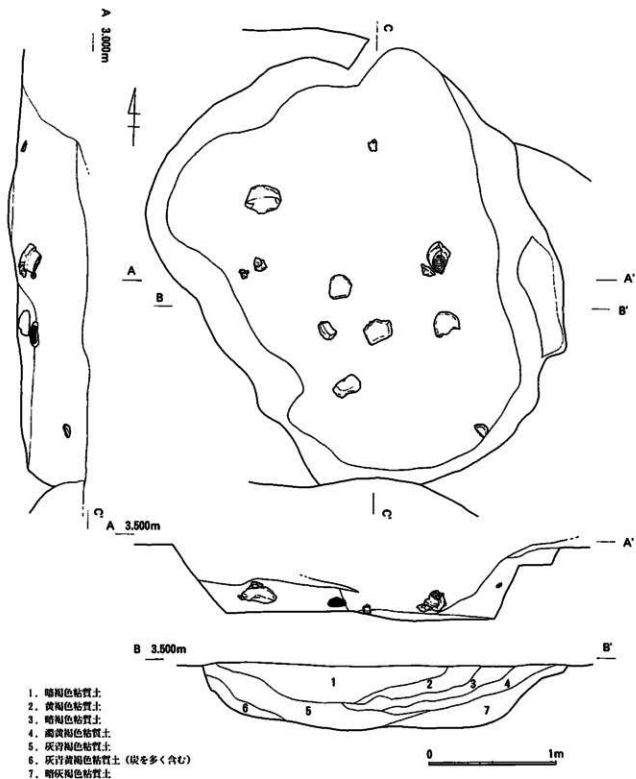


第260図 SK050実測図 (1/30)



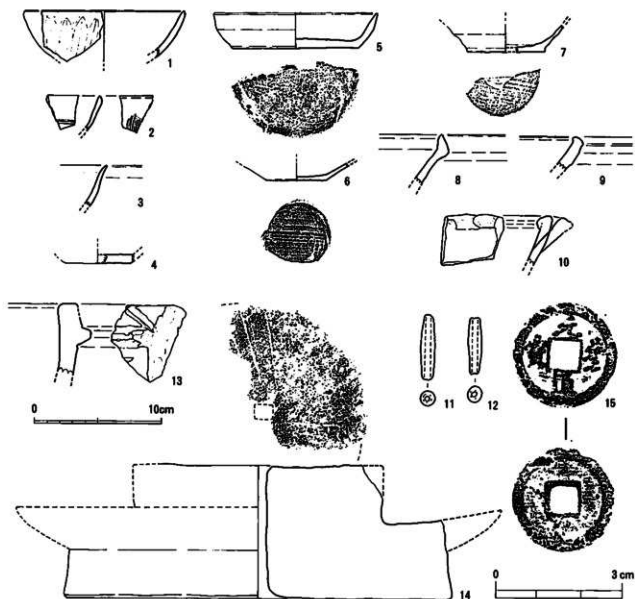
第261図 SK050出土遺物実測図 (1/3)

第2節 遺構と遺物



第262図 SK051実測図 (1/30)

3は端部が口禿げとなる碗の口縁部、4は皿の底部である。いずれも13世紀後葉以降の製品である。5は断面が箱形を呈する在地系の土師質土器環で、器高が低く、口縁端部が尖る特徴を有するものである。14世紀代に比定される。6・7も土師質土器環であるが、底部破片のため、詳しい年代は不詳である。いずれも底部外面に回転承切り痕とともに板状圧痕が認められる。8は須恵質土器鉢、



第263図 SK051出土遺物実測図 (1~14は1/3, 15は1/1)

9・10は瓦質土器鉢の口縁部である。10は内面に突帯をもち、口縁部の一部をひねり出すことによって、注口部を作出している。11・12は土鍾、13は滑石製石鍋の破片である。突帯部上部の口縁外面に沈線状の加工痕が施されている。14は茶臼の下臼で、安山岩系の石材を素材とする。全体の4分の1程度の破片となっており、鈔の部分は完全に除去されている。15は中国北宋代の銅銭で、「元豊通寶」である。書体は行書体で、初鋳造年は1078年である。

4. 集石遺構

SX005 (第264図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は準大から頭大の礫で構成されており、南北1m、東西1.2m、厚さ20cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に掘形等は確認できなかった。土坑SK011、火災処理土坑SK022と切り合い関係を有し、構築順序はSK022→SK011→SX005となる。切り合

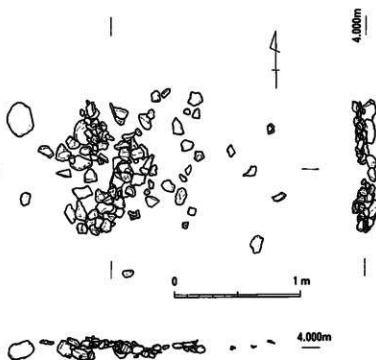
い関係や出土遺物から、最も新しい時期に構築された遺構であることがわかる。集石内およびその周辺からの出土遺物の中に志野系陶器があり、遺構の構築年代は16世紀末から17世紀初頭に比定される。

SX005 出土遺物 (第265図)

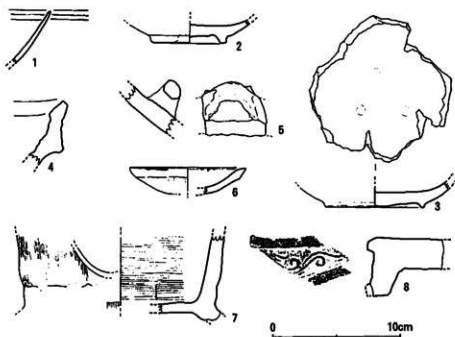
1は中国景徳鎮窯系青花

で、E群青花碗の口縁部破片である。16世紀後葉に比定される。2は中国産の白磁皿で、高台内が露胎となる。詳細な年代は不明であるが、16世紀代の所産である。3は志野系陶器皿で、見込みに3箇所の目録を有する。文様の無い、無地志野と呼ばれるタイプの皿であろう。16世紀末葉から17世紀初頭に比定される。4は備前系陶器播鉢で、近世1期(16世紀末葉)以降の資料である。5は

志野系陶器皿



第264図 SX005実測図 (1/30)



第265図 SX005出土遺物実測図 (1/3)

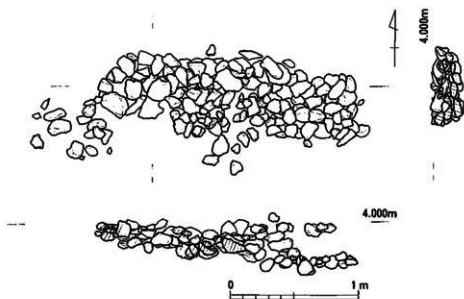
中国産の褐釉陶器壺で、把手部分の破片である。福建省もしくは広東省あたりの中国南部産のものであろうか。これも詳細な年代は不明であるが、16世紀代の製品である可能性が高い。6は京都系土師器皿で、口縁端部に煤の付着が見られる。2期以降の特徴を有する資料である。7は土師質土器の火鉢または風炉で、胴部に窓を設けている。外面には縦方向、内面には横方向のハケ状工具による調整痕が認められる。8は軒平瓦で、瓦当文様は均整唐草文と推定される。瓦当上縁部に面取りが認められる。

SX006 (第266図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は拳大から頭大の礫で構成されており、南北0.7m、東西2.3m、厚さ40cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に掘形等は確認できなかった。土坑SK008a、SK009と切り合い関係を有し、SK008aの上面に構築されている。遺構の構築順序は、SK008a・SK009→SX006となる。出土遺物や切り合い関係から、遺構の構築年代は16世紀末葉以降に比定される。

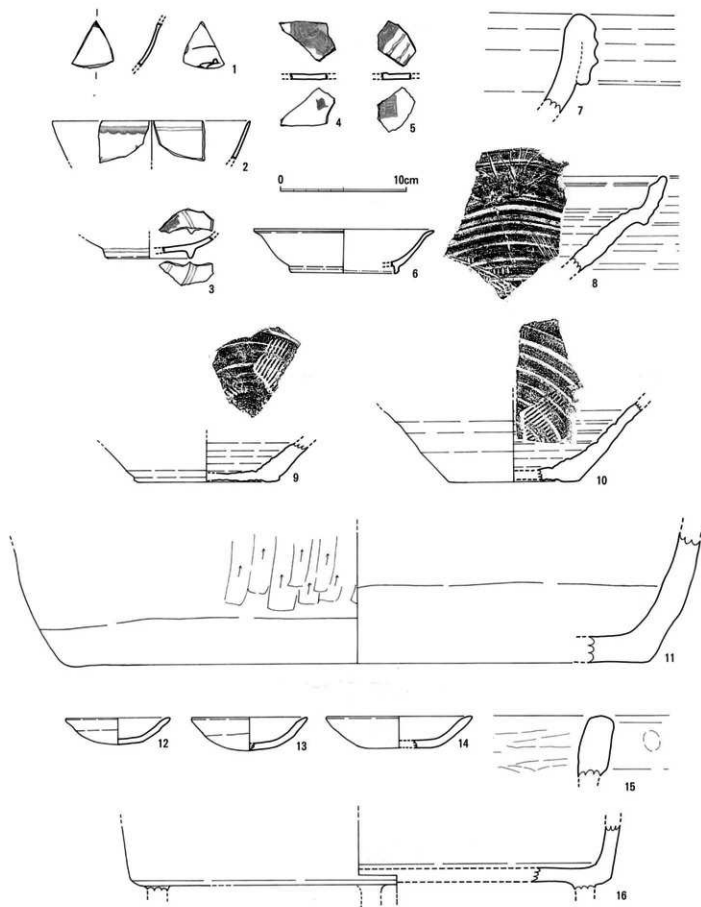
SX006出土遺物 (第267～269図)

1～5は中国景德鎮窯系青花である。1は口縁端部が壺反りとなる器形を呈し、外面に毛彫り文様、内面に圓線文を有する。2は小野分類のC群青花碗の口縁部で、16世紀前葉に比定される。3は青花皿で、内底部に二重圓線の一部が認められることから、B2群あるいはE群青花皿であろう。16世紀後葉に比定される。4・5はE群青花皿で、いずれも内底部に異体字の銘款が描かれている。これらも16世紀後葉の所産である。6は中国産の白磁皿で、森田分類のE群に比定される。16世紀代の製品である。7～11は備前系陶器で、7は口縁外面に凹線を施す大甕の口縁部、11は大甕の底部で、外面には縦方向の削りが認められる。8～10は楕鉢で、8の内面には放射状楕目と斜め楕目を交差させる楕目をもち、9・10の内面は放射状楕目のみが認められる。前者は近世1期（16世紀末葉以降）、後者は中世6期（16世紀前葉～後葉）に比定される。12～14は京都系土師器皿で、いずれも2期に比定される製品である。13の口縁端部には煤の付着が見られる。15は土師質土器で、残存率の関係で口径の復元は不可能であるが、大型の口径を有する甕等の口縁部と推定される。16・17は火鉢で、16は瓦質、17は土師質の製品である。17の底部には脚部が剥落した痕跡が認められ、

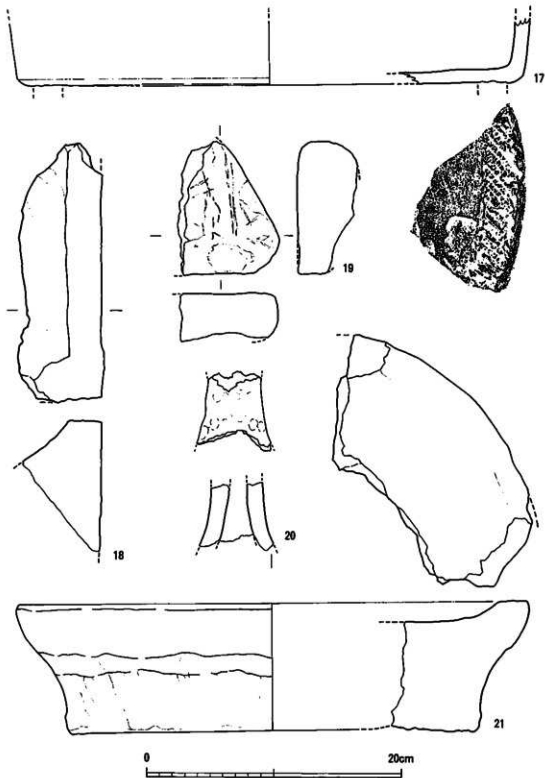


第266図 SX006実測図 (1/30)

第2節 遺構と遺物

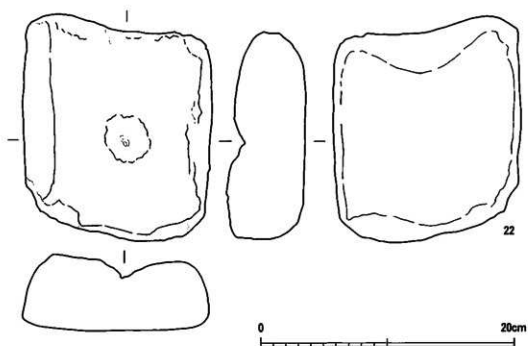


第267図 SX006出土遺物実測図① (1/3)

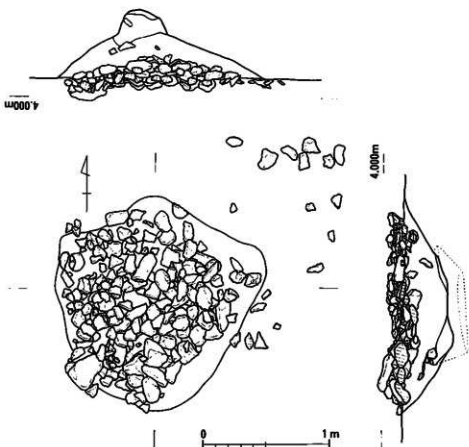


第268図 SX006出土遺物実測図② (1/3)

当該部位に刻線を施すことによって、脚部と底部の接合を強固にする工夫がなされている。18は加工が認められる石製品であるが、用途不明である。手水鉢のような機能をもつ製品である可能性が考えられるものかもしれない。19は磁石で、上面と側面を砥面として使用している。20は土師質による輪の羽口で、上・下端面を欠損している。21は茶臼、22は凹石と思われる遺物である。



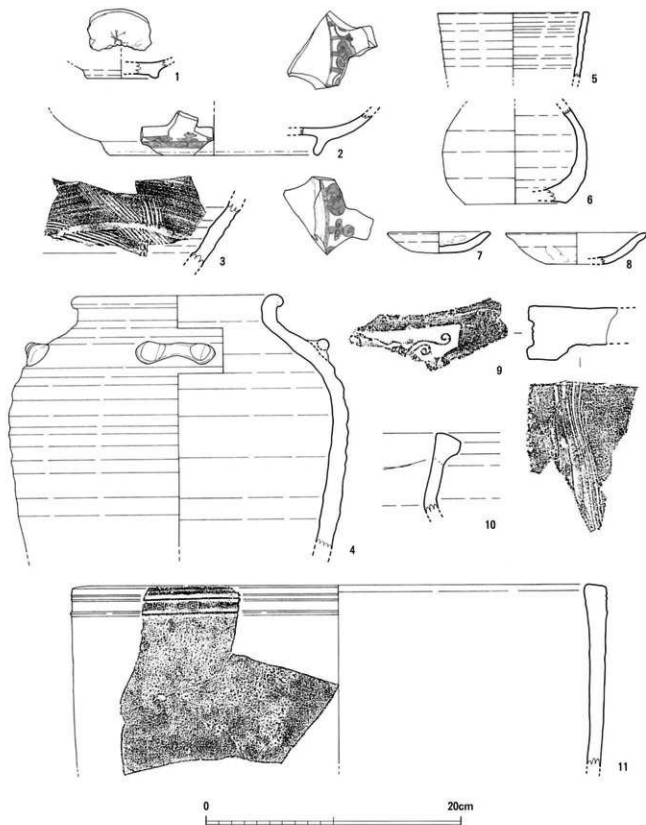
第269図 SX006出土遺物実測図③ (1/3)



第270図 SX013実測図 (1/30)

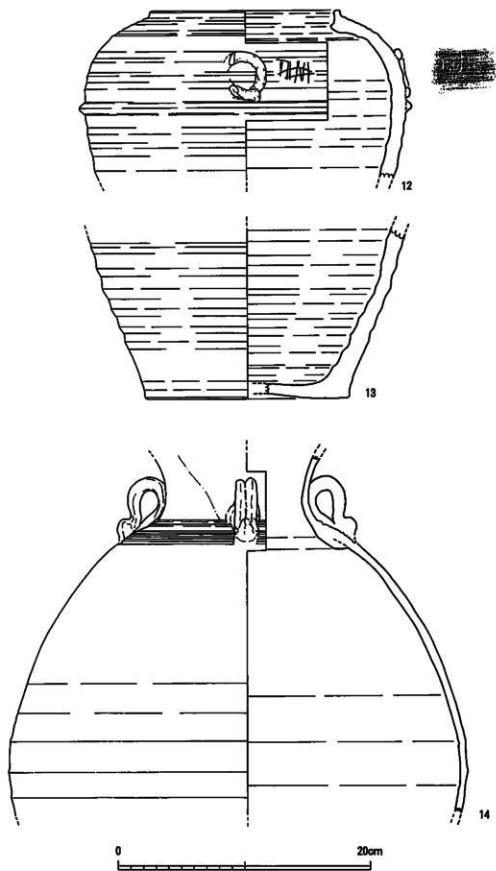
SX013 (第270図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は拳大から頭大の礫で構成されており、南北1.6m、東西1.4m、厚さ25cmの範囲に形成されている。礫群の周囲に不整形の掘形を有し、掘



第271図 SX013出土遺物実測図① (1/3)

遺構間接合 形の断面は2段掘りとなる。掘形の規模は南北1.7m、東西1.6m、深さ55cmを測る。集石中や掘形
 する遺物の 埋土内からの出土遺物には、他の遺構と遺構間接合する遺物が存在する。出土遺物の年代観から、
 存在 遺構の構築年代は16世紀末葉以降に比定される。



第272図 SX013出土遺物実測図② (1/3)

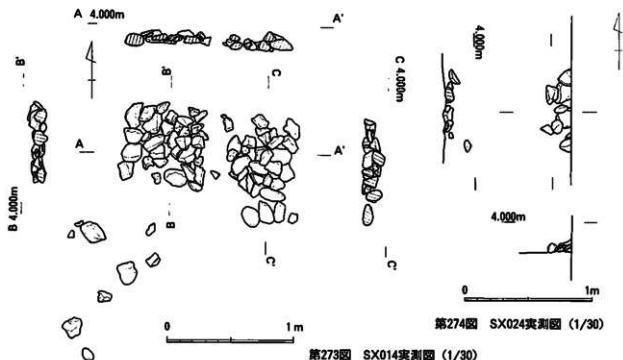
SX013出土遺物 (第271・272図)

1は中国産の青磁碗で、内面に印花文様が見られるが、文様の詳細は不明である。内底部は露胎となる。2は中国景德鎮窯系青花盤(大皿)の底部破片で、16世紀代の製品である。3は備前系陶器擂鉢で、内面に放射状罫目と斜め罫目を交差させる罫目を有する。近世1期(16世紀末葉)の所産である。なお、この擂鉢はSX013と土坑SK011からの破片が接合する遺構間接合資料である。4は備前系陶器の壺で、四耳壺と思われる大型の破片である。5・6も備前系陶器で、5は口縁部がわずかに外反し、平底の底部を有する鉢、6は瓶あるいは徳利の底部から胴部にかけての破片である。7・8は京都系土師器皿で、2期あるいは3期に比定される資料である。9は軒平瓦で、頸部裏面の接合部付近に強いナデの痕跡が認められる。10は瓦質土器の口縁部であるが、器種不明の製品である。壺または火鉢の口縁部であろうか。11は在地系と推定される火鉢で、口縁外面に低い突帯を2条有し、突帯間に刻印による二連雷文をスタンプする。12・13は備前系陶器の水屋甕で、胴部にヘラ記号が認められる。SX013の他、集石遺構SX006、土坑SK008からの出土破片が遺構間接合している。14はタイ産メナムノイ窯系陶器壺である。器壁が薄く、胴部中位から頸部にかけての外面に黄白色の白泥を施す。肩部には多条沈線が施されている。把手は1個が残存しているが、残存率の関係で、本来の個数は不明である。通常、メナムノイ窯系四耳壺の把手は横方向が通常であるが、当該製品は縦耳となっている。メナムノイ窯系の製品としては、中型壺の部類に属する資料で、器壁の薄さも本製品の特徴のひとつである。これも遺構間接合資料で、SX013の他、井戸SE027・土坑SK028からの出土破片、および第18次調査区L16区からの出土破片が接合するか、または同一個体の資料と推定される。

タイ産
メナムノイ
窯系陶器壺

SX014 (第273図)

上層遺構群に属する集石遺構で、L18区に位置する。集石は頭大から拳大の礫で構成されており、一辺0.6m前後の方形のものや南北0.85m、東西0.5mの長方形のものが2基並んだような出土状況を呈している。遺構の性格は不明である。出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。



第274図 SX024実測図 (1/30)

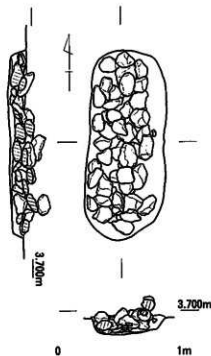
第273図 SX014実測図 (1/30)

SX024 (第274図)

上厩遺構群に属する集石遺構で、M19区に位置する。調査区の制約によって、遺構の一部を検出したに留まるが、集石は頭大から拳大の礫9個で構成されており、現状で南北0.6m、東西0.2mを測る。遺構の性格は不明である。当該遺構からも出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。

SX036 (第275図)

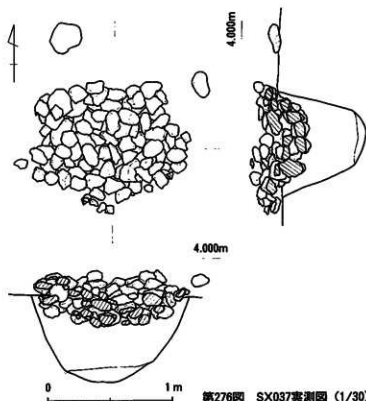
上厩遺構群に属する集石遺構で、L17・L18区に位置する。集石は拳大の礫で構成されており、南北1.4m、東西0.5mを測る。礫群の周囲に略楕円形の掘形を有し、掘形の規模は、礫群よりひとまわり大きめの南北1.5m、東西0.6m、深さ15cmである。出土遺物は認められず、遺構の詳細な構築年代は不明であるが、層位的な所見から16世紀後葉から末葉以降に比定される。



第275図 SX036実測図 (1/30)

SX037 (第276図)

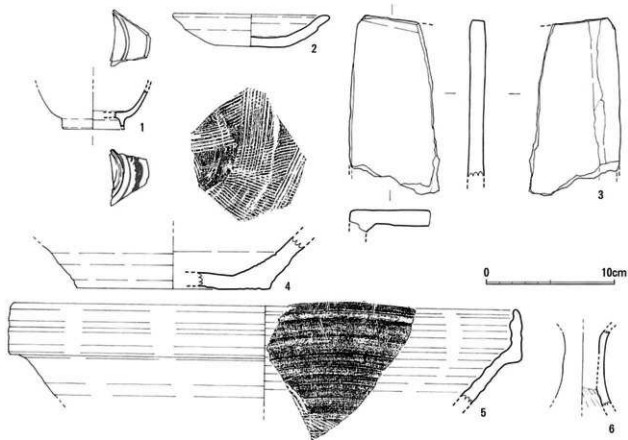
上厩遺構群に属する集石遺構で、L17・L18区に位置する。集石は拳大の礫で構成されており、南北1.0m、東西1.2m、厚さ40cmを測る。礫群の下位に不整楕円形の掘形を有し、掘形の規模は南北1.3m、東西0.8m、深さ70cmである。掘形底面と礫群との間には40cm程度のレベル差があり、土坑埋土上位から土坑上面を礫群が覆うような状況で検出された遺構であるが、その性格は不明である。集石内および掘形内部から遺物が検出されており、出土遺物の年代観から、遺構の構築時期は16世紀末葉に比定される。



第276図 SX037実測図 (1/30)

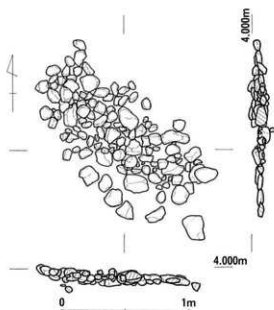
SX037出土遺物 (第277図)

1は中国景德鎮窯系青花の碗で、見込みを欠損するE群もしくはD群青花碗であろう。16世紀後葉から末葉に比定される。2は京都系土師器皿で、器壁が厚く、2期ないし3期

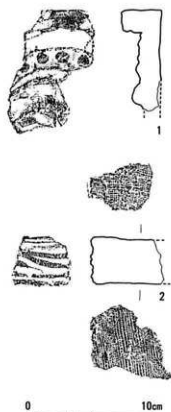


第277図 SX037出土遺物実測図 (1/3)

の製品である。3は瓦質土器の製品であるが、器形・用途とも不明である。4・5は備前系陶器擂鉢で、いずれも内面に放射状擂目と斜め擂目を交差させる特徴をもつ。近世1期（16世紀末葉）に比定される。6



第278図 SX039実測図 (1/30)



第279図 SX039出土遺物実測図 (1/3)

は備前系陶器の瓶あるいは徳利の頸部である。

SX039 (第278図)

上層遺構群に属する集石遺構で、J17区に位置する。集石は準大の礫で構成されており、長辺1.9m、短辺0.8m、厚さ15cmの範囲に形成されている。第2南北街路を構成する整地層内に形成されたもので、礫の周囲に明瞭な掘形等を確認することはできなかった。遺構の状況から、第2南北街路の補修時に路面の窪みに投げ込まれた礫群である可能性を考えている。出土遺物には瓦片などがあるが、遺構の時期を示唆するものではない。遺構の構築時期は、層位的な所見から、16世紀後葉から末葉に比定されよう。

SX039出土遺物 (第279図)

1は軒平瓦で、瓦当文様は巴文である。現状では詳細な製作年代を明確にはできないが、中世の所産となる遺物である。2は均整磨草文軒平瓦で、頸部裏面にカキ目調整を施し、凹面には布目痕が認められる。色調は灰青色を呈する。当該資料は7世紀後葉から8世紀代に比定される古代瓦で、類似の資料が大分市上野廃寺出土⁽¹⁾の軒平瓦にあり、瓦当文様や瓦当部の断面形態、頸部裏面のカキ目調整などの特徴から、同范と断定しうる資料である。この遺物は混入品であるが、小破片であるとはいえ、上野廃寺と同范の軒平瓦が本調査区で出土する現象は興味深いものがある。今後、注意を払っておきたい遺物である⁽²⁾。

上野廃寺と
同范

註 (1) 渡岐和夫「上野遺跡群(上野廃寺)」(『大分市埋蔵文化財年報』vol.10 1998年度大分市教育委員 1999年)

大分市教育委員会「上野遺跡—金剛宝戒寺東側における発掘調査報告書—」(1990年)

小田富士雄「大分市上野廃寺の古瓦について」(『古文化談叢』第46集 九州古文化研究会 1990年)

上野廃寺と中世大友府内町跡第28次調査区は、直線距離にして約1.3km離れており、前者は台地上、後者は沖積低地上に立地するという違いもある。小破片であるとはいえ、当該軒平瓦が大友28次調査区から出土した事実注目してきたい。

なお、上野廃寺出土の軒平瓦については、正式報告が未刊行であるため、その詳細な年代や製作技法に関する問題については、今後の課題としていきたい。

(2) 上野廃寺出土軒平瓦と同范の軒平瓦の破片が、本資料の他にも、中世大友府内町跡第8次調査区で出土している。しかしながら、報告時には当該資料が上野廃寺と同范の古代瓦であるという認識が無く、天地逆で実測図の提示を行っている。

大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内1 中世大友府内町跡第5・8次調査区』

(2005年 419頁 第528図76参照)

5. 礎石・掘立柱建物・柱穴

SX003 (第280図)

上層遺構群に所属する礎石で、K18区に位置する。礎石には長辺50cm、短辺30cm、厚さ20cmの川原礫が使用されており、その上面がほぼ水平になるように据えられている。礎石上面には中央部がわずかに窪むように加工がなされている。礎石の下位や周辺に掘形や根締め石などは認められず、整地層上に直置されている。礎石の周囲には、南北0.9m、東西0.8mの範囲に焼土層の広がりが認められ、礎石自体も被熱した形跡が見られる。この焼土層は天正14年(1586)のものである可能性が高く、礎石上に建てられていた建物は、島津侵攻時に焼失した可能性が高いと考える。この礎石と組み合わせるものは検出されておらず、他の礎石は近世初頭以降の遺構面の削平によって消失したものと考えられる。礎石周辺の焼土層から備前系陶器揺鉢が出土しており、遺構の年代は16世紀末葉に比定される。

SX003出土遺物 (第281図)

図示した遺物は、礎石周辺の焼土層から出土した備前系陶器揺鉢である。近世1期(16世紀末葉)の所産である。

SX023 (第282図)

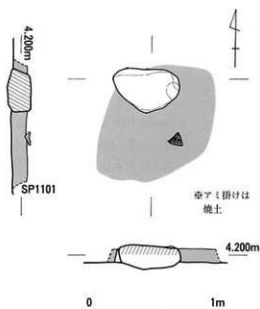
上層遺構群に所属する礎石で、K17区に位置する。礎石には長辺30cm、短辺20cm、厚さ10cm程度の小型の凝灰岩が使用されている。礎石の下位には多量の砂利を敷いて根締め石としており、礎石上面を水平に保つような工夫がなされている。この礎石と組み合わせるものは検出されておらず、他の礎石は近世初頭以降の遺構面の削平によって消失したものと考えられる。礎石および根締め石内からの出土遺物はないが、その周辺から京都系土師器皿の小片が出土している。層位的な所見と出土遺物から、遺構の年代は16世紀末葉に比定される。

SX023出土遺物 (第283図)

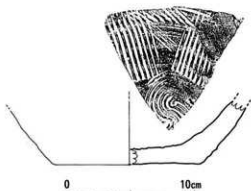
図示した遺物は、京都系土師器皿である。2期以降の特徴を有する資料である。

SB060 (第285図)

下層遺構群に所属する柱穴のうち、掘立柱建物としてまとめようなものをSB060として報告する。SB060はJ17



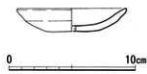
第280図 SX003実測図 (1/30)



第281図 SX003出土遺物 (1/3)



第282図 SX003実測図 (1/30)



第283図 SX023周辺出土遺物実測図 (1/3)

天正14年
(1586)
焼土層

第2節 遺構と遺物

区に位置し、第28次調査区北西隅付近で検出した。この建物跡は第2南北街路SF012を構成する整地層で完全にバックされており、第2南北街路が構築される以前に比定される遺構である。また、同じく下層遺構群に属する溝SD053と切り合い関係を有し、遺構の構築順序はSD053→SB060→SF012となる。現状では3個の柱穴を検出しており、北側は第18次調査区に、西側は第28次調査区の調査区外に伸びることが推定される。未調査の部分が多いため、遺構の大きさは不明であるが、1間×2間以上の規模を有する建物と推定される。検

出できた柱穴の柱間は約2mを測る。SB060を構成する柱穴のひとつであるSP

天正14年
(1586)
焼土財

1002から完形の土師質土器小皿が出土しており、その年代観から、遺構の構築年代は15世紀代に比定される可能性が高い。

SB060出土遺物 (第285図)

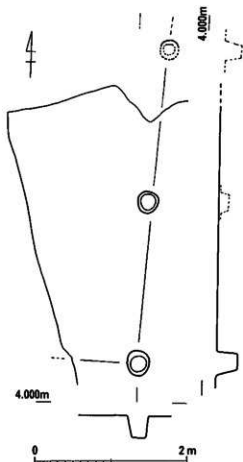
図示した遺物は、SB060を構成する柱穴のひとつであるSP1002からの出土遺物で、土師質土器の小皿である。口縁部がやや開く器形を呈し、底部は回転糸切りとなる。15世紀代の所産と推定される資料である。

SX059 (第268図)

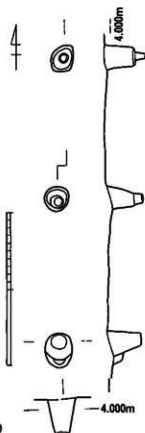
上層遺構群に所属する3基の柱穴で構成される遺構で、J17区に位置する。3つの柱穴は径約30~40cm、深さ約50cm、柱間は1.9m前後を測る。最も南側の柱穴には、2つの柱穴が切り合っている状況が確認できており、少なくとも1回以上の建て替えや改修が行われていることが窺われる。これらは第2南北街路上に掘り込まれたもので、町屋の一部が道路側へ張り出し、進出してきたことを示唆する遺構である。同様な遺構が第18次調査区でも検出されている。各柱穴からは遺構の時期を示す出土遺物は認められないが、層位的な所見などから、遺構の構築時期は16世紀後葉から末葉である。



第285図 SB060出土遺物
実測図 (1/3)



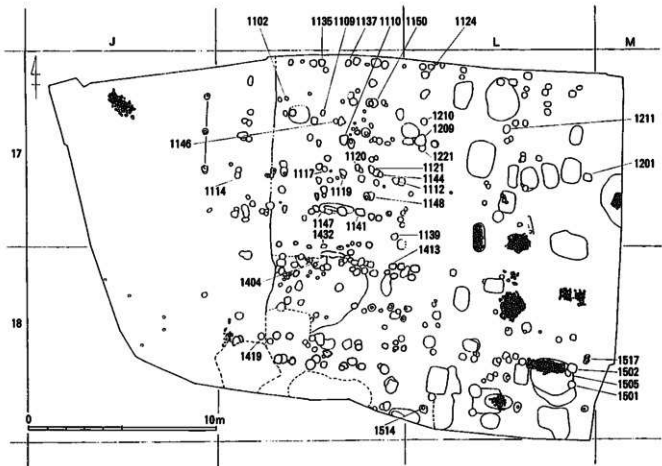
第284図 SB060実測図 (1/50)



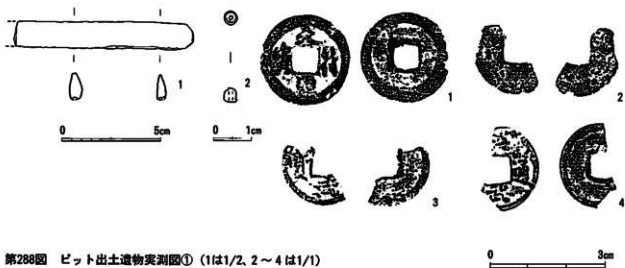
第268図 SX059実測図 (1/50)

その他のピット

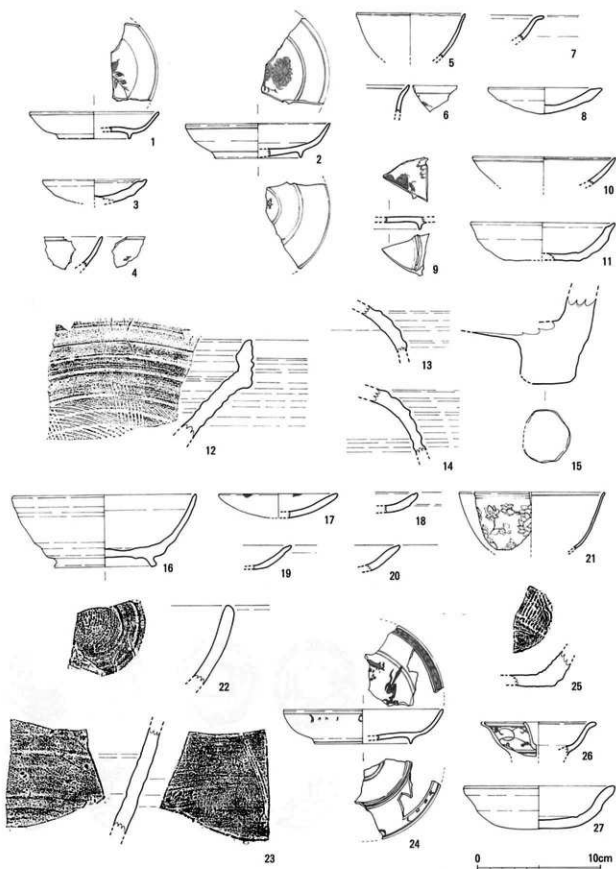
第28次調査区では多数のピットを検出しており、の中には確実に下層遺構群に属するものが少数認められるが、その大多数は上層遺構群に所属する。柱穴の中には天正14年（1586）の焼土屑・焼土ブロックSX004を切って構築されているものが少数確認できるほか、埋土に焼土を多量に含むもの、礎盤と思われる礎をもつもの（写真図版29参照）、欄列あるいは掘立柱建物を構成すると思



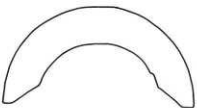
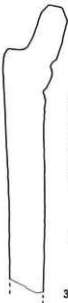
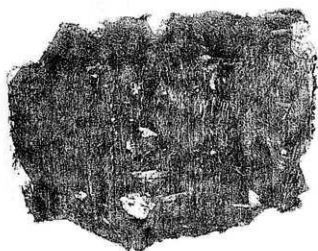
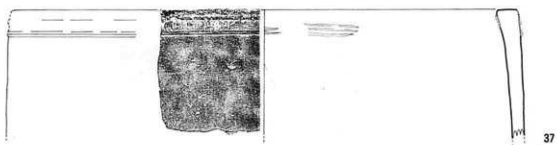
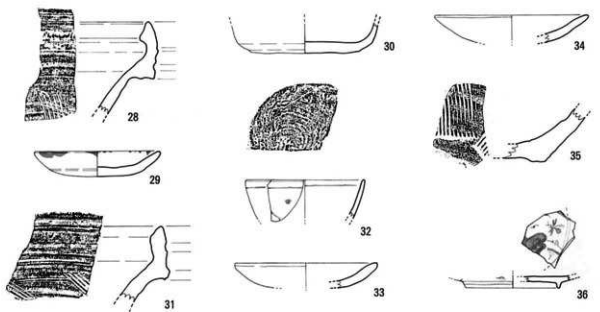
第287図 ピット配置図（上層遺構群のみ。下層遺構群は第195図参照 1/200）



第288図 ピット出土遺物実測図①（1は1/2、2～4は1/1）

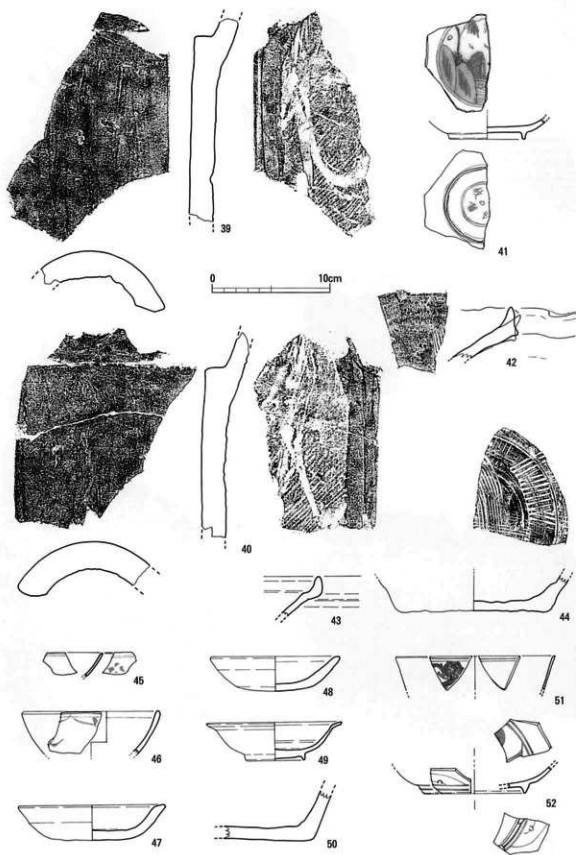


第289図 ビット出土遺物実測図② (1/3)

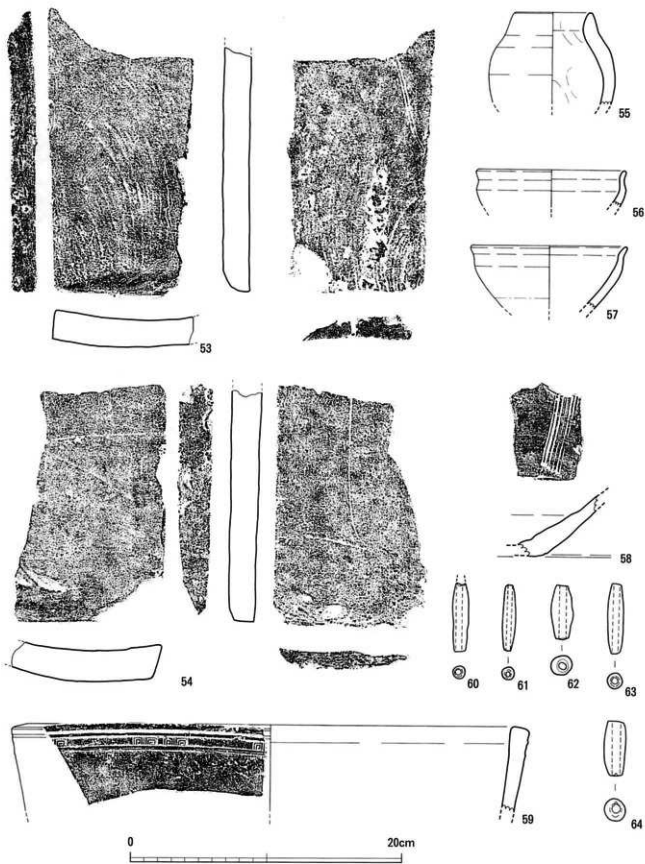


0 10cm

第290図 ビット出土遺物実測図③ (1/3)



第291図 ビット出土遺物実測図④ (1/3)



第292図 ビット出土遺物実測図⑤ (1/3)

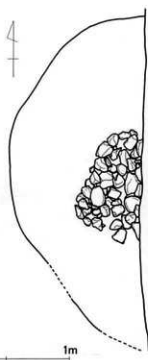
われるものなどが認められる。ピット群の性格については、「小結」や「総括」の項目でさらに検討を加えたい。ピット群出土遺物の中で、図示に耐えるものを第288～292図に掲げた。紙幅の関係で個々の遺物についての説明は省略しているため、詳細については巻末の遺物観察表を参照されたい。

6. 井戸・その他の遺構

SE027 (第293図)

井戸

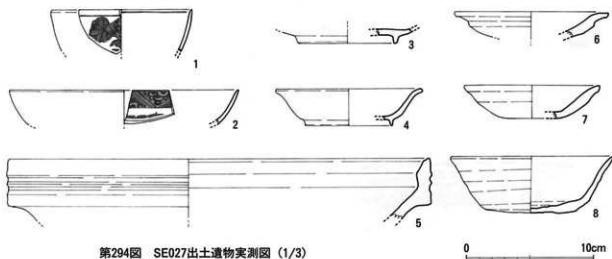
上層遺構群に所属する井戸で、M17区に位置する。調査区の制限により、全体の3分の1程度を検出したのみで、東側はさらに調査区外に伸びる。井戸の掘形は円形で、現状での最大径は4.4mを測る。検出面から60cm程度掘り下げた時点で、拳大の礫が多数廃棄されている部位が現れ、さらにその下位に結桶で作られた井筒を検出した。礫を撤去し、最上段の結桶を検出した後、湧水が激しくなり、礫と結桶の状況を写真撮影した直後に調査区の東壁が崩落した。この時点でこれ以上の掘り下げは危険と判断し、結桶の取り上げや土層図の作成を断念した。遺構平面図の作成は、井筒の上部に集積されていた礫群のみに留まっている。遺構の掘り下げや土層の検討が不十分であるが、他の調査事例を参照にすると、当該遺構は結桶を数段重ねることによって井筒とする素掘りの井戸で、井戸廃棄の際に井筒上面に土坑状の掘り込みを形成し、その掘り込み内に礫を廃棄したものと推定する⁽³⁾。井戸の掘形埋土からの出土遺物より、当該井戸の構築年代は16世紀後葉から末葉に比定される。



第293図 SE027実測図 (1/30)

SE027出土遺物 (第294図)

1・2は中国景德鎮窯系青花で、1はE群青花碗、2はE群青花皿である。いずれも16世紀後葉



第294図 SE027出土遺物実測図 (1/3)

註(3) 久世康博「井戸はどうしてうめられたのか(石をいれる)」『考古学論集』第5集 2001年)

久世康博「井戸」検出に伴う「土坑」の検討」『研究紀要』第8号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年 参照)

の所産である。3・4は中国産の白磁皿で、E群に分類される製品である。16世紀代の所産である。5は備前系陶器鉢で、口縁部の断面形態から中世6期bから近世1期（16世紀後葉～末葉）に比定される。6・7は京都系土師器皿で、器壁が厚いことから、2期ないし3期に比定される資料である。8は混入品と思われる古代（9世紀）の土師器環で、底部はへう切り後ナデ調整が行われている。

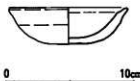
SX004

焼土屑

上層遺構の精査中に、K18区でブロック状に残存した焼土屑を検出した。残存する焼土屑の範囲は東西約4.0m、南北約0.9mであるが、北側は近年の掘削により大きく削平されていた。焼土屑中から僅かであるが、出土遺物を認めたことから、当該焼土屑にSX004の遺構番号を付し、遺物の取り上げを行った。層位的な所見や遺跡周辺の状況から、当該焼土屑は天正14年（1586）の島津侵攻時に形成されたものである可能性が高いと考える。出土遺物の年代観もそれと矛盾しないものである。

SX004出土遺物（第295図）

図示した遺物は、京都系土師器皿である。器高が高く、坏に近い形態を呈している。器壁が厚いことから、3期以降の特徴を示す製品である。



第295図 SX004出土遺物実測図（1/3）

SX034（第195図参照）

調査区南東隅で検出した遺構で、L18・M18区に位置する。土坑SK032・SK035・柱穴SP1526等と切り合い関係を有し、すべての遺構に切られている。遺構の切り合い関係などから、下層遺構群に属する遺構と判断している。南東側に向かって緩やかに低くなり、底面には10基程度の小穴が検出された。遺構の性格は不明であり、土取り遺構である可能性も考えられるが、断定できない。埋土中から京都系土師器や銅銭などが出土した。遺構の時期は16世紀後葉以降に比定される。

SX034出土遺物（第296図）

1は京都系土師器皿で、2期の特徴を有する資料である。2は銅銭で、錆出が著しく、銭文を判読できない資料である。



第296図 SX034出土遺物実測図（1は1/3,2は1/1）

SX041（第194図参照）

上層遺構群に所属する整地層で、K18区に位置する。整地層は地山の直上に堆積する厚みが10cm以下の精良な黄白色粘質土で構成され、南北約5m、東西約4mの範囲に広がっている。整地層上には多数の柱穴が構築されているが、この整地層自体の性格は不明である。出土遺物に図示可能なものはないが、京都系土師器の小片が出土している。当該整地層の構築時期は、16世紀後葉に比定される。

第2節 遺構と遺物

7. 包含層・整地層出土遺物（第297～304図）

遺構に帰属しない包含層・整地層出土として取り上げた遺物を、本項目で報告する。第297図1～11は中国景徳鎮窯系の製品である。1はE群青花碗、2・3はC群青花皿、4～7はE群青花皿、8はF群青花皿、9は小杯、10は器種不明の特殊品、11は内外面に褐彩を施す碗である。3は口縁端部を故意に打ち欠いており、当該部位に煤が付着している。この青花皿を灯明皿として使用（転用？）するために、行われたものである可能性が考えられる。12～19は中国漳州窯系の製品で、12～17は青花碗、18は小型の青花碗、19は青花皿である。第298図20～22は中国産の青磁で、20は香炉、21は皿、22は小型の瓶類である。23～26は中国産の白磁である。23は皿で、は内底部に「天下太平」銘が認められる。24は小杯の可能性が考えられる底部破片である。26は型打ち成形による製品で、外面に連弁文を有し、内面は露胎となる。合子の身であろうか。極めて類似した製品が第18次調査区でも出土しており（本書第2分冊第4章参照）、接合はしていないが、同一個体である可能性がある。27～31は中国産陶器壺で、27・29・30は焼締、28・31は外面に黒褐色の釉を施す。なお、29・30は同一個体と思われる。32は中国産褐釉陶器小型壺で、「茶入」¹⁾として使用されたものである。内面は露胎となる。33も内面が露胎となる中国産褐釉陶器の製品で、器壁が非常に薄いのが特徴である。当該製品も茶入である可能性が考えられる。34は中国産の磁器で、外面に細い連弁文が認められ、外面と外底部には緑彩が施されている。内面にはクロコ目が残存し、露胎となる。35は華南三彩の製品であるが、小破片のため、器種不明である。36～38は青釉小皿で、39の外底部には「福」字の一部が読み取れる。39・40は北部ベトナム産の印花文白磁皿である。それぞれ、別個体の製品と推定する。41～44は朝鮮王朝産の陶器製品で、41は碗、42は鉢、43・44は瓶類（舟德利）である。45～48は瀬戸美濃系陶器の製品で、45は小型の天目碗、46は天目碗、47は皿、48は外面に鉄釉を施す碗である。いずれも大窯3期（16世紀後葉）の製品であろう。49・50は備前系陶器播鉢で、内面に放射状播目と斜め播目を交差させる近世1期（16世紀末葉）の製品である。第299図51～64は京都系土師器で、51～62は皿、63・64は坏である。65は土師質土器の碗で、底部に高台を有する在地色の強い製品である。66は焼塩壺の蓋または小型の皿である。67は焼塩壺の身である。68は取瓶で、内面に金属滓の付着がみられる。69は土師質土器の円盤状加工品である。70は瓦質土器の鉢で、これも在地系の製品であろう。71は瓦質土器の火鉢または風炉で、肩部付近に栴円形の透かし孔を有する。72は瓦質土器火鉢の脚部である。73は瓦質土器火鉢の口縁部で、口縁端部外面

茶入

ベトナム産

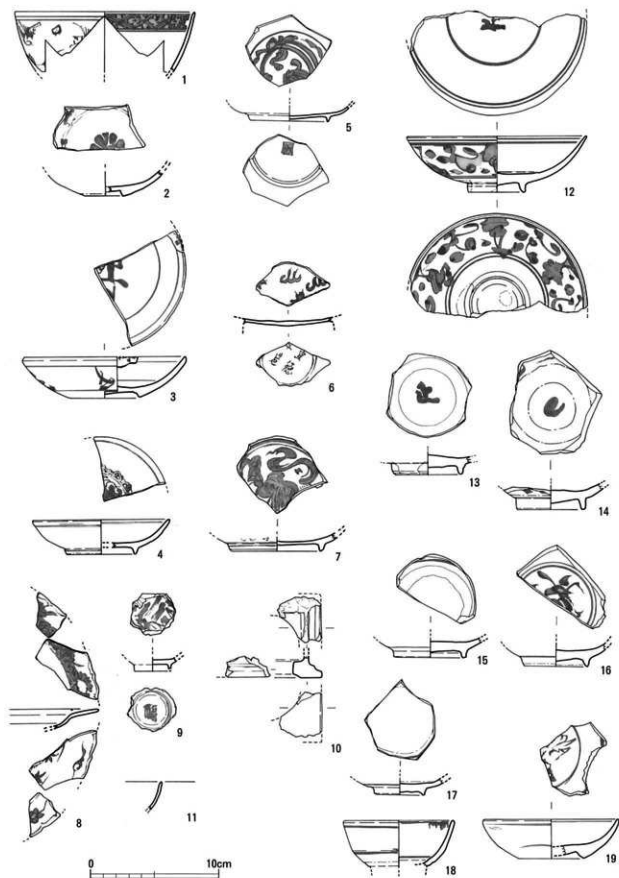
白磁皿

焼塩壺

注(4) 中世大友府内町跡における中国産の「茶入」の出土例は、非常に僅少ではあるが、確実に増加している。既報告の事例としては、中世大友府内町跡第5次調査A区で1例、第5次調査区B区で1例、第8次調査区で1例、第13次調査区で1例、第28次調査区で2例の計6例がある。このうち、第8次調査区の資料のみが15世紀代に遡るが、他はいずれも16世紀以降の遺構や包含層・整地層より出土している。

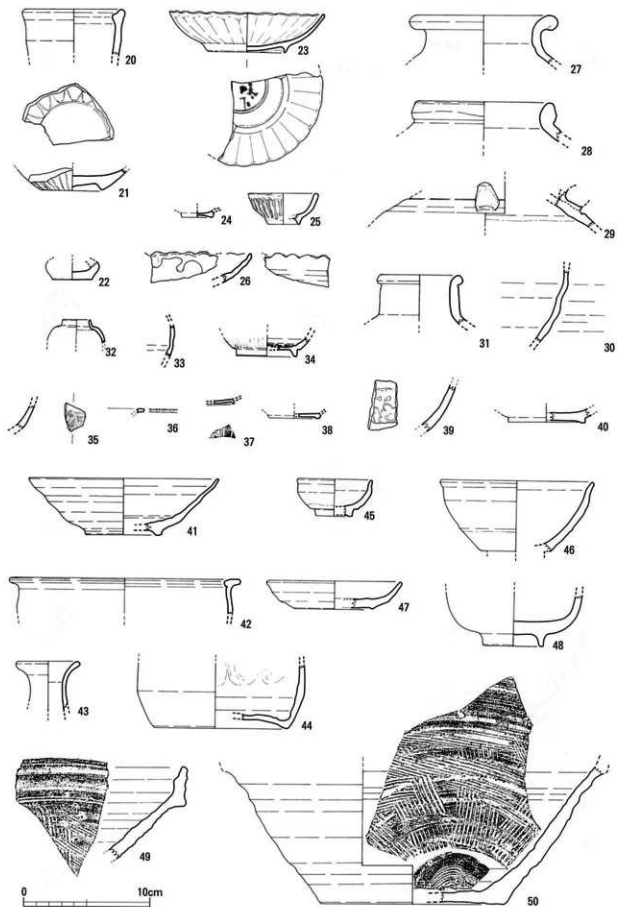
第7表 中国産茶入出土地点一覧

調査地点	遺構	遺構の時期	文献
第5次調査A区	包含層・整地層	16世紀後葉～末葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第220頁27 (179頁)
第5次調査B区	溝SD123	16世紀前葉	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第288頁1 (248頁)
第8次調査区	溝SD101	15世紀前葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』1 (2005年)、第524頁12 (415頁)
第13次調査区	包含層	6世紀後葉～末葉?	大分県教育庁埋蔵文化財センター『豊後府内』2 (2005年)、第365頁8 (226頁)
第28次調査区	包含層・整地層	16世紀後葉～末葉?	本書参照

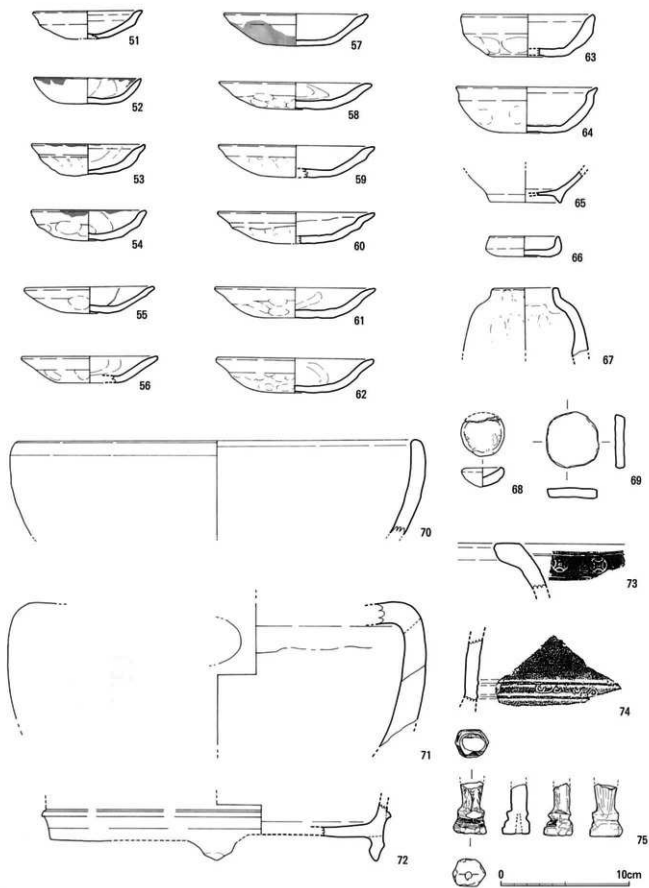


第297图 包含層・整地層出土遺物実測図① (1/3)

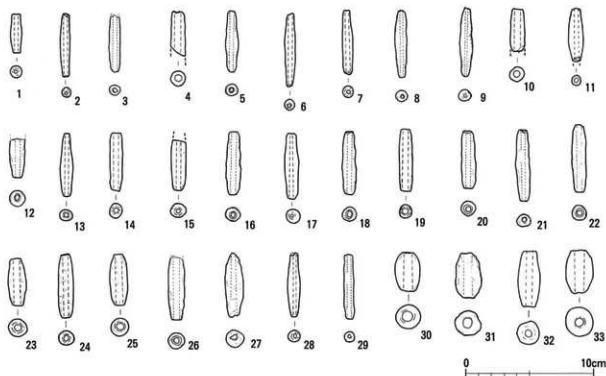
第2節 遺構と遺物



第298図 包含層・整地層出土遺物実測図② (1/3)



第299図 包含層・整地層出土遺物実測図③ (1/3)



第300図 包含層・整地層出土遺物実測図④ (1/3)

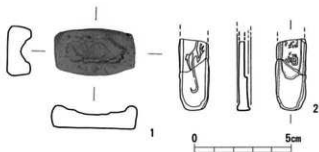
に七宝文の刻印を有する。74も瓦質土器火鉢の底部付近の破片で、2条の突帯間に双頭蕨手流雲文の刻印をスタンプする。在地系の製品で、16世紀後葉から末葉に比定される資料である。75は土人形で、仏像を象ったものである。底部に未完通の小孔を有する。土層観察用ベルトの上面から出土したもので、近世以降に比定される資料である。

第300図1～33は管状土錘で、いずれも中世の所産と思われるものである。法量等のデータは、観察表を参照されたい。

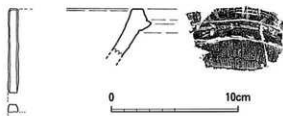
目貫金具の
鋳型

第301図1は刀装具の目貫金

具を製作する鋳型である。表面を詳細に観察すると、僅かではあるが、熱変の痕跡が認められ、鋳型として確実に使用された資料であることが確認できる。近世の水田層からの出土であるが、中世段階に本調査地点付近に居住していた職人が使用していたものと解釈できる。本調査区付近が、中世段階に町屋であったことを物語る重要な出土遺物として着目しておきたい。2は油煙墨である。表面に蛟龍文、裏面に「李家烟」の文字があり、奈良興福寺二諦坊で作られた製品である。K18区

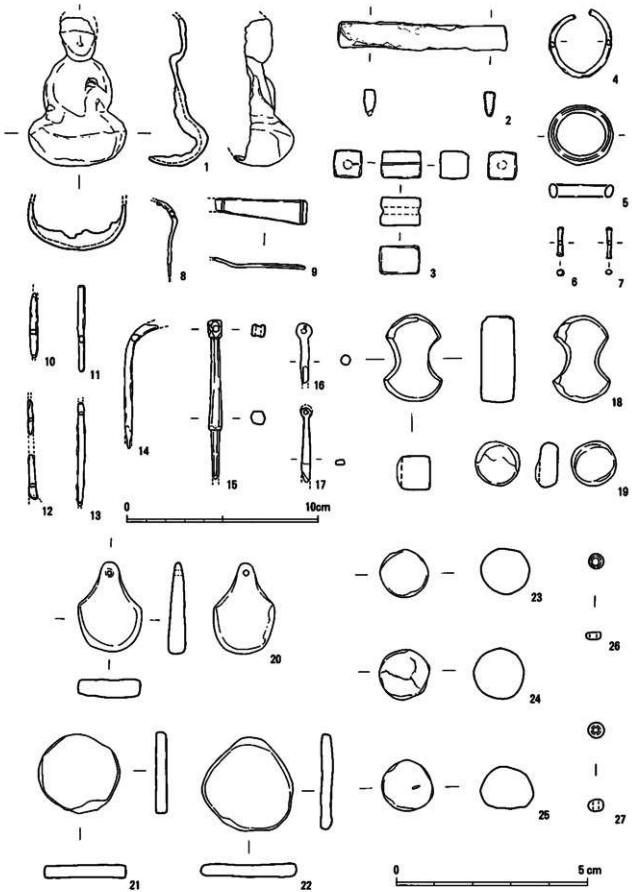


第301図 包含層・整地層出土遺物実測図⑤ (1/2)

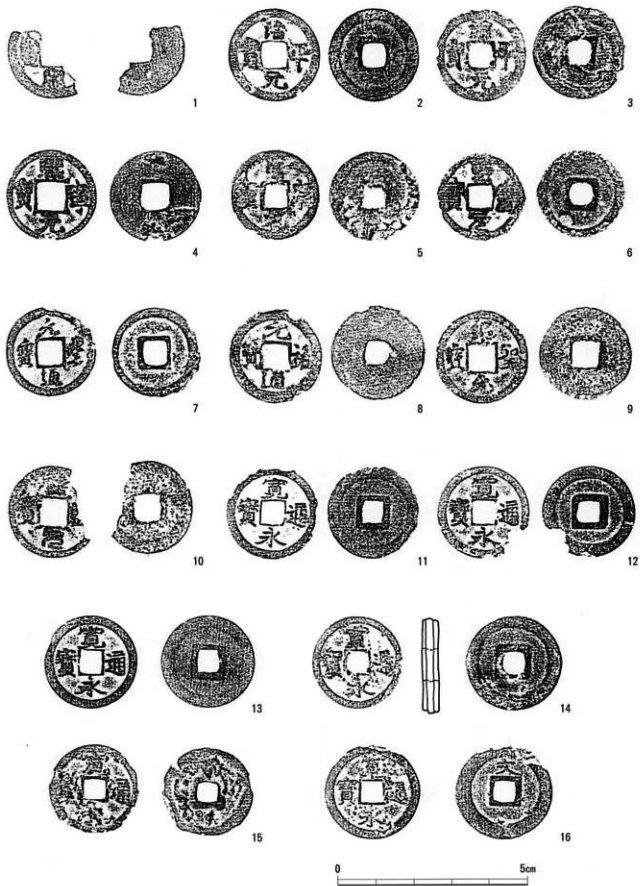


第302図 包含層・整地層出土遺物実測図⑥ (1/2)

油煙墨



第303図 包含層・整地層出土遺物実測図⑦ (1~17は1/2, 18~27は1/1)



第304図 包含層・整地層出土遺物実測図⑧ (1/1)

の覆土部分から出土しているが、16世紀代の所産と推定される。本資料の他には、中世大友府内町では第22次調査区SX006⁽⁶⁾で銅品が出土しており、他に福井県一乗谷朝倉氏遺跡第40次・44次調査区⁽⁷⁾で出土事例がある。

第302図には石製品を图示した。1は硯の周縁部の一部で、当該部分のみが剥離した資料である。2は滑石製の石鐏である。第303図には金属製品・ガラス製品を图示している。1～19は主に青銅を素材とした製品である。1は懸仏の仏像部で、頭部と台座の裏にフック状の突起を設けていたと思われるが、頭部裏の突起は欠損している。この突起は鏡板部との結合を強固にするための機能を有していたものと思われる。これも近世の水田厩中からの出土であるが、中世段階に遡る資料であろう。2は小柄である。3は直方体の形状を呈する青銅製品で、用途は不明である。小口の部位の中心には、小孔が長軸方向に穿たれているようであるが、付着物により、現状では貫通していない。また、表面の一面のみに極めて浅い溝状の条線が認められる。類例は中世大友府内町跡第9次調査区包含層⁽⁸⁾・第19次調査区⁽⁹⁾および第29次調査区(萬壽寺寺域内の西側地点、未報告)で出土している。第19次調査区の報告では当該製品を「青銅製分銅」としているが、その形態から分銅であるとは考え難く、分銅以外の用途を有するものであろう。4・5は甲冑の環付金具と推定される製品である。6～14も用途不明の青銅製品で、このうち6・7についてはリベット状の形状を呈するもので、近世の水田厩中から出土している。15～17は青銅製の鍔、18・19は分銅である。分銅については18が鐘形、19が太鼓形を呈するもので、重量は前者が13.4g、後者が2.6gを測る。20～25は鉛製品である。20は上面に貫通孔のある突起を有する装飾品で、「メダイ様金属製品」と呼称されるものである。21・22は鉛の素材を平たく伸ばしたような円盤状を呈するものであるが、用途は不明である⁽⁹⁾。23～25は鉛玉(鉄砲玉)で、特に25については断面が正円形でなく、若干つぶれたような印象を受けるもので、使用済み(発射済み)の製品である可能性が考えられる。26・27はガラス小玉である。第304図には、銅銭を图示している。銭貨の種類や法名などのデータは観察表に譲りたい。このうち、11～16の「寛永通寶」については、いずれも近世の水田厩中からの出土である。

懸仏

用途不明の
青銅製品メダイ様
金属製品

註 (5) 本書第3分冊第7章参照。

(6) 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書 第44次 第17次調査』(2000年 28頁および第20回18参照)

(7) 本書第3分冊第8章参照。

(8) 大分市教育委員会「中世大友府内町跡第19次調査」

(大分指定史跡大友氏館跡-発掘調査報告書Ⅲ-1)『大分市市内遺跡確認調査報告-2001年度-』所収 21頁(2002年)

(9) 類例が大分県上門手遺跡・長崎県原城跡で出土している。

大分県教育委員会『上門手遺跡』(大分県文化財調査報告書第172編 2004年 38頁第43図1)

長崎県南有馬町教育委員会『原城跡』(南有馬町文化財調査報告書第2集 1996年 84頁 第54図2～5)

同『原城跡』(同上第3集 2004年 150頁第134図2)

第3節 小 結

第3節 小 結

中世大友府内町跡第28次調査区で検出された遺構は、16世紀後葉～末葉以降の上層遺構群と16世紀後葉以前の下層遺構群に大別される。これらはさらに切り合い関係や出土遺物によって、14・15世紀・16世紀後葉・16世紀後葉～末葉・16世紀末葉～17世紀初頭の4段階に細別される(第305・306図)。以下、各段階ごとの遺構群の様相を概観して、小結としたい。

14・15世紀

14・15世紀

全体的に遺構は少ないが、溝SD049・SD053・SD040・SD052、掘立柱建物SB060、土取り跡や整地層、土坑などと推定されるSK045・SK047・SK048・SK050・SK051などが、この段階に相当する。このうち、SD040はほぼ真南北方向に伸びる小規模な箱型溝で、単一埋土で一気に埋め戻されている状況が観察できる。何らかの区画遺構と推定されるが、現状では詳細な性格は不明である。また、調査区西北隅で検出されたSD049は、出土遺物から15世紀前半以前に遡るもので、かなり大規模な溝である可能性が高い。当該遺構は第18次西調査区の第2南北街路下層で確認された溝(SD001、本書第4章参照)と同一遺構であり、今後これらの溝の性格を検討する必要がある。SB060は掘立柱建物となる可能性が考えられるものであるが、周辺に同時期の遺構が希薄であり、これについても現状では、詳細な性格が不明である。

16世紀後葉

16世紀後葉

土取り跡や大型の掘り込みと推定されるSK031・033・034が、この段階に相当する。本調査区の基盤層は東側に向かって緩やかに傾斜する様相が何われ、これらの遺構群は傾斜変換点の周辺から東側に集中して構築されている。埋土中に含まれる遺物や層位的な所見から、上記の遺構の所産時期は16世紀後葉以降に比定される。これらの遺構は、16世紀後葉～末葉の段階にこの地点を町屋にする際に埋め立てられたものと推定される。SK031やSK034は、それぞれ第18次東調査区や第22次調査区でも延長部が確認されており、当該地点の周辺がかなり広範囲に土取りなどの行為が行われていることが確認できる。なお、当該段階ではピットや土坑などの町屋関連遺構が、本調査区付近に構築されていないことを確認しておきたい。

なお、これらの土取り跡や大型の掘り込みと推定される遺構の性格や評価、位置づけ等に関しては、本書第3分冊第10章「総括」の項目も、あわせて参照されたい。

16世紀後葉

16世紀後葉～末葉

～末葉

第2南北街路、ピット群、礎石、土坑、井戸、集石遺構などが次々と構築され、本調査区において最も遺構が集中する段階である。

第2南北街路SF012は、地面を緩やかに掘り窪め、砂質土と粘質土を交互に積み重ねる工法で構築されている。街路を構成する土層群のうち、最下面の砂質土中から、E群青花皿や大窩3期の瀬戸美濃系陶器天目碗、器壁がやや厚めとなる京都系土師器2期の皿などが出土している(第200図参照)ことから、第2南北街路の最初の整備が16世紀後葉を越らないと推定している。ただし、このことは道路遺構自体が16世紀後葉以前に存在しなかったということを直接的に示すものではなく、第2南北街路を除去した後の面に遺構が希薄であることから、当該地点に16世紀後葉を越る道路遺構が存在した可能性や道路と認識されていた空間が16世紀後葉以前に存在した可能性を否定できるものではない。道路側溝については、本調査地点では検出されておらず、後世の削平によって消失した可能性とこの調査区周辺には明確な道路側溝が当初から造られていなかった可能性の両方を考慮しておきたい。後者の場合、街路東側に位置する町屋関連の遺構と街路との境界が不明瞭であったことが指摘される。

ピット群については、K17・K18区付近に集中して構築されている。ピット群の一部には埋土に多量の焼土を含むものが確認できることから、これらについての所産時期は島津氏攻めの天正14年

(1586)前後と推定される。ビット群には東西方向で並ぶものが数列確認できており、これらのビット列の性格が問題となる。当該遺構を獨立柱建物の一部とみなすことも可能ではあるが、柱穴配置の平面プランが建物として組み合わせないことや複数の建て替えの痕跡が認められることから、これらは獨立柱建物の一部ではなく、欄状の区画遺構であると解釈してみた。この想定が妥当なものと仮定して、焼土を含むビット群や欄状に並ぶビット列の配置を遺構平面図から抽出した。すると本調査区におけるビット列は5列程度が認識可能で、それぞれを北からG～K列と仮称しておくこととする(第306図上段)。ビット列のうち、3群と4群については2～3回程度の建て替えや改修が想定できる。また、ビット群のうち、東側に分布するものは一部が第2南北街路に張り出して構築されており、規格的な建物遺構の一部と想定できる柱穴(SX059)も存在する。これらは町屋施設の拡張を示唆する事象であろう。

礎石については、2基が検出されている。このうち、SX003については周辺を焼土が取り巻いており、この礎石を使用した建物は、天正14年(1586)の火災によって焼失した可能性が高い。ビット列と礎石の関係は明確にできないが、いずれも焼土層によって被覆されている状況から、同時期に併存したものと解釈しておきたい。SX023については凝灰岩を使用し、根締め石として、小型の玉砂利を使用している。H列としたビット列の北側に位置しており、G列-H列間の区画に建造された建物に使用された礎石であった可能性を考えておきたい。

ビット群の裏手に当たるL・M区には土坑・集石遺構・井戸などが構築されている。土坑については、その大半が廃棄土坑(ゴミ捨て穴)である。また、SK010・SK008a・SK022については、埋土中に焼土が多量に含まれており、火災処理土坑と解釈される遺構である。井戸については、1基のみの検出であることから、ビット列で区切られた個別の区画に対応するものではなく、複数区画に対応する共同井戸と推定される。集石遺構については、その性格が不明瞭であるが、集石を構成する礫群の一部は、屋根の上に重しとして乗せられていたものである可能性を考えておきたい。

当該時期の遺構のあり方、すなわちI17・I18区付近に道路遺構である第2南北街路、街路の東側に面するK17・K18区付近にビット群や礎石、ビット群の裏手に相当するL・M区に廃棄土坑や井戸が存在するという配列は、中世都市における「町屋」としての普遍的な状況を呈している。従って、これらの遺構群を、『府内古図』にみられる「桜町」の一面と解釈することが可能であると考える。また、本調査区周辺の第18次調査区や第22次調査区から埴場や取土の出土が一定量認められることや本来の包含層から遊離した状態での出土ではあるが、本調査区の包含層から、目録金具の鋳型(第301図1)などが出土していることなどは、町屋の遺構群の性格を想定する上で、示唆的な遺物と考えられる。

16世紀末葉～17世紀初頭

16世紀末葉
～17世紀
初頭

天正14年(1586)の島津侵攻以降に、復興した段階の遺構群である。

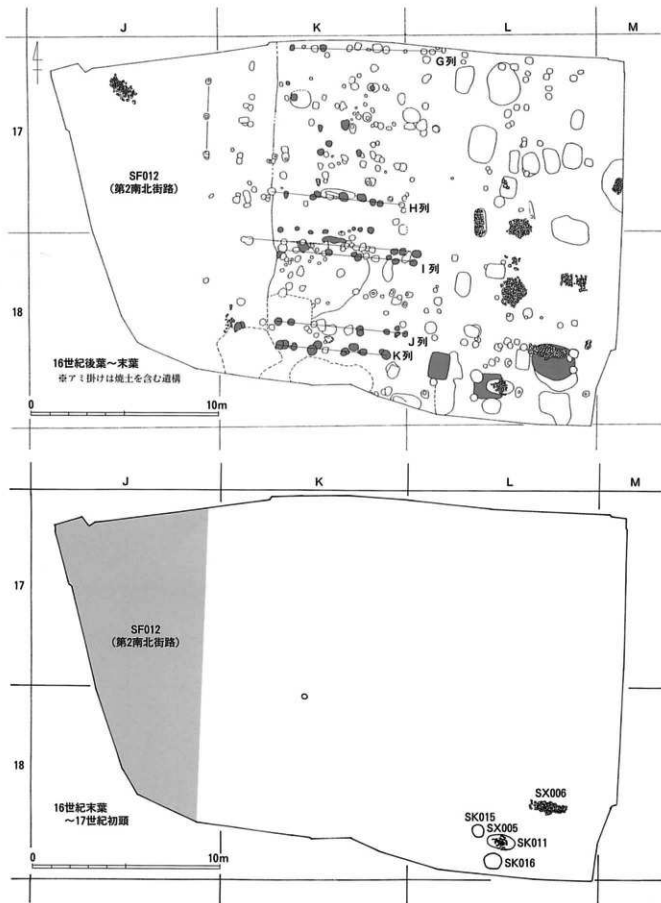
第2南北街路については、道路幅員が縮小した状況で存続したものと想定しているが、階位や遺物の上では明確に確認できていない。

土坑や集石遺構については、切り合い関係の上で、最も新しい段階に位置づけられるSK015・SK011・SK016・SX005・SX006が当該段階に位置づけられる。SX005からは、志野系陶器皿(第265図3)なども出土しているので、遺物的にも矛盾はない。

また、当該段階のビットについては、明瞭ではないものの、K18区において焼土層・焼土ブロックSX004を切って構築された柱穴が存在することが確認できている。従って、16世紀後葉～末葉の段階に比定したビット群の中に、16世紀末葉から17世紀初頭まで下るビットがかなりの数、混在していることが想定できる。



第305図 第28次調査区遺構変遷図① (1/200)



第306図 第28次調査区遺構変遷図② (1/200)

『天正十六年参宮帳』⁽¹⁾を参照すると、天正16年(1598)以降、桜町から伊勢参りに参加している武士・僧侶・町屋の住民などが確認できており、島津侵攻以降、桜町が一定程度復興していることが想定されている。16世紀末葉から17世紀初頭に比定できる遺構群は、まさにこの段階に相当するが、今回の調査では検出された遺構群の数が僅少であり、当該段階の町屋の構造などを明確にすることはできなかった。

本調査区においては、寛永通寶を含む遺構は検出されていない。さらに、慶長7年(1602)には近世城下町の整備によって、桜町の住人が町組単位で近世府内城下町に移住させられていること⁽²⁾などを参照すると、本調査区の遺構群は、17世紀初頭から前葉には遺跡としての終焉を迎えたことが推定される。

以上のように、本調査区の調査結果は、当該地点が『府内古図』にみられる「桜町」の一面に相当し、16世紀後葉から末葉段階の町屋構造を一定程度明らかにできたと考える。しかし、町屋関連遺構に先行する14・15世紀段階の遺構群の解釈や町屋が復興し、存続していると考えられる16世紀末葉から17世紀初頭の状況については、遺構群の内容を明らかにすることができなかった。残された課題については、周辺地域の発掘調査の進展により、将来的に解決されることを望みたい。

註 (1) 『天正十六年参宮帳』(『大分県史料』25所収)

(2) 木村幾多郎「豊後府内城下町移転と旧府内町」(『大分・大友土器研究会論集』2001年)

遺物觀察表

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類①)

採出No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図号No
			口径	底径	器高			
第1294	土師質土器	甕	在地	33.0	-	SD002		
第1303 1	土師質土器	坏	在地	-	9.0	-	SD003下層	
第1303 2	土師質土器	坏	在地	12.6	9.0	3.1	SD003下層	
第1303 3	土師質土器	坏	在地	12.6	8.0	3.5	SD003下層	
第1303 4	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD003下層	
第1303 5	土師質土器	坏	在地	12.2	8.5	3.6	SD003下層	
第1303 6	土師質土器	坏	在地	11.5	8.4	3.1	SD003下層	
第1303 7	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD003下層	
第1303 8	土師質土器	坏	在地	-	6.8	-	SD003下層	
第1303 9	土師質土器	坏	在地	-	6.0	-	SD003下層	
第13040	須恵器	坏	不明	-	9.4	-	SD003下層	
第130412	瓦質土器	甕	不明	24.0	-	-	SD003下層	
第1401 1	瓦質土器	皿	在地	8.8	7.2	1.5	SD003中層	
第1401 2	土師質土器	皿	在地	7.6	5.5	2.1	SD003中層	
第1401 3	土師質土器	坏	在地	12.6	9.0	2.7	SD003中層	
第1401 4	土師質土器	坏	在地	-	9.0	-	SD003中層	
第1401 5	土師質土器	坏	在地	13.5	9.4	2.9	SD003中層	
第1401 6	須恵器	こね鉢	東播系	28.5	-	-	SD003中層	
第1501 1	白磁	碗	中国	-	-	-	SD003上層	
第1501 2	土師質土器	小皿	在地	8.0	7.0	1.3	SD003上層	
第1501 3	土師質土器	小皿	在地	8.8	7.2	1.3	SD003上層	
第1501 4	土師質土器	小皿	在地	7.8	4.8	1.8	SD003上層	
第1501 5	土師質土器	小皿	在地	8.2	4.6	1.6	SD003上層	灯明皿
第1501 6	土師質土器	坏	在地	-	5.5	-	SD003上層	
第1501 7	土師質土器	皿	在地	11.6	6.7	2.6	SD003上層	
第1501 8	土師質土器	皿	在地	16.8	8.0	3.6	SD003上層	
第1501 9	土師質土器	坏	在地	13.0	8.0	3.8	SD003上層	
第150110	京都系土師器	皿	在地	11.3	-	2.2	SD003上層	
第150111	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD003上層	
第150112	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	2.1	SD003上層	
第150113	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.0	SD003上層	
第150114	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	2.4	SD003上層	
第150115	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	1.8	SD003上層	
第150116	京都系土師器	皿	在地	15.0	-	-	SD003上層	
第150117	京都系土師器	皿	在地	15.6	-	1.9	SD003上層	
第150118	瓦質土器	甕	不明	19.0	-	-	SD003上層	
第150119	須恵器	こね鉢	東播系	26.0	-	-	SD003上層	
第1601 1	土師質土器	碗	在地	16.0	-	-	SD004上層	古代
第1601 2	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004上層	
第1601 3	土師質土器	皿	在地	-	6.6	-	SD004上層	
第1601 4	土師質土器	坏	在地	12.0	8.2	3.3	SD004上層	
第1601 5	土師質土器	碗	在地	-	6.0	-	SD004上層	
第1601 6	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	1.9	SD004上層	
第1601 7	京都系土師器	皿	在地	10.5	-	2.0	SD004上層	
第1601 8	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.0	SD004上層	
第1601 9	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.9	SD004上層	
第160110	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SD004上層	
第160111	京都系土師器	皿	在地	13.3	-	-	SD004上層	
第160112	京都系土師器	皿	在地	15.8	-	1.8	SD004上層	
第160113	京都系土師器	皿	在地	16.6	-	2.1	SD004上層	
第160115	土師質土器	皿	在地	-	5.6	-	SD004中層	
第160116	土師質土器	皿	在地	-	5.8	-	SD004中層	
第160117	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004中層	
第160118	土師質土器	皿	在地	-	5.8	-	SD004中層	
第160119	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SD004中層	
第160120	土師質土器	皿	在地	12.4	-	-	SD004中層	
第160121	土師質土器	皿	在地	11.0	5.6	2.4	SD004中層	
第160122	土師質土器	坏	在地	-	7.0	-	SD004中層	
第160123	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	1.9	SD004中層	
第160124	京都系土師器	皿	在地	14.2	-	-	SD004中層	
第160125	京都系土師器	皿	在地	14.3	-	-	SD004中層	
第160126	京都系土師器	皿	在地	15.4	-	-	SD004中層	
第160127	土師質土器	碗	在地	-	8.4	-	SD004下層	
第160128	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD004下層	
第160129	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD004下層	
第160130	土師質土器	皿	在地	-	4.6	-	SD004下層	
第160131	土師質土器	皿	在地	-	-	-	SD004下層	
第160132	土師質土器	坏	在地	8.6	-	-	SD004下層	
第160133	土師質土器	坏	在地	-	5.0	-	SD004下層	
第160134	土師質土器	碗	在地	-	5.8	-	SD004下層	
第1801 1	青磁	碗	中国	11.6	-	-	SD005-2	
第1801 2	青磁	碗	中国(越州系)	-	7.0	-	SD005-2	

遺物観察表 2 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類②)

採出No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図説No
			口径	底径	器高			
第18回3	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.4	-	-	SD005-2	
第18回4	土師質土器	皿	在地	-	-	-	SD005-2	
第18回5	京都系土師器	皿	在地	14.2	-	2.6	SD005-2	
第18回6	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SD005-2	
第19回1	土師質土器	燗合	在地	-	6.9	-	SD006	
第21回1	陶器	碗	瀬戸美濃	11.6	-	-	SD007-1	筒形碗
第21回2	土師質土器	皿	在地	-	6.4	-	SD007-1	
第21回3	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	-	SD007-1	
第23回1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD007-2	
第23回2	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	SD007-2	
第23回3	陶器	碗	朝鮮王朝	-	4.8	-	SD007-2	
第23回4	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.0	SD007-2	
第23回5	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	2.0	SD007-2	
第23回6	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	2.2	SD007-2	
第23回7	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD007-2	
第23回8	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.1	SD007-2	
第23回9	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.4	SD007-2	
第23回10	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	3.0	SD007-2	
第23回11	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	-	SD007-2	
第23回12	土師質土器	皿	在地	-	6.0	-	SD007-2	
第23回13	陶器	搦鉢	備前	31.0	-	-	SD007-2	
第23回14	陶器	水屋裏	備前	18.0	-	-	SD007-2	
第23回15	陶器	水屋裏	備前	-	18.8	-	SD007-2	
第24回1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.0	-	SD007-3	
第24回2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	12.0	6.4	2.6	SD007-3	
第24回3	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SD007-3	
第24回4	白磁	碗	中国	-	3.2	-	SD007-3	
第24回5	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD007-3	
第24回6	土師質土器	坏	在地	12.8	10.0	3.2	SD007-3	
第24回7	土師質土器	皿	在地	-	7.5	-	SD007-3	
第24回8	京都系土師器	皿	在地	9.9	-	2.4	SD007-3	
第24回9	京都系土師器	坏	在地	11.6	-	3.1	SD007-3	
第24回10	京都系土師器	皿	在地	11.4	-	2.0	SD007-3	
第24回11	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.3	SD007-3	
第24回12	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD007-3	
第24回13	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.0	SD007-3	
第24回14	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD007-3	
第24回15	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.3	SD007-3	
第24回16	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD007-3	
第24回17	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.4	SD007-3	
第24回18	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD007-3	
第24回19	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	2.3	SD007-3	
第24回20	京都系土師器	皿	在地	16.5	-	-	SD007-3	
第24回21	陶器	壺	備前	11.8	-	-	SD007-3	
第24回22	陶器	壺	備前	14.0	-	-	SD007-3	
第24回23	陶器	壺	備前	-	20.0	-	SD007-3	
第24回24	陶器	罌	備前	26.0	-	-	SD007-3	
第24回25	瓦質土器	罌	在地	38.0	-	-	SD007-3	
第25回1	瓦質土器	鉢	在地	-	18.3	-	SD007-3	
第27回1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.4	-	-	SD007-4	
第27回2	陶器	天目	瀬戸美濃	-	-	-	SD007-4	
第27回3	陶器	壺	備前	-	-	-	SD007-4	
第27回4	京都系土師器	皿	在地	9.2	-	-	SD007-4	灯明皿
第27回5	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	1.9	SD007-4	
第27回6	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	-	SD007-4	
第27回7	京都系土師器	皿	在地	11.5	-	-	SD007-4	
第27回8	京都系土師器	皿	在地	11.2	-	-	SD007-4	
第27回9	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	-	SD007-4	
第27回10	京都系土師器	皿	在地	14.1	-	-	SD007-4	
第29回1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SD008-1	
第29回2	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SD008-1	
第29回3	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.9	SD008-1	
第29回4	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	3.0	SD008-1	
第29回5	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-1	
第29回6	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.1	SD008-1	
第29回7	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.1	SD008-1	
第29回8	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	-	SD008-1	
第29回9	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	2.1	SD008-1	
第31回1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.2	-	SD008-2	
第31回2	陶器	平鉢	備前	22.0	12.8	3.3	SD008-2	
第31回3	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	-	SD008-2	
第31回4	土師質土器	坏	在地	-	8.0	-	SD008-2	
第31回5	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-2	

第18次西調査区遺物観察表(土器・陶磁器類③)

採回No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No
			口径	底径	器高			
第33006	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SD008-2	
第33007	青花	碗	中(南京徳橋窯)	-	5.9	-	SD008-3	
第33008	青花	碗	中(麻州陶)	-	4.8	-	SD008-3	
第33009	青磁	碗	中(京(龍泉窯))	16.8	-	-	SD008-3	
第33010	青磁	香炉	中(京(龍泉窯))	-	5.5	-	SD008-3	
第33011	青磁	碗	中(京(龍泉窯))	11.0	-	-	SD008-3	
第33012	陶器	皿	瀬戸美濃	11.4	5.6	1.9	SD008-3	
第33013	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.8	-	SD008-3	
第33014	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.6	-	SD008-3	
第33015	陶器	鉢	備前	19.0	-	6.0	SD008-3	
第33016	陶器	壺	備前	-	18.0	-	SD008-3	
第33017	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.6	SD008-3	
第33018	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.0	SD008-3	
第33019	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	-	SD008-3	
第33020	土師質土器	-	在地	-	-	-	SD008-3	円盤状に再加工
第33021	土師質土器	-	在地	-	-	-	SD008-3	円盤状に再加工
第33022	陶器	楕鉢	備前	35.0	-	-	SD008-3	
第33023	瓦質土器	風炉	在地	32.6	-	-	SD008-3	
第33024	青花	碗	中(南京徳橋窯)	12.6	5.0	6.4	SD009	
第33025	青花	皿	中(南京徳橋窯)	-	7.8	-	SD009	
第33026	青花	碗	中(南京徳橋窯)	13.2	-	-	SD009	
第33027	青花	皿	中(南京徳橋窯)	-	-	-	SD009	
第33028	青花	皿	中(南京徳橋窯)	14.4	7.6	2.7	SD009	
第33029	陶器	壺	瀬戸	-	-	-	SD009	古瀬戸
第33030	陶器	碗	朝鮮王朝	13.5	5.0	6.5	SD009	
第33031	陶器	徳利	朝鮮王朝	-	-	-	SD009	
第33032	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD009	
第33033	京都系土師器	皿	在地	9.6	-	2.4	SD009	
第33034	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.9	SD009	
第33035	京都系土師器	皿	在地	5.0	-	-	SD009	
第33036	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	5.2	6.1	SD009	
第33037	青花	皿	中(南京徳橋窯)	-	6.8	-	SD010	
第33038	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SD010	
第33039	土師質土器	皿	在地	7.2	4.6	1.6	SD010	
第33040	土師質土器	皿	在地	11.6	6.4	2.6	SD010	
第33041	土師質土器	皿	在地	12.8	8.6	2.7	SD010	
第33042	土師質土器	皿	在地	13.0	8.4	2.5	SD010	
第33043	京都系土師器	小皿	在地	5.0	-	1.9	SD010	
第33044	京都系土師器	小皿	在地	5.4	-	1.9	SD010	
第33045	京都系土師器	小皿	在地	6.0	-	1.8	SD010	
第33046	京都系土師器	皿	在地	10.5	-	2.2	SD010	灯明皿
第33047	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.6	SD010	
第33048	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.3	SD010	灯明皿
第33049	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.3	SD010	灯明皿
第33050	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.0	SD010	
第33051	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.4	SD010	灯明皿
第33052	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.4	SD010	
第33053	京都系土師器	皿	在地	11.6	-	2.2	SD010	
第33054	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	SD010	
第33055	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SD010	
第33056	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.4	SD010	
第33057	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.2	SD010	
第33058	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010	灯明皿
第33059	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010	
第33060	京都系土師器	皿	在地	12.3	-	1.9	SD010	
第33061	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.4	SD010	
第33062	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.4	SD010	
第33063	京都系土師器	皿	在地	13.5	-	2.4	SD010	
第33064	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	2.5	SD010	灯明皿
第33065	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010	
第33066	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.5	SD010	
第33067	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.2	SD010	
第33068	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010	
第33069	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.1	SD010	
第33070	京都系土師器	皿	在地	13.4	-	2.3	SD010	
第33071	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	2.7	SD010	
第33072	京都系土師器	皿	在地	13.8	-	2.2	SD010	
第33073	京都系土師器	皿	在地	14.6	-	2.8	SD010	
第33074	陶器	楕鉢	備前	-	-	-	SD010	
第33075	陶器	楕鉢	備前	29.0	-	-	SD010	
第33076	瓦質土器	不明	不明	9.8	-	-	SD011	
第33077	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	SD011	

遺物観察表4 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④)

採因No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺物名	備考	図説No
			口径	底径	器高			
第39803	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	-	SB011	
第39804	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	-	SB011	
第40804	陶器	壺	瀬戸美濃	-	10.6	-	SB043	
第43801	青花	碗	中京景徳鎮窯	-	6.0	-	SK015	
第43802	青花	碗	中京景徳鎮窯	13.4	-	-	SK015	
第43803	青花	皿	中京景徳鎮窯	-	8.1	-	SK015	
第43804	青花	皿	中京景徳鎮窯	13.6	8.4	2.8	SK015	
第43805	陶器	碗	-	-	5.4	-	SK015	
第43806	陶器	碗	朝鮮王朝	14.0	-	-	SK015	
第43807	陶器	碗	朝鮮王朝	15.0	-	-	SK015	
第43808	陶器	徳利	朝鮮王朝	-	10.6	-	SK015	
第43809	陶器	碗	朝鮮王朝	16.0	-	-	SK015	
第43810	陶器	碗	朝鮮王朝	12.6	5.0	6.5	SK015	
第43811	陶器	甕	備前	-	-	-	SK015	
第43812	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.0	SK015	
第43813	京都系土師器	环	在地	11.6	-	3.7	SK015	
第43814	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.5	SK015	
第43815	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.0	SK015	
第43816	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	2.0	SK015	
第43817	陶器	鉢鉢	備前	24.6	14.0	5.6	SK015	
第43818	陶器	鉢	朝鮮王朝	21.6	-	-	SK015	
第43819	瓦質土器	火鉢	在地	29.0	-	-	SK015	
第47801	白磁	碗	中国	12.8	7.5	5.4	SB017	下層
第47802	青花	碗	中京景徳鎮窯	-	-	-	SB017	下層
第47803	土師質土器	皿	在地	-	6.8	-	SB017	下層
第47804	土師質土器	皿	在地	-	8.8	-	SB017	下層
第47805	京都系土師器	皿	在地	8.6	-	1.7	SB017	下層
第47806	京都系土師器	皿	在地	12.6	-	-	SB017	下層
第47807	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB017	下層
第47808	京都系土師器	皿	在地	14.0	-	-	SB017	下層
第47809	土師質土器	皿	在地	-	6.5	-	SB017-P1	
第47810	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	1.7	SB017-P5	
第47811	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.2	SB017-P15	
第47812	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB017-P14	
第47813	京都系土師器	皿	在地	14.6	-	-	SB017-P13	
第48801	青花	碗	中京景徳鎮窯	13.0	-	-	SB017	
第48802	青花	碗	中京景徳鎮窯	12.8	-	-	SB017	
第48803	青花	碗	中京景徳鎮窯	15.6	-	-	SB017	
第48804	青花	碗	中京景徳鎮窯	12.6	-	-	SB017	
第48805	青花	碗	中京景徳鎮窯	-	4.8	-	SB017	
第48806	白磁	碗	中国	-	5.2	-	SB017	
第48807	青花	碗	中京景徳鎮窯	-	-	-	SB017	
第48808	青花	皿	中京景徳鎮窯	-	5.8	-	SB017	
第48809	青磁	壺	中国(龍泉窯)	-	6.2	-	SB017	
第48810	磁器	瓶	中国	-	-	-	SB017	黒釉
第48811	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	5.0	6.2	SB017	
第48812	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	5.0	6.2	SB017	
第48813	土師質土器	皿	在地	-	5.6	-	SB017	
第48814	土師質土器	皿	在地	-	6.2	-	SB017	
第48815	土師質土器	皿	在地	-	7.8	-	SB017	
第48816	京都系土師器	皿	在地	8.0	-	-	SB017	
第48817	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	-	SB017	
第48818	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	2.4	SB017	
第48819	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.2	SB017	
第48820	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SB017	
第48821	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	-	SB017	
第48822	京都系土師器	皿	在地	13.2	-	-	SB017	
第48823	京都系土師器	皿	在地	16.0	-	2.5	SB017	
第49801	陶器	鉢鉢	備前	-	-	-	SB017	
第49802	陶器	鉢鉢	備前	28.0	-	-	SB017	
第49803	陶器	鉢鉢	備前	27.0	13.4	8.5	SB017	
第49804	瓦質土器	鉢	在地	25.0	16.0	10.7	SB017	
第51801	白磁	壺	中国	8.9	-	-	SB018-P1	
第51802	陶器	碗	朝鮮王朝	13.0	-	-	SB018-P1	
第51803	土師質土器	皿	在地	-	5.0	-	SB018-P2	
第51804	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	-	SB018-P1	
第51805	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	-	SB018-P1	
第51806	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	-	SB018-P2	
第51807	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	-	SB018-P2	
第51808	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	-	SB018-P1	
第51809	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	1.8	SB018-P2	
第51810	京都系土師器	皿	在地	13.0	-	-	SB018-P2	
第51811	京都系土師器	皿	在地	13.5	-	1.9	SB018-P4	

第18次西調査区遺物観察表(土器・陶磁器類5)

採回No	器種	生産地	法眼(単位cm)			遺構名	備考	図記No
			口径	底径	器高			
第51012	土師質土器	眼	在地	18.0	14.0	2.4	SB018-P5	
第51013	陶器	甕	甕前	-	23.0	-	SB018-P2	
第52011	青花	瓶	中麻呂徳積室	6.6	-	-	SP019	44柄
第52012	青花	瓶	中麻呂徳積室	9.2	4.0	2.2	SP019	44柄
第52013	青花	碗	中麻呂徳積室	-	4.4	-	SP019	44柄
第52014	青磁	碗	中国(龍泉窯)	12.4	5.4	2.6	SP019	44柄
第52015	青磁	碗	中国(阿文窯)	-	-	4.6	SP019	44柄
第52016	土師質土器	眼	在地	-	6.4	-	SP019	44柄
第52017	土師質土器	眼	在地	-	6.0	-	SP019	44柄
第52018	土師質土器	眼	在地	-	6.4	-	SP019	44柄
第52019	土師質土器	眼	在地	-	7.0	-	SP019	44柄
第52010	土師質土器	眼	在地	-	7.2	-	SP019	44柄
第52011	土師質土器	眼	在地	-	6.9	-	SP019	44柄
第52012	土師質土器	眼	在地	-	8.2	-	SP019	44柄
第52013	土師質土器	眼	在地	-	4.6	-	SP019	44柄
第52014	土師質土器	眼	在地	-	6.3	-	SP019	44柄
第52015	土師質土器	香炉	在地	-	6.7	-	SP019	44柄
第52016	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	44柄
第52017	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	44柄
第52018	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	44柄
第52019	京都系土師器	眼	在地	12.5	-	2.1	SP019	44柄
第52020	京都系土師器	眼	在地	11.9	-	2.1	SP019	44柄
第52021	京都系土師器	眼	在地	12.4	-	2.2	SP019	44柄
第52022	京都系土師器	眼	在地	12.7	-	2.1	SP019	44柄
第52023	京都系土師器	眼	在地	13.1	-	2.1	SP019	44柄
第52024	京都系土師器	眼	在地	13.9	-	3.0	SP019	44柄
第52025	京都系土師器	眼	在地	13.6	-	2.0	SP019	44柄
第52026	京都系土師器	眼	在地	14.2	-	2.1	SP019	44柄
第52027	京都系土師器	眼	在地	13.9	-	2.8	SP019	44柄
第52028	京都系土師器	眼	在地	16.4	-	2.2	SP019	44柄
第52029	京都系土師器	眼	在地	16.4	-	1.6	SP019	44柄
第52030	京都系土師器	眼	在地	10.4	-	2.5	SP019	44柄
第52031	京都系土師器	眼	在地	11.6	-	2.2	SP019	44柄
第52032	京都系土師器	眼	在地	11.7	-	2.0	SP019	44柄
第52033	京都系土師器	眼	在地	11.9	-	2.2	SP019	44柄
第52034	京都系土師器	眼	在地	11.9	-	-	SP019	44柄
第52035	青磁	盤	中国(龍泉窯)	-	-	-	SP019	44柄
第52036	青花	碗	中麻呂徳積室	13.8	5.8	2.5	SP019	44柄
第53011	白磁	盤	中国	-	8.4	-	SP019	33柄
第53012	青花	碗	中麻呂徳積室	-	4.8	-	SP019	33柄
第53013	白磁	碗	中国	15.8	-	-	SP019	33柄
第53014	青白磁	香炉	中国	11.0	-	-	SP019	33柄
第53015	陶器	甕	甕前	10.0	-	-	SP019	33柄
第53016	陶器	鉢鉢	甕前	12.5	-	-	SP019	33柄
第53017	土師質土器	鉢	在地	-	8.0	-	SP019	33柄
第53018	土師質土器	眼	在地	12.0	6.0	2.3	SP019	33柄
第53019	京都系土師器	眼	在地	11.0	-	2.2	SP019	33柄
第53010	京都系土師器	眼	在地	11.6	-	-	SP019	33柄
第53011	京都系土師器	眼	在地	11.6	-	1.9	SP019	33柄
第53013	白磁	碗	中国	10.0	5.5	2.3	SP019	33柄
第53014	青花	碗	中麻呂徳積室	15.0	-	-	SP019	33柄
第53015	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	33柄
第53016	京都系土師器	眼	在地	9.6	-	-	SP019	33柄
第53017	京都系土師器	眼	在地	12.4	-	-	SP019	33柄
第53018	京都系土師器	眼	在地	13.6	-	1.9	SP019	33柄
第53019	京都系土師器	眼	在地	13.4	-	-	SP019	33柄
第53020	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	33柄
第53021	土師質土器	鉢	在地	-	7.9	-	SP019	33柄
第53022	瓦質土器	鉢	在地	29.0	20.0	10.9	SP019	33柄
第53024	陶器	鉢鉢	甕前	35.0	-	-	SP019	33柄
第53025	青花	碗	中麻呂徳積室	-	5.0	-	SP019	37-09柄
第53026	青磁	碗	中国(龍泉窯)	14.4	-	-	SP019	37-09柄
第53027	京都系土師器	眼	在地	10.2	-	2.2	SP019	37-09柄
第53028	京都系土師器	眼	在地	-	-	-	SP019	37-09柄
第53029	京都系土師器	眼	在地	11.6	-	-	SP019	37-09柄
第53030	京都系土師器	眼	在地	12.4	-	2.1	SP019	37-09柄
第53031	京都系土師器	眼	在地	12.4	-	-	SP019	37-09柄
第54011	青花	碗	中麻呂徳積室	10.8	4.6	6.2	SP019	
第54012	青花	碗	中麻呂徳積室	-	3.7	-	SP019	
第54013	青花	碗	中麻呂徳積室	19.1	-	-	SP019	
第54016	青花	碗	中麻呂徳積室	-	4.8	-	SP019	
第54017	青花	碗	中麻呂徳積室	-	4.8	-	SP019	
第54018	青花	碗	中麻呂徳積室	-	12.7	-	SP019	

遺物観察表 6 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑥)

採出No	器種		生産地	注量(単位cm)			遺物名	備考	図取No
				口径	底径	器高			
第54809	白磁	小杯	中国龍泉窯	5.8	-	-	SP019		
第54810	青花	皿	中国	19.0	-	-	SP019		
第54811	青花	碗	中国(漳州窯)	-	10.1	-	SP019		
第54812	磁器	火入	不明	15.8	-	-	SP019		陶軸
第54813	陶器	小皿	備前	-	-	-	SP019		
第54814	陶器	半鉢	備前	23.0	13.5	3.3	SP019		
第5901	青花	碗	中国(景德鎮窯)	13.0	-	-	SP024		
第5902	青花	碗	中国(漳州窯)	-	4.6	-	SP022		
第5903	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	SP023		
第5904	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	-	3.2	-	SP031		
第5905	白磁	碗	中国	-	-	-	SP022		
第5906	白磁	碗	中国	13.0	-	-	SP021		
第5907	白磁	皿	中国	16.4	-	-	SP029		
第5908	陶器	碗	朝鮮王朝	13.8	-	-	SP028		
第5909	土師貫土器	坏	在地	13.0	8.6	3.0	SP030		
第59010	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP032		
第59011	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP026		
第59012	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.9	SP023		
第59013	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	1.8	SP024		
第59014	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	-	SP027		
第59015	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	-	SP023		
第59016	陶器	漆鉢	備前	31.0	-	-	SP025		
第6001	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	1500		
第6002	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	1500		
第6003	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.4	-	1500		
第6004	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	1500		
第6005	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	1500		
第6006	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.6	-	1500		
第6007	青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.4	-	-	1500		
第6008	青花	碗	中国(景德鎮窯)	14.6	-	-	1500		
第6009	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.7	-	1500		
第60010	青花	碗	中国(景德鎮窯)	11.8	-	-	1500		
第60011	青花	碗	中国(景德鎮窯)	15.0	-	-	1500		
第60012	青花	碗	中国(景德鎮窯)	14.6	-	-	1500		
第60013	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	1500		
第6101	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.9	-	1500		
第6102	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.0	-	1500		
第6103	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	1500		
第6104	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	6.0	-	1500		
第6105	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	1500		
第6106	青花	碗	中国(景德鎮窯)	12.0	-	-	1500		
第6107	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.2	-	1500		
第6108	青花	皿	中国(景德鎮窯)	9.6	5.4	2.2	1500		
第6109	青花	皿	中国(景德鎮窯)	11.0	6.6	2.3	1500		
第61010	青花	皿	中国(景德鎮窯)	14.8	9.4	2.8	1500		
第61011	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.2	-	1500		
第61012	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	8.2	-	1500		
第61013	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	9.5	-	1500		
第61014	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.8	-	1500		
第61015	磁器	皿	中国	-	-	-	1500		五彩
第61016	青花	皿	中国(漳州窯)	-	4.6	-	1500		
第6201	白磁	碗	中国	13.2	-	-	1500		
第6202	青磁	碗	中国(龍泉窯)	12.4	-	-	1500		
第6203	青磁	香炉	中国(龍泉窯)	8.0	-	-	1500		
第6204	青磁	盤	中国(龍泉窯)	-	-	-	1500		
第6205	青磁	注口部	中国(龍泉窯)	-	-	-	1500		
第6206	白磁	盃	中国	-	-	-	1500		
第6207	白磁	盃	中国	9.6	-	-	1500		
第6208	陶器	鉢	朝鮮王朝	-	-	-	1500		
第6209	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.8	-	1500		
第62010	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.7	-	1500		
第62011	陶器	碗	朝鮮王朝	-	6.0	-	1500		
第62012	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.1	-	1500		
第62013	陶器	皿	唐津	-	5.2	-	1500		
第62014	陶器	碗	唐津	-	3.7	-	1500		
第62015	陶器	皿	唐津	-	4.0	-	1500		
第62016	陶器	碗	唐津	11.2	-	-	1500		
第62017	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.4	-	1500		
第62018	陶器	德利	朝鮮王朝	7.8	-	-	1500		
第62019	陶器	德利	朝鮮王朝	6.0	-	-	1500		
第6301	陶器	皿	瀬戸美濃	11.0	5.7	2.0	1500		
第6302	土師貫土器	皿	在地	-	6.3	-	1500		
第6303	陶器	茶入	備前	-	3.7	-	1500		

第18次西調査区遺物観察表(土器・陶磁器類⑦)

採出No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図説No
				口径	底径	器高			
366384	陶器	皿	唐津	10.4	-	-	15層		
366384 5	京都系土師器	皿	在地	10.9	-	1.9	15層		
366384 6	京都系土師器	皿	在地	11.5	-	-	15層		
366384 7	京都系土師器	皿	在地	13.1	-	-	15層		
366384 8	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.4	15層		
366384 9	京都系土師器	皿	在地	12.7	-	2.2	15層		
36638410	京都系土師器	皿	在地	13.6	-	2.2	15層		
36638411	京都系土師器	小皿	在地	5.2	-	1.7	15層		
36638412	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	1.5	15層		
36638413	土師質土器	皿	在地	8.4	-	2.2	15層		
36638414	陶器	不明	備前	-	9.0	-	15層	建水あるいは水差か	
36638415	京都系土師器	耳皿	在地	-	-	-	15層		
36638416	土師質土器	耳皿	在地	-	2.8	-	15層		
36638417	瓦質土器	風炉	在地	21.6	-	-	15層		
36638418	須恵器	壺	不明	32.1	-	-	15層		
36638422	土師質土器	不明	在地	-	-	-	15層	円盤状に再加工	
366681	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	西調査区		
366682	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	5.8	-	西調査区		
366683	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.4	-	西調査区		
366684	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	4.9	-	西調査区		
366684 5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	10.2	-	西調査区		
366684 6	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.6	-	西調査区		
366684 7	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.3	-	西調査区		
366684 8	青花	皿	中国(漳州窯)	12.6	-	-	西調査区		
366684 9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	6.3	-	西調査区		
36668410	青磁	皿	中国	-	5.2	-	西調査区		
36668411	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	-	2.6	-	西調査区		
36668412	白磁	紅皿	中国	4.6	1.4	1.4	西調査区		
36668413	青花	皿	中国(漳州窯)	-	4.6	-	西調査区		
36668414	白磁	皿	中国	7.2	-	-	西調査区		
36668415	青磁	碗	中国(龍泉窯)	13.4	-	-	西調査区		
36668416	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	西調査区		
36668417	白磁	皿	中国	11.8	3.1	6.4	西調査区		
36668418	青花	皿	中国	9.6	-	-	西調査区		
36668419	青花	皿	中国(漳州窯)	13.6	-	-	西調査区		
36668420	磁器	瓶	中国	-	-	-	西調査区	褐輪	
36668421	磁器	瓶	中国	-	8.6	-	西調査区	黒輪	
366781	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.5	-	西調査区		
366782	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.0	-	西調査区		
366783	陶器	天目	瀬戸美濃	-	4.2	-	西調査区		
366784	陶器	碗	肥前(唐津)	-	4.1	-	西調査区		
366784 5	陶器	皿	瀬戸美濃	11.0	-	-	西調査区		
366784 6	陶器	碗	肥前(唐津)	-	4.0	-	西調査区		
366784 7	陶器	碗	朝鮮王朝	13.8	-	-	西調査区		
366784 8	陶器	碗	朝鮮王朝	-	5.2	-	西調査区		
366784 9	陶器	小志	備前	-	5.4	-	西調査区		
36678410	土師質土器	皿	在地	-	-	3.6	西調査区		
36678411	陶器	漆鉢	備前	-	-	-	西調査区		
36678412	土師質土器	不明	在地	-	-	-	西調査区	円盤状に再加工	
36678417	陶器	壺	中国南部	-	16.0	-	西調査区	黄輪	
36678418	陶器	平鉢	備前	24.7	16.0	3.9	西調査区		
36678419	陶器	平鉢	備前	25.0	-	-	西調査区		
36678420	陶器	漆鉢	備前	28.0	-	-	西調査区		
36678421	瓦質土器	鍋	在地	33.0	-	-	西調査区		

遺物観察表 8 (第18次西調査区)

第18次西調査区遺物観察表 (金属製品・土製品・石製品・骨製品)

探図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)			重量 (g)	遺物名	備 考	図説No.
				幅	長さ	高さ				
第13図11	土鐘	土製品	全体	幅	1.3	長さ	4.4		SD003上層	
第15図21	土鐘	土製品	全体	幅	1.1	長さ	3.6		SD003上層	
第15図22	土鐘	土製品	全体	幅	1.4	長さ	4.7		SD003上層	
第16図14	土鐘	土製品	破片	幅	2.9	長さ	4.2		SD004	
第25図4	磁石	石製品	破片	幅	5.2	厚さ	1.0		SD007-3	
第25図5	斧	銅	全体	長さ	16.8	幅	1.5	厚さ 0.8	SD007-3	4
第26図	茶臼	石製品	破片	径	19.6				SD007-3	4
第32図1	分銅	銅	全体	径	1.2	厚さ	0.3	1.99	SD008-3	ボタン形
第32図2	分銅	銅	全体	全長	1.1	幅	0.8	1.4	SD008-3	扁形
第51図14	土鐘	土製品	全体	幅	1.0	長さ	4.0		SB018-P4	
第53図12	不明	銅	全体	長径	4.6	短径	3.4	高さ 1.0	SP019	33層
第53図22	不明	銅	全体	径	0.5	長さ	12.2		SP019	33層
第54図4	不明	石製	破片	長さ	5.2	幅	4.0	厚さ 1.8	SP019	5
第55図	不明	ガラス	全体	径	2.2	高さ	0.7	4.8	SP019	巻頭カラー
第57図	椎	銅	全体	高さ	2.6	径	2.7	50.9	SP020	巻頭カラー
第63図20	硯	石製品	破片	幅	6.3	厚さ	1.2		15層	
第63図21	硯	石製品	破片	厚さ	1.2				15層	
第63図23	土鐘	土製品	破片	径	1.0				15層	
第63図24	キセル	銅製	破片						15層	
第63図25	不明	ガラス	破片	厚さ	0.4				15層	
第64図1	分銅	銅	全体	径	0.8	厚さ	0.3	0.97	15層	ボタン形 巻頭カラー
第64図2	分銅	銅	全体	径	1.0	厚さ	0.3	1.2	15層	ボタン形 巻頭カラー
第66図22	人形?	磁器?	破片						西調査区	掲輪
第67図13	土鐘	土製品	全体	幅	1.8	長さ	3.8		西調査区	
第67図14	土鐘	土製品	全体	幅	1.5	長さ	5.3		西調査区	
第67図15	土鐘	土製品	全体	幅	1.2	長さ	5.0		西調査区	
第67図16	土鐘	土製品	全体	幅	1.3	長さ	4.5		西調査区	
第68図1	鈔	銅製	全体	縦	3.4	横	1.0	厚さ 0.4	西調査区	5
第68図2	キセル	銅製	破片						西調査区	敬口
第68図3	骨牌	骨製	破片	厚さ	0.2	幅	1.9		西調査区	巻頭カラー

第18次西調査区遺物観察表 (瓦)

探図No.	品 種	部 位	寸法 (単位cm)			遺物名	備 考	図説No.
			厚さ					
第7図1	軒平瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第7図2	軒丸瓦	破片	厚さ	1.9			SD001	
第7図3	軒平瓦	破片	厚さ	1.8			SD001	
第8図1	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第8図2	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第8図3	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第9図1	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第9図2	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD001	
第9図3	丸瓦	破片	厚さ	2.2			SD001	
第9図4	丸瓦	破片	厚さ	1.8			SD001	
第9図5	丸瓦	破片	厚さ	1.5			SD001	
第9図6	丸瓦	破片	厚さ	1.7			SD001	
第15図20	丸瓦	破片	厚さ	2.1			SD003上層	
第25図2	軒平瓦	破片	厚さ	2.0			SD007-3	
第25図3	丸瓦	破片	厚さ	2.0			SD007-3	
第44図1	平瓦	破片	厚さ	1.8			SK015	
第44図2	平瓦	破片	厚さ	2.0			SK015	
第44図3	軒丸瓦	破片					SK015	
第44図4	丸瓦	破片	厚さ	1.8			SK015	
第45図1	丸瓦	破片	厚さ	1.8			SK015	
第45図2	丸瓦	破片	厚さ	2.4			SK015	
第45図3	丸瓦	破片	厚さ	2.3			SK015	
第49図5	軒平瓦	破片					SP017	
第49図6	軒平瓦	破片					SP017	
第49図7	軒平瓦	破片					SP017	
第49図8	丸瓦	破片	厚さ	1.9			SP017	
第49図9	平瓦	破片	厚さ	2.1			SP017	
第54図5	軒平瓦	破片	厚さ	2.0			SP019	
第63図19	丸瓦	破片	厚さ	1.9			15層	

第18次西調査区遺物観察表 (銭貨)

種別No.	銭貨名	初鋳造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版No.
第10図	不明	不明	不明	2.3	2.5	不明	SD001		
第22図	不明	不明	不明	1.8	2.4	不明	SD007-2		
第30図	宣和通寶	1038	北宋	1.8	2.4	真書	SD008-1		
第34図 1	洪武通寶	1368	明	2.2	2.2	真書	SD008-3		
第34図 2	崇寧通寶	1102	北宋	2.3	3.0	真書	SD008-3	当十銭	
第34図 3	寛永通寶	1636	日本	2.4	2.3	真書	SD008-3	古寛永	
第34図 4	不明	不明	不明	2.3	2.4	不明	SD008-3		
第34図 5	不明	不明	不明	2.1	2.3	不明	SD008-3		
第36図	景徳元寶	1004	北宋	1.9	2.4	真書	SD009		
第56図1	不明	不明	不明	2.4	2.4	不明	SP019	44層	
第56図2	不明	不明	不明	1.1		不明	SP019	33層	
第58図	寛永通寶	1636	北宋	1.9	2.5	真書	SP020	古寛永	
第65図 1	天祐通寶	1017	北宋	2.7	2.4	真書	15層		
第65図 2	祐平元寶	1064	北宋	2.4	2.4	真書	15層		
第65図 3	不明	不明	不明	1.1	2.0	不明	15層		
第65図 4	不明	不明	不明	1.6	2.4	不明	15層		
第69図 1	元豊通寶	1078	北宋	2.3	2.4	篆書	J-14		
第69図 2	元豊通寶	1078	北宋	2.1	2.3	篆書	K-14・15	1~4層	
第69図 3	寛永通寶	1636	日本	1.9	2.4	真書	J・K-14・15	1~4層	古寛永
第69図 4	寛永通寶	1636	日本	2.2	2.4	真書	I・J-15・16	2~4層	古寛永
第69図 5	元豊通寶	1078	北宋	1.7	2.4	篆書	西調査区		
第69図 6	崇寧通寶	1102	北宋	9.2	3.3	行書	J・K-15	当十銭	
第69図 7	不明	不明	不明			不明	I・J-15・16	2~4層	
第69図 8	不明	不明	不明	1.7	2.5	不明	J-14	1~4層	

遺物観察表10 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器①)

採目No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺物名	備考	図説No
			口径	底径	器高			
第79821	京都系土師器	皿	在地	(12.1)	-	2.2	SK066	
第82821	白磁	皿	中国	-	-	2.6	SK065	
第82822	青花	碗	中国(漳州窯)	(14.1)	-	-	SK065	
第82823	陶器	碗	瀬戸美濃	(9.8)	(5.0)	7.8	SK065	
第83824	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.5	SK065	
第83825	京都系土師器	皿	在地	10.4	-	2.4	SK065	
第83826	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	-	2.7	SK065	
第83827	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.5	SK065	
第83828	京都系土師器	皿	在地	(13.6)	-	2.1	SK065	
第83829	京都系土師器	皿	在地	(15.4)	(8.2)	2.4	SK065	
第83830	土師質土器	燗台	在地	-	(7.0)	-	SK065	
第83831	須恵質土器	搦鉢	在地	(25.6)	-	-	SK065	
第83832	須恵質土器	瓶	在地	-	(11.4)	-	SK065	
第83833	瓦質土器	甕or鉢	在地	(26.6)	-	-	SK065	
第83834	瓦質土器	甕	在地	(34.0)	-	-	SK065	
第83835	瓦質土器	甕	在地	(36.0)	-	-	SK065	
第84836	陶器	搦鉢	備前	(25.4)	-	-	SK065	
第84837	陶器	搦鉢	備前	(30.0)	-	-	SK065	
第84838	陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK065	
第84839	陶器	大甕	備前	(25.6)	-	-	SK065	
第84840	陶器	大甕	備前	(53.6)	-	-	SK065	
第85841	陶器	甕	備前	-	(12.8)	-	SK074	
第85842	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.7)	(4.3)	6.4	SK068	
第86843	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	-	3.5	SK071	
第86844	京都系土師器	皿	在地	(12.7)	-	2.9	SK071	
第86845	土師質土器	皿	在地	-	(5.2)	-	SK071	底部糸切り
第86846	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK071	
第86847	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.8)	-	SK077	E群・五彩
第86848	白磁	皿	中国	-	-	-	SK077	
第86849	京都系土師器	皿	在地	(9.8)	-	2.3	SK077	
第86850	京都系土師器	皿	在地	(11.1)	-	3.0	SK077	
第86851	土師質土器	搦鉢	在地	(34.0)	-	-	SK077	
第86852	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	2.3	SK078	
第86853	五彩	皿	中国(景德鎮窯)	19.1	11.4	4.0	SK085	E群
第86854	白磁	皿	中国	11.9	6.0	3.0	SK085	青花皿・D群
第86855	白磁	皿	中国	(11.4)	(6.1)	2.4	SK085	C群
第86856	白磁	瓶	朝鮮	-	-	-	SK085	
第86857	白磁	皿	中国	-	-	-	SK085	C群
第86858	青磁	皿	中国	-	-	-	SK085	
第86859	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.1)	4.8	5.9	SK085	E群 高台内[口]伴器]
第86860	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(4.7)	-	SK085	E群 高台内[長存伴器]
第86861	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.6)	-	-	SK085	E群
第86862	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	E群
第86863	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.2)	-	2.7	SK085	E群
第86864	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	(6.4)	2.4	SK085	B1群
第86865	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	B群
第86866	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK085	B1群
第86867	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	2.5	-	SK085	B1群
第86868	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085	
第86869	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085	
第86870	青花	皿	中国(漳州窯)	-	5.2	-	SK085	
第86871	青花	皿	中国(漳州窯)	-	-	-	SK085	
第86872	青花	碗	中国(漳州窯)	(12.5)	-	-	SK085	
第95821	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.2	SK085	被熱?
第95822	陶器	壺	備前	-	-	-	SK085	櫛描文
第95823	陶器	壺	備前	13.0	(15.0)	25.0	SK085	櫛描文
第96824	土師質土器	鉢	在地	30.5	(21.6)	10.5	SK085	
第99821	陶器	天目碗	中国	-	-	-	SK203	
第100821	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.6	SK210	
第101821	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK252	
第102821	陶器	搦鉢	備前	(31.0)	-	-	SK253A	
第102822	瓦質土器	火鉢	在地	(45.4)	-	-	SK253A	
第103821	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	-	-	SK253B	
第106821	京都系土師器	皿	在地	(9.7)	-	2.5	SK262	
第106822	京都系土師器	皿	在地	(12.8)	-	2.4	SK262	
第106823	土師質土器	皿	在地	-	(4.4)	-	SK262	底部糸切り
第106824	陶器	搦鉢	備前	(22.4)	-	-	SK262	
第106825	陶器	搦鉢	備前	(29.0)	(13.0)	13.5	SK262	
第107826	青花	小埴	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK262	E群
第107827	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK262	E群
第107828	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(7.4)	-	SK262	
第107829	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.0)	-	-	SK262	
第107830	白磁	皿	中国	(13.3)	(5.7)	2.9	SK262	
第108821	土師質土器	壺	在地	(14.0)	-	-	SK300	
第110821	緑釉	皿	搦投	-	(6.4)	(1.8)	SK311	古代

第18次東調査区遺物観察表(土器・陶磁器②)

押印No.	器種	生産地	法量(単位cm)		遺構名	備考	図取No.	
			口径	底径				器高
第110802	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	5.6	-	SK311	E群
第11083	青花	碗	中国(漳州窯)	-	-	-	SK311	
第11281	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(4.8)	-	SX244	
第11282	青花	盤	中国(漳州窯)	-	-	-	SX244	砂多量に付着
第11283	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX244	E群
第11284	京都系土師器	皿	在地	(13.5)	-	2.1	SX244	
第11481	瓦質土器	火鉢	在地	(31.0)	-	-	SX245A	
第11482	京都系土師器	皿	在地	-	-	2.0	SX245A	スス付着
第11581	陶器	甕	備前	-	(35.0)	-	SX302	
第11681	陶器	掃箒	備前	(30.0)	12.1	13.1	SX303	
第11981	土師器	皿	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第11982	土師器	皿	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第11983	土師器	皿	在地	(16.0)	(13.2)	1.6	SE176	8世紀前半
第11984	土師器	皿	在地	(15.6)	(12.8)	2.0	SE176	8世紀前半
第11985	土師器	皿	在地	(14.8)	11.6	1.8	SE176	8世紀前半
第11986	土師器	坏	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第11987	土師器	坏	在地	-	-	3.2	SE176	8世紀前半
第11988	土師器	塊	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第11989	土師器	塊	在地	(13.6)	-	-	SE176	8世紀前半
第119810	土師器	坏	在地	(13.6)	(8.7)	3.7	SE176	8世紀前半
第119811	土師器	坏身	在地	(12.2)	(6.0)	3.7	SE176	8世紀前半
第119812	土師器	壺	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第119813	土師器	盤	在地	(17.6)	(14.5)	2.0	SE176	8世紀前半
第119814	土師器	盤	在地	(18.2)	(16.0)	1.8	SE176	8世紀前半
第119815	土師器	盤	在地	-	-	2.2	SE176	8世紀前半
第119816	土師器	坏	在地	-	-	2.1	SE176	8世紀前半
第119817	土師器	坏蓋	在地	(15.4)	-	-	SE176	8世紀前半
第119818	土師器	坏蓋	在地	(13.8)	-	3.2	SE176	8世紀前半 擬宝珠
第119819	土師器	坏身	在地	-	7.3	-	SE176	8世紀前半 高台付
第119820	土師器	坏身	在地	-	(7.8)	-	SE176	8世紀前半 高台付
第119821	土師器	坏身	在地	-	(11.0)	-	SE176	8世紀前半 高台付
第119822	土師器	坏身	在地	13.7	8.5	4.3	SE176	8世紀前半
第119823	土師器	坏身	在地	-	(8.8)	-	SE176	8世紀前半
第119824	土師器	坏身	在地	13.4	9.0	3.2	SE176	8世紀前半
第119825	土師器	坏身	在地	(14.2)	(7.2)	4.1	SE176	8世紀前半
第119826	土師器	坏身	在地	(13.2)	(6.8)	3.3	SE176	8世紀前半
第119827	土師器	坏身	在地	13.4	9.2	3.6	SE176	8世紀前半 黒斑
第119828	土師器	坏身	在地	(13.6)	8.4	3.3	SE176	8世紀前半
第119829	土師器	坏身	在地	(12.8)	(8.0)	3.8	SE176	8世紀前半
第119830	土師器	坏身	在地	(12.8)	(8.2)	3.9	SE176	8世紀前半
第119831	土師器	坏身	在地	(13.2)	(7.2)	3.9	SE176	8世紀前半
第119832	土師器	坏身	在地	(13.2)	(9.4)	3.2	SE176	8世紀前半 スス付着
第119833	土師器	坏身	在地	(13.5)	7.8	3.1	SE176	9世紀前半 スス付着
第119834	土師器	坏身	在地	13.4	-	3.6	SE176	8世紀前半
第119835	土師器	坏身	在地	13.2	8.0	3.5	SE176	8世紀前半
第119836	土師器	甕	在地	-	-	-	SE176	8世紀前半
第12181	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.4)	(4.4)	6.3	SE075	C群
第12182	青花	大皿	中国(漳州窯)	(24.2)	-	-	SE075	
第12183	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE075	
第12184	青磁	皿	中国	-	-	-	SE075	
第12185	青磁	碗	中国	(12.9)	(4.6)	5.1	SE075	
第12286	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	2.2	SE075	被焼?
第12287	京都系土師器	皿	在地	(11.3)	-	3.0	SE075	
第12288	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	2.6	SE075	被焼?
第12289	瓦質土器	網	在地	-	-	8.4	SE075	
第122810	瓦質土器	壺	在地	(17.5)	-	-	SE075	
第122811	陶器	甕	在地	(5.2)	-	-	SE075	
第122812	瓦質土器	掃箒	備前	(35.2)	-	-	SE079	
第12784	華南三彩	壺	中国	-	-	12.0	-	SE079
第12785	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(12.6)	(6.8)	2.9	SE079	E群 高台内「富貴門全」
第12786	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE079	E群
第12787	青花	盤	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE079	F群
第12788	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE079	
第12789	白磁	皿	中国	11.5	5.3	3.2	SE079	
第127810	白磁	皿	中国	-	-	3.8	-	SE079
第127811	五彩	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE079	
第127812	青磁	皿	中国	-	-	-	SE079	
第127813	陶器	折鉢	瀬戸美濃	11.3	5.5	1.8	SE079	大窯3期
第127814	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	4.0	6.0	SE079	
第127815	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.7)	-	-	SE079	
第127816	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.5)	-	-	SE079	
第127817	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	SE079	
第127818	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	-	SE079	
第128819	陶器	大甕	備前	(34.0)	-	-	SE079	
第128820	陶器	壺	備前	(10.4)	-	-	SE079	

遺物観察表12 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器③)

採因No	器種		生産地	法量(単位cm)			遺物名	備考	BGRNo
				口径	底径	器高			
第128421	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128422	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128423	陶器	瓶	備前	-	-	-	SE079		
第128424	陶器	大甕	備前	-	(34.5)	-	SE079		
第129425	陶器	漆鉢	備前	(25.6)	-	9.4	SE079		
第129426	陶器	漆鉢	備前	-	-	-	SE079		
第129427	陶器	漆鉢	備前	-	-	-	SE079		
第129428	陶器	漆鉢	備前	(28.0)	-	-	SE079		
第129429	陶器	漆鉢	備前	(33.0)	-	-	SE079		
第130430	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	-	1.9	SE079	スス付着	
第130431	京都系土師器	小皿	在地	(8.6)	-	2.0	SE079	スス付着	
第130432	京都系土師器	小皿	在地	(8.7)	-	2.1	SE079		
第130433	京都系土師器	皿	在地	(11.4)	-	2.4	SE079		
第130434	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	-	2.4	SE079	スス付着	
第130435	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.3	SE079		
第130436	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.8	SE079		
第130437	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	-	2.5	SE079		
第130438	京都系土師器	皿	在地	(12.6)	-	2.3	SE079		
第130439	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	-	SE079		
第130440	京都系土師器	坏	在地	(11.4)	-	3.2	SE079		
第130441	土師質土器	皿	在地	-	(6.2)	-	SE079	底部系切り	
第130442	土師質土器	鉢	在地	(33.0)	(20.0)	10.3	SE079		
第130443	土師質土器	鉢	在地	(34.0)	-	-	SE079		
第130444	瓦質土器	火鉢	在地	(34.0)	-	-	SE079		
第130445	瓦質土器	火鉢	在地	(43.0)	-	-	SE079		
第131446	陶器	瓶	在地	(4.3)	-	-	SE079		
第131447	陶器	片口鉢	在地	(16.8)	-	-	SE079		
第135448	陶器	合子	タイ	-	-	-	SE261	蓋	
第135449	五彩	大皿	中国(景德鎮窯)	(17.2)	(9.4)	4.0	SE261	E群	
第135450	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.5)	(9.0)	3.2	SE261	E群	
第135451	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.2)	-	-	SE261	E群	
第135452	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE261	E群 外面に毛彫り文様	
第135453	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SE261	E群	
第135454	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(5.0)	-	SE261	E群	
第135455	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.0)	(6.0)	2.5	SE261	E群	
第135456	青花	皿	中国(漳州窯)	9.2	3.8	2.2	SE261		
第135457	白磁	梅瓶	中国	-	-	-	SE261		
第135458	白磁	皿	中国	-	-	-	SE261		
第135459	陶器	折縁ソコ皿	瀬戸美濃	(11.3)	-	-	SE261	大室4期	
第136460	京都系土師器	皿	在地	4.3	-	2.1	SE261	灯明皿	
第136461	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	-	1.6	SE261		
第136462	京都系土師器	皿	在地	14.8	-	2.2	SE261	スス付着	
第136463	土師質土器	皿	在地	(7.6)	5.0	2.0	SE261	底部系切り	
第136464	瓦質土器	埴	在地	(11.2)	5.1	5.1	SE261		
第136465	瓦質土器	漆鉢	在地	(23.2)	-	-	SE261		
第136466	瓦質土器	火鉢	在地	-	(37.0)	-	SE261		
第136467	瓦質土器	火鉢	在地	(40.0)	(38.8)	-	SE261		
第136468	瓦質土器	鉢	在地	(44.0)	-	-	SE261		
第139469	白磁	皿	中国	(11.4)	-	-	SK298		
第140470	白磁	皿	中国	-	-	-	SX054		
第140471	白磁	皿	中国	-	-	-	SX054		
第140472	白磁	皿	中国	11.6	6.2	3.2	SX054		
第140473	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140474	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140475	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX054	E群	
第140476	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	-	2.3	SX054	E群	
第140477	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(12.0)	5.8	2.5	SX054	E群	
第140478	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.0	5.8	2.9	SX054	E群	
第140479	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.2)	(7.6)	2.7	SX054	E群	
第141480	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	-	2.3	SX054		
第141481	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.4	SX054		
第141482	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.3	SX054		
第141483	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.1	SX054		
第141484	京都系土師器	皿	在地	10.6	-	2.3	SX054		
第141485	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.2	SX054		
第141486	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.0	SX054		
第141487	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.2	SX054		
第141488	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.1	SX054		
第141489	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	2.4	SX054		
第141490	京都系土師器	皿	在地	11.2	-	2.5	SX054		
第141491	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	-	2.4	SX054		
第141492	京都系土師器	皿	在地	(12.5)	-	2.1	SX054		
第141493	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	2.3	SX054		
第141494	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.1	SX054		
第141495	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.1	SX054		
第141496	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.1	SX054		

第18次東調査区遺物観察表(土器・陶磁器④)

探図No	器種	生産地	法量(単位cm)		遺物名	備考	図版No	
			口径	底径				器高
第141027	京都系土師器	甕	在地	(12.2)	-	2.2	SX054	
第141028	京都系土師器	甕	在地	(12.4)	-	2.3	SX054	
第141029	京都系土師器	甕	在地	12.2	-	2.5	SX054	裏面
第141030	京都系土師器	甕	在地	(12.5)	-	2.2	SX054	
第141031	京都系土師器	甕	在地	12.4	-	2.4	SX054	裏面
第141032	京都系土師器	甕	在地	12.6	-	2.2	SX054	
第141033	京都系土師器	甕	在地	(12.2)	-	2.1	SX054	
第141034	京都系土師器	甕	在地	(12.4)	-	1.9	SX054	
第141035	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.6	SX054	
第141036	京都系土師器	甕	在地	12.5	-	2.5	SX054	
第141037	京都系土師器	甕	在地	12.2	-	2.6	SX054	
第141038	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.2	SX054	
第141039	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.3	SX054	
第141040	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.3	SX054	
第141041	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第141042	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.4	SX054	
第141043	京都系土師器	甕	在地	12.6	-	2.3	SX054	
第141044	京都系土師器	甕	在地	(12.4)	-	2.3	SX054	
第141045	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第141046	京都系土師器	甕	在地	12.7	-	2.4	SX054	
第141047	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.7	SX054	
第141048	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.8	SX054	
第141049	京都系土師器	甕	在地	12.4	-	2.6	SX054	
第141050	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.6	SX054	
第141051	京都系土師器	甕	在地	(12.4)	-	2.8	SX054	
第141052	京都系土師器	甕	在地	(13.2)	-	2.6	SX054	
第141053	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.3	SX054	
第141054	京都系土師器	甕	在地	(13.1)	-	2.5	SX054	
第141055	京都系土師器	甕	在地	13.0	-	2.7	SX054	
第141056	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.9	SX054	
第141057	京都系土師器	甕	在地	13.0	-	3.0	SX054	
第142058	京都系土師器	甕	在地	12.9	-	2.6	SX054	裏面
第142059	京都系土師器	甕	在地	(12.4)	-	3.1	SX054	
第142060	京都系土師器	甕	在地	(13.2)	-	2.6	SX054	外面へラ記号
第142061	京都系土師器	甕	在地	13.0	-	2.5	SX054	
第142062	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.5	SX054	
第142063	京都系土師器	甕	在地	12.8	-	2.4	SX054	
第142064	京都系土師器	甕	在地	12.9	-	2.6	SX054	
第142065	京都系土師器	甕	在地	(12.5)	-	3.0	SX054	
第142066	京都系土師器	甕	在地	(12.3)	-	2.8	SX054	
第142067	京都系土師器	甕	在地	(13.2)	-	2.1	SX054	
第142068	京都系土師器	甕	在地	(12.9)	-	2.7	SX054	
第142069	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.8	SX054	底部内面へラ記号
第142070	京都系土師器	甕	在地	13.3	-	2.3	SX054	内外面に裏面
第142071	京都系土師器	甕	在地	(13.6)	-	2.3	SX054	
第142072	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.2	SX054	
第142073	京都系土師器	甕	在地	(13.8)	-	2.1	SX054	
第142074	京都系土師器	甕	在地	(13.0)	-	2.4	SX054	
第142075	京都系土師器	甕	在地	(14.9)	-	1.8	SX054	
第142076	京都系土師器	甕	在地	(15.0)	-	2.2	SX054	
第142077	京都系土師器	甕	在地	(15.0)	-	2.4	SX054	スス付着
第142078	京都系土師器	甕	在地	(16.2)	-	2.7	SX054	裏面
第142079	京都系土師器	甕	在地	(16.6)	-	2.6	SX054	
第142080	京都系土師器	甕	在地	(17.4)	-	3.0	SX054	
第143081	土師貫土器	甕	在地	-	-	2.1	SX054	
第143082	土師貫土器	甕	在地	7.8	(6.8)	1.2	SX054	底部回転糸切り
第143083	土師貫土器	甕	在地	(10.2)	6.8	1.7	SX054	底部回転糸切り
第143084	土師貫土器	甕	在地	-	6.8	-	SX054	底部回転糸切り後板假
第143085	土師貫土器	甕	在地	(13.2)	(8.0)	2.8	SX054	底部回転糸切り
第144086	須恵貫土器	鉢鉢	在地	24.6	11.6	9.5	SX054	
第144087	瓦貫土器	火鉢	在地	-	-	-	SX054	
第14602 2	京都系土師器	甕	在地	(9.1)	-	2.1	SX062	
第14602 3	京都系土師器	甕	在地	(9.5)	-	2.1	SX062	
第14602 4	京都系土師器	甕	在地	(10.6)	-	2.0	SX062	
第14602 5	京都系土師器	甕	在地	(10.6)	-	1.9	SX062	
第14602 6	京都系土師器	甕	在地	(10.2)	-	2.1	SX062	
第14602 7	京都系土師器	甕	在地	(10.6)	-	2.1	SX062	
第14602 8	京都系土師器	甕	在地	(10.6)	-	2.2	SX062	
第14602 9	京都系土師器	甕	在地	(11.5)	-	2.0	SX062	
第14603 0	京都系土師器	甕	在地	(12.6)	-	2.0	SX062	
第14603 1	京都系土師器	甕	在地	(13.4)	-	2.0	SX062	
第14603 2	京都系土師器	甕	在地	(14.6)	-	2.1	SX062	
第14603 3	京都系土師器	甕	在地	(15.0)	-	-	SX062	
第14701 1	京都系土師器	甕	在地	(9.1)	-	1.9	SX066	
第14702 2	京都系土師器	甕	在地	(11.0)	-	2.5	SX066	

遺物観察表14 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑤)

挿図No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No
			口径	底径	器高			
第154981	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	4.4	-	SX150	E群
第154982	青花	碗	中国(漳州系)	-	5.6	-	SX150	
第154983	陶器	皿	瀬戸美濃	(9.6)	(4.6)	2.3	SX150	
第155083	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(7.0)	-	-	SX150	
第155085	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(7.0)	-	-	SX150	
第155086	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(9.0)	-	-	SX150	
第155087	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(8.4)	-	-	SX150	
第155088	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(10.0)	-	-	SX150	
第155089	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(10.8)	-	-	SX150	
第1550910	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(10.0)	-	-	SX150	
第1550911	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(8.7)	-	-	SX150	
第1550912	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	(9.7)	-	-	SX150	
第1550913	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	-	-	-	SX150	
第1550914	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	-	-	-	SX150	
第1550915	土師質土器	取瓶(埴場)	在池	-	-	-	SX150	
第1550916	土師質土器	椀(わ)鉢	在池	-	(22.0)	-	SX150	
第1550917	土師質土器	椀(わ)鉢	在池	(32.0)	-	-	SX150	
第155181	土師質土器	小皿?	在池	(5.0)	(2.6)	1.5	SX256A	小皿または焼塩釜の蓋
第155182	京都系土師器	皿	在池	-	-	-	SX256A	
第155183	京都系土師器	皿	在池	-	-	-	SX256A	
第155184	京都系土師器	皿	在池	-	-	2.2	SX256A	
第155281	陶器	瓶	備前	-	-	-	SX308	
第155282	京都系土師器	皿	在池	-	-	-	SX308	
第155283	京都系土師器	皿	在池	-	-	2.1	SX308	
第155284	京都系土師器	皿	在池	(10.2)	-	1.9	SX308	スス付着
第155285	京都系土師器	皿	在池	(11.4)	-	2.0	SX308	
第155286	京都系土師器	皿	在池	(11.8)	-	2.2	SX308	
第155287	京都系土師器	皿	在池	(12.4)	-	2.6	SX308	
第155288	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	-	2.2	SX308	
第155289	京都系土師器	皿	在池	(12.2)	-	-	SX308	
第1552810	京都系土師器	皿	在池	12.5	-	2.7	SX308	
第1553813	青花	碗	中国(漳州系)	-	-	-	SX308	スス付着 灯明皿
第1553814	青花	碗	中国(漳州系)	-	-	-	SX308	
第1553815	青花	碗	中国(漳州系)	-	-	-	SX308	
第1553816	青花	碗	中国(景德鎮系)	(13.4)	-	-	SX308	E群
第1553817	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	SX308	E群
第1553818	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(5.0)	-	SX308	E群
第1553819	青花	皿	中国(景德鎮系)	(9.6)	(5.5)	2.3	SX308	E群
第1553820	青花	皿	中国(景德鎮系)	(10.0)	-	2.3	SX308	E群
第1553821	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	(7.5)	-	SX308	E群
第1553822	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	4.4	1.4	SX308	E群
第1553823	青磁	小鉢	中国	(7.2)	(3.0)	5.2	SX308	高台内に「福」字
第1553824	陶器	天目碗	志魯呂	(11.8)	(3.8)	6.2	SX308	
第15481	京都系土師器	小皿	在池	8.5	-	1.9	SX310	スス付着 灯明皿
第15482	京都系土師器	皿	在池	(11.2)	-	-	SX310	
第15483	土師質土器	皿	在池	(11.2)	(7.2)	1.9	SX310	底部系切り
第15484	土師質土器	椀(わ)鉢	在池	(32.0)	(20.3)	10.0	SX310	
第15681	白磁	皿	中国	-	-	-	SX301	
第15682	土師質土器	小皿	在池	-	-	3.4	SX301	
第15683	土師質土器	皿	在池	-	-	1.2	SX301	
第15684	土師質土器	皿	在池	(8.2)	(6.7)	1.3	SX301	底部系切り
第15685	土師質土器	皿	在池	8.4	6.6	1.7	SX301	底部に穴 底部系切り
第15686	京都系土師器	皿	在池	-	-	-	SX301	
第15687	京都系土師器	皿	在池	(11.0)	-	2.3	SX301	
第15688	京都系土師器	皿	在池	(12.0)	-	2.3	SX301	
第15689	京都系土師器	皿	在池	(12.8)	-	2.1	SX301	
第156910	京都系土師器	皿	在池	(15.2)	-	2.5	SX301	
第156811	土師質土器	小皿	在池	(15.2)	-	-	SX301	頸部の鉄釘(器身に埋め込まれた)
第156812	土師質土器	耳皿	在池	5.5	-	1.7	SX301	
第156813	土師質土器	耳皿	在池	-	-	1.7	SX301	
第15781	青花	皿	中国(漳州系)	(12.4)	-	-	柱穴	C群
第15782	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	3.2	柱穴	E群
第15783	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	柱穴	
第15784	青花	皿	中国(景德鎮系)	(10.4)	-	2.3	柱穴	B1群
第15785	青花	皿	中国(漳州系)	-	(3.6)	-	柱穴	
第15786	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.6)	-	柱穴	E群
第15787	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	柱穴	E群
第15788	青花	碗	中国(景德鎮系)	(3.0)	-	-	柱穴	
第15789	黄白三彩	瓶	中国	-	-	-	柱穴	
第157810	青花	皿	中国(漳州系)	-	-	-	柱穴	
第157811	白磁	皿	中国	-	-	-	柱穴	
第157812	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	柱穴	
第157813	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	柱穴	E群
第157814	青磁	皿	中国	-	-	-	柱穴	
第157815	白磁	小鉢	中国	-	2.8	-	柱穴	「福」字

第18次東調査区遺物観察表(土器・陶磁器6)

種目No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No	
			口径	底径	器高				
第157916	青花	皿	中国(景德鎮系)	(14.9)	(7.9)	2.7	住穴	E群	
第157917	白磁	瓶or小壺	朝鮮	-	-	-	住穴	16世紀代	
第158018	陶器	瓶	備前	(5.6)	-	-	住穴		
第158019	陶器	攝鉢	備前	(25.0)	-	-	住穴		
第16181	五彩	木瓜皿	中国(景德鎮系)	(5.0)	(8.3)	2.0	整地層		
第16182	磁器	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		黄釉
第16183	磁器	つまみ	中国?	-	-	-	整地層		
第16184	磁器	不明	中国(景德鎮系)	(4.6)	-	-	整地層		琉璃釉
第16185	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		外面紅彩
第16186	磁器	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		琉璃釉
第16187	磁器	不明	中国(景德鎮系)	-	-	2.5	整地層		
第16188	青磁	掛花入	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		
第16189	青磁	碗	中国(景德鎮系)	-	-	2.9	整地層		
第161810	青花	碗	中国(景德鎮系)	(13.2)	-	-	整地層		B群
第161811	青花	碗	中国(景德鎮系)	(13.2)	-	6.5	整地層		E群
第161812	青花	碗	中国(景德鎮系)	(14.4)	(6.2)	5.5	整地層		C群
第161813	青花	碗	中国(景德鎮系)	(12.2)	(4.8)	5.4	整地層		C群
第161814	青花	碗	中国(景德鎮系)	(13.7)	(6.1)	7.2	整地層		E群
第161815	青花	碗	中国(景德鎮系)	(12.2)	(4.6)	6.2	整地層		E群
第161816	青花	碗	中国(景德鎮系)	(13.8)	-	-	整地層		E群
第161817	青花	碗	中国(景德鎮系)	(11.1)	-	-	整地層		E群
第161818	青花	碗	中国(景德鎮系)	(10.1)	-	-	整地層		E群
第161819	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第161820	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162821	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162822	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162823	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162824	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162825	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162826	青花	大皿	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162827	青花	小坏	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162828	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		E群
第162829	青花	碗	中国(景德鎮系)	(4.0)	-	-	整地層		E群
第162830	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.4)	-	整地層		E群
第162831	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.5)	-	整地層		E群
第162832	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.4)	-	整地層		E群
第162833	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	4.5	-	整地層		E群
第162834	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.4)	-	整地層		E群
第162835	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(5.2)	-	整地層		E群
第162836	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.0)	-	整地層		E群
第163837	青花	皿	中国(景德鎮系)	(11.6)	(7.4)	3.1	整地層		B2群
第163838	青花	皿	中国(景德鎮系)	(14.3)	(8.4)	2.9	整地層		B1群
第163839	青花	皿	中国(景德鎮系)	(13.4)	(3.5)	3.1	整地層		B2群
第163840	青花	皿	中国(景德鎮系)	(14.6)	-	-	整地層		E群
第163841	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		B群
第163842	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	2.4	整地層		E群
第163843	青花	皿	中国(景德鎮系)	(10.1)	-	-	整地層		C群
第163844	青花	皿	中国(景德鎮系)	(9.7)	-	2.8	整地層		
第163845	青花	皿	中国(景德鎮系)	(9.4)	(4.2)	2.1	整地層		
第163846	青花	皿	中国(景德鎮系)	(11.5)	(6.5)	3.1	整地層		B2群
第163847	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	(6.0)	-	整地層		E群
第163848	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	(6.0)	-	整地層		E群
第163849	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	(7.6)	-	整地層		E群
第163850	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(9.7)	-	整地層		E群
第164851	青花	皿	中国(景德鎮系)	(12.0)	(6.7)	2.5	整地層		E群
第164852	青花	皿	中国(景德鎮系)	(10.2)	(6.1)	2.6	整地層		E群
第164853	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	3.5	整地層		E群
第164854	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	2.7	整地層		E群
第164855	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	(7.2)	-	整地層		E群
第164856	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	(4.1)	-	整地層		E群
第164857	青花	碗	中国(景德鎮系)	(10.4)	-	2.7	整地層		E群
第164858	青花	碗	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		F群
第164859	青花	皿	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		F群
第164860	青花	志	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		
第164861	青花	瓶	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		
第164862	青花	瓶	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		
第164863	青花	小坏	中国(景德鎮系)	(6.4)	(2.6)	4.7	整地層		
第164864	青花	小坏	中国(景德鎮系)	-	-	-	整地層		
第165865	青花	碗	中国(漳州系)	(13.9)	(5.0)	5.2	整地層		
第165866	青花	碗	中国(漳州系)	(12.8)	5.0	4.5	整地層		
第165867	青花	碗	中国(漳州系)	(12.0)	-	-	整地層		
第165868	青花	碗	中国(漳州系)	(12.0)	-	-	整地層		
第165869	青花	碗	中国(漳州系)	-	(6.4)	-	整地層		
第165870	青花	碗	中国(漳州系)	(12.2)	-	-	整地層		
第165871	青花	碗	中国(漳州系)	-	-	-	整地層		

遺物観察表16 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑦)

押印No.	器種	生産地	法量(単位:cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第1658272	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658273	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658274	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658275	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658276	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658277	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658278	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658279	青花	碗	中国(海洲室)	-	-	整地層		
第1658280	青花	碗	中国(海洲室)	-	(5.4)	整地層		
第1658281	青花	碗	中国(海洲室)	-	5.2	整地層		
第1658282	青花	皿	中国(海洲室)	(10.1)	(4.0)	2.2	整地層	
第1658283	青花	皿	中国(海洲室)	-	(4.9)	-	整地層	
第1658284	青花	皿	中国(海洲室)	-	(4.0)	-	整地層	
第1658285	青花	皿	中国(海洲室)	-	(4.4)	-	整地層	
第1662286	青花	瓶	中国(海洲室)	-	(6.4)	-	整地層	
第1662287	青花	盤	中国(海洲室)	-	-	-	整地層	
第1662288	青花	盤	中国(海洲室)	-	-	-	整地層	
第1672289	陶器	合子	タイ	-	-	-	整地層	蓋
第1672290	陶器	合子	タイ	-	-	-	整地層	身
第1672291	陶器	合子	タイ	-	8.5	4.0	整地層	蓋
第1672292	陶器	つまみ	中国	-	-	-	整地層	
第1672293	華南三彩	水差し	中国	-	-	-	整地層	脚部
第1672294	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672295	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672296	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672297	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672298	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672299	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672300	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672301	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672302	華南三彩	壺	中国	-	-	-	整地層	
第1672303	陶器	皿	中国	5.8	-	1.1	整地層	翡翠軸
第1672304	陶器	皿	中国	(6.0)	-	1.0	整地層	翡翠軸
第1672305	陶器	皿	中国	-	-	-	整地層	翡翠軸
第1672306	陶器	合子	中国	-	-	-	整地層	翡翠軸
第1682107	白磁	碗	ベトナム	-	(8.4)	-	整地層	
第1682108	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	整地層	
第1682109	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	整地層	
第1682110	陶器	長胴壺	ベトナム	-	-	-	整地層	
第1682111	陶器	不明	不明	-	-	-	整地層	
第1682112	白磁	壺	不明	(12.8)	-	-	整地層	
第1692113	青磁	把手	中国	-	-	-	整地層	
第1692114	青磁	碗	中国	-	-	-	整地層	
第1692115	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層	13~14世紀代・瓶口ハズ
第1692116	白磁	碗	中国	-	-	-	整地層	
第1692117	白磁	皿	国産	-	-	2.9	整地層	
第1692118	白磁	皿	中国	-	(4.1)	-	整地層	菊花皿
第1692119	白磁	皿	中国	9.7	5.7	2.9	整地層	菊花皿
第1692120	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層	
第1692121	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層	
第1692122	白磁	皿	中国	(10.4)	(5.1)	2.4	整地層	
第1692123	白磁	皿	中国	(4.8)	-	-	整地層	
第1692124	白磁	皿	中国	(3.8)	-	-	整地層	
第1692125	白磁	皿	中国	(1.4)	-	-	整地層	
第1692126	白磁	皿	中国	(11.3)	(5.1)	3.2	整地層	
第1692127	白磁	皿	中国	(10.6)	(5.4)	3.3	整地層	
第1692128	白磁	皿	中国	(12.3)	(6.5)	2.9	整地層	
第1692129	白磁	皿	中国	(11.0)	(5.6)	2.6	整地層	
第1692130	白磁	皿	中国	-	6.5	1.9	整地層	
第1692131	白磁	皿	中国	-	-	2.6	整地層	
第1692132	白磁	皿	中国	-	-	2.8	整地層	
第1692133	白磁	皿	中国	-	-	-	整地層	
第1692134	白磁	小杯	中国	-	2.6	-	整地層	
第1692135	白磁	小杯	中国	-	2.2	-	整地層	
第1702136	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	整地層	
第1702137	陶器	天目碗	瀬戸美濃	-	-	-	整地層	
第1702138	陶器	小壺	瀬戸美濃	(4.0)	-	-	整地層	茶入
第1702139	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(6.4)	(2.6)	3.3	整地層	
第1702140	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(10.7)	(4.4)	5.3	整地層	
第1702141	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	整地層	
第1702142	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.6)	-	-	整地層	
第1702143	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	-	整地層	
第1712144	陶器	壺	瀬戸	-	(10.7)	-	整地層	
第1712145	陶器	香炉	瀬戸美濃	-	-	-	整地層	
第1712146	陶器	香炉?	瀬戸美濃	(6.0)	-	-	整地層	

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑧)

採回No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第1718147	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(11.4)	(6.8)	2.1	整地層	大宮3期
第1718148	陶器	細皿	瀬戸美濃	-	-	-	整地層	
第1718149	陶器	丸皿	瀬戸美濃	-	-	-	整地層	
第1718150	陶器	丸皿	瀬戸美濃	(6.3)	-	2.7	整地層	
第1718151	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	-	-	2.1	整地層	大宮3期
第1718152	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(10.3)	(5.4)	2.2	整地層	大宮3期
第1718153	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(11.9)	-	-	整地層	大宮3期
第1718154	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	(12.1)	-	-	整地層	大宮3期
第1718155	陶器	折縁皿	瀬戸美濃	-	-	2.1	整地層	大宮3期
第1718156	陶器	折縁ソコ皿	瀬戸美濃	(11.0)	-	-	整地層	大宮4期
第1718157	陶器	折縁ソコ皿	瀬戸美濃	(11.2)	(5.6)	2.1	整地層	大宮4期
第1718158	陶器	折縁ソコ皿	瀬戸美濃	(11.4)	(6.0)	2.1	整地層	大宮4期
第1718159	陶器	折縁ソコ皿	瀬戸美濃	(11.0)	-	-	整地層	大宮4期 鉄軸
第1718160	陶器	鉢	肥前(唐津)	-	-	-	整地層	
第1718161	磁器	鉢	肥前(唐津)	-	(4.6)	-	整地層	
第1718162	磁器	碗	肥前(唐津)	-	(6.0)	-	整地層	
第1718163	磁器	碗	肥前(唐津)	-	(4.7)	-	整地層	土灰層
第1728164	陶器	壺	備前	(11.2)	-	-	整地層	
第1728165	陶器	壺	備前	(12.4)	-	-	整地層	
第1728166	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	
第1728167	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	
第1728168	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	
第1728169	陶器	鉢?	備前	(16.3)	(8.0)	7.6	整地層	鉢or建水
第1728170	陶器	盤	備前	(27.6)	(16.0)	5.8	整地層	
第1728171	陶器	小・心or瓶	備前	-	(4.5)	-	整地層	
第1728172	陶器	小・心or瓶	備前	-	(6.7)	-	整地層	
第1728173	陶器	小・心or瓶	備前	-	(6.2)	-	整地層	
第1728174	陶器	小・心or瓶	備前	-	(4.2)	-	整地層	
第1738175	陶器	掛花入	備前	-	6.8	-	整地層	
第1738176	陶器	掛花入	備前	-	(7.6)	-	整地層	
第1738177	陶器	小林	備前	(8.5)	4.3	5.9	整地層	
第1738178	陶器	壺	備前	-	(4.1)	-	整地層	底部糸切り
第1738179	陶器	皿or盤	備前	26.2	-	-	整地層	
第1738180	陶器	皿or盤	備前	-	-	-	整地層	
第1738181	陶器	鉢	備前	-	-	-	整地層	
第1738182	陶器	浅鉢	備前	(17.1)	(8.2)	6.0	整地層	
第1738183	陶器	浅鉢	備前	-	(10.8)	-	整地層	
第1738184	陶器	鉢	備前	-	-	-	整地層	
第1738185	陶器	大甕	備前	-	-	-	整地層	
第1738186	須恵器	大甕	備前	-	-	-	整地層	
第1738187	陶器	甕	備前	-	(14.0)	-	整地層	
第1738188	陶器	甕	備前	-	(21.8)	-	整地層	
第1748189	陶器	漆鉢	備前	(21.0)	-	-	整地層	
第1748190	陶器	漆鉢	備前	24.0	9.3	9.9	整地層	
第1748191	陶器	漆鉢	備前	(31.0)	(12.2)	14.5	整地層	
第1748192	陶器	漆鉢	備前	(34.0)	-	-	整地層	
第1758193	陶器	壺	備前	(8.4)	-	-	整地層	
第1758194	陶器	壺	備前	(9.8)	-	-	整地層	
第1758195	陶器	壺	備前	(11.6)	-	-	整地層	
第1758196	陶器	壺	備前	(7.6)	8.5	7.6	整地層	
第1758197	陶器	小壺	備前	-	-	-	整地層	
第1758198	陶器	小壺	備前	(6.6)	-	-	整地層	
第1758199	陶器	小壺	備前	-	-	-	整地層	
第1758200	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	
第1758201	陶器	壺	備前	-	-	-	整地層	四耳壺?
第1758202	陶器	壺	備前	-	(19.0)	-	整地層	
第1758203	陶器	壺	東播磨	-	-	-	整地層	
第1758204	陶器	瓶	備前	(6.0)	-	-	整地層	
第1758205	陶器	瓶	備前	5.8	-	-	整地層	
第1758206	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層	
第1758207	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層	
第1758208	陶器	瓶	備前	-	-	-	整地層	
第1758209	陶器	壺?	備前	-	(5.3)	-	整地層	
第1758210	陶器	不明	備前	-	(10.0)	-	整地層	
第1758211	陶器	片口鉢	備前	(16.8)	-	-	整地層	
第1758212	陶器	碗	備前?	(16.6)	(8.2)	4.8	整地層	
第1758213	陶器	鉢	備前	(27.6)	(15.8)	5.3	整地層	
第1758214	陶器	盤	備前	-	-	2.9	整地層	
第1758215	陶器	皿	肥前(唐津)	-	5.0	-	整地層	鉄軸(給唐津)
第1768216	須恵器	高台付環	在地	-	(8.4)	-	整地層	8世紀代
第1768217	須恵器	高台付皿	在地	(12.6)	(8.0)	3.8	整地層	8世紀代
第1768218	土師器	高台付環	在地	-	(8.0)	-	整地層	8世紀代
第1768219	土師器	高台付環	在地	-	(11.4)	-	整地層	8世紀代
第1768220	土師器	環	在地	(14.7)	-	3.4	整地層	8世紀代
第1768221	土師器	環	在地	(14.0)	(7.3)	3.5	整地層	8世紀代

第18次東調査区遺物観察表 (土器・陶磁器⑨)

探区No.	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第1768222	土師器	環	在地	(15.6)	-	4.0	整地層	8世紀代
第1768223	土師器	環	在地	(15.6)	-	(10.0) 4.0	整地層	8世紀代
第1768224	土師器	環	在地	-	-	-	整地層	8世紀代
第1768225	土師器	環	在地	(20.0)	-	-	整地層	8世紀代
第1768226	土師器	碗	在地	(18.5)	-	-	整地層	8世紀代
第1768227	土師器	皿	在地	-	-	1.7	整地層	8世紀代
第1768228	土師器	皿	在地	(14.0)	(7.3)	1.6	整地層	8世紀代
第1768229	土師器	皿	在地	(16.0)	(11.0)	2.2	整地層	8世紀代
第1768230	土師器	環	在地	(12.2)	-	4.1	整地層	9世紀代
第1768231	土師器	環	在地	(13.5)	-	3.5	整地層	9世紀代
第1768232	土師器	環	在地	(14.0)	(9.7)	3.7	整地層	9世紀代
第1768233	土師器	壺	在地	(20.5)	-	-	整地層	9世紀代
第1778234	土師質土器	小皿	在地	7.1	5.7	1.2	整地層	底部糸切り
第1778235	土師質土器	環	在地	(11.5)	-	3.1	整地層	
第1778236	瓦質土器	環	在地	(9.8)	(5.4)	4.4	整地層	内面に赤彩 布目模
第1778237	土師質土器	皿	在地	(8.0)	-	1.5	整地層	底部糸切り
第1778238	土師質土器	皿	在地	(8.6)	(5.6)	2.4	整地層	底部糸切り?
第1778239	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.8	整地層	
第1778240	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.6	整地層	
第1778241	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.9	整地層	
第1778242	土師質土器	小皿	在地	-	-	1.4	整地層	
第1778243	土師質土器	小皿	在地	(5.5)	-	2.3	整地層	
第1778244	土師質土器	小皿	在地	(5.2)	-	1.5	整地層	
第1778245	土師質土器	小皿	在地	(4.8)	-	2.2	整地層	
第1778246	土師質土器	小皿	在地	5.2	-	1.7	整地層	
第1778247	土師質土器	小皿	在地	5.1	-	1.7	整地層	
第1778248	京都系土師器	皿	在地	4.2	-	2.1	整地層	灯明皿
第1778249	京都系土師器	皿	在地	8.4	-	2.1	整地層	スス付着
第1778250	京都系土師器	皿	在地	8.5	-	2.2	整地層	
第1778251	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.4	整地層	スス付着
第1778252	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	-	2.1	整地層	
第1778253	土師器	皿	在地	(8.2)	(5.1)	1.9	整地層	底部糸切り
第1778254	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	2.4	整地層	被熱?
第1778255	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	整地層	
第1778256	京都系土師器	環	在地	11.3	-	3.7	整地層	スス付着
第1778257	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	2.3	整地層	
第1778258	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.3	整地層	スス付着
第1778259	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.3	整地層	
第1778260	京都系土師器	皿	在地	(13.0)	-	2.2	整地層	
第1778261	京都系土師器	皿	在地	(13.1)	-	2.3	整地層	
第1778262	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	整地層	
第1778263	京都系土師器	環	在地	-	-	-	整地層	変形
第1788264	土師質土器	埴埴	在地	(7.2)	-	3.3	整地層	
第1788265	土師質土器	埴埴	在地	(8.0)	-	-	整地層	
第1788266	土師質土器	埴埴	在地	(6.8)	-	-	整地層	
第1788267	土師質土器	埴埴	在地	(8.4)	-	-	整地層	
第1788268	土師質土器	埴埴	在地	(9.0)	-	-	整地層	
第1788269	土師質土器	埴埴	在地	(12.0)	-	-	整地層	
第1798270	土師質土器	不明	在地	-	(5.3)	-	水田層	金箔土師器
第1798272	土師質土器	鉢?	在地	-	-	-	整地層	15
第1798273	土師質土器	火鉢	在地	(26.6)	-	-	整地層	
第1798274	土師質土器	耳皿	在地	-	-	2.0	整地層	
第1798275	土師質土器	?	在地	-	(6.8)	-	整地層	
第1798276	土師質土器	壺付	在地	-	(7.1)	-	整地層	底部糸切り 内部空刷
第1798279	土師質土器	風車	在地	(21.0)	-	-	整地層	
第1808280	瓦質土器	埴	在地	10.2	5.6	4.4	整地層	
第1808281	瓦質土器	香炉	亀山	(11.4)	-	4.8	整地層	3足?
第1808282	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	整地層	
第1808283	瓦質土器	蓋	在地	-	-	-	整地層	
第1808284	瓦質土器	附木鉢	在地	26.8	7.8	11.5	整地層	
第1808285	瓦質土器	鉢鉢	在地	(29.0)	(15.0)	10.4	整地層	内面 波形摺目
第1808286	瓦質土器	鉢鉢	在地	(28.4)	(13.2)	9.3	整地層	
第1808287	瓦質土器	鉢or鉢	在地	(40.6)	-	-	整地層	

遺物観察表22 (第18次東調査区)

第18次東調査区遺物観察表 (瓦)

採図No.	品 種	部 位	寸法 (単位cm)				遺構名	備 考	図取No.
			長さ	幅	厚さ	厚さ			
第1310429	軒平瓦		長さ 4.0	-	幅 2.3	SE079			
第1310450	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅 2.0	SE079			
第1310451	軒平瓦		長さ (4.5)	-	幅 (1.7)	SE079			
第18104288	軒平瓦		長さ (4.9)	-	幅 (2.4)	整地層			
第18104289	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅 (1.7)	整地層			
第18104290	軒平瓦		長さ (2.8)	-	幅 2.0	整地層			
第18104291	軒平瓦		長さ 4.3	-	幅 (1.5)	整地層			
第18104292	軒平瓦		長さ (3.0)	-	幅 (2.8)	整地層			
第18104293	鬼瓦		長さ (9.8)	-	幅 (4.5)	整地層			
第18104294	鬼瓦		長さ -	-	幅 -	整地層			

第18次東調査区遺物観察表 (ガラス製品)

採図No.	品 種	材 質	部 位	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図取No.
				口径	口径	口径	口径				
第18504338	碗	ガラス		口径 (9.6)	口径 -	口径 -	2.2	整地層		17	
第18504339	碗	ガラス		口径 -	口径 -	口径 -	0.4	整地層			
第18504340	玉	ガラス		長さ 1.1	幅 1.1	口径 0.4	2.7	整地層		17	

第18次東調査区遺物観察表 (銭貨①)

採図No.	銭貨名	初鋳年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書 林	遺構名	備 考	図取No.
第1204821	至道元寶	995	北宋	2.2	2.5	真書	SE079		
第1204822	至道元寶	995	北宋	4.1	2.4	草書	SE079		
第1204823	不明	-	-	1.6	2.1	-	SE079	無文銭	
第1604236	不明	-	-	1.1	2.4	篆書	柱穴	「通」「寶」判読	
第1604237	紹聖元寶	1094	北宋	2.7	2.3	行書	柱穴		
第18904381	開元通寶	621	唐	2.1	2.4	真書	整地層		
第18904382	開元通寶	621	唐	1.9	2.2	真書	整地層		
第18904383	開元通寶	621	唐	1.9	2.5	真書	整地層		
第18904384	景德元寶	1004	北宋	1.5	2.5	真書	整地層	「元」欠損	
第18904385	景德元寶	1004	北宋	2.3	2.4	真書	整地層	「景」「寶」判読	
第18904386	祥符元寶	1008	北宋	1.8	2.4	真書	整地層	「寶」欠損	
第18904387	祥符通寶	1008	北宋	1.1	2.5	真書	整地層		
第18904388	祥符通寶	1008	北宋	1.8	2.5	真書	整地層		
第18904389	大聖元寶	1023	北宋	1.2	2.4	真書	整地層		
第18904390	大聖元寶	1023	北宋	2.5	2.4	真書	整地層		
第18904391	明道元寶	1032	北宋	2.2	2.5	真書	整地層		
第18904392	皇宋通寶	1038	北宋	2.3	2.3	真書	整地層		
第18904393	皇宋通寶	1038	北宋	2.1	2.4	真書	整地層		
第18904394	皇宋通寶	1038	北宋	2.0	2.5	篆書	整地層		
第19042395	嘉祐通寶	1056	北宋	1.5	2.5	篆書	整地層		
第19042396	嘉祐元寶	1058	北宋	2.1	2.4	真書	整地層		
第19042397	元豐通寶	1078	北宋	1.3	2.1	行書	整地層	「元」「寶」欠損	
第19042398	元豐通寶	1078	北宋	1.8	2.2	行書	整地層		
第19042399	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.4	行書	整地層		
第19042400	元豐通寶	1078	北宋	2.1	2.3	行書	整地層		
第19042401	元豐通寶	1078	北宋	2.4	2.4	行書	整地層		
第19042402	元豐通寶	1078	北宋	2.4	2.4	行書	整地層		
第19042403	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.5	篆書	整地層		
第19042404	元豐通寶	1078	北宋	2.0	2.4	篆書	整地層		
第19042405	元豐通寶	1078	北宋	2.1	2.4	篆書	整地層		
第19042406	元祐通寶	1086	北宋	2.2	2.5	篆書	整地層		
第19042407	紹聖元寶	1094	北宋	2.3	2.4	篆書	整地層		
第19042408	元符通寶	1098	北宋	1.3	2.4	篆書	整地層	「元」字部が欠損	
第19104409	元符通寶	1098	北宋	3.0	2.4	篆書	整地層		
第19104410	大欽通寶	1107	北宋	2.5	2.4	真書	整地層	星形孔 銭裏面に金属付着	
第19104411	洪武通寶	1368	明	1.4	2.2	真書	整地層	マ頭通 重点通?	
第19104412	洪武通寶	1368	明	1.7	2.2	真書	整地層	コ頭通 単点通	
第19104413	洪武通寶	1368	明	2.1	2.2	真書	整地層		
第19104414	洪武通寶	1368	明	3.0	2.4	真書	整地層		
第19104415	洪武通寶	1368	明	3.2	2.2	真書	整地層	コ頭通 単点通	
第19104416	洪武通寶	1368	明	2.7	2.3	真書	整地層	単点通	
第19104417	水滸通寶	1406	明	2.4	2.5	真書	整地層		
第19104418	水滸通寶	1406	明	3.1	2.5	真書	整地層		
第19104419	寛永通寶	1638	日本	1.7	2.4	-	整地層		
第19104420	寛永通寶	1638	日本	2.5	2.3	真書	整地層		
第19104421	不明	-	-	0.9	2.3	篆書	包含層	「元」「寶」判読	

第18次東調査区遺物観察表 (銭貨②)

採出No	銭貨名	初铸造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書体	遺構名	備考	図版No
第1928422	不明	-	-	0.9	2.4	篆書	葬地層	「元」「寶」判読	
第1928423	不明	-	-	1.0	2.4	-	葬地層		
第1928424	不明	-	-	1.2	2.5	-	葬地層		
第1928425	不明	-	-	0.8	2.2	-	葬地層		
第1928426	不明	-	-	1.6	2.3	-	葬地層		
第1928427	不明	-	-	1.6	2.4	-	葬地層		
第1928428	不明	-	-	1.9	2.2	-	葬地層		
第1928429	不明	-	-	3.4	2.2	-	葬地層	銭全体が白い	
第1928430	不明	-	-	2.4	2.5	-	葬地層		
第1928431	治平元寶	1064	北宋	5.7	2.5	篆書	葬地層	2枚付着	
第1928432	元豊通寶	1078	北宋	6.2	2.4	行書	葬地層	2枚付着	
第1928433	元祐通寶	1086	北宋	12.7	2.4	行書	葬地層	5枚付着	
第1928434	聖宋元寶	1101	北宋	6.0	2.4	行書	葬地層	2枚付着	
第1928435	不明	-	-	5.6	2.5	-	葬地層	3枚付着	
第1928436	不明	-	-	12.7	2.5	-	葬地層	4枚付着	

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類①)

採回No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図版No
			口径	底径	器高			
第200801	華南三彩	鳥形水注	中国	-	-	SP012		30
第200802	華南三彩	小皿	中国	(6.4)	-	SP012	青釉	30
第200803	陶器	壺	中国	-	-	SP012		30
第200804	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(9.2)	-	SP012		30
第200805	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	3.2	SP012		30
第200806	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(4.0)	SP012		30
第200807	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(12.0)	-	SP012		30
第200808	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	SP012		30
第200809	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	-	2.4	SP012	30
第200810	土師質土器	皿	在地	8.0	4.8	1.8	SP012	
第200811	瓦質土器	鉢	在地	(31.4)	(19.8)	11.4	SP012	30
第202801	瓦質土器	鉢	不明	-	(11.0)	-	SD049	
第202802	瓦質土器	甕	龜山・勝間田?	-	-	-	SD049	30
第202803	瓦質土器	甕	不明	-	-	-	SD049	30
第202804	須恵質土器	搦鉢	東播磨	-	-	-	SD049	30
第202805	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.0)	-	SD049	混入
第205801	土師質土器	坏	在地	(12.0)	(9.4)	3.6	SD040	
第205802	土師質土器	不明	不明	-	-	-	SD040	30
第205803	焼締陶器	甕	常滑	-	-	-	SD040	50
第205804	瓦質土器	壺	不明	(28.0)	-	-	SD040	30
第206801	土師質土器	坏	在地	-	(6.4)	-	SD052	
第208801	京都系土師器	皿	在地	(10.6)	-	-	SK002	
第210801	華南三彩	小皿	中国	(6.0)	-	-	SK007	青釉
第210802	京都系土師器	皿	在地	9.9	-	1.9	SK007	
第212801	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK008 a	31
第212802	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK008 a	31
第212803	焼締陶器	搦鉢	備前	(28.6)	-	-	SK008 a	
第212804	京都系土師器	皿	在地	9.6	-	2.6	SK008 a	
第212805	京都系土師器	皿	在地	9.4	-	2.0	SK008 a	
第212806	京都系土師器	皿	在地	10.2	-	2.6	SK008 a	
第212807	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.2	SK008 a	
第212808	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.4	SK008 a	
第212809	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	3.8	SK008 a	
第212810	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SK008 a	
第212812	瓦質土器	火鉢	在地	-	-	-	SK008 a	31
第212814	瓦質土器	火鉢	在地	-	(35.8)	-	SK008 a	
第212815	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.6	SK008 b	
第212816	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.2	SK008 b	
第212817	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.6	SK008 b	
第212818	京都系土師器	坏	在地	(11.8)	-	3.2	SK008 b	
第212819	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK008 b	
第213801	白磁	瓶	中国	-	-	-	SK008 b	31
第213802	白磁	瓶	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK009	31
第213803	京都系土師器	皿	中国	-	-	-	SK009	31
第213804	京都系土師器	皿	在地	(9.6)	-	-	SK009	
第213805	京都系土師器	皿	在地	10.0	-	2.0	SK009	
第213806	京都系土師器	坏	在地	(11.2)	-	-	SK009	
第215801	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.0	SK010	
第217801	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK011	
第217802	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.8	SK011	
第217803	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.4	SK011	
第220801	京都系土師器	坏	在地	10.8	-	3.2	SK022	
第220802	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.2	SK022	
第220803	瓦質土器	火鉢	在地	-	(34.8)	-	SK022	
第223801	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK018	
第223802	京都系土師器	皿	在地	(9.4)	-	2.0	SK018	
第223803	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SK018	
第223804	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SK018	
第223805	陶器	壺	中国	-	(14.0)	-	SK018	黒釉
第223808	土師質土器	坏	在地	12.8	9.0	3.0	SK018	混入
第224801	京都系土師器	皿	在地	12.8	-	2.2	SK019	
第225801	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(14.2)	(8.2)	2.5	SK020	31
第225802	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(8.0)	-	SK020	31
第225803	瓦質土器	鉢	在地	(30.6)	-	-	SK020	
第225804	京都系土師器	皿	在地	8.6	-	2.4	SK020	
第225805	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.1	SK020	
第225806	京都系土師器	皿	在地	(9.0)	-	-	SK020	
第225807	京都系土師器	坏	在地	(10.8)	-	-	SK020	
第225808	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SK020	
第227801	青花	碗	中国(常州窯)	-	3.6	-	SK021	
第227802	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK021	
第227803	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK021	
第227804	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SK021	31
第227805	瓦質土器	碗	在地	-	5.6	-	SK021	31

第28次調査区遺物觀察表 (土器・陶磁器類②)

採因No.	器種	生産地	法量(単位:cm)			遺構名	備考	図版No.	
			口径	底径	器高				
第23098 1	焼埴陶器	志	備前	-	(10.0)	-	SK025	32	
第23098 2	焼埴陶器	播鉢	備前	(6.4)	-	(35.4)	-	SK025	32
第23098 3	京都系土師器	皿	在地	-	8.6	1.8	SK025		
第23098 4	京都系土師器	皿	在地	(9.2)	8.5	2.8	SK025		
第23098 5	京都系土師器	皿	在地	-	9.0	2.1	SK025		
第23098 6	京都系土師器	皿	在地	-	12.4	2.8	SK025		
第23098 7	土師質土器	壺台	在地	(12.0)	7.8	6.7	SK025		
第23298 1	焼埴陶器	志	備前	-	-	-	SK026		
第23498 1	京都系土師器	皿	在地	(12.2)	8.4	1.8	SK028		
第23498 2	焼埴陶器	播鉢	備前	8.0	-	-	SK028		
第23498 3	焼埴陶器	播鉢	備前	(31.4)	-	-	SK028		
第23498 4	焼埴陶器	鉢	備前	-	(12.0)	9.6	SK028		
第23498 5	陶器	志	中国	-	-	-	SK028	周軸	
第23498 7	瓦質土器	不明	在地	-	-	-	SK028		
第23698 1	京都系土師器	皿	在地	-	8.0	1.9	SK029		
第23698 2	焼埴陶器	播鉢	備前	-	-	-	SK029		
第23698 3	焼埴陶器	播鉢	備前	(12.4)	-	-	SK029		
第23798 1	京都系土師器	皿	在地	-	11.7	2.2	SK030		
第23798 2	瓦質土器	火鉢	在地	-	(37.0)	-	SK030		
第24098 1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	(28.0)	-	-	SK031 b		
第24098 2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK031 b	32	
第24098 3	青磁	鉢	中国	(10.6)	-	-	SK031 b	32	
第24098 4	黒色土器	残	在地	(6.0)	-	-	SK031 b	9世紀 混入	
第24098 5	土師器	坏	在地	9.9	13.0	3.8	SK031 b	9世紀 混入	
第24398 1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK033	33	
第24398 2	陶器	不明	中国?	-	-	-	SK033	33	
第24398 3	陶器	合子	中国?	(28.6)	-	-	SK033	33	
第24598 1	京都系土師器	皿	在地	9.6	(12.2)	2.0	SK035		
第24598 2	土師質土器	坏	在地	9.4	(12.2)	2.2	SK035	混入	
第24798 1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	10.2	-	-	SK038	33	
第24798 2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	11.0	-	-	SK038	33	
第24798 3	白磁	皿	中国	11.0	(10.2)	2.3	SK038	33	
第24798 4	京都系土師器	皿	在地	12.0	(8.6)	2.0	SK038		
第24798 5	京都系土師器	坏	在地	(12.0)	(10.6)	(3.4)	SK038		
第24798 6	焼埴陶器	播鉢	備前	(31.2)	-	-	SK038		
第24798 7	瓦質土器	火鉢	在地	-	(36.6)	8.0	SK038	33	
第24798 8	瓦質土器	火鉢	在地	(10.4)	-	-	SK038		
第25098 1	青花	小杯	中国(景德鎮窯)	12.2	-	-	SK043	33	
第25098 2	焼埴陶器	播鉢	備前	(12.0)	-	-	SK043	33	
第25298 1	青花	碗	中国(龍泉窯)	(11.8)	-	-	SK044	33	
第25498 1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SK045	33	
第25498 2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK045	33	
第25498 3	白磁	皿	中国	-	(8.2)	1.9	SK045	33	
第25498 4	焼埴陶器	播鉢	備前	-	-	-	SK045		
第25498 5	土師質土器	皿	不明	(9.6)	(15.0)	-	SK045	白色系	
第25498 6	土師質土器	土鍋	在地	10.0	(20.2)	-	SK045	33	
第25598 1	焼埴陶器	播鉢	備前	(11.2)	-	-	SK046		
第25598 2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	8.8	8.0	1.4	SK046		
第25798 1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK047		
第25798 3	土師質土器	坏	在地	(10.4)	(10.8)	2.8	SK047		
第25798 4	土師質土器	坏	在地	12.0	11.2	3.3	SK047		
第25998 1	焼埴陶器	裏	備前	10.8	-	-	SK048		
第26198 1	土師質土器	坏	在地	12.0	(9.6)	2.2	SK050		
第26198 2	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	-	-	SK050	33	
第26398 1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	(12.2)	-	SK051	34	
第26398 2	青磁	碗	中国(同安窯)	(9.4)	-	-	SK051	34	
第26398 3	白磁	碗	中国	(11.8)	-	-	SK051	34	
第26398 4	白磁	皿	中国	(12.0)	-	-	SK051		
第26398 5	土師質土器	坏	在地	-	(12.7)	2.6	SK051		
第26398 6	土師質土器	坏	在地	12.8	-	-	SK051		
第26398 7	土師質土器	坏	在地	12.8	-	-	SK051		
第26398 8	須恵質土器	鉢	東播磨?	(14.2)	-	-	SK051	34	
第26398 9	瓦質土器	鉢	在地?	-	-	-	SK051	34	
第26398 10	瓦質土器	鉢	在地?	(30.6)	-	-	SK051	34	
第26598 1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	8.6	-	-	SX005		
第26598 2	白磁	皿	中国	9.0	-	-	SX005	34	
第26598 3	陶器	皿	美濃(志野)	(9.0)	-	-	SX005	34	
第26598 4	焼埴陶器	播鉢	備前	(10.8)	-	-	SX005		
第26598 5	陶器	壺	中国	(11.8)	-	-	SX005	周軸	
第26598 6	京都系土師器	皿	在地	-	(9.2)	-	SX005		
第26598 7	土師質土器	火鉢or風炉	在地?	-	-	-	SX005		
第26798 1	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		
第26798 2	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	(15.2)	-	SX006		
第26798 3	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		
第26798 4	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006		

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類③)

採回No	器種	生産地	法量(単位cm)			遺構名	備考	図5No
			口径	底径	器高			
第26718 5	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SX006	
第26718 6	白磁	皿	中国	(14.2)	(8.2)	3.2	SX006	
第26718 7	焼締陶器	大甕	備前	-	-	-	SX006	
第26718 8	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SX006	
第26718 9	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(10.8)	-	SX006	
第26718 10	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(10.0)	-	SX006	
第26718 11	焼締陶器	大甕	備前	-	(44.6)	-	SX006	
第26718 12	京都系土師器	皿	在地	8.0	-	2.1	SX006	
第26718 13	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.4	SX006	
第26718 14	京都系土師器	皿	在地	(12.5)	-	-	SX006	
第26718 15	土師質土器	甕?	在地	-	-	-	SX006	
第26718 16	瓦質土器	火鉢	在地	-	(36.4)	-	SX006	
第26818 17	土師質土器	火鉢	在地	-	(37.8)	-	SX006	
第27118 1	青磁	碗	中国(龍泉窯)	-	(5.2)	-	SX013	
第27118 2	青花	盤(大皿)	中国(景德鎮窯)	-	(16.2)	-	SX013	35
第27118 3	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SX013	SK011と接合
第27118 4	焼締陶器	壺	備前	15.2	-	-	SX013	35
第27118 5	焼締陶器	鉢	備前	(11.4)	-	-	SX013	
第27118 6	焼締陶器	瓶	備前	-	(7.8)	-	SX013	
第27118 7	京都系土師器	皿	在地	7.8	-	1.6	SX013	
第27118 8	京都系土師器	皿	在地	(10.8)	-	2.2	SX013	
第27118 10	瓦質土器	不明	在地?	-	-	-	SX013	
第27118 11	瓦質土器	火鉢	在地	(40.8)	-	-	SX013	
第27218 12	焼締陶器	水屋甕	備前	(14.8)	-	-	SX013	遺構間接合
第27218 13	焼締陶器	水屋甕	備前	-	(15.8)	-	SX013	遺構間接合
第27218 14	焼締陶器	壺	タイ(メナムノイ窯)	-	-	-	SX013	遺構間接合
第27718 1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	4.8	-	SX037	35
第27718 2	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.4	SX037	
第27718 3	瓦質土器	不明	在地?	-	-	-	SX037	35
第27718 4	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(14.8)	-	SX037	35
第27718 5	焼締陶器	搦鉢	備前	(38.6)	-	-	SX037	
第27718 6	焼締陶器	瓶	備前	-	-	-	SX037	35
第28118	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(11.2)	-	SX003	
第28218	京都系土師器	皿	在地	(8.6)	-	1.8	SX023	
第28518	土師質土器	小皿	在地	8.4	6.4	1.6	SB060	SP1002から出土
第28918 1	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(10.2)	(6.8)	2.1	SP1102	36
第28918 2	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.4)	(7.0)	2.8	SP1107	36
第28918 3	京都系土師器	皿	在地	(8.4)	-	-	SP1109	
第28918 4	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1135	
第28918 5	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(8.9)	-	-	SP1110	36
第28918 6	青花	碗	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1110	
第28918 7	白磁	皿	中国	-	-	-	SP1117	
第28918 8	京都系土師器	皿	在地	9.1	-	2.1	SP1121	
第28918 9	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	-	-	SP1114	
第28918 10	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(11.4)	-	-	SP1130	
第28918 11	京都系土師器	皿	在地	(11.6)	-	-	SP1130	
第28918 12	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1119	
第28918 13	白磁	瓶	中国	-	-	-	SP1120	
第28918 14	白磁	瓶	中国	-	-	-	SP1120	
第28918 15	土師質土器	火鉢or風炉	在地?	-	-	-	SP1120	
第28918 16	土師質土器	碗	不明	(14.8)	(8.1)	5.6	SP1137	底部外面に糸切り痕
第28918 17	京都系土師器	皿	在地	(9.6)	-	-	SP1141	
第28918 18	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1142	
第28918 19	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1144	
第28918 20	京都系土師器	皿	在地	-	-	-	SP1146	
第28918 21	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(11.8)	-	-	SP1150	
第28918 22	土師質土器	鉢	在地	-	-	-	SP1148	
第28918 23	焼締陶器	大甕	備前	-	-	-	SP1147	外面にへう描き「人」字
第28918 24	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(13.0)	(7.9)	3.6	SP1159	
第28918 25	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1162	
第28918 26	青花	皿	中国(景德鎮窯)	(8.0)	-	-	SP1209	
第28918 27	京都系土師器	皿	在地	11.9	-	3.4	SP1209	
第29018 28	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1210	36
第29018 29	京都系土師器	皿	在地	9.4	-	1.9	SP1214	
第29018 30	土師質土器	坏	在地	-	(8.8)	-	SP1221	
第29018 31	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1233	
第29018 32	青花	碗	中国(景德鎮窯)	(9.2)	-	-	SP1413	
第29018 33	京都系土師器	皿	在地	(11.0)	-	-	SP1413	
第29018 34	京都系土師器	皿	在地	(11.8)	-	-	SP1415	
第29018 35	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1415	
第29018 36	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(7.2)	-	SP1425	36
第29018 37	瓦質土器	火鉢	在地	(39.2)	-	-	SP1413	
第29118 41	青花	皿	中国(景德鎮窯)	-	(6.2)	-	SP1432	36
第29118 42	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1413	
第29118 43	瓦質土器	鉢	不明	-	-	-	SP1404	

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類④)

採回No.	器種	生産地	法量(単位:cm)			遺構名	備考	図版No.
			口径	底径	器高			
第291044	焼締陶器	搦鉢	-	(12.2)	-	SP1419		
第291045	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	-	SP1442		
第291046	青花	皿	中国(漳州窯)	(11.2)	-	SP1442		
第291047	京都系土師器	皿	在地	12.2	-	2.4	SP1505	
第291048	京都系土師器	皿	在地	10.8	-	3.0	SP1501	
第291049	白磁	皿	中国	11.6	5.0	3.1	SP1501	
第291050	焼締陶器	壺	備前	-	-	-	SP1501	
第291051	青花	碗	中国(京徳鎮窯)	(13.0)	-	-	SP1502	
第291052	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	(8.4)	-	SP1502	
第292055	土師質土器	焼塩釜	不明	(5.8)	-	-	SP1514	36
第292056	陶器	天目碗	中国	(10.8)	-	-	SP1517	
第292057	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.2)	-	-	SP1517	
第292058	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	SP1527	
第292059	瓦質土器	火鉢	在地	(38.0)	-	-	SP1526	
第29401	青花	碗	中国(京徳鎮窯)	(11.0)	-	-	SE027	36
第29402	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	(17.6)	-	-	SE027	36
第29403	白磁	皿	中国	-	(7.8)	-	SE027	36
第29404	白磁	皿	中国	(11.4)	(6.8)	2.7	SE027	36
第29405	焼締陶器	搦鉢	備前	(32.2)	-	-	SE027	
第29406	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	-	SE027	
第29407	京都系土師器	皿	在地	(10.4)	-	2.4	SE027	
第29408	土師器	坏	在地	12.3	7.1	4.3	SE027	9世紀 混入
第29504	京都系土師器	皿	在地	9.0	-	2.8	SX004	
第29604	京都系土師器	皿	在地	(10.0)	-	2.1	SX034	
第29701	青花	碗	中国(京徳鎮窯)	(13.6)	-	-	包含物・埋地層	37
第29702	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	(3.2)	-	包含物・埋地層	
第29703	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	(12.4)	(5.6)	3.2	包含物・埋地層	37
第29704	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	(10.6)	(5.6)	2.6	包含物・埋地層	37
第29705	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	(6.0)	-	包含物・埋地層	37
第29706	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	-	-	包含物・埋地層	37
第29707	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	(7.0)	-	包含物・埋地層	37
第29708	青花	皿	中国(京徳鎮窯)	-	-	-	包含物・埋地層	37
第29709	青花	小杯	中国(京徳鎮窯)	-	2.8	-	包含物・埋地層	
第297010	青花	不明	中国(京徳鎮窯)	-	-	-	包含物・埋地層	
第297011	磁器	碗	中国(京徳鎮窯)	-	-	-	包含物・埋地層	
第297012	青花	碗	中国(漳州窯)	(13.8)	4.2	4.4	包含物・埋地層	内外面に褐彩
第297013	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.6	-	包含物・埋地層	
第297014	青花	碗	中国(漳州窯)	-	5.0	-	包含物・埋地層	
第297015	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(5.4)	-	包含物・埋地層	
第297016	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(4.8)	-	包含物・埋地層	
第297017	青花	碗	中国(漳州窯)	-	(3.8)	-	包含物・埋地層	
第297018	青花	碗	中国(漳州窯)	(8.2)	-	-	包含物・埋地層	
第297019	青花	碗	中国(漳州窯)	(10.4)	(5.0)	4.0	包含物・埋地層	
第298020	青磁	香炉	中国	(7.6)	-	-	包含物・埋地層	
第298021	青磁	皿	中国	-	(4.7)	-	包含物・埋地層	
第298022	青磁	瓶	中国	-	3.6	-	包含物・埋地層	
第298023	白磁	皿	中国	(12.0)	(6.0)	3.0	包含物・埋地層	
第298024	白磁	小杯	中国	-	(2.2)	-	包含物・埋地層	
第298025	白磁	小杯	中国	(5.6)	(2.4)	2.4	包含物・埋地層	
第298026	白磁	皿	中国	-	-	-	包含物・埋地層	
第298027	焼締陶器	壺	中国	(10.4)	-	-	包含物・埋地層	
第298028	陶器	壺	中国	(10.6)	-	-	包含物・埋地層	根尾輪
第298029	焼締陶器	壺	中国	-	-	-	包含物・埋地層	30土同一個体
第298030	焼締陶器	壺	中国	-	-	-	包含物・埋地層	29土同一個体
第298031	陶器	壺	中国	(6.0)	-	-	包含物・埋地層	根尾輪
第298032	陶器	茶入	中国	(2.2)	-	-	包含物・埋地層	
第298033	陶器	茶入?	中国	-	-	-	包含物・埋地層	
第298034	磁器	不明	中国	-	(4.6)	-	包含物・埋地層	外面と外底部に緑彩
第298035	華南三彩	不明	中国	-	-	-	包含物・埋地層	
第298036	華南三彩	小皿	中国	-	-	-	包含物・埋地層	青釉
第298037	華南三彩	小皿	中国	-	-	-	包含物・埋地層	青釉
第298038	華南三彩	小皿	中国	-	(4.0)	-	包含物・埋地層	青釉
第298039	白磁	碗	ベトナム	-	-	-	包含物・埋地層	
第298040	白磁	碗	ベトナム	-	(5.9)	-	包含物・埋地層	
第298041	陶器	碗	朝鮮王朝	(14.6)	(6.0)	4.0	包含物・埋地層	
第298042	陶器	鉢	朝鮮王朝	(12.8)	-	-	包含物・埋地層	
第298043	陶器	瓶	朝鮮王朝	(4.8)	-	-	包含物・埋地層	
第298044	陶器	瓶	朝鮮王朝	-	(10.2)	-	包含物・埋地層	
第298045	陶器	小型天目碗	瀬戸美濃	(5.8)	(2.8)	2.8	包含物・埋地層	
第298046	陶器	天目碗	瀬戸美濃	(11.8)	-	-	包含物・埋地層	
第298047	陶器	皿	瀬戸美濃	(10.6)	(6.0)	2.1	包含物・埋地層	
第298048	陶器	鉢	瀬戸美濃	-	(4.6)	-	包含物・埋地層	
第298049	焼締陶器	搦鉢	備前	-	-	-	包含物・埋地層	
第298050	焼締陶器	搦鉢	備前	-	(14.8)	-	包含物・埋地層	
第299051	京都系土師器	皿	在地	(8.2)	-	-	包含物・埋地層	

第28次調査区遺物観察表 (土器・陶磁器類⑤)

採回No	器種	生産地	注量(単位cm)			遺構名	備考	図説No	
			口径	底径	器高				
第299452	京都系土師器	皿	在地	8.2	-	1.8	包含層-豊地層		
第299453	京都系土師器	皿	在地	8.9	-	2.4	包含層-豊地層		
第299454	京都系土師器	皿	在地	8.8	-	2.4	包含層-豊地層		
第299455	京都系土師器	皿	在地	9.8	-	1.9	包含層-豊地層		
第299456	京都系土師器	皿	在地	(10.2)	-	2.0	包含層-豊地層		
第299457	京都系土師器	皿	在地	11.0	-	2.4	包含層-豊地層		
第299458	京都系土師器	皿	在地	11.8	-	2.0	包含層-豊地層		
第299459	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.4	包含層-豊地層		
第299460	京都系土師器	皿	在地	(12.0)	-	2.4	包含層-豊地層		
第299461	京都系土師器	皿	在地	12.4	-	2.2	包含層-豊地層		
第299462	京都系土師器	皿	在地	12.0	-	2.4	包含層-豊地層		
第299463	京都系土師器	坏	在地	(10.0)	-	3.3	包含層-豊地層		
第299464	京都系土師器	坏	在地	(10.4)	-	3.4	包含層-豊地層		
第299465	土師貫土器	塊	在地	-	(5.4)	-	包含層-豊地層		
第299466	土師貫土器	高or小皿	在地	5.2	-	1.6	包含層-豊地層		
第299467	土師貫土器	焼塩釜	在地?	(5.0)	-	-	包含層-豊地層		
第299468	土師貫土器	取瓶	在地	2.8	-	1.4	包含層-豊地層		
第299470	瓦貫土器	鉢	在地	(30.4)	-	-	包含層-豊地層		
第299471	瓦貫土器	火鉢or焼伊	在地?	-	-	-	包含層-豊地層		
第299472	瓦貫土器	火鉢	在地?	-	(26.0)	-	包含層-豊地層		
第299473	瓦貫土器	火鉢	在地?	-	-	-	包含層-豊地層		
第299474	瓦貫土器	火鉢	在地	-	-	-	包含層-豊地層		

第28次調査区遺物観察表 (土製品・その他)

採回No	品種	材質	部位	寸法(単位cm)				重量(g)	遺構名	備考	図説No
				長さ	幅	孔径	厚さ				
第222041	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.9	孔径 0.2	17.0	SK008a			
第222046	土師	土師貫	-	長さ 5.4	幅 0.9	孔径 0.2	4.3	SK018			
第222047	土師	土師貫	-	長さ 4.6	幅 0.9	孔径 0.2	3.8	SK018			
第222049	土師	土師貫	-	長さ 5.4	幅 1.0	孔径 0.4	7.1	SK020			
第257042	土師	土師貫	-	長さ 4.9	幅 1.1	孔径 0.3	5.7	SK047			
第263041	土師	土師貫	-	長さ 4.9	幅 1.1	孔径 0.3	6.5	SK051			
第263042	土師	土師貫	-	長さ 4.4	幅 1.0	孔径 0.3	4.9	SK051			
第264020	編	土師貫	羽口	長さ 5.4	幅 4.8	厚さ 1.3	-	SX006			
第292060	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.1	孔径 0.3	7.6	SP1139			
第292061	土師	土師貫	-	長さ 4.6	幅 1.0	孔径 0.3	3.8	SP1201			
第292062	土師	土師貫	-	長さ 3.9	幅 1.6	孔径 0.4	8.1	SP1227			
第292063	土師	土師貫	-	長さ 5.0	幅 1.1	孔径 0.3	6.1	SP1230			
第292064	土師	土師貫	-	長さ 3.9	幅 1.6	孔径 0.4	8.7	SP1211			
第299469	土器片加工品	土師貫	-	径 3.9	厚さ 0.7	-	-				
第299475	土人形	土師貫	-	長さ 4.0	幅 2.0	厚さ 1.2	-	包含層-豊地層			
第300041	土師	土師貫	-	長さ 2.9	幅 0.8	孔径 0.3	2.7	包含層-豊地層			
第300042	土師	土師貫	-	長さ 4.7	幅 0.8	孔径 0.2	3.1	包含層-豊地層			
第300043	土師	土師貫	-	長さ 4.4	幅 0.8	孔径 0.3	3.2	包含層-豊地層			
第300044	土師	土師貫	-	長さ 3.4	幅 1.0	孔径 0.4	3.6	包含層-豊地層			
第300045	土師	土師貫	-	長さ 4.6	幅 1.0	孔径 0.3	3.8	包含層-豊地層			
第300046	土師	土師貫	-	長さ 5.4	幅 0.8	孔径 0.2	3.8	包含層-豊地層			
第300047	土師	土師貫	-	長さ 4.7	幅 0.8	孔径 0.2	3.8	包含層-豊地層			
第300048	土師	土師貫	-	長さ 5.2	幅 0.8	孔径 0.2	3.9	包含層-豊地層			
第300049	土師	土師貫	-	長さ 5.2	幅 0.9	孔径 0.2	4.4	包含層-豊地層			
第300040	土師	土師貫	-	長さ 3.4	幅 1.0	孔径 0.3	4.4	包含層-豊地層			
第300041	土師	土師貫	-	長さ 4.0	幅 1.0	孔径 0.3	4.5	包含層-豊地層			
第300042	土師	土師貫	-	長さ 3.0	幅 1.2	孔径 0.3	4.6	包含層-豊地層			
第300043	土師	土師貫	-	長さ 4.9	幅 1.0	孔径 0.3	5.3	包含層-豊地層			
第300044	土師	土師貫	-	長さ 4.5	幅 0.9	孔径 0.3	5.5	包含層-豊地層			
第300045	土師	土師貫	-	長さ 3.8	幅 1.1	孔径 0.3	5.6	包含層-豊地層			
第300046	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.0	孔径 0.3	5.7	包含層-豊地層			
第300047	土師	土師貫	-	長さ 5.0	幅 1.0	孔径 0.2	5.7	包含層-豊地層			
第300048	土師	土師貫	-	長さ 4.7	幅 1.0	孔径 0.4	5.9	包含層-豊地層			
第300049	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.0	孔径 0.4	5.9	包含層-豊地層			
第300040	土師	土師貫	-	長さ 4.4	幅 1.0	孔径 0.3	6.0	包含層-豊地層			
第300042	土師	土師貫	-	長さ 5.4	幅 1.0	孔径 0.3	6.4	包含層-豊地層			
第300042	土師	土師貫	-	長さ 5.2	幅 1.0	孔径 0.3	6.6	包含層-豊地層			
第300043	土師	土師貫	-	長さ 3.6	幅 1.4	孔径 0.4	6.6	包含層-豊地層			
第300044	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.1	孔径 0.3	7.0	包含層-豊地層			
第300045	土師	土師貫	-	長さ 3.8	幅 1.3	孔径 0.5	7.6	包含層-豊地層			
第300046	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.2	孔径 0.3	7.8	包含層-豊地層			
第300047	土師	土師貫	-	長さ 4.8	幅 1.2	孔径 0.4	8.1	包含層-豊地層			
第300048	土師	土師貫	-	長さ 5.0	幅 0.9	孔径 0.2	8.1	包含層-豊地層			
第300049	土師	土師貫	-	長さ 4.9	幅 0.8	孔径 0.2	8.4	包含層-豊地層			
第300040	土師	土師貫	-	長さ 2.8	幅 1.9	孔径 0.7	9.7	包含層-豊地層			
第300042	土師	土師貫	-	長さ 3.4	幅 1.9	孔径 0.6	14.1	包含層-豊地層			
第300043	土師	土師貫	-	長さ 4.4	幅 1.7	孔径 0.5	14.3	包含層-豊地層			
第300044	土師	土師貫	-	長さ 3.2	幅 2.0	孔径 0.6	19.7	包含層-豊地層			
第301041	鍔型	土師貫	-	長さ 4.4	幅 2.5	厚さ 0.7	19.8	包含層-豊地層	目録金具の鍔型	37	
第301042	油煙皿	-	-	長さ 3.7	幅 1.5	厚さ 0.4	1.4	包含層-豊地層		37	

第28次調査区遺物観察表 (金属製品)

採石No.	品 種	材 質	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.	
			部位	長さ	幅	厚さ					
第2008012	鉄釘	鉄	-	長さ 17.0	幅 8.1	厚さ 0.7	-	SF012	丸釘	30	
第215802	不明	青銅	-	長さ 11.8	幅 0.4	厚さ 0.3	5.2	SK010		31	
第232802	火箸?	鉄	-	長さ 37.0	幅 1.0	厚さ 1.0	69.0	SK026		32	
第234809	不明	鉄	-	長さ 24.8	幅 5.6	厚さ 1.0	61.9	SK028		32	
第236804	鉄釘	鉄	-	長さ 11.2	幅 1.4	厚さ 0.6	10.0	SK029			
第288801	小柄	青銅・鉄	-	長さ 9.3	幅 1.3	厚さ 0.5	18.2	SP101		36	
第303801	懸仏	青銅	仏像部	長さ 7.7	幅 5.1	厚さ 0.4	72.9	法隆寺・豊地			
第303802	小柄	青銅・鉄	-	長さ 8.9	幅 1.4	厚さ 0.6	19.2	法隆寺・豊地			
第303803	不明	青銅	-	長さ 2.1	幅 1.5	厚さ 1.5	25.4	法隆寺・豊地			
第303804	環付金具	青銅	-	径 3.4	厚さ 0.3	-	-	法隆寺・豊地			
第303805	環付金具	青銅	-	径 3.4	厚さ 1.4	-	-	法隆寺・豊地			
第303806	不明	青銅	-	長さ 1.4	幅 0.4	厚さ 0.4	0.5	法隆寺・豊地			
第303807	不明	青銅	-	長さ 1.5	幅 0.4	厚さ 0.4	0.5	法隆寺・豊地			
第303808	不明	青銅	-	長さ 4.0	幅 0.4	厚さ 0.1	6.4	法隆寺・豊地			
第303809	不明	青銅	-	長さ 4.8	幅 2.2	厚さ 0.1	6.4	法隆寺・豊地			
第303810	不明	青銅	-	長さ 3.3	幅 0.4	厚さ 0.4	1.2	法隆寺・豊地			
第303811	不明	青銅	-	長さ 4.5	幅 0.3	厚さ 0.3	1.9	法隆寺・豊地			
第303812	不明	青銅	-	長さ -	幅 0.4	厚さ 0.4	0.5	法隆寺・豊地			
第303813	不明	青銅	-	長さ 5.2	幅 0.4	厚さ 0.4	1.9	法隆寺・豊地			
第303814	不明	青銅	-	長さ 6.5	幅 0.4	厚さ 0.4	2.9	法隆寺・豊地			
第303815	鍵	青銅	-	長さ 8.4	幅 0.7	厚さ 0.7	12.7	法隆寺・豊地			
第303816	鍵	青銅	-	長さ 3.0	幅 0.8	厚さ 0.4	2.6	法隆寺・豊地			
第303817	鍵	青銅	-	長さ 3.8	幅 0.5	厚さ 0.3	1.8	法隆寺・豊地			
第303818	分銅	青銅	-	長さ 2.2	幅 1.5	厚さ 0.9	13.4	法隆寺・豊地	圓形	37	
第303819	分銅	青銅	-	径 1.1	厚さ 0.5	-	-	2.6	法隆寺・豊地	太鼓形	37
第303820	メダリ様金属製品	鉛	-	長さ -	幅 -	厚さ -	-	11.3	法隆寺・豊地		37
第303821	鉛加工品	鉛	-	長さ 2.1	幅 2.1	厚さ 0.3	10.4	法隆寺・豊地		37	
第303822	鉛加工品	鉛	-	長さ 2.4	幅 2.4	厚さ 0.3	12.7	法隆寺・豊地		37	
第303823	鉛玉	鉛	-	径 1.2	厚さ 1.2	-	-	10.3	法隆寺・豊地	鉄砲玉	37
第303824	鉛玉	鉛	-	径 1.3	厚さ 1.2	-	-	10.4	法隆寺・豊地	鉄砲玉	37
第303825	鉛玉	鉛	-	径 1.3	厚さ 1.1	-	-	10.2	法隆寺・豊地	鉄砲玉 使用済み?	37

第28次調査区遺物観察表 (ガラス製品)

採石No.	品 種	材 質	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.	
			部位	長さ	幅	厚さ					
第196803	ガラス玉	ガラス	-	径 (2.0)	厚さ 1.0	-	-	1.1	SF012	青色 コンタカ?	30
第288802	ガラス玉	ガラス	-	径 0.3	厚さ 0.4	-	-	0.1	SP1218		
第303826	ガラス玉	ガラス	-	径 0.4	厚さ 0.2	-	-	0.1	法隆寺・豊地		
第303827	ガラス玉	ガラス	-	径 0.4	厚さ 0.3	0	-	0.1	法隆寺・豊地		

第28次調査区遺物観察表 (石製品)

採石No.	品 種	材 質	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.	
			部位	長さ	幅	厚さ					
第234808	石臼	凝灰岩	下臼	長さ 9.0	幅 10.0	厚さ 9.2	1038	SK028			
第236804	叩石	安山岩	-	長さ 12.4	幅 7.4	厚さ 3.6	751.9	SK029		32	
第243805	不明	凝灰岩	-	長さ 10.2	幅 10.8	厚さ 9.0	547.6	SK033		33	
第263813	石錘	滑石	口縁部	長さ -	幅 -	厚さ -	-	SK051		34	
第263814	茶臼	安山岩	下臼	長さ -	幅 -	厚さ -	-	SK051		34	
第268818	不明	安山岩	-	長さ 19.4	幅 6.6	厚さ 9.8	1600	SX006			
第268819	砥石	砂岩	-	長さ 10.0	幅 7.6	厚さ 4.6	490.4	SX006			
第268821	茶臼	凝灰岩	下臼	長さ -	幅 -	厚さ -	-	1800	SX006		
第269822	凹石	安山岩	-	長さ 15.8	幅 14.4	厚さ 6.0	2100	SX006			
第302801	硯	粘板岩	凹縁部	長さ 6.4	幅 0.6	厚さ 0.5	5.5	法隆寺・豊地			
第302802	石錘	滑石	口縁部	長さ -	幅 -	厚さ -	-	法隆寺・豊地			

第28次調査区遺物観察表 (木製品)

採石No.	品 種	材 質	寸法 (単位cm)				重量 (g)	遺構名	備 考	図版No.
			部位	長さ	幅	厚さ				
第240806	不明	木・漆	-	長さ 19.4	幅 3.4	厚さ -	-	SK031 b	新敷の一部か?	32

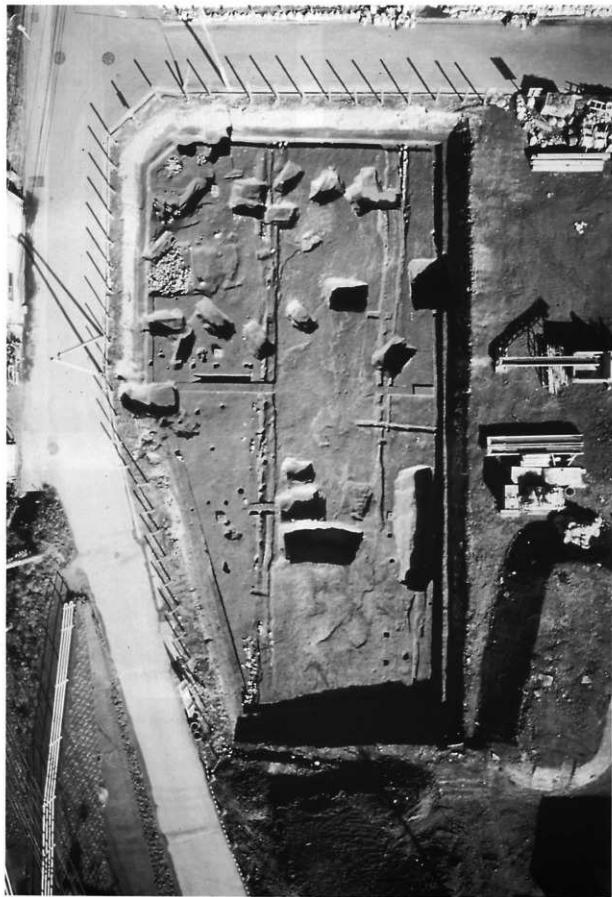
第28次調査区遺物観察表 (瓦)

標図No	品 種	部 位	寸法 (単位cm)						遺構名	備 考	図説No
			径	長さ	厚さ	長さ	厚さ	長さ			
第2120213	軒丸瓦	瓦当部	径	17.8	4.8	厚さ	2.4	2.4	SK008a		31
第234046	軒平瓦	瓦当部	長さ	9.2	8.2	厚さ	2.0	2.0	SK028		32
第245043	平瓦	-	長さ	10.9	11.6	厚さ	2.4	2.4	SK035		
第245044	伏間瓦	-	長さ	9.4	12.4	厚さ	2.6	2.6	SK035		
第245045	伏間瓦	-	長さ	8.0	3.8	厚さ	2.4	2.4	SK045		
第265048	軒平瓦	瓦当部	長さ	12.0	4.2	厚さ	2.8	2.8	SX013		34
第271049	軒平瓦	瓦当部	径	-	1.8	-	-	-	SX039		35
第279041	軒丸瓦	瓦当部	径	-	1.8	-	-	-	SX039		35
第279042	軒平瓦	瓦当部	長さ	4.0	3.8	厚さ	3.4	3.4	SX039	古代 上野庵寺と同範	35
第290038	丸瓦	-	長さ	21.8	15.0	厚さ	2.8	2.8	SP1404		
第291039	丸瓦	-	長さ	15.2	-	厚さ	2.0	2.0	SP1404		
第291040	丸瓦	-	長さ	16.7	-	厚さ	2.0	2.0	SP1404		
第292043	平瓦	-	長さ	20.0	10.1	厚さ	1.8	1.8	SP1425		
第292044	平瓦	-	長さ	16.2	10.5	厚さ	2.0	2.0	SP1425		

第28次調査区遺物観察表 (銭貨)

標図No	銭貨名	初铸造年	国・王朝名	重量 (g)	直径 (mm)	書 体	遺構名	備 考	図説No
第2120221	祥符元寶	1008	北宋	2.4	24	真書	SK008a		
第2120222	景德元寶	1004	北宋	2.1	23	真書	SK008b		
第228026	聖元寶	-	-	1.8	24	行書	SK021		
第240047	元豐通寶	1078	北宋	2.3	23	篆書	SK031 b		
第240048	元祐通寶	1086	北宋	3.3	23	篆書	SK031 b		
第243044	皇宋通寶	1038	北宋	3.0	23	篆書	SK033		
第2630215	元豐通寶	1078	北宋	2.6	23	行書	SK051		
第288041	元符通寶	1098	北宋	2.4	23	行書	SP1138		
第288042	不明	-	-	0.5	-	-	SP1216		
第288043	洪憲通寶	1368	明	0.8	-	真書	SP1408		
第288044	洪憲通寶	1369	明	0.9	-	真書	SP1431		
第296042	不明	-	-	0.5	-	-	SX034		
第304041	皇宋通寶	1038	北宋	1.0	-	真書	銭貨部-豊後藩		
第304042	治平元寶	1064	北宋	2.4	24	真書	銭貨部-豊後藩		
第304043	治平元寶	1064	北宋	2.3	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304044	熙寧元寶	1068	北宋	2.0	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304045	熙寧元寶	1068	北宋	2.5	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304046	熙寧元寶	1068	北宋	2.2	23	行書	銭貨部-豊後藩		
第304047	元祐通寶	1076	北宋	2.4	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304048	元祐通寶	1086	北宋	2.9	24	真書	銭貨部-豊後藩		
第304049	紹聖元寶	1074	北宋	2.4	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304050	不明	-	-	1.8	23	真書	銭貨部-豊後藩		
第304051	寛永通寶	1636	日本	1.9	23	-	銭貨部-豊後藩	古寛永	
第304052	寛永通寶	1636	日本	1.8	23	-	銭貨部-豊後藩	古寛永	
第304053	寛永通寶	1636	日本	2.3	24	-	銭貨部-豊後藩	古寛永	
第304054	寛永通寶	1636	日本	9.7	23	-	銭貨部-豊後藩	古寛永 3枚付着	
第304055	寛永通寶	1636	日本	2.4	23	-	銭貨部-豊後藩	古寛永	
第304056	寛永通寶	1668	日本	2.7	24	-	銭貨部-豊後藩	文銭	

写 真 图 版



第18次西調査区全景



第18次西調査区全景 (南から)



第18次西調査区SD003、D-H断面



第18次西調査区SD007-3ピット列 (南から)



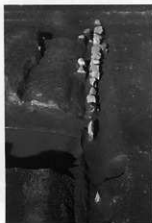
第18次西調査区SD007-3 (南から)



第18次西調査区SD007-3 (東から)



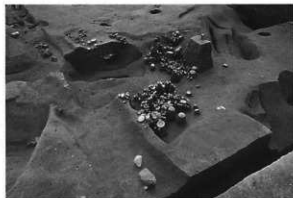
第18次西調査区SD008-2 (西から)



第18次西調査区
SD008-2 (南から)



第18次西調査区
SD013 (西から)



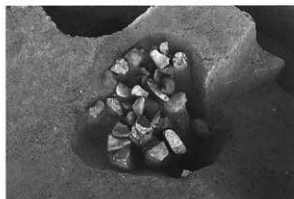
第18次西調査区SD010 (北東から)



第18次西調査区SD009 (東から)



第18次西調査区SD010・SD009・SB018 (北東から)



第18次西調査区SB018-P2



第18次西調査区SK015遺物出土状態



第18次西調査区SK015完掘状態



第18次西調査区SB017遺物出土状態



第18次西調査区SB017完掘状態



第18次西調査区SF019・SD007・SD008 (北から)



第18次西調査区SF019土層



25-4



25-5

SD007-3出土遺物 (第25図参照)



53-12



53-22

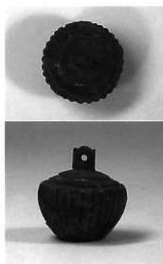
SF019出土遺物 (第53図参照)



54-4

55

SF019出土遺物 (第54・55図参照)



57

SP020出土遺物 (第57図参照)



64-1・2

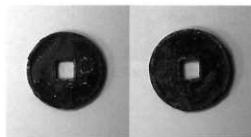
15層出土遺物 (第64図参照)



68-1



68-3



69-6

18次西調査区出土遺物 (第68・69図参照)



中世大友府内町跡第18次調査区全景 (北から)



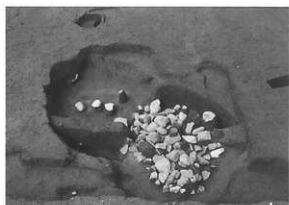
SD023



SD306



SK046



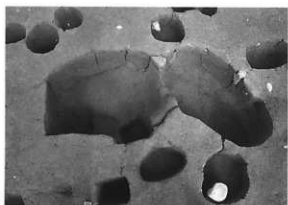
SK065・75



SK067



SK068



SK067・068



SK077



SK078



SK085



SK085



SK085遺物出土状況



SK085



SK244



SK252



SK252



SK253



SK253



SK254



SK255



SK256



SK262



SK273



SK274



SK292・293



SK300



SX080



SX244



SX245



SX302



SX303



SX309



SE176



SE176



SE176



SE176完掘



SE075



SE075 (SK294)



SE075



SE075完掘



SE079



SE079



SE079



SE079



SE079



SE079完掘



SE079遺物出土状況



SE261



SE261井筒検出状況



SE261結桶二段目



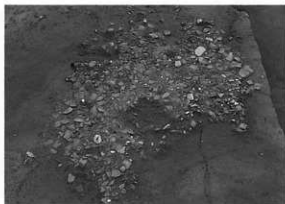
SE261結桶三段目



SE261結桶四段目



SX054



SX062



SX066



SX310



遺物出土状況 (三連分銅)



遺物出土状況 (和鏡)



遺物出土状況 (漆器椀)



土層剥ぎ取り作業

SE079出土遺物



133-63

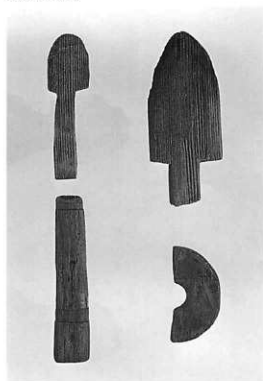


133-64



133-62

SE261出土遺物



138-30~33

包含層・整地層出土遺物



173-177



179-270



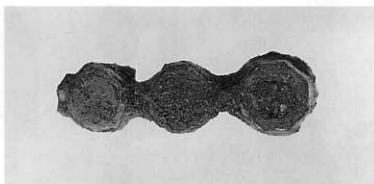
179-271・182-295・296



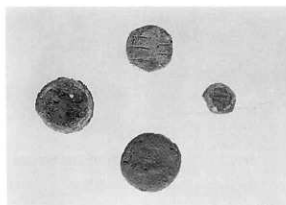
183-299



183-300



184-301三連分銅



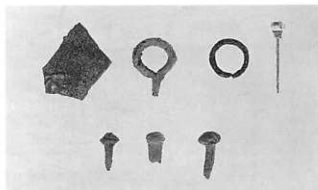
184-302~305A



184-306



184-314



184-315~321



185-336~338



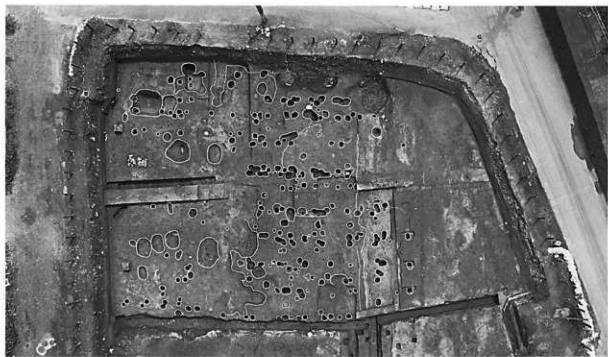
185-340



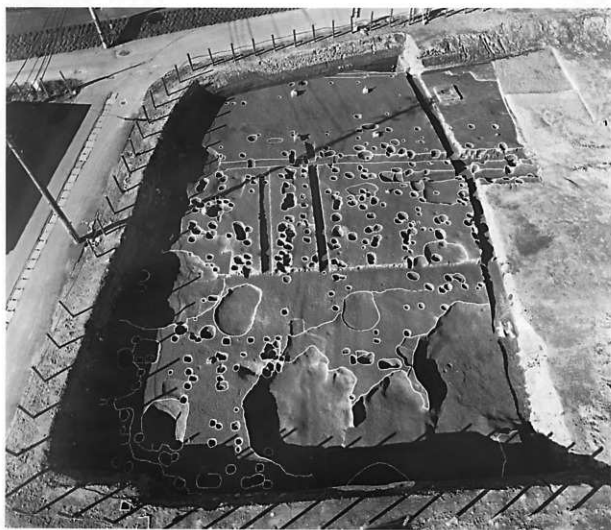
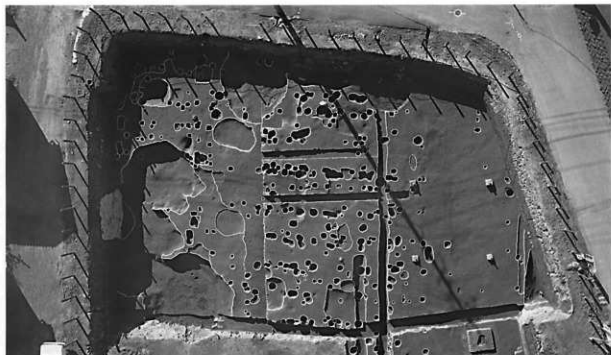
186-341



188-376~379



中世大友府内町跡第28次調査区全景 (上層遺構群)



中世大友府内町跡第28次調査区全景 (下層遺構群)



SF012全景 (南から)



道路上の柱穴



SF012華南三彩出土状況



SF012瀬戸美濃産天目出土状況



SF012鉄包丁出土状況



SF012ガラス玉出土状況



SF012撤去後 (南から)



SF012撤去後 (北から)



SD040 (南から)



SD040 (北から)



SD053



SD049



SK002



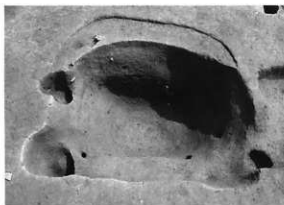
SK007



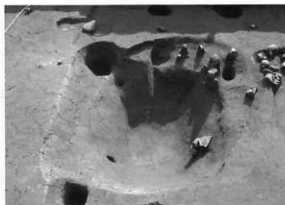
SK008検出状況



SK008a土層



SK008a完掘状況



SK008b遺物出土状況



SK009



SK010遺物出土状況



SK010検出状況



SK010完器状況



SK011



SK015



SK016



SK017



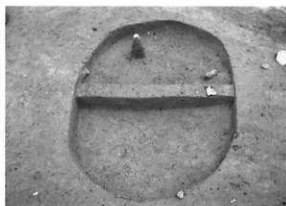
SK018



SK019



SK020



SK021



SK022



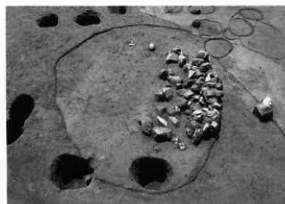
SK025



SK026



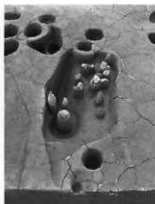
SK026遺物出土状況



SK028検出状況



SK028完掘状況



SK029



SK030



SK031検出状況



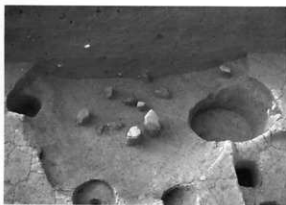
SK031完掘状況



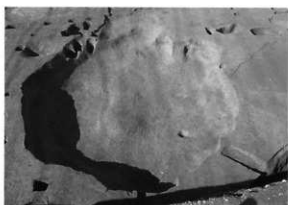
SK031b漆器出土状況①



SK031b漆器出土状況②



SK032



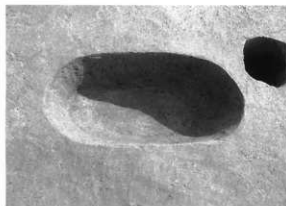
SK033



SK035



SK038



SK042



SK043



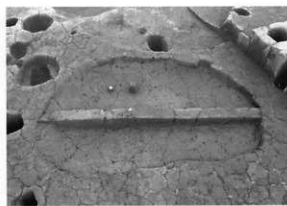
SK044



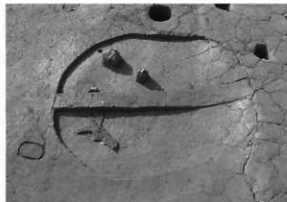
SK045



SK046検出



SK047



SK048



SK050



SK051



SX005



SX006



SX013



SX014



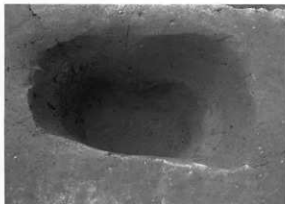
SX024



SX036



SX037



SX037完掘



SX039



SX003検出状況



SX003



SX023



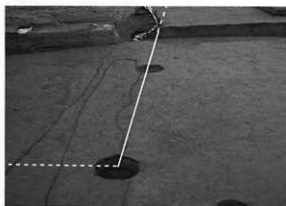
SX023根棒め石



SE027



SE027 (井筒部分)



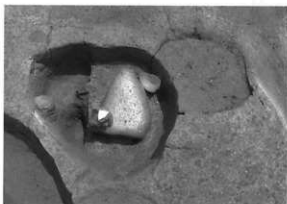
SB060



SX004 (焼土層)



SX034



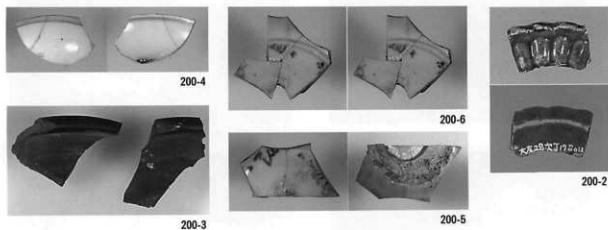
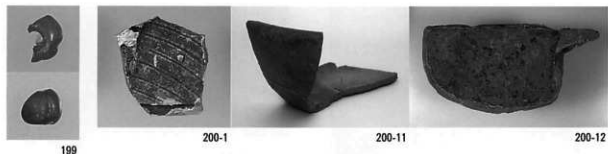
SP1209



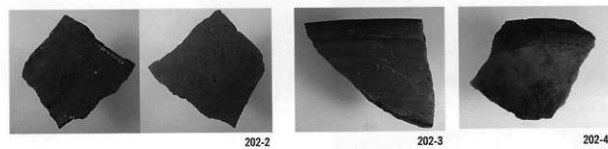
L17区 漳州窯系青花出土状況



藤仏出土状況



SF012出土遺物 (第199・200図参照)



SD049出土遺物 (第202図参照)



SD040出土遺物 (第205図参照)



SK007出土遺物 (第210図参照)

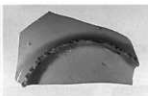
210-1

SK010出土遺物 (第215図参照)

215-2



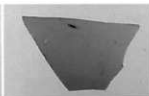
212-1



212-2



212-13



212-12

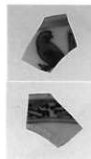


212-13

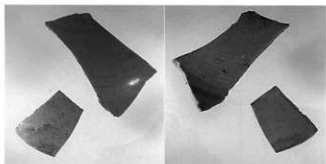


212-20

SK008出土遺物 (第212図参照)

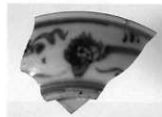


213-1



213-2

SK009出土遺物 (第225図参照)



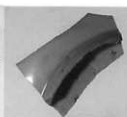
225-1



SK020出土遺物 (第225図参照)



225-2



227-5



SK021出土遺物 (第227図参照)



227-4



230-1



230-2



230-3

SK025出土遺物 (第230図参照)



232-1



232-2



234-2



234-6

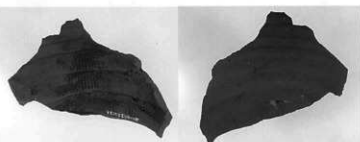


234-9

SK026出土遺物 (第232図参照)



234-4



234-3

SK028出土遺物 (第234図参照)



236-4

SK029出土遺物 (第236図参照)



240-6

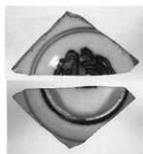


240-2



240-2

SK031出土遺物 (第240図参照)



243-1



243-2・3

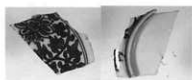


243-5

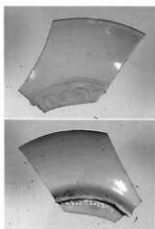


SK044
出土遺物
(第252図参照)

SK033出土遺物 (第243図参照)



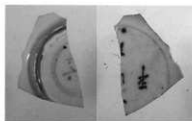
247-1



247-3



247-7



247-2

SK038出土遺物 (第247図参照)



250-1



250-2



261-2

SK043出土遺物 (第250図参照)

SK050出土遺物 (第261図参照)



254-1



254-3



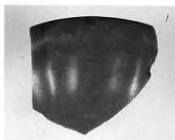
SK045出土遺物 (第254図参照)



254-6



254-2



263-1

263-2



263-3



263-8



263-10



263-9

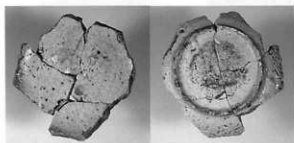


263-2



263-14

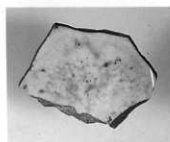
SK051出土遺物 (第263図参照)



265-3



265-5



265-2



265-8

SX005出土遺物 (第265図参照)



271-2



272-14



272-12・13



271-9



271-4

SX013出土遺物 (第271・272図参照)



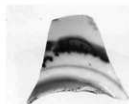
277-6



277-3



279-1



277-1



277-4



SX037出土遺物 (第277図参照)



279-2

SX029出土遺物 (第279図参照)



SP1425(290-36)



SP1159(289-24)



SP1102(289-1)



SP1107(289-2)



SP1432(291-41)



SP1110
(289-5)



SP1101(281-1)

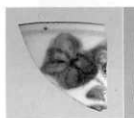


SP1432(292-55)



289-16

ビット出土遺物 (第288~292図参照)



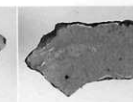
294-1



294-2



294-1



294-4

SE027出土遺物 (第294図参照)



297-1



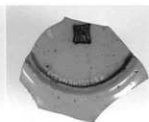
297-3



297-4



297-5



297-6



297-7



297-8



297-1



303-18



303-19



303-20



301-2



303-1



303-21・22



303-23~25

包含層・整地層出土遺物 (第297~303図参照)

豊後府内 4

中世大友府内町跡第9次・第12次・第18次・第22次・第28次・第48次調査区

一般国道10号古国府拡張事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

(第2分冊)

平成18年3月31日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター

〒870-1113

大分市大字中判田1977番地

TEL(097)597-5675

編集・発行 有限会社 中央印刷

〒870-0025

大分市顕徳町2丁目2-38

TEL(097)532-3805
